

天壤無窮之神勅

(日本書紀)

葦原千五百秋之瑞穗國  
是吾子孫可王之地也。  
宜爾皇孫就而治焉。  
行矣。  
實祚之隆當與天壤  
無窮者矣。

○

此の國は、わが子孫の  
王たるべき地なり。  
汝皇孫ゆきてをさめよ。  
皇位の盛なる事、天地  
と共にきはまりなかる  
べし。



君が代は  
千代に  
八千代に  
さざれ石の  
いはほとなりて  
苔のむすまで。

(國歌)

大日本帝國ハ  
萬世一系ノ天皇  
之ヲ統治ス

(帝國憲法)



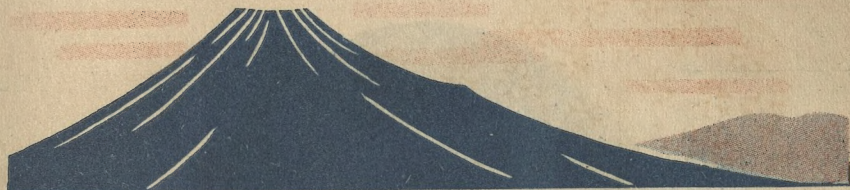




主要人名簿	三二四
内閣・内閣審議會・大勳位・前 官禮遇・樞密院・内大臣府・宮 内省・各省・地方廳	
日本地理	
日本全圖	一一二
日本陸軍配備地圖	一六
日本海軍配備地圖	一八
日本航路と航空路（海流）	三二
日本立地現勢地圖	三四
樺太・北海道・奥羽地方・關東 地方・東京附近・中部地方・名 古屋附近・京都・大阪・神戸附 近・近畿地方・中國地方・四國 地方・九州地方・北九州・沖繩 地方・臺灣・南洋群島・朝鮮地 方	
日本輸出入割合圖解	五八
日本と世界の名高い山	六二
川の長さ	六四
日本氣象地圖	七三
日本都市分布・人口比較	七四
日本人の海外分布	七八
帝國の國富	八〇
職業別所得	八二
土地・人口	二〇七
日本の位置・面積人口・地方別 人口・民族別人口・都市人口・ 日本人口の増加・在外本邦人・ 本邦の移民	

高山及び名山	一一八
主なる河川	一二〇
主なる湖沼	一二一
帝國の財政	一二七
帝國の貿易	一二七
重要貿易品・相手國別貿易・港 別貿易	
日本地理一覽	一二九
各地の氣溫	二五六
鐵道一覽	二五八
航空路・無線電信系路	二六〇
主要物産生産高	二七九
世界地理	
世界領土別地圖	一四
世界の軍備比較	二四
世界航路地圖	四六
世界立地現勢地圖	四八
滿洲帝國・アジア洲・ヨーロッパ ・アフリカ洲・大洋洲・北 アメリカ洲・南アメリカ洲	
世界各國の職業比較	六〇
世界高山の比較	六二
世界河川の比較	六四
世界都市の分布と人口比較	七六
各國々民一人當りの國富	八〇
國債・國民所得・郵便貯金	八四
列國の國防費・自動車	八八
列國の元首・主腦者寫眞	九八
英米軍艦寫眞	一〇六
英米主要艦の型	一〇八

九州地方	四二
北九州・沖繩地方	四三
臺灣地方・南洋群島	四四
朝鮮地方	四五
世界航路地圖・國勢圖	四六
世界立地現勢地圖	四八
滿洲帝國・北支那	四八
アジア洲	五〇
ヨーロッパ洲	五二
アフリカ洲	五四
大洋洲	五五
北アメリカ洲	五六
南アメリカ洲	五七
日本輸出入圖解	五八
世界各國の職業比較	六〇
日本と世界の名高い山	六二
速度の比較及川の長さ	六四
一時間速さくらへ	六六
高層建築の比較	六八
築養分析表	七〇
氣象信號旗	七二
日本氣象地圖	七三
日本都市分布・人口比較	七四
世界都市の分布・人口比較	七六
日本人の海外分布	七八
帝國の國富	八〇
職業別所得	八二
列國の國防費・自動車比較	八四
手旗信號	八六



## 昭和十一年學友年鑑目次

皇室・宮廷	
天皇陛下・皇后陛下御寫眞	二
皇室御旗章	九
帝國勳章	一〇
宮城	八九
大日本帝國皇室	九〇
皇族及王族	九二
皇室御系圖	一七八
宮家御系圖	一八〇
李王家御系圖	一八一
御歷代皇居及御陵	一八六
歷代樞密院議長	二〇六
歷代内大臣・歷代宮内大臣	三二四
宮廷關係人名簿	三二四
重要詔勅	一二一
天孫降臨ノ神勅・齋鏡ノ神勅・神 武天皇即位建國ノ大詔・五ヶ條ノ 御誓文・陸海軍人ニ賜リタル勅 諭・憲法發布ノ勅語・教育ニ關ス ル勅語・清國ニ對スル宣戰ノ詔勅 占領地還附ノ詔勅・露國ニ對スル 宣戰ノ詔勅・戊申詔書・國民精神 作興ノ詔書・國際聯盟脫退ノ詔書	
重要法典	一三〇
大日本帝國憲法	一三〇

皇室典範（拔萃）・兵役法・貴族 院令・衆議員議員選舉法	
御製・詞歌	
明治天皇御製	一三九
昭憲皇太后御歌	一四一
忠君愛國の歌	一四一
歷史上有名な歌	一四二
名歌・名句	一四三
和漢名詩	一四六
歴史	
國史地圖（日本東部）	二六
國史地圖（日本西部）	二八
世界歴史地圖	三〇
國史世界史對照年表	一五三
皇室御系圖・宮家御系圖・李王家 御系圖・各氏系圖	一七八
御歷代皇居及御陵	一八六
神社一覽・著名寺院	一八九
歷代内閣一覽	一九九
滿洲帝國皇室御系圖	三〇六
政治	
列國元首・主腦者寫眞	九八
内閣各大臣及重臣寫眞	九九
列國々勢一覽	二六一

太平洋防備陣	卷頭見返
天壤無窮	二
目次	四
昭和十一年曆	八
彩色圖解	
大日本帝國旗章	九
帝國勳章	一〇
日本全圖	一二
世界領土別地圖	一四
日本陸軍配備地圖	一六
日本海軍配備地圖	一八
陸軍の服裝	二〇
海軍の服裝	二二
世界の軍備比較	二四
國史地圖（東部）	二六
國史地圖（西部）	二八
世界歴史地圖	三〇
日本航路と航空路	三二
日本立地現勢地圖	三四
樺太・北海道	三六
關東地方	三八
東京附近	四〇
中部地方	四二
名古屋・京都・大阪附近	四四
近畿地方	四六
中國地方・四國地方	四八





# 別冊集印帖

郵便局名所スタンプ  
鐵道風景スタンプ  
著名神社寺院御朱印  
記念スタンプ

## 特輯 學校職業立身案内

陸軍軍人になるには	小説家になるには	短期の修業で就職するには
海軍軍人になるには	畫家になるには	看護婦になるには
普通文官になるには	音樂家になるには	タイピストになるには
高等文官になるには	小學校教員になるには	電話交換手になるには
外交官になるには	鐵道職員になるには	洋裁家になるには
醫師になるには	遞信官吏になるには	美容師になるには
齒科醫師になるには	無電技師になるには	學校一覽
銀行員になるには	滿洲國に就職するには	

土地・人口	二〇七
山と河	二一八
財政・貿易	二二五
日本地理一覽	二二七
各地の平均気温	二五八
鐵道一覽	二五八
定期航空路・無線系路	二六〇
列國國勢一覽	二七一
主要物産生産高	二七九
列國の主要產物	二八七
陸軍管區表・常備團體	二九〇
帝國海軍の艦艇	二九六
各種運動競技記録	三〇六
ラヂオ體操圖解	三一八
經濟ブロック	三二二
主要人名簿	三二四
昭和人名辭典	三三一
新語辭典	三三一
學校職業立身案内	三五五
漢字局・旁の呼び方	三七八
ABC	三八〇
內國郵便	三八二
メートル法度量衡比較	三八四
親等表	三八五
俚諺格言集	三八六
編輯たより	三九〇
萬國旗	
卷末見返	



東アフリカと地中海	一七七
世界大都市人口	一一三
列國の面積・人口	一一五
世界の高山・名山	一二二
世界の主な河川・湖沼	一二三
列國の財政	一二八
列國の貿易・貿易港	一二八
列國の鐵道・自動車	一二五
航空機・船舶	一二六
列國々勢一覽	一二六
世界重要物産生産高	一二七
主要經濟ブロック	一二三

帝國艦艇寫真	一〇四
英・米軍艦寫真	一〇六
日英米主要艦艇型	一〇八
軍用機寫真	一一〇
列國國勢一覽	一二六
陸軍管區表	一二九
陸軍常備團體	一二九
近衛師團・第一師團・第二師團	一二九
第三師團・第四師團・第五師團	一二九
第六師團・第七師團・第八師團	一二九
第九師團・第十師團・第十一師團	一二九
第十二師團・第十四師團・第十六師團	一二九
第十七師團・第十九師團・第二十師團	一二九
朝鮮軍・臺灣軍・關東軍・支那駐屯軍・要塞	一二九
陸軍の學校・陸軍特別大演習	一二九
帝國艦艇一覽	一二九
戰艦・練習戰艦・一等巡洋艦・二等巡洋艦・航空母艦・水上機母艦・潜水母艦・敷設艦・海防艦・砲艦・驅逐艦・潜水艦・水雷艦・特務艦・本邦代表戰艦の發達	一二九
海軍志願兵徵募區	一二九
海軍の學校・海軍航空隊	一二九
大觀艦式一覽	一二九
主要人名簿	一二九
元帥府・侍從武官府・軍事參議院・陸軍省・參謀本部・教育總監部・要塞司令官部・衛戍部隊・海軍省・軍令部・鎮守府要港部	一二九

太陽と地球	八八
宮城	八九
大日本帝國皇室	八九
皇族及王族	八九
列國元首寫真	九八
內閣・重臣寫真	九八
陸海軍主腦部寫真	九八
日英米主力艦寫真	一〇二
日英米主要艦艇型	一〇四
軍用機寫真	一〇八
優秀汽船寫真	一一〇
春一行事・詞藻・書簡	一一一
夏一行事・詞藻・書簡	一一二
秋一行事・詞藻・書簡	一一四
冬一行事・詞藻・書簡	一一六
東京名所寫真	一二〇
重要詔勅	一二一
大日本帝國憲法	一二一
御製・詞歌	一二一
國史世界史對照年表	一二三
東アフリカと地中海	一二七
皇室御系圖	一七八
宮家・李王家御系圖	一八〇
各氏系圖	一八一
歷代皇居及御陵	一八六
主な神社・著名寺院	一八九
歷代內閣一覽	一九八



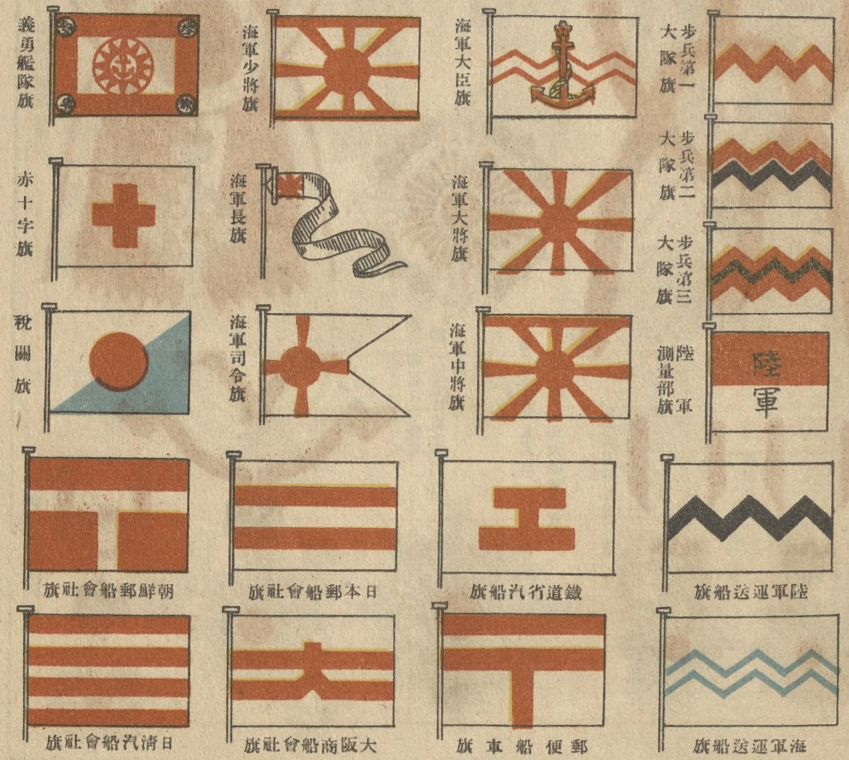
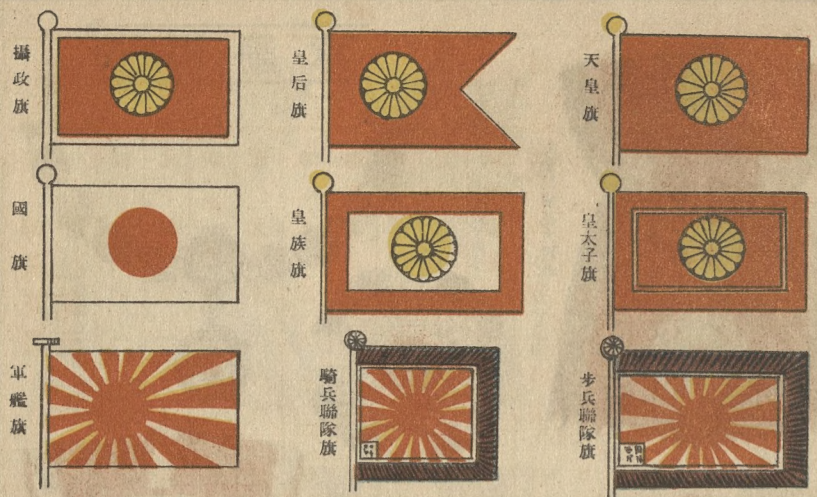
昭和十一年(丙子)閏三月十六日  
 曆 年 閏 (子 丙) 年 一 十 和 昭

神武天皇 即位紀元 二千五百九十六年

西曆紀元 一九三六年  
 滿洲帝國 康德三年  
 中華民國 二五年

四月	四方	拜一	一月一日
元始	祭	一月三日	
新年宴會	一月五日		
紀元節	二月十一日		
地久節	三月六日		
春季皇靈祭	三月二十日		
神武天皇祭	四月三日		
天長節	四月二十九日		
秋季皇靈祭	九月二十三日		
神嘗祭	十月十七日		
明治節	十一月三日		
新嘗祭	十一月廿三日		
大正天皇祭	十二月廿五日		
小の月	二月二十九日		
大の月	一月三月五月		

年	二	十	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
7	7	3	6	1	4	6	2	5	7	3	5	1	2	5
14	14	10	13	8	11	13	9	12	14	10	12	8	9	12
21	21	17	20	15	18	20	16	19	21	17	19	15	16	19
28	28	24	27	22	25	27	23	26	28	24	26	22	23	26
		31	29				30			31		29		





# 帝 國 勳 章

大勳位菊花大綬章副章



大勳位菊花章頸飾



大勳位菊花大綬章

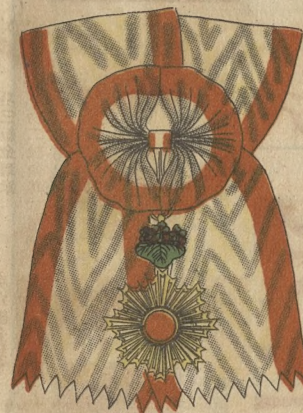


勳一等旭日桐花大綬章



勳一等旭日桐花大綬章副章

勳一等旭日大綬章



勳三等旭日中綬章

勳二等旭日重光章副章

勳二等旭日重光章

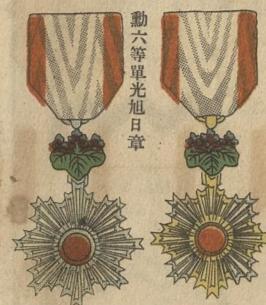


勳四等旭日小綬章



勳五等雙光旭日章

勳六等單光旭日章



勳七等青色桐葉章



勳八等白色桐葉章



功六級金瑞章



功七級金瑞章



功三級金瑞章  
功二級金瑞章副章



功四級金瑞章



功五級金瑞章



勳二等瑞寶章  
勳一等瑞寶章副章



勳四等瑞寶章



勳三等瑞寶章



勳五等瑞寶章



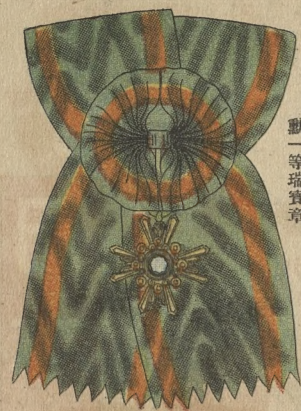
勳七等瑞寶章



勳六等瑞寶章



勳八等瑞寶章



勳一等瑞寶章



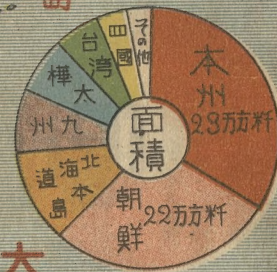
功二級金瑞章  
功一級金瑞章副章



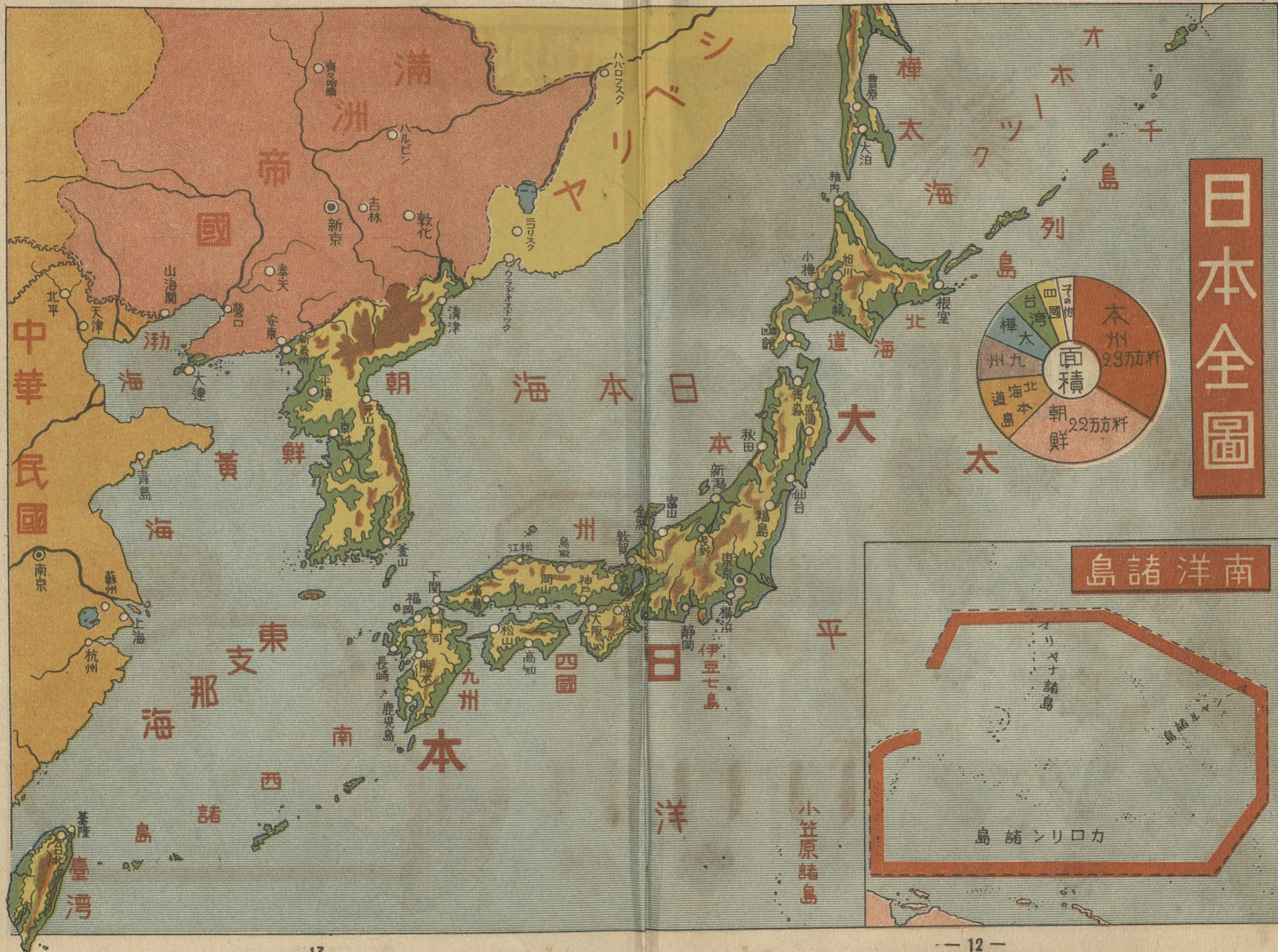
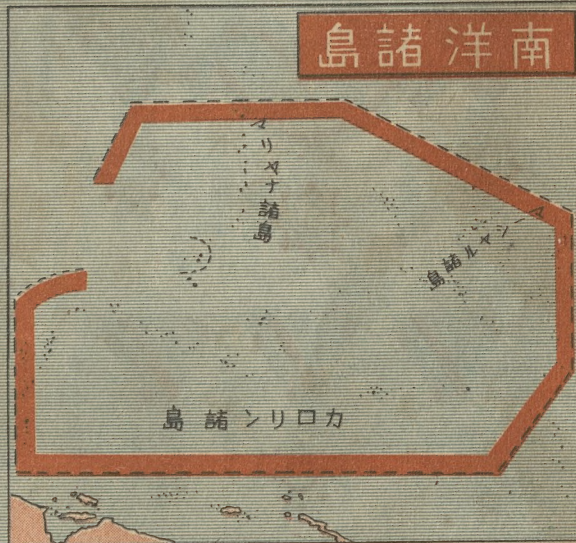
功一級金瑞章



# 日本全圖

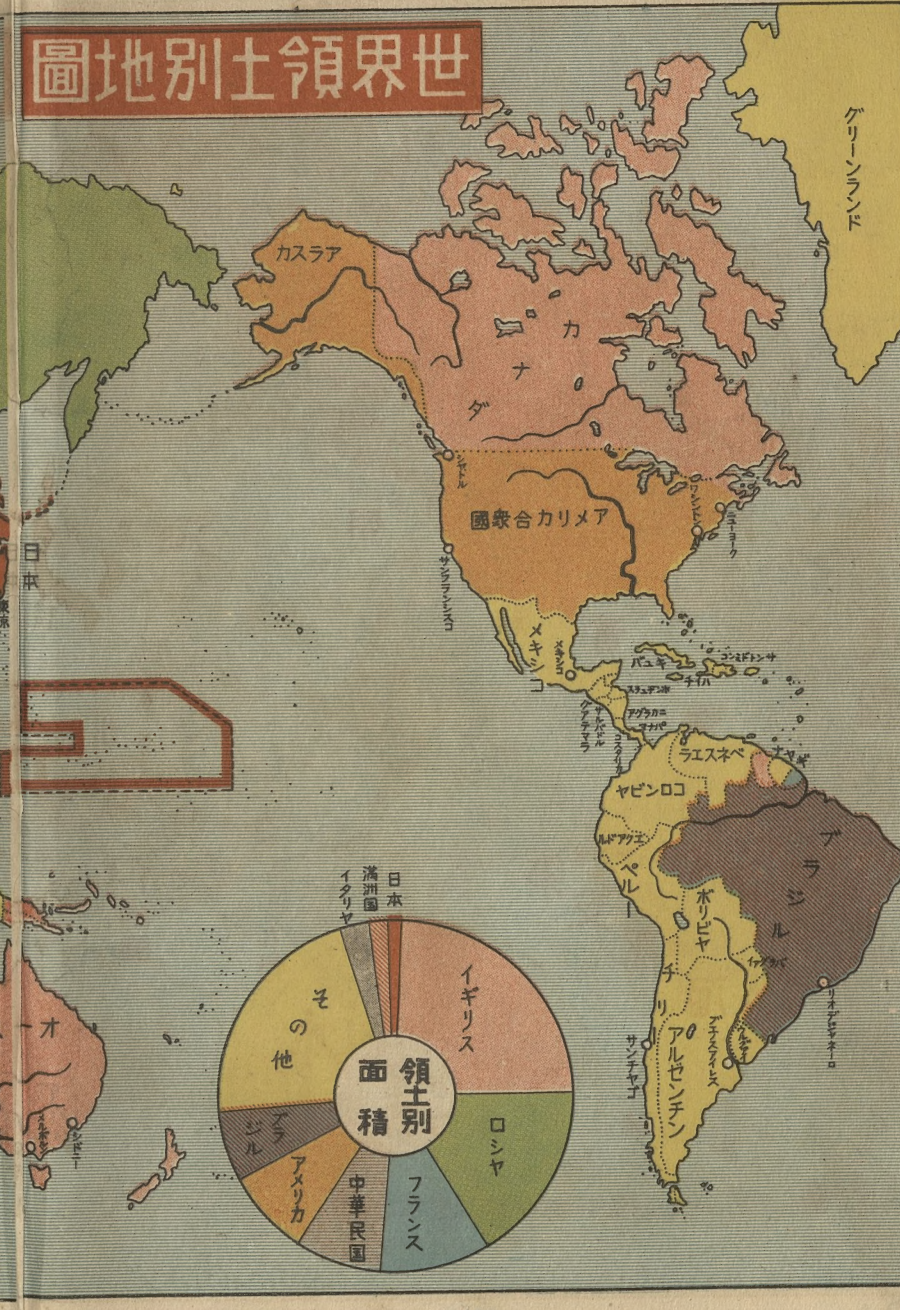
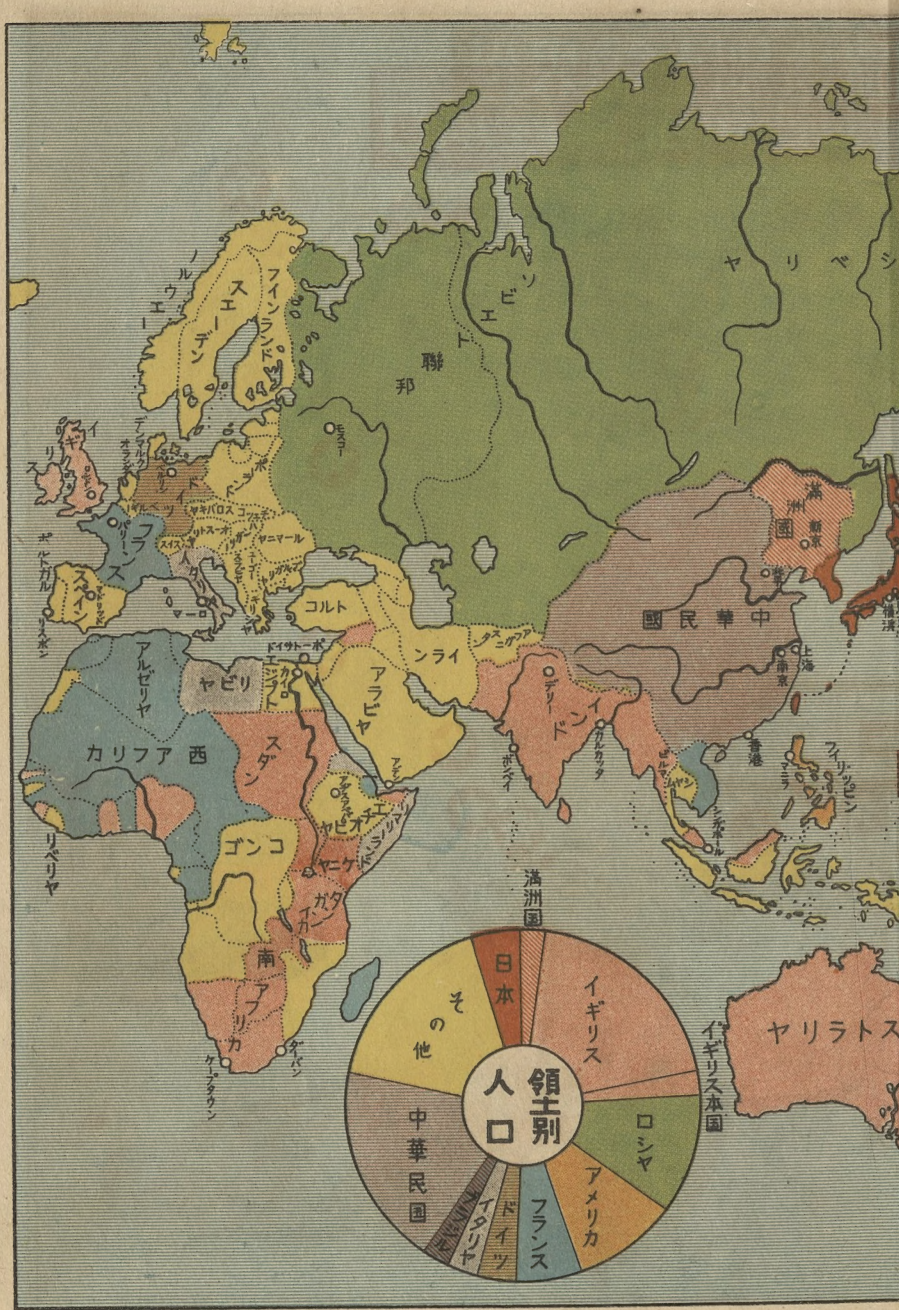


## 南洋諸島





# 世界領土別地圖



各国軍用機

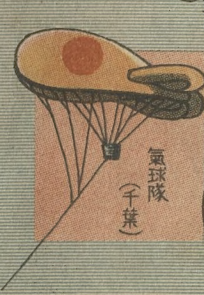
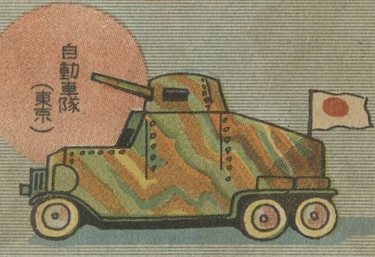


# 圖地備配軍陸本日



陸軍省  
 參謀本部  
 東京  
 東部防衛司令部

鐵道第一聯隊  
 鐵道第二聯隊  
 千葉



飛行第一聯隊 各務原  
 飛行第二聯隊 各務原  
 飛行第三聯隊 各務原  
 飛行第四聯隊 八日市  
 飛行第五聯隊 太刀洗  
 飛行第六聯隊 立川  
 飛行第七聯隊 平壤  
 飛行第八聯隊 屏東  
 飛行第九聯隊 會寧

戰車第一聯隊 (久留米)  
 戰車第二聯隊 (千葉)



第一飛行團 各務原  
 第二飛行團 會寧

台灣軍司令部 (台北)  
 屏東













軍帽

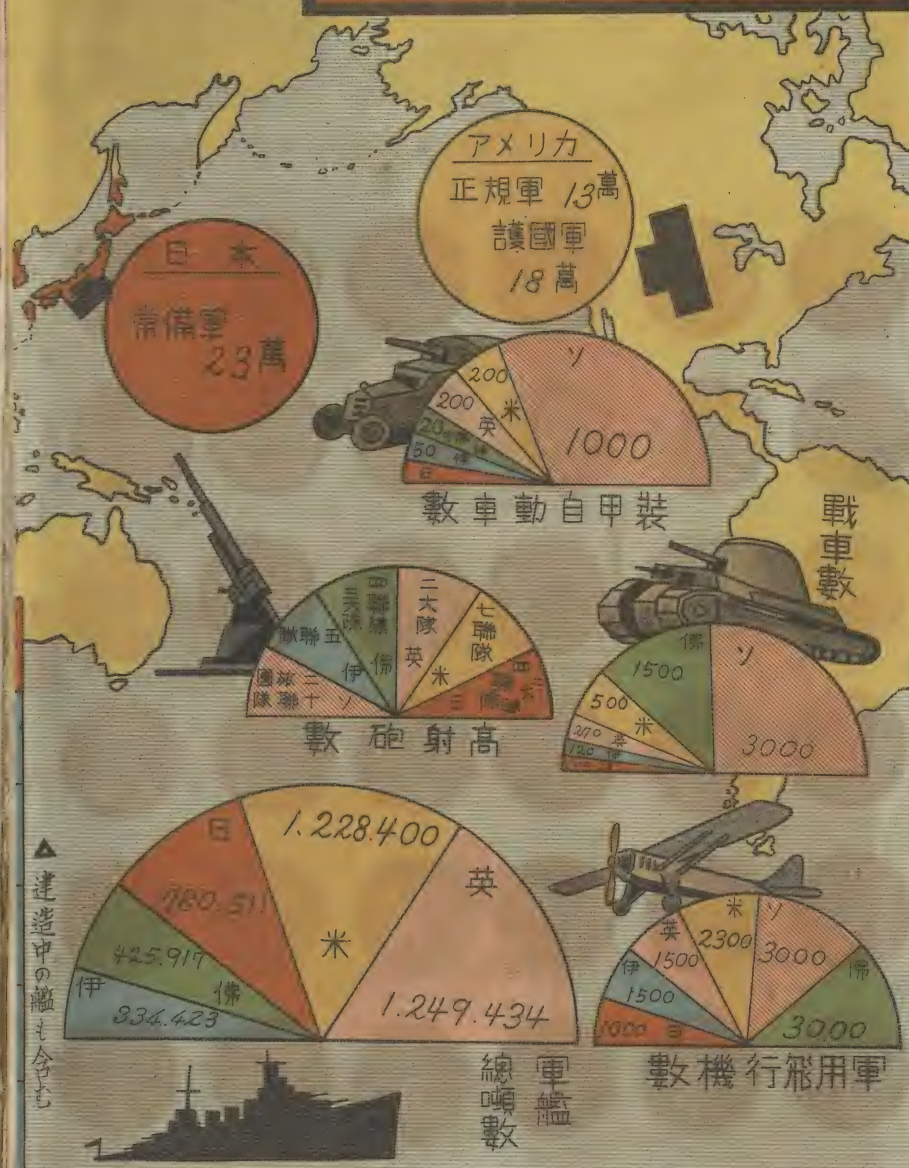


# 帝國海軍の制服





# 世界軍備比較



軍艦旗	日	米	英	ソ	伊
主力艦	9	15	15	10	4
航空母艦	6	10	6	2	1
巡洋艦	35	31	58	24	29
驅逐艦	105	258	179	78	90
潜水艦	66	87	61	109	75







四庫

日本海海戰  
二五八五年



南洋群島

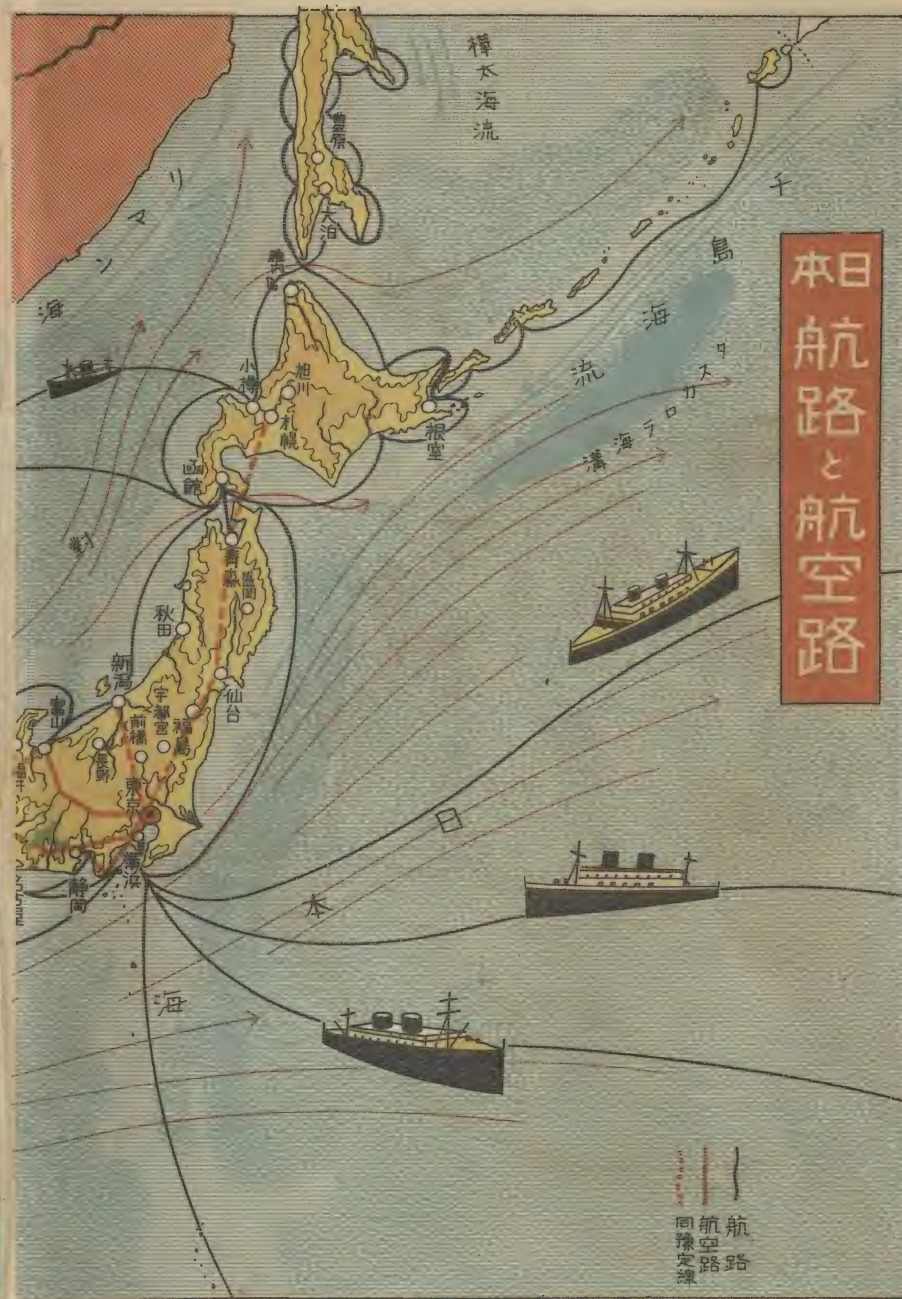
各國軍用機













# 奥羽地方



# 北海道地方













# 中國四國地方



# 近畿地方









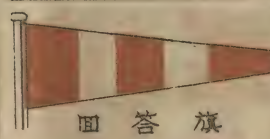




# 世界航路地圖

國際信號旗

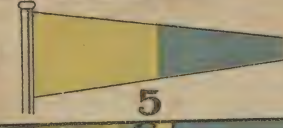
地圖の赤線は日本汽船航路、白線は外國汽船航路  
國際信號旗は汽船から他の汽船に、或は陸に通信をす  
る場合に用ひる。遠距離の場合には無線電信による外  
はないが普通五、六杆の範圍内では此の信號旗を使用  
する。



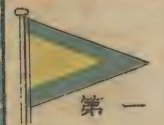
回答旗



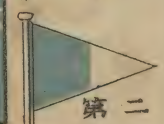
4



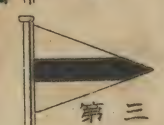
5



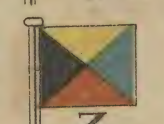
第一



第二



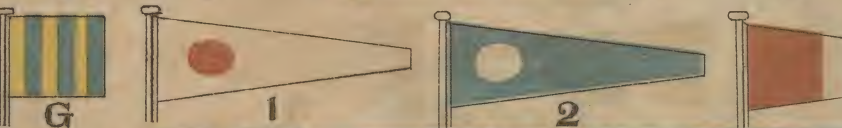
第三



Z



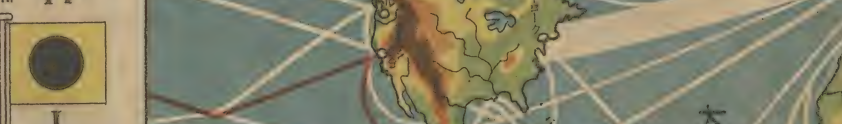
F E D C B A



G H I



J K L



M N



O P



Q R



S T



U V



W X



Y Z













ヨーロッパ

各国軍用機











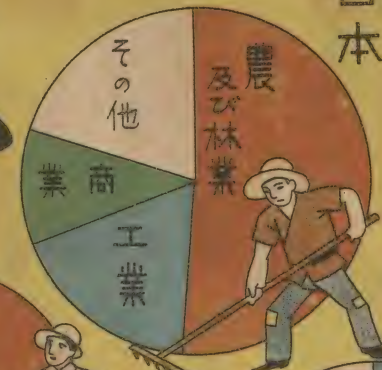
# (度年九和昭) 解圖 合割入出輸本日



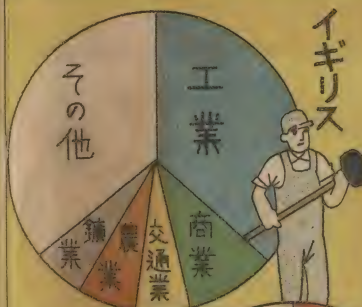


# 世界各國の職業比較

日本



イギリス



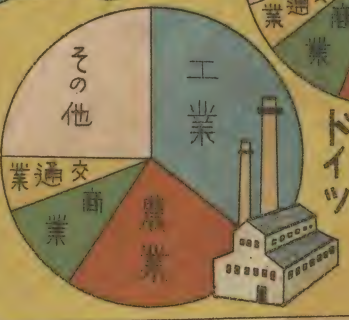
フランス



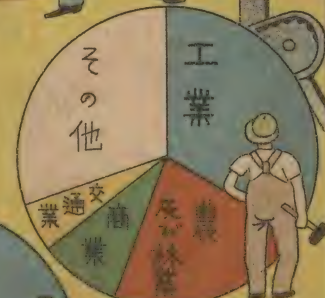
イタリア



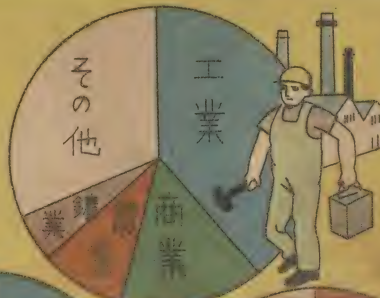
ドイツ



アメリカ



ベルギー



オーストラリア



デンマーク



インド

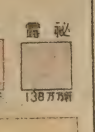
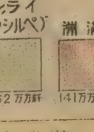
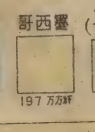
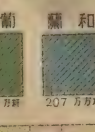
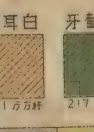
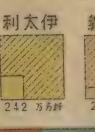
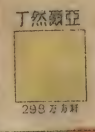
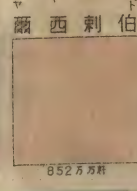
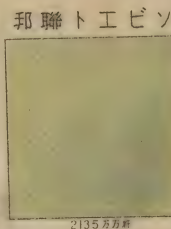
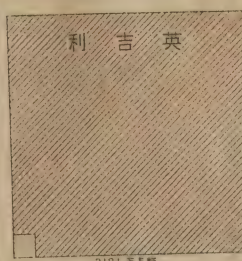
フィンランド



満洲國



比較人口及積画國要主  
ス聯合ラ之八國ルア領屬  
ス示リ領屬八部條新ノ内較比積画  
國圖ノ年三三九一至八二九一ハ口人



那 支 45000 万人

邦 聯 ト エ ビ ン 2135 万 人

西 蘭 佛 1091 万 人

那 支 992 万 人

國 衆 合 加 利 米 988 万 人

爾 西 刺 伯 852 万 人

丁 然 亞 298 万 人

利 太 伊 242 万 人

羅 耳 白 241 万 人

牙 葡 葡 217 万 人

蘭 和 207 万 人

哥 西 塞 197 万 人

シ ラ イ (ヤシルベ) 162 万 人

那 支 45000 万人

邦 聯 ト エ ビ ン 2135 万 人

西 蘭 佛 1091 万 人

那 支 992 万 人

國 衆 合 加 利 米 988 万 人

爾 西 刺 伯 852 万 人

丁 然 亞 298 万 人

利 太 伊 242 万 人

羅 耳 白 241 万 人

牙 葡 葡 217 万 人

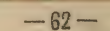
蘭 和 207 万 人

哥 西 塞 197 万 人

シ ラ イ (ヤシルベ) 162 万 人



南  
アメリ  
カ

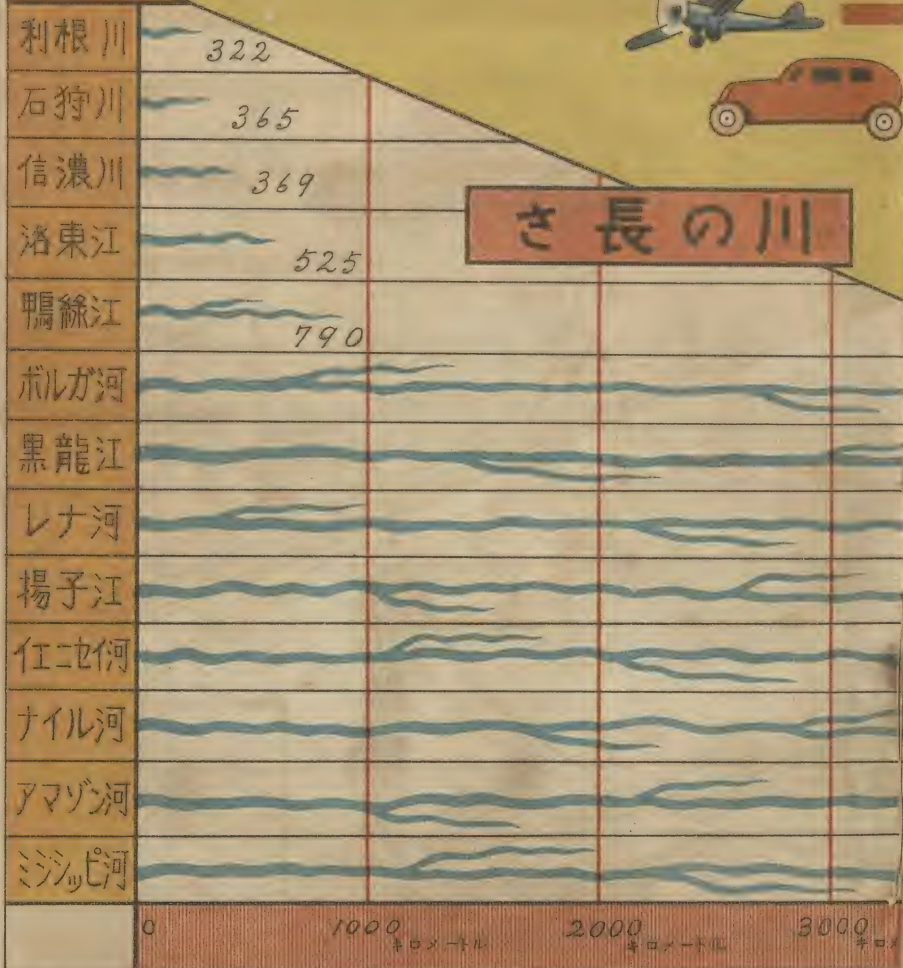




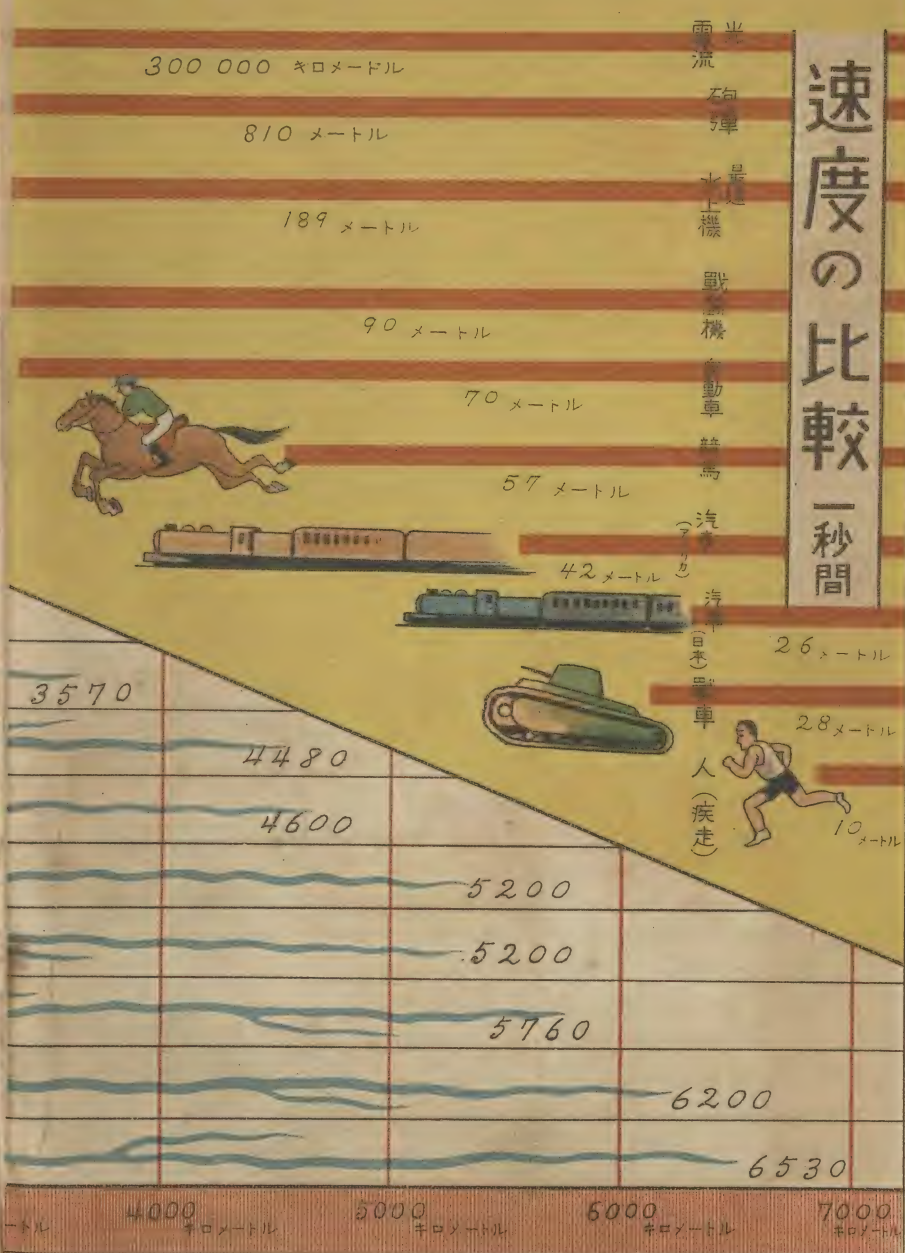
地球の七周半



さ長の川



速度の比較 一秒間





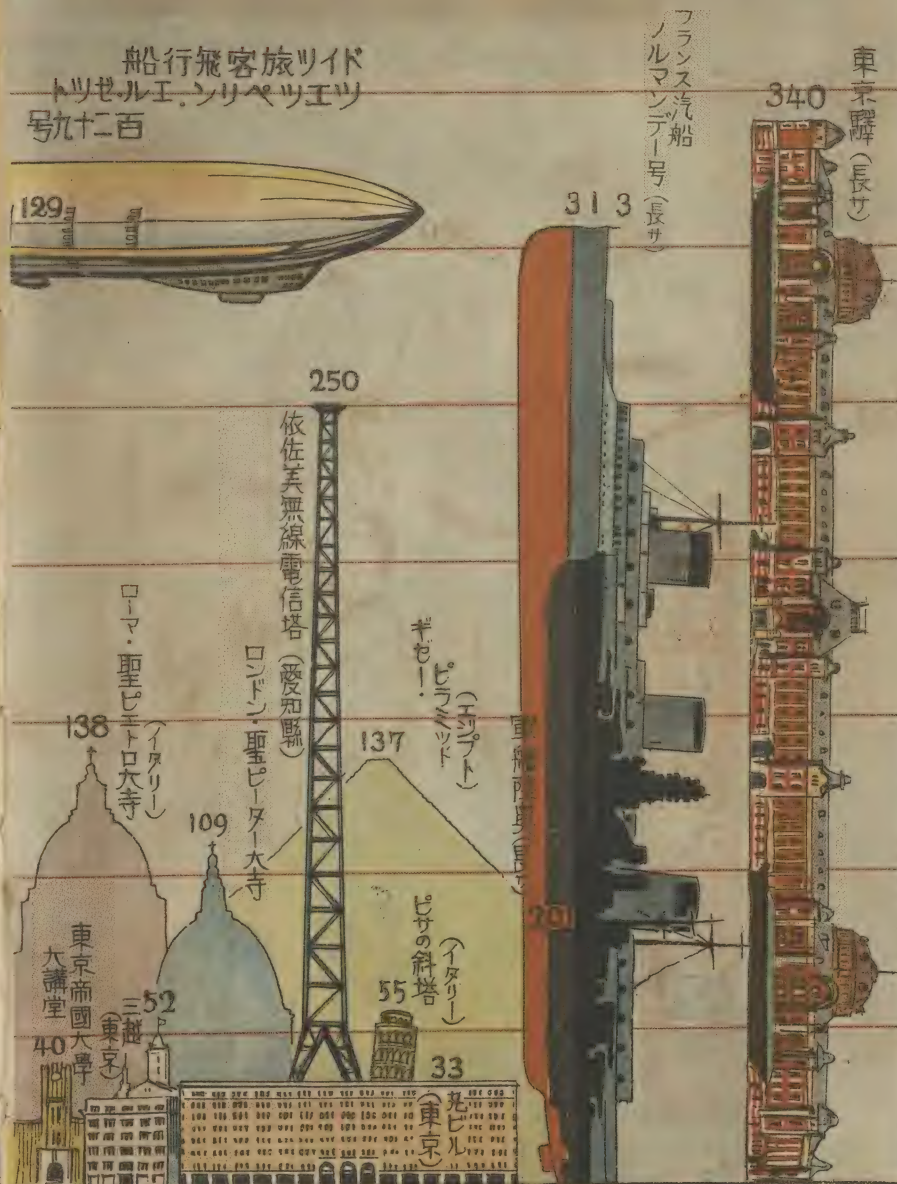
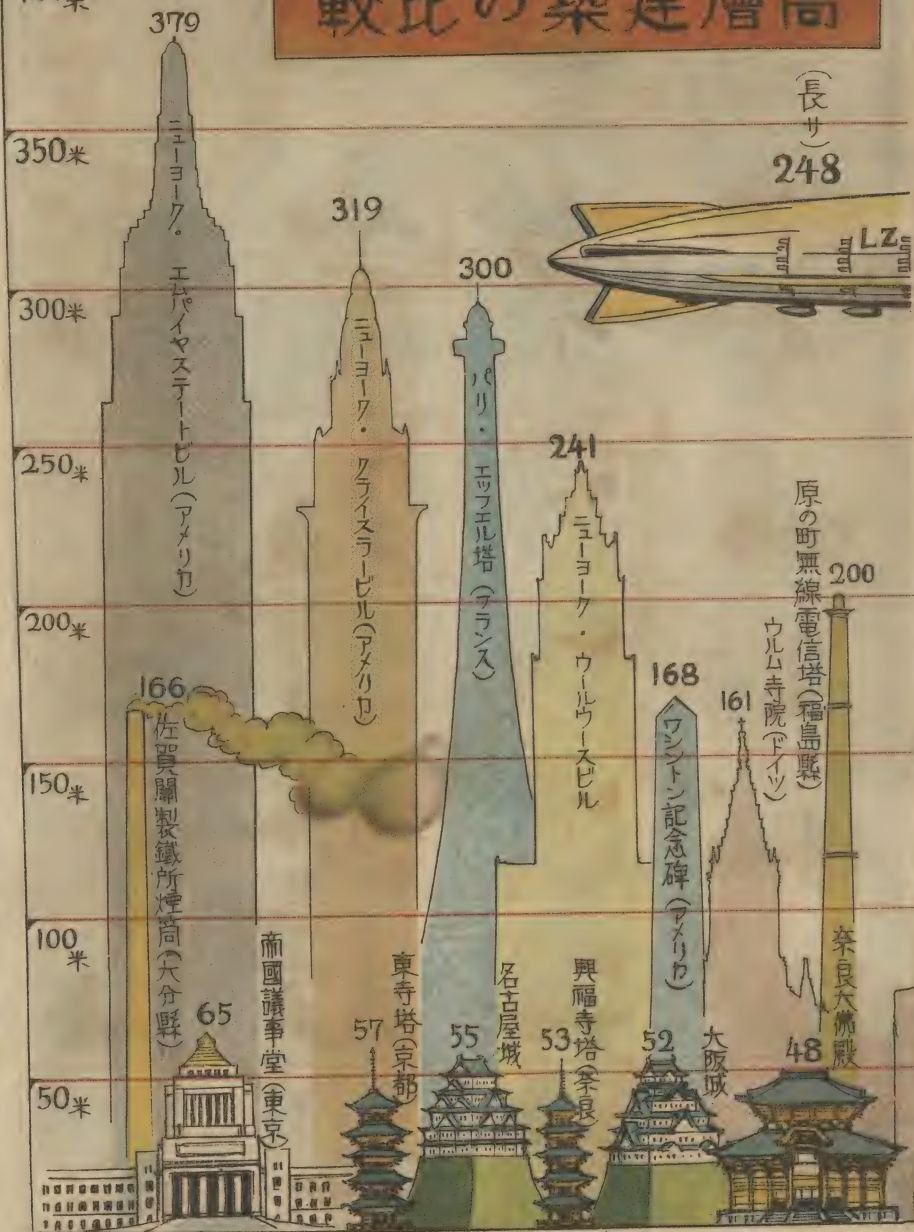
# 一時間の速くらべ

(単位はキロメートル)





400米

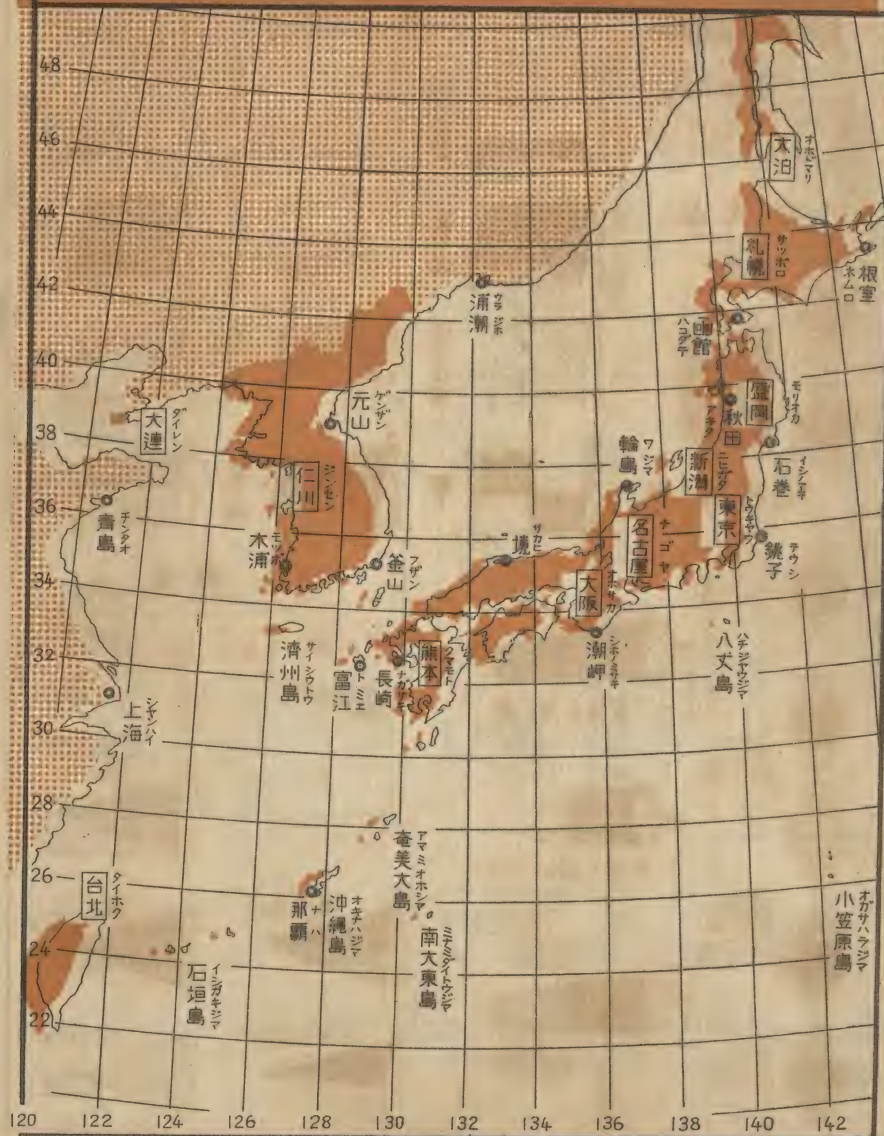








# オデラ 報通象氣 圖地象氣本日

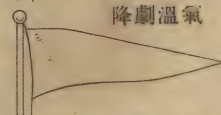


## 旗の温氣

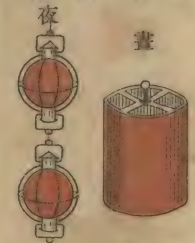
昇劇温氣



降劇温氣



報警風暴

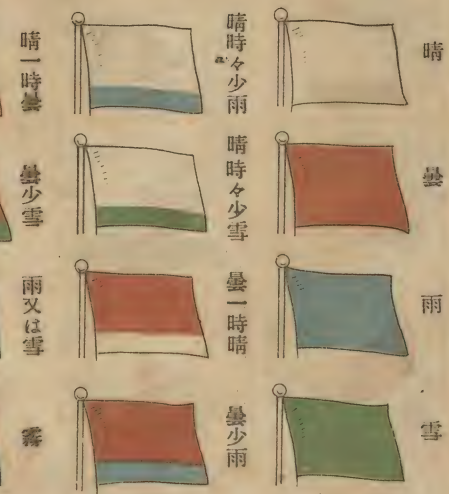


報特象氣

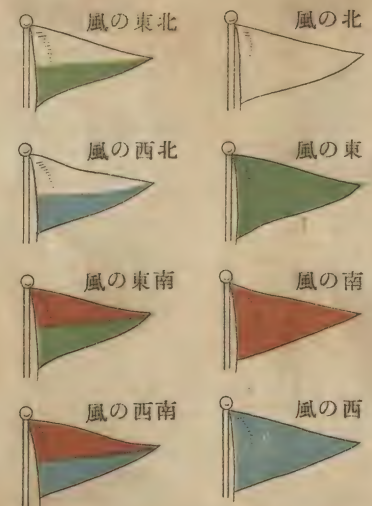


## 號信象氣

旗の氣天



旗の向風







佐世保 151000	小樽 153000	横須賀 160000	金沢 165000	鹿兒島 177000
.....	...	...	...	...



札幌 193000	吳 207000	八幡 201000	仙台 217000	函館 224000
...	...	...	...	...

# 日本都市分布 比人口較口

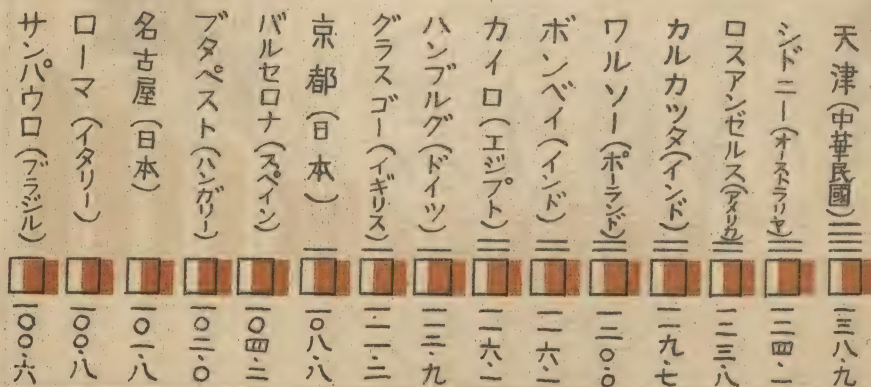
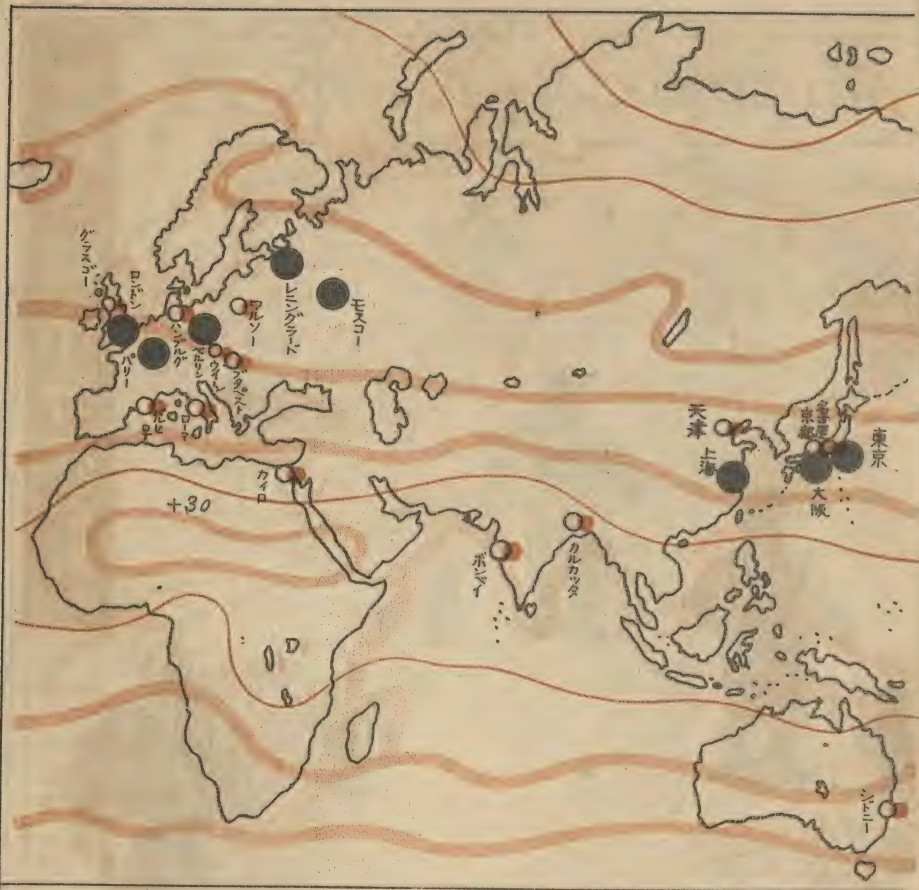
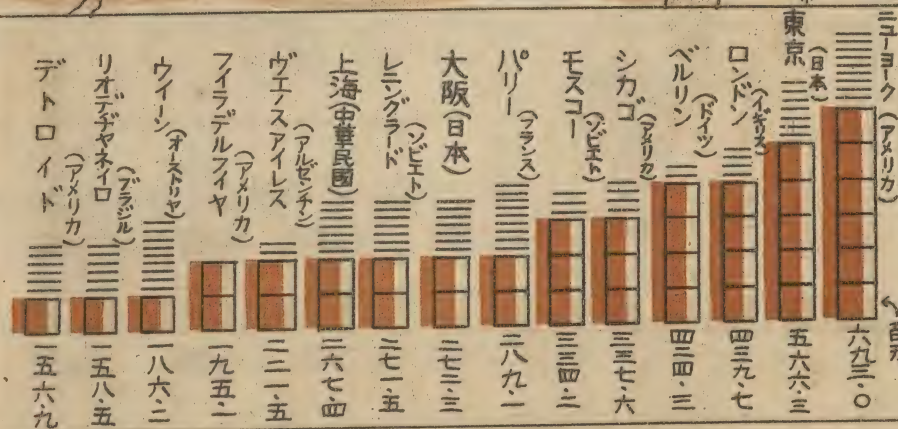
昭和九年十月  
● 人口十五万  
以上の市  
○ その他の市

東京 5663000	大阪 2723000	京都 1088000	名古屋 1018000	神戸 854000	横浜 704000	京城 374000	廣島 296000	大連 290000	福岡 280000
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....



# 世界の都市分布

人口比較  
等温線









各國々民  
一人當りの  
國富

アメリカ

7052 円

イギリス

6380 円

フランス

3205 円

日本

1710 円

ドイツ

1380 円

イタリア

1317 円

ソヴェト

899 円

總額二〇二八八、〇〇四 千円

土地

41,091,348 千円



帝國の



3,598,138 千円 鐵道

6,706,815 千円 樹



國富の

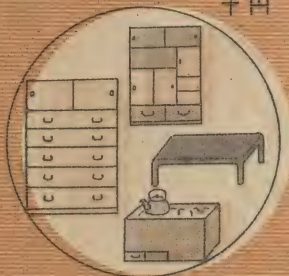
22,843,300 千円

建物

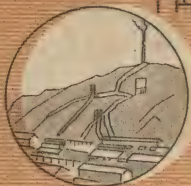


124,732,201 千円

家具家材



64,996,511 千円 鑛山



2,060,236 千円 船



1,905,044 千円 電氣瓦斯



1,809,381 千円 機械



各國々民  
一人當りの  
國債

イギリス

1661 円

フランス

836 円

アメリカ

360 円

イタリア

235 円

日本

116 円

ドイツ

84 円



各國々民  
一人當りの  
國民所得

イギリス

1412円

アメリカ

1251円

フランス

688円

ドイツ

601円

ソヴェト

509円

日本

65円

總額一〇、六三五、七八五千円 昭和五年  
(單位・千圓)

職 業 別 所 得

工 業

3,483,011

商 業

2,706,079

農 業

1,883,195

公 務

1,346,702

運輸業

629,631

郵便業

211,685

水産業

162,548

各國々民  
一人當りの  
郵便貯金

アメリカ

1580円

オーストラリア

871円

イギリス

507円

フランス

489円

イタリア

420円

日本

70円



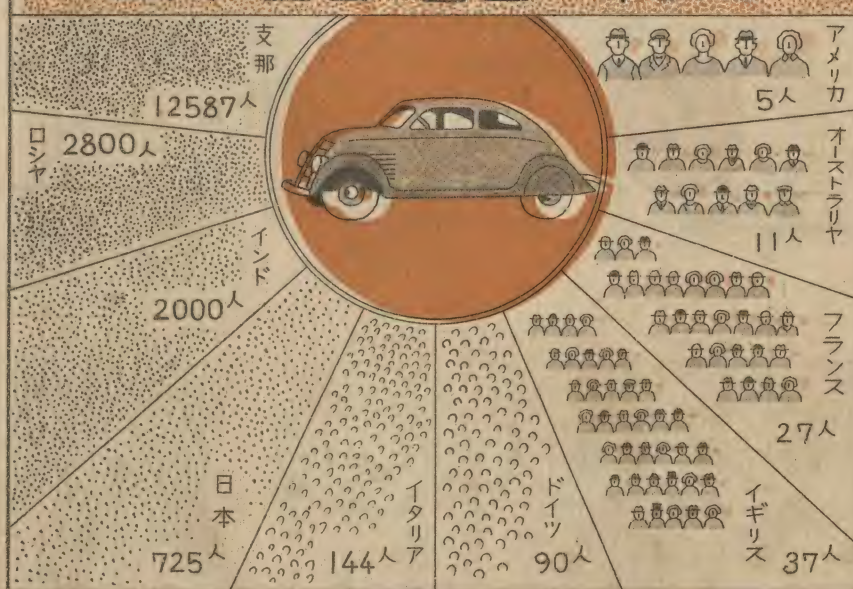
# 手旗現字通信原劃等、現字法

名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解
原第七	L	右手ヲ垂直ニ舉ケ左手ヲ左方水平ニ出ス	符號	↑↓	上下ニ振交ル	點讀	ノ	左手ヲ垂直ニ出ス
原第六	=	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	↗↘	右ノ振交ル	弧括	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第五	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	原第四	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第四	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	原第三	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第三	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	原第二	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第二	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	原第一	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第一	、	右手ヲ上方水平ニ出ス	劃原零	○	右手ヲ上方水平ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
姿原	〇	右手ヲ上方水平ニ出ス	原第八	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解
原第九	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第十	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第八	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第七	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第七	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第六	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第六	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第五	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第五	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第四	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第四	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第三	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第三	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第二	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第二	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第一	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第一	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	劃原零	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
姿原	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第八	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解	名稱	現字	說明及圖解
原第九	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第十	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第八	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第七	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第七	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第六	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第六	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第五	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第五	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第四	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第四	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第三	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第三	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第二	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第二	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第一	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
原第一	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	劃原零	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受
姿原	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	原第八	フ	左手ヲ垂直ニ出ス	符號	∧	右手ヲ左右ノ下方四十五度ニ出シ見受

# 列國の國防費 單位 百萬圓



# 自動車一臺當り各國の人口





# 片假名作爲法

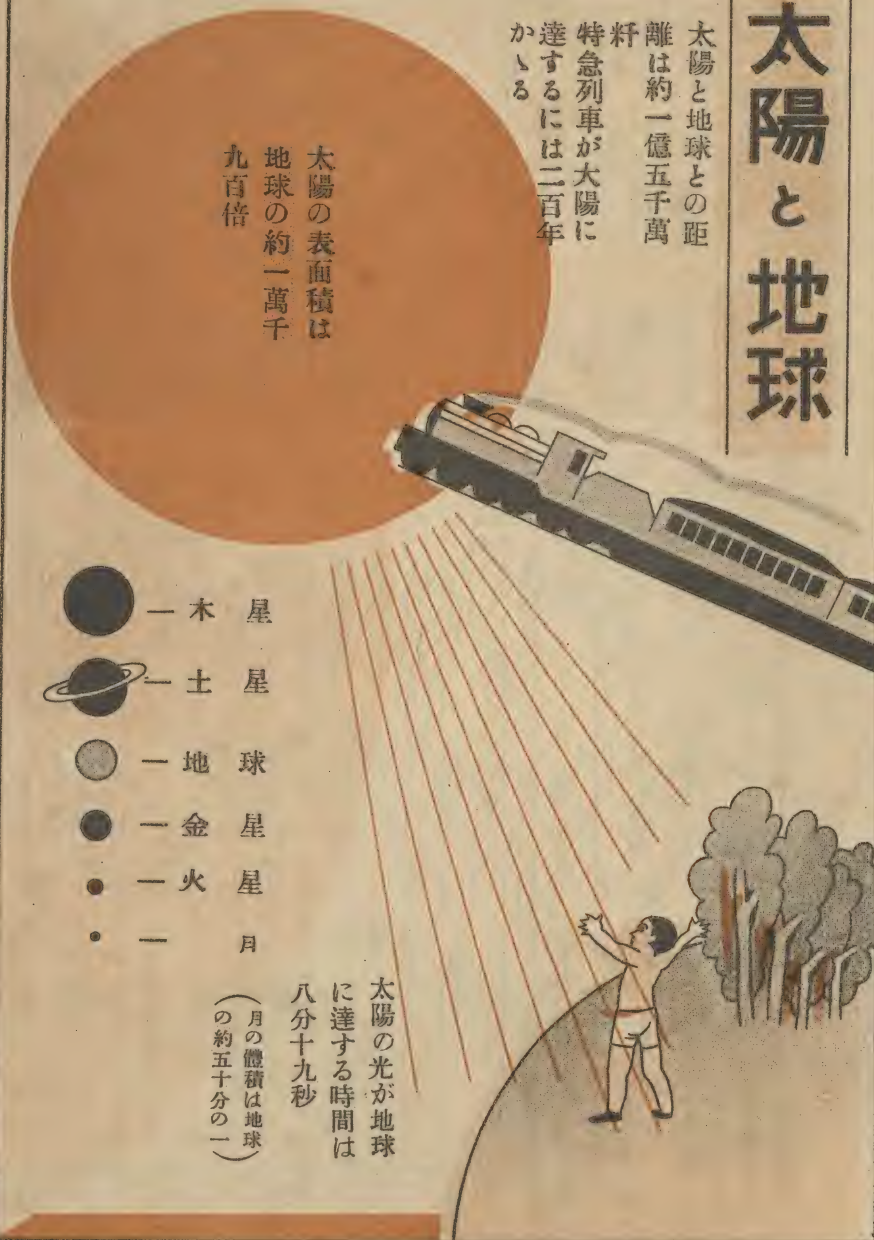
レ	タ	ヨ	カ	ワ	ラ	ル	ヌ	リ



# 太陽と地球

太陽と地球との距離は約一億五千萬  
特急列車が大陽に達するには二百年  
かかる

太陽の表面積は  
地球の約一萬千  
九百倍



太陽の光が地球に達する時間は  
八分十九秒

(月の體積は地球の約五十分の一)

## 宮城

(東京市麹町區)  
面積約六十萬坪

△宮殿 表宮殿と奥宮殿とに別れ表宮殿とは正殿、鳳凰間、桐間、化粧間、御間、豐明殿、千種間、牡丹間、竹間、南溜、東溜、西溜、北溜、東一間、東二間、西二間、西三間、御車寄は表御車寄、東御車寄、北御車寄を總稱し、奥宮殿は表宮殿の西南方に連り、兩陛下の御常御殿である。

△宮中三殿 賢所、皇靈殿、神殿を稱し、賢所は三種の神器の一たる寶鏡を奉安し皇祖天照皇大神を奉齋し給ふ。皇靈殿は神武天皇を始め御歷代天皇、皇后、皇妃、皇親の御靈を奉祀し、神殿は神產日神外七神並に天神地祇を鎮祭し給ふ。又皇靈殿の西に神嘉殿あり、新嘗祭の時御親祭を行はせられ、元旦の四方拜はその南庭にて行はせらる。

△吳竹寮 宮城内舊本丸にある。皇子御殿で、現に照宮成子内親王殿下の御住居にあてさせらる。

△振天府その他 振天府は日清戦役の戦利品、記念品殉國者氏名及び寫眞等を藏めてある。有光亭は威海衛戦の戦利品、懷遠府は北清事變に於る殉國者の氏名肖像、記念品、建安府は日露戦役の戦利品、記念品、殉國者の氏名、寫眞等を藏めてあり、又日獨戦役の記念府たる惇明府もあり。上海、滿洲事變の記念府も御造營計畫中。

△二重橋 正門外から望む上下二重の鐵橋である。

△吹上御苑 宮城内の御庭である。

△京都皇居 (京都市上京區) 紫宸殿、清涼殿、宣陽殿から南庭を廻つて日華、月華、承明以下の軒廊陳座等あり、登極令により代々御大禮を擧げさせ給ふ所。



# 大日本帝國皇室

## 天皇陛下 (第百二十四代)

御名 裕仁。大正天皇第一皇子。明治三十四年四月二十九日御降誕。  
 迪宮と稱し奉る。大正五年十一月三日立太子式御舉行。大正十年三月三日御外遊。同年九月三日御歸朝。大正十年十一月二十五日攝政御就任。  
 大正十三年一月二十六日御成婚。大正十五年十二月二十五日御踐祚。昭和三年十一月十日御即位式御舉行。同月十四日大嘗祭御親祭。

## 皇后陛下

御名 良子。故久邇宮邦彥王第一王女。明治三十六年三月六日御誕生。  
 大正十三年一月二十六日御入興皇太子妃とならせられ昭和元年十二月二十五日皇后宣下。

## 皇太后陛下

大正天皇御母  
 今上天皇御母

御名 節子。故公爵九條道孝第四女。明治十七年六月二十五日御誕生。  
 明治三十三年五月十日御入興皇太子妃とならせられ大正元年七月三十日皇后宣下。昭和元年十二月二十五日皇太后とならせらる。



天 皇 陛 下



皇 后 陛 下



皇 太 后 陛 下



皇 太 子 殿 下

御名 明仁。御稱號 繼宮。今上天皇第一皇子。昭和八年十二月二十三日御降誕。

## 正 仁 親 王

御稱號 義宮。今上天皇第二皇子。昭和十年十一月二十八日御誕生。

## 成 子 內 親 王

御稱號 照宮。今上天皇第一皇女。大正十四年十二月六日御誕生。昭和七年四月女子學習院御入學。

## 和 子 內 親 王

御稱號 孝宮。今上天皇第三皇女。昭和四年九月三十日御誕生。

## 厚 子 內 親 王

御稱號 順宮。今上天皇第四皇女。昭和六年三月七日御誕生。



皇 太 子 殿 下



皇 太 子 殿 下



皇 太 子 殿 下





下殿王恭博宮見伏



下殿王親仁載宮院閑



下殿王正守宮本梨



下殿王彦鳩宮香朝



下殿王彦稔宮邇久東



下殿王親仁宣宮松高



下殿王親仁崇宮笠三



下殿子久喜妃宮松高



下殿王親仁雍宮父秩



下殿子津勢妃宮父秩



南  
ア  
リ  
ク

かくにくぐんようき

— 95 —









毅弘田廣 臣大務外



清是橋高 臣大藏大



介啓田岡 臣大運總閣内  
將大軍海



生岑角大 臣大軍海  
將大軍海



之義島川 臣大軍陸  
將大軍陸



夫文藤後 臣大務内



治源田松 臣大部文



介圭月望 臣大信通



治忠田町 臣大工商



世五ジョージ スリギイ  
帝 皇



石介蔣 國民華中  
者 國主



帝皇德康 國帝洲滿  
帝 皇



ーラトツヒ ツイゴ  
相首兼統總



ユーリソツム ーリタイ  
相 首



トルベズール カリムア  
皇 統大



クルユテダア コル  
領 統大



ンリータス トエイゾソ  
者 勝主



ンラブル スラフ大





宇垣一成 朝鮮總督兼  
海軍大將



松田國演 衆議院議長



近衛文相 貴族院議長



若槻禮次郎 男爵



清浦奎吾 伯爵



鈴木貫太郎 侍從長



内田康哉 伯爵



山本達雄 男爵



藤實 子爵



小原直 司法大臣



内田信也 鐵道大臣



山崎達輔 農林大臣



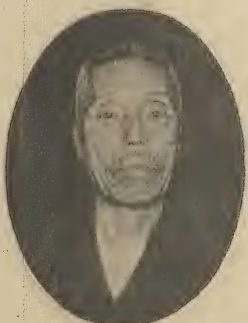
牧野伸顯 內務大臣



西園寺公望 公爵



兒玉秀雄 拓務大臣



倉富三男 男爵



木喜德郎 樞密院議長



湯淺平倉 內務大臣





身修野永 將大軍海



郎三吉村野 將大軍海



正信次末 將大軍海



造躰林小 將大軍海



三良村中 將大軍海



輔英本山 將大軍海



義隆藤加 將中軍海



政光内米 將中軍海



吉三橋高 將中軍海



夫貞木荒 將大軍陸



郎太錠邊渡 將大軍陸



郎次南 將大軍陸



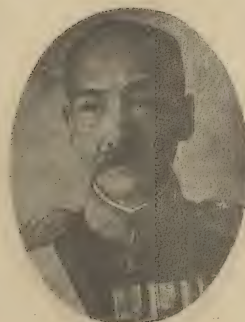
繁庄本 將大軍陸



郎十銃林 將大軍陸



郎三甚崎眞 將大軍陸



吉謙田植 將大軍陸



一義西 將大軍陸



行信部阿 將大軍陸





雄 高 艦 洋 巡



曙 艦 巡 驅



城 赤 艦 母 空 航



奥 艦 陸 戰



門 長 艦 戰



剛 艦 金 戰





(國米) ドラゴ・ドンラーメ 艦 戦



(國米) ゴ カ シ 艦 洋 巡



(國米) ントンシキレ 艦母空航



。(國英) ーニドロ 艦 戦



(國英) ルグーイ 艦母空航



(國英) クルオフォーノ 艦 洋 巡

バルボア  
南  
アフリカ



型の艦要主英・米



ドラロコ・ドンラーリメ艦力主米  
ヤニジーアヴトスエウ



ナゾリア艦力主米



ドンラトーボ艦洋巡級甲米



ントンシキレ・ガトラア艦母空航米



ンソルネ・ーネドロ艦力主英



ドッフ艦力主英



スベザリニ・ンーイク艦力主英



スヤリーエフ艦母空航英



スヤリーログ艦母空航英  
スヤジーレカ



ルグーイ艦母空航英

型の艦要主國帝



門長・奥陸艦力主



勢伊・向日艦力主



雪吹艦逐驅



名漆・島霧・剛金艦力主



黒羽・柄足・智那・高妙艦洋巡級甲



葉青・笠衣艦洋巡級甲



鷹古・古加艦洋巡級甲



二十五號伊艦水潜



桑扶・城山艦力主



賀加艦母空航



城赤艦母空航



上から  
爆撃機（八七式重爆撃機）  
偵察機（八八式偵察機）  
水上艦  
（九〇式一號水上偵察機）



聴音機

戦車隊



飛行機の名義に就て  
八八式、九二式等と云ふのは各飛行機の作られた年代を取つて云ふのである。即ち皇紀二五八八年に造られたのは八八式と云ふ。同様に二五九〇年に造られたのは、九〇式と云ふ。



世界一の巨船  
ノルマンディー號（七萬五千噸）  
イギリスのサザンブトン—ニュー  
ヨークの間三一九二哩を四日十一時  
四十二分で航破し、初航海に於て大  
西洋横断の新記録をつくつた。



太平洋航路の優秀汽船  
秩父丸（日本郵船會社）  
一萬七千五百噸  
淺間丸（日本郵船會社）  
一萬七千噸





詞 藻

○てりもせずくもりもはてぬ春の夜の朧月夜  
(大江千里)  
○うらうらとのどけき春の心よりにほひ出て  
たる山ざくらかな  
(加茂真淵)  
○春雨のふりそめしより青柳の糸の緑ぞ色増  
さりけり  
(凡河内躬恒)  
○春がすみながれななる、西空は入りおほき  
くなりけるかも  
(齋藤茂吉)  
○わが心清しゆたけしあけぼのの春の光の中  
に立てれば  
(佐々木信綱)  
○遙かにかすみわたたりて、四方の梢、そこは  
かとなくけぶりわたれるほど繪にいとよく  
似たるかな。  
(源 氏)  
○春は曙、やうやう白くなり行く山際、少し  
明りて紫たちたる雲の細くたな引ききたる。  
(枕草紙)

○花よりあくる三吉野の、春の曙見渡せば、もろこし

書 簡 用 語

○春暖の候○日毎に春めき○解氷  
の頃○櫻花まさに開かんとする候  
○柳のみどりも日に濃く○曉を知  
らざる夢の春○立春の日かけ霞み  
て○それは雪の下から萌え出る愛  
らしい若草からの力強い春でござ  
います○櫻花爛漫の候○春風胎蕩  
の好季節○柳櫻の候○晩春の候○  
惜春の候○新緑の候○葉櫻のみど  
り爽やかなる候○春既に晩く○若  
葉の緑色まざり○新緑のかほりな  
つかしき頃となりました○近く春  
につきぬ名残を惜しみながら○梅  
雨にならぬうち新緑を訪ねて○漸  
く農繁期と相成○薄暮の初○慌し  
く暮れゆく春

卒 業・入 學

○お父様、お母様、ほんとに長い  
間、有り難うございました○今日  
卒業證書をいたゞいて今更のやう

祝・祭・記念日

地 久 節 六 日  
春季皇靈祭 廿一日  
滿洲國建國記念日 十 日  
陸軍記念日

【四 月】

卯月 櫻月、花見月、季春、晩春  
暮春

祝・祭・記念日

神武天皇祭 三 日  
天長節 廿九日  
觀櫻御會 中 旬  
靖國神社祭 三十日

【五 月】

早月、卯の花月、早月、花残月、  
立夏、初夏

記 念 日

勞働祭(メーデー) 一 日  
獨逸國祭日 一 日  
海軍記念日 廿七日

春 の 言 葉

人も高麗人も、大和心になりぬべし (頼 山陽)  
○花の雲は上野か浅草か (芭 蕉)  
○霞やら花の雲やら煙やら (同 )  
○春風 光風、南風、東風、和風、そよ風、陽風、花  
を吹く風、春風胎蕩。  
○陽炎 陽炎燃ゆる、糸遊、夢のごと、朝かけらふ。  
○春雨 春しぐれ、烟雨、花の涙、花のしづく、さぬ  
ぎぬの雨、そほ降る雨。  
○春の朝 春の曙、春  
曉、春眠、花の晨。  
○春の日 春日、遅日、  
麗日、のどかに、春の  
陽麗らか、春日遅々。  
○櫻花 山櫻、絲櫻、  
彼岸櫻、緋櫻、爛漫、  
萬葉の櫻、花曇、櫻雨。  
○蝶 胡蝶、夢魂、黄  
と色と花から花へ。















冬

詞藻

○蕭條として石に  
日の入る枯野哉  
(蕪村)

○思へばや泣かれ  
笑はれ年の暮  
(風雪)

○正月一日は、空  
の景色うらうら  
と、珍らしくか  
と、珍らしくか

すみこめたるに、世にありとある人は、姿かたち、  
心ごとにつくろひ、君をも、わが身をも、祝ひなど  
したるさま、ことにをかし。  
(枕草紙)

○今朝見れば山も霞みて久方の天の原より春は来にけ  
り  
(源實朝)

○元日や神代の事もおもはる、  
(守武)

○四方拜その時朝日のぼりつ、  
(子規)

書簡用語

○嚴寒の候○寒氣甚だしく○寒威  
肌を刺す○木枯寒く○時下寒冷相  
増し○酷寒の初○寒氣相加はり○  
初霜白く○夜來の初雪にて○今朝  
は初水を見られ○山里の冬は一し  
ほの肌寒さを覺え○月迫りいよいよ  
御多忙のこと、存じ候○一覽荒  
涼たる冬野原○歳月流るるが如く  
○光陰箭の如く。

年賀用語

○謹賀新年○恭賀新禧○賀正○新  
年おめでたう○明けましておめで  
たうございます○新年の御よろこ  
び申し上げます○初春の御壽芽出度  
申納め候○新春の御壽芽出度祝ひ  
納め候○難く軍國の春○希望に充  
てる皇國の新年○舊年中は一方な  
らぬ御厚誼にあづかり○御健やか  
にて新春を迎へさせられ○皆々様  
いよいよ御健勝御加齢遊ばされ大  
慶に存じ上げ候。

歳暮の言葉

○歳暮、歳末、除夜、ゆく年、年の暮、鳥兎勿々、残  
る一夜、除夜の鐘、舊を送り新を迎ふ。  
○クリスマスⅡ星の光の、聖燭、サンタクロース。

新年の言葉

○新年、新歲、新正、新禧、新春、新陽、正  
月、年始、年甫、年頭、年首、年初、歳首、  
歳旦、歳始、改年、改新、改曆、開年、同曆、  
元旦、元日、華節、新賀、瑞靄、屠蘇、天地  
一新、萬象維新、三陽肇建、千門皆新、四海  
同風、一陽來復、初日、若水、松風。  
○早春Ⅱ初春、立春、餘寒、東雨、寒雨、春  
寒き、春淺く、春立ちて、春めく、歸り來し  
春、春は再び、若やく春、萌え出る春、春遠  
み、春をふくみて。  
○春雪Ⅱ春の雪、殘雪、雪解、淡雪、殘んの  
雪、降るや解けつ、夢のやうな淡雪、消え  
てまた降る。

書簡用語

○春寒さ候○餘寒なほ烈しく○殘  
寒甚だしく○餘寒去り難く○春立  
ち候へども未だ肌寒く○梅花漸く  
綻びをめ春らしく相成候○晩冬の  
風寒く。



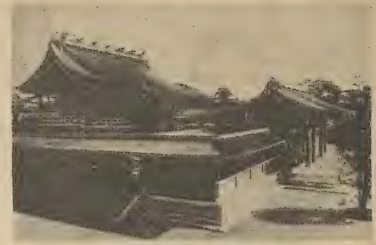
初針立節	建憲紀	如月(衣更着)	雪消之月	初寶等	舊初	初日の出	行	陸軍始	政防出	新治	元始	四方	月、大
供	行	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝	祝
六	八	五	四	十一	十一	十一	二	一	八	六	四	五	三
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日



(所名京東)



宮離坂赤



宮神治明



像銅公楠大



社神國靖



寺岳泉



驛京東



像銅郷西大



堂事議新

# 重要詔勅及法典

## 天孫降臨ノ神勅

葦原ノ千百秋ノ瑞穂國ハ是レ吾カ子孫ノ王タルヘキ地ナリ宜シク爾皇孫就イテ治セ行矣實祚ノ隆エマサンコト當ニ天壤ト窮無カルヘシ

(日本書紀神代卷)

## 齋鏡ノ神勅

吾カ兒此ノ鏡ヲ視マサンコトマサニ吾ヲ視ルカコトクスヘシ與ニ床ヲ同シクシ殿ヲ共ニシ以テ齋鏡ト爲スヘシ

(日本書紀神代卷)

## 神武天皇即位建國ノ大詔

我レ東ヲ征テシヨリ茲ニ六年ニナリヌ皇天ノ威ヲ賴リテ凶徒就戮サレヌ邊土末ヲ清マラス餘妖尙梗シト雖モ中洲ノ地ニ復タ風塵無シ誠ニ宜シク皇都ヲ恢廓メ大壯ヲ規摹ルヘシ而

## 五ヶ條ノ御誓文

紀元元年三月一日

(日本書紀卷三)

- 一、廣ク會議ヲ興シ 萬機公論ニ決スヘシ
- 一、上下心ヲ一ニシテ 盛ニ經綸ヲ行フヘシ
- 一、官武二途 庶民ニ至ルマデ 各其志ヲ遂ケ 人心ヲシテ 倦マサランメン事ヲ要ス
- 一、舊來ノ陋習ヲ破リ 天地ノ公道ニ基クヘシ



一 智識ヲ世界ニ求メ 大ニ皇基ヲ振起スヘシ  
我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ 朕躬ヲ以テ衆ニ先シ 天  
地神明ニ誓ヒ 大ニ斯國是ヲ定メ 萬民保全ノ道ヲ立ントス  
衆亦此趣旨ニ基キ協力セヨ

(慶應四年・明治元年・戊申三月十四日)

## 陸海軍軍人に賜りたる勅諭

我國の軍隊は 世々 天皇の統率し給ふ所に在る 昔神武  
天皇 躬つから大伴物部の兵とを率ゐ 中國のまつろはぬ  
ものともを討ち平け給ひ 高御座に即かせられて天下しらし  
めし給ひしより二千五百有餘年を経ぬ 此間世の様の移り換  
るに隨ひて 兵制の沿革も亦屢なりき 古は 天皇躬つから  
軍隊を率ゐ給ふ御制にて 時ありては 皇后 皇太子の代ら  
せ給ふこともありつれと 大凡兵權を臣下に委ね給ふことは  
なかりき 中世に至りて 文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ  
大衛府を置き 左右馬寮を建て 防人など設けられしかは  
兵制は整ひたれとも 打續ける昇平に狃れて 朝廷の政務も  
漸文弱に流れければ 兵農おのつから二に分れ 古の徵兵は  
いつとなく壯兵の姿に變り 遂に武士となり 兵馬の權は  
一向に其武士ともの棟梁たる者に歸し 世の亂と共に 政治

を頭首と仰ぎてそ 其親は特に深かるべき 朕が國家を保護  
して上天の恵に應じ 祖宗の恩に報いまいする事を得るも  
得ざるも 汝等軍人か 其職を盡すと盡さざるに由る所か  
し 我國の稜威振はさることあらは 汝等能く 朕と其愛を  
共にせよ 我武維揚りて 其榮を輝さは 朕汝等と其譽を借に  
すへし 汝等皆其職を守り 朕と一心になりて 力を國家の  
保護に盡さは 我國の蒼生は永く太平の福を受け 我國の威  
烈は 大に世界の光華ともなりぬへし 朕斯も深く汝等軍人  
に望むなれば猶訓諭すべき事こそあれ いてや之を左に述へむ  
一 軍人は忠節を盡すを本分とすへし 凡生を我國に棄くる  
もの誰かは國に報ゆるの心なかるべき 況して軍人たら  
ん者は 此心の固からては 物の用に立ち得へしとも思  
はれず 軍人にして報國の心堅固ならされは 如何程技  
藝に熟し 學術に長するも 猶個人にひとしかるへし  
其隊伍も整ひ 節制も正くとも 忠節を存せざる軍隊は  
事に臨みて 烏合の衆に同かるへし 抑國家を保護し  
國憲を 維持するは 兵力にあれば 兵力の消長は 是國  
運の盛衰なることを辨へ 世論に惑はず 政治に拘らず  
只々一途に己か本分の忠節を守り 義は山嶽よりも重く  
死は鴻毛よりも輕しと覺悟せよ 其操を破りて不覺を取

の大權も亦其手に落ち 凡七百年の間 武家の政治とはなり  
ぬ 世の様の移り換りて 斯なれるは 人力でも挽回すへき  
にあらずとはいひながら 且は我國體に戻り 且は我 祖宗  
の御制に背き奉り 淺聞しき次第なりき 降りて弘化嘉永の  
頃より 徳川の幕府其政義へ 利外國の事とも起りて 其侮  
をも受ぬへき勢に迫りければ 朕が皇祖仁孝天皇 皇考孝明  
天皇いたく宸襟を 慟し給ひしこそ 忝くも又惶けれ 然る  
に 朕幼くして天津日嗣を受けし初 征夷大將軍其政權を返  
上し 大名小名其版籍を奉還し年を経すして 海内一統の世  
となり 古の制度に復しぬ 是文武の忠臣良將ありて 朕を  
輔翼せる功績なり 歷世祖宗の專蒼生を憐み給ひし御遺澤な  
りといへとも 併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重き  
を知れるか故にこそあれ されは 此時に於て 兵制を更め  
我國の光を輝さんと思ひ此十五年か程に 陸海軍の制をは  
今の様に建定めぬ 夫れ兵馬の大權は 朕が統ふる所なれば  
其司々をこそ臣下には任すなれ 其大綱は 朕親之を攬り  
肯て臣下に委ぬべきものにあらず 子々孫々に至るまで 篤  
く斯旨を傳へ 天子は文武の大權を掌握するの義を存して  
再中世以降の如き失體なからんことを望むなり 朕は汝等軍  
人の大元帥なるぞ されば朕は汝等を股肱と頼み 汝等は朕

り汚名を受くるなかれ  
一 軍人は禮義を正くすへし 凡軍人には 上元帥より下一  
卒に至るまで 其間に官職の階級ありて統屬するのみな  
らず 同列同級とて 停年に新舊あれば 新任のもの  
は舊任のものに服従すへきものぞ 下級のものは 上官  
の命を承ること 實は直に 朕が命を承る儀なりと心得  
よ 己か隸屬する所にあらずとも 上級の者は勿論 停  
年の己より舊きものに對しては 總へて敬禮を盡すへし  
又上級の者は 下級のものに向ひ 聊も輕侮驕傲の振  
舞あるへからず 公務の爲に威嚴を主とする時は格別な  
れとも 其外は務めて懇に取扱ひ 慈愛を專一と心掛け  
上下一致して王事に勤勞せよ 若軍人たるものにして  
禮儀を紊り 上を敬はず 下を虐ますして 一致の和諧  
を失ひたらんには 實に軍隊の毒たるのみかは 國家  
の爲にもゆるし難き罪人なるへし  
一 軍人は武勇を尚ふへし 夫武勇は 我國にては 古より  
いと貴へる所なれば 我國の臣民たらんもの 武勇な  
くては叶ふまし 況して軍人は 戦に臨み敵に當るの職  
なれば 片時も武勇を忘れてよかるべきか さはあれ武  
勇には大勇あり小勇ありて同からず 血氣にはやり粗暴



の振舞なとせんは 武勇とは謂ひ難し 軍人たむものは常に能く義理を辨へ 能く膽力を練り思慮を殫して事を謀るへし 小敵たりとも侮らず 大敵たりとも懼れず 己が武職を盡さむこそ 誠の大勇にはあれ されは 武勇を尙ふものは 常々人に接するに 温和を 第一とし 諸人の愛敬を得むと 心掛けよ 由なき勇を好みて 猛威を振ひたらは 果は世人も忌嫌ひて 豺狼などの如く思ひなむ 心すへきことにこそ

軍人は信義を重んずへし 凡信義を守ること 常の道にはあれと わきて 軍人は信義なくては一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるへし 信とは 己か言を踐行ひ義とは 己か分を盡すをいふなり されは 信義を盡さむと思はは 始より其事の成し得へきか 得へからざるかを 審に思考すへし 臆氣なる事を假初に請ひて よしなき關係を結び 後に至りて信義を立てんとすれば 進退谷りて 身の措き所に苦しむことあり 悔ゆとも其詮なし 始に能々事の順逆を辨へ 是非を考へ 其言は所詮戯むへからずと知り 其義はとても守るへからずと悟りなは 速に止るこそよけれ 古より或は小節の信義を立てんとて 大綱の順逆を誤り 或は公道の是非に踏

迷ひて 私情の情義を守り あたは英雄豪傑ともか 禍に遇ひ身を滅し 屍の上の汚名を後世まで遺せること其例多からぬものを 深く警めてやはあるへき

一 軍人は質素を旨とすへし 凡質素を旨とせされは文弱に流れ 輕薄に趨り 驕奢華麗の風を好み遂には 貪汚に陥りて 志も無下に賤くなり 節操も武勇も其甲斐なく世人に爪はしきせらる迄に至りぬへし 其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり 此風一たび軍人の間に起りては彼の傳染病の如く蔓延し 士風も兵氣も頓に衰へぬへきこと明なり 朕深く之を懼れて 義に免黜條例を施行し 略此事を誡め置きつれと 猶も其惡習の出んことを憂ひて 心安からねは 故に又之を訓ふるそかし 汝等軍人 仰め此訓誡を等閑にな思ひそ

右の五ヶ條は 軍人たらんもの暫も忽にすへからずさて之を行はんには 一の誠心こそ大切なれ 抑此五ヶ條は我軍人の精神にして 一の誠心は 又五ヶ條の精神なり 心誠ならされは 如何なる嘉言も善行も皆うはへの裝飾にて何の用にか立つべき 心たに誠あれば 何事も成るものそかし 況してや 此五ヶ條は 天地の公道 人倫の常經なり 行ひ易く守り易し 汝等軍人能く 朕か訓に遵ひて 此道を

守り行ひ國に報ゆるの務を盡さば日本國の蒼生擧りて之を悦びなん 朕一人の憚のみならんや(明治十五年一月四日)

### 憲法發布ノ勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ 中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ 現在及將來ノ臣民ニ對シ 此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス 惟フニ我カ祖我カ宗ハ 臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ 我帝國ヲ肇造シ 以テ無窮ニ垂レタリ 此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト 竝ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ 國ヲ愛シ公ニ殉ヒ 以テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタノナリ 朕我カ臣民ハ 即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ 其ノ朕カ意ヲ奉體シ 朕カ事ヲ美順シ 相與ニ和衷協同シ 益々我帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ 祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ 此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ (明治二十二年二月十一日)

### 教育ニ關スル勅語

朕惟フニ 我カ 皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ 徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ 我カ臣民克ク忠ニ 克ク孝ニ 億兆心ヲ一ニシテ 世々厥ノ美ヲ濟セルハ 此レ我カ國體ノ精華ニシテ 教育ノ淵源 亦實ニ此ニ存ス 爾臣民父母兄弟ニ友ニ

夫婦相和シ 朋友相信シ 恭儉己ヲ持シ 博愛衆ニ及ボシ 學ヲ修メ 業ヲ習ヒ 以テ智能ヲ啓發シ 德器ヲ成就シ 一旦緩急アレハ 義勇公ニ奉シ 以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ 是ノ如キハ 獨リ 朕カ忠良ノ臣民タル ミナラス 又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン 斯ノ道ハ 實ニ我カ 皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ 子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ變ラス 之ヲ中外ニ施シテ悖ラス 朕爾臣民ト俱ニ 拳々服膺シテ 咸其徳ヲ一ニセムコトヲ庶幾フ

### 清國ニ對スル宣戰ノ詔勅

(明治二十三年十月三十日)

天佑ヲ保全シ 萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル 大日本帝國皇帝ハ 忠實勇武ナル汝有衆ニ示ス 朕茲ニ清國ニ對シテ戰ヲ宣ス 朕カ百僚有司ハ 宜ク朕カ意ヲ體シ 陸上ニ 海面ニ 清國ニ對シテ交戰ノ事ニ從ヒ 以テ國家ノ目的ヲ達スルニ努力スヘシ 苟モ國際法ニ悞ラサル限り 各々權能ニ應ジテ一切ノ手段ヲ盡スニ於テ 必ス遺漏ナカラン事ヲ期セヨ 惟フニ 朕カ即位以來 茲ニ二十有餘年、文明ノ化ヲ平和ノ



治ニ求メ 事ヲ外國ニ構フルノ 極メテ不可ナルヲ信シ 有  
シヲシテ 常ニ友邦ノ誼ヲ 厚クスルニ努力セシメ 幸ニ列  
國ノ交際ハ 年ヲ送ウテ親密ヲ加フ 何ゾ料ラム 清國ノ朝  
鮮事件ニ於ケル 我ニ對シテ著著隣交ニ戻リ 信義ヲ失スル  
ノ舉ニ出テントハ 朝鮮ハ 帝國力其始ニ敬誘シテ 列國ノ  
伍伴ニ就カシメタル 獨立ノ一國タリ 而シテ清國ハ 毎ニ  
自ラ朝鮮ヲ以テ屬邦ト稱シ 陰ニ陽ニ 其内政ニ干涉シ 其  
内亂アルニ於テ 口ヲ屬邦ノ拯難ニ藉キ 兵ヲ朝鮮ニ出シタ  
リ 朕ハ明治十五年ノ條約ニヨリ 兵ヲ出シテ變ニ備ヘシメ  
更ニ朝鮮ヲシテ 禍亂ヲ永遠ニ免シ治安ヲ將來ニ保タシメ  
以テ東洋全局ノ平和ヲ維持セント欲シ 先ツ清國ニ告グルニ  
協同事ニ從ハムコトヲ以テシタルニ 清國ハ 翻テ種々ノ辭  
柄ヲ設ケ 之ヲ拒ミタリ 帝國ハ茲ニ於テ 朝鮮ニ勸ムルニ  
其批政ヲ釐革シ 内ハ治安ノ基ヲ堅クシ 外ハ獨立國ノ權義  
ヲ全クセンコトヲ以テシタルニ 朝鮮ハ既ニ之ヲ肯諾シタル  
モ 清國ハ始終陰ニ居テ 百方其目的ヲ妨礙シ 利ヘ辭ヲ左  
右ニ托シ 時機ヲ緩ニシ 以テ其ノ水陸ノ兵備ヲ整ヘ一旦成  
ルヲ告グルヤ直ニ其ノ力ヲ以テ其ノ欲望ヲ達セントシ 更ニ  
大兵ヲ韓土ニ派シ 我艦ヲ韓海ニ要撃シ 殆ト亡狀ヲ極メタ  
リ 卽チ清國ノ計圖タル明ニ朝鮮國治安ノ責ヲシテ 歸スル

其ノ地域ノ保有ヲ 永久ニスル勿ランコトヲ以テシタル  
願フニ 朕方恒ニ 平和ニ營ミタルヲ以テシテ 竟ニ清國ト  
兵ヲ交フルニ至リシモノ 洵ニ東洋ノ平和ヲシテ永遠ニ鞏固  
ナラシメントスルノ 目的ニ外ナラス 而シテ三國政府ノ友  
誼ヲ以テ 切實スル所 其ノ意亦茲ニ存ス 朕平和ノ爲ニ計  
ル 素ヨリ之ヲ容ルルニ吝ナラサルノミナラス 更ニ事端ヲ  
滋シ 時局ヲ艱シ 治平ノ回復ヲ遲滞セシメ 以テ民生ノ疾  
苦ヲ醸シ 國運ノ伸張ヲ沮ムハ 眞ニ 朕力意ニアラス 且  
清國ハ韓和條約ノ訂結ニヨリ 既ニ倫盟ヲ悔ユルノ誠ヲ致シ  
我カ交戰ノ理由 及目的ヲシテ 天下ニ炳焉タラシム 今ニ  
於テ 大局ニ顧ミ 寬洪以テ事ヲ處スルモ 帝國ノ光榮ト  
威嚴トニ於テ 毀損スル所アルヲ見ス  
朕乃チ 友邦ノ忠告ヲ容レ 朕カ政府ニ命シテ 三國政府ニ  
照覆スルニ 其ノ意ヲ以テセシメタリ 若シ夫レ 半島環地  
ノ邊附ニ關スル 一切ノ措置ハ 朕特ニ政府ヲシテ清國政府  
ト商定スル所アラシメントス  
今ヤ韓和條約 既ニ批准交換了シ 兩國ノ和親舊ニ復シ  
局外ノ列國 亦斯ニ交誼ノ厚ヲ加フ 百僚臣庶夫レ能ク 朕  
カ意ヲ體シ 深ク時勢ノ大局ニ觀 微ヲ慎ミ 漸ヲ戒メ 邦  
家ノ大計ヲ誤ルコトナキヲ期セヨ (明治二十八年五月十日)

所アラサシメ帝國力率先シテ 之ヲ諸獨立國ノ列ニ伍セシ  
メタル 朝鮮ノ地位ハ 之ヲ表示スルノ條約ト共ニ 之ヲ蒙  
晦ニ付シ 以テ帝國ノ權利利益ヲ損傷シ 以テ東洋ノ平和ヲ  
シテ 永ク擔保ナカラシムルニ存スルヤ疑フヘカラス 熟々  
其ノ爲ス所ニ就テ 深ク其ノ謀計ノ存スル所ヲ揣ルニ 實ニ  
始メヨリ 平和ヲ犧牲トシテ 其ノ非望ヲ遂ケントスルモノ  
ト 謂ハサルヘカラス 事既ニ茲ニ至ル 朕平和ト相終始シ  
テ 以テ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚スルニ專ナリト雖モ 亦公  
ニ戰ヲ宣セサルヲ得サルナリ 汝有業ノ忠實勇武ニ倚賴シ  
連ニ平和ヲ永遠ニ克復シ 以テ帝國ノ光榮ヲ全クセンコトヲ  
期ス (明治二十七年八月一日)

### 占領地還附シ東洋ノ平和ヲ鞏固ニスルノ詔勅

朕僑ニ清國皇帝ノ請ニヨリ 全權辦理大臣ヲ命シ 其ノ簡派  
スル所ノ使臣ト會商シ 兩國韓和ノ條約ヲ訂結セシメタリ  
然ルニ 露西亞獨逸兩國及法蘭西共和國ノ政府ハ 日本帝  
國力 遼東半島ノ環地ヲ 永久ノ所領トスルヲ以テ 東洋永  
遠ノ平和ニ利アラスト爲シ 交ハ 朕カ政府ニ慈惠スルニ

### 露國ニ對スル宣戰ノ詔勅

天佑ヲ保有シ 萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル 大日本帝國皇帝ハ  
忠實勇武ナル 汝有業ニ示ス  
朕茲ニ 露國ニ對シテ戰ヲ宣ス 朕カ陸海軍ハ 宜ク全力ヲ  
極メテ 露國ト交戰ノ事ニ從フヘク 朕カ百僚有司ハ 宜ク  
各々其ノ職務ニ事ヒ 其ノ機能ニ應ジテ國家ノ目的ヲ達スル  
ニ努力スヘシ 凡國際條規ノ範圍ニ於テ 一切ノ手段ヲ盡シ  
遂算ナカラムコトヲ期セヨ  
惟フニ文明ヲ平和ニ求メ 列國ト友誼ヲ篤クシテ 以テ東洋  
ノ治安ヲ永遠ニ維持シ 各國ノ權利 利益ヲ損傷セスシテ  
永ク帝國ノ安全ヲ將來ニ 保障スヘキ事態ヲ確立スルハ 朕  
夙ニ以テ 國交ノ要義トナシ 且暮敢テ違ハサラムコトヲ期  
ス 朕カ有司モ 亦能ク朕カ意ヲ體シテ 事ニ從ヒ 列國ト  
ノ關係年ヲ遂フテ益々親厚ニ赴クヲ見ル 今不幸ニシテ 露  
國ト齟齬ヲ開クニ至ル 豈朕カ志 ナラムヤ 帝國ノ重ヲ韓  
國ノ保全ニ置クヤ 一日ノ故ニ非ス 是レ兩國累世ノ關係ニ  
因ルノミナラス 韓國ノ存亡ハ 實ニ帝國安危ノ繫ル所タレ  
ハナリ 然ルニ 露國ハ其ノ清國トノ盟約 及列國ニ對スル  
累次ノ宣言ニ拘ラス 依然滿洲ニ占據シ 益々其ノ地歩ヲ鞏



固ニシテ終ニ之ヲ併吞セントス 若シ滿洲ニシテ 露國ノ領  
有ニ歸セン乎 韓國ノ保全ハ 支持スルニ由ナク 極東ノ平  
和 亦素ヨリ望ムヘカラス 故ニ 朕ハ此機ニ際シ 切ニ妥  
協ニ出テ時局ヲ解決シ 以テ平和ヲ 恒久ニ維持センコトヲ  
期シ 有司ヲシテ露國ニ提議シ 半歲ノ久シキ互リテ果次  
折衝ヲ重ホシメタルモ 露國ハ 一モ交譲ノ精神ヲ以テ之  
ヲ迎ヘス 曠日彌久 徒ニ時局ノ解決ヲ遲延セシメ 陽ニ平  
和ヲ唱道シ 陰ニ海陸ノ軍備ヲ増大シ 以テ我ヲ屈從セシメ  
ントス 凡ソ露國カ始ヨリ平和ヲ好愛スルノ誠意ナルモノ  
毫モ認ムルニ由ナシ 露國ハ既ニ帝國ノ提議ヲ容レス 露國  
ノ安全ハ方ニ危急ニ瀕シ 帝國ノ國利ハ將ニ侵迫セラレント  
ス 事既ニ茲ニ至ル 帝國カ平和ノ交渉ニ依リ 求メムトシ  
タル將來ノ保證ハ 今日之ヲ旗幟ノ間ニ求ムルノ外ナシ朕ハ  
汝有衆ノ忠實勇武ナルニ倚賴シ 速ニ平和ヲ永遠ニ克復シ  
以テ帝國ノ光榮ヲ 保全センコトヲ期ス

### 戊申詔書

(明治三十七年二月十日)

朕惟フニ 方今人文日ニ就リ 月ニ將ミ 東西相倚リ 彼此  
相濟シ 以テ其ノ福利ヲ共ニス 朕ハ茲ニ益々國交ヲ修メ  
友誼ヲ博シ 列國ト與ニ 永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス

願ミルニ 日進ノ大勢ニ伴ヒ 文明ノ惠澤ヲ共ニセントスル  
固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ 戰後日尙淺ク 庶政益々更張ヲ要  
ス 宜ク上下心ヲ一ニシ 忠實業ニ服シ 勤儉ヲ治メ 惟  
信惟義醇厚俗ヲ成シ 華ヲ去リ 實ニ就キ 荒意相誡メ 自  
強息マサルヘシ  
抑々我カ神聖ナル 祖宗ノ遺訓ト 我カ光輝アル 國史ノ成跡  
トハ 炳トシテ 日星ノ如シ 寔ニ克ク格守シ 淬礪ノ誠ヲ  
輸サハ國運發展ノ本 近ク斯ニ在リ 朕ハ方今ノ世局ニ處シ  
我カ忠良ナル臣民ノ 協翼ニ倚賴シテ 維新ノ皇猷ヲ恢弘シ  
祖宗ノ威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ 爾臣民 其レ克ク 朕  
カ旨ヲ體セヨ

(明治四十一年十月十三日)

### 國民精神作興ノ詔書

朕惟フニ 國家興隆ノ本ハ 國民精神ノ剛健ニ在リ 之ヲ涵  
養シ 之ヲ振作シテ 以テ國本ヲ固クセサルヘカラス 是ヲ  
以テ 先帝 意ヲ教育ニ留メサセラレ 國體ニ基キ 淵源ニ  
溯リ 皇祖祖宗ノ遺訓ヲ揭ケテ 其ノ大綱ヲ昭示シタマヒ  
後又臣民ニ詔シテ 忠實勤儉ヲ勸メ 信義ノ訓ヲ申メテ 荒  
怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ 是レ皆道徳ヲ尊重シテ 國民精神ヲ

### 國際聯盟脫退ノ詔書

朕惟フニ 曩ニ世界ノ平和克復シテ 國際聯盟ノ成立スルヤ  
皇考之ヲ憐ヒテ 帝國ノ參加ヲ命シタマヒ 朕亦 遺緒ヲ繼  
承シテ 荷蒙ラズ 前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ  
今次滿洲國ノ新興ニ當リ 帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ 健全ナ  
ル發達ヲ促スヲ以テ 東亞ノ禍根ヲ除キ世界ノ 平和ヲ保ツノ  
基ナリト爲ス 然レニ不幸ニシテ 聯盟ノ所見之ト背馳スル  
モノアリ 朕乃チ 政府ヲシテ 慎重審議 遂ニ聯盟ヲ離脫  
スルノ 措置ヲ採ラシムルニ至レリ  
然リト雖 國際平和ノ確立ハ 朕常ニ之ヲ冀求シテ止マス  
是ヲ以テ 平和各般ノ企圖ハ向後亦協力シテ渝ルナシ 今ヤ  
聯盟ト手ヲ分チ 帝國ノ所信ニ是レ從フト雖 固ヨリ東亞ニ  
偏シテ 友邦ノ誼ヲ疎カニスルモノニアラス 愈信フ國際ニ  
篤クシ 大義ヲ宇内ニ顯揚スルハ 夙夜朕力念トスル所ナリ  
方今 列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ 帝國亦 非常ノ時艱ニ遭  
遇ス 是レ正ニ舉國振張ノ秋ナリ 爾臣民 克ク朕力意ヲ體  
文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ 衆庶各其ノ業務ニ淬勵シ  
奮フ所正ヲ履ミ 行フ所中ヲ執リ 協贊邁往以テ此ノ世局ニ  
處シ 進ミテ 皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ 普ク人類ノ福祉ニ貢

滿蒙振作スル 所以ノ洪議ニ非サルナシ 爾來趨向一定シテ  
效果大ニ著レ 以テ國家ノ興隆ヲ致セリ 朕即位以來 夙夜兢  
兢トシテ 常ニ紹述ヲ思ヒシニ 俄ニ災變ニ遭ヒテ憂悚交ミ  
至レリ 戰近 學術益開ケ 人智日ニ進ム 然レトモ浮  
華放縱ノ習漸ク萌シ 輕佻詭譎ノ風モ亦生ス 今ニ及ヒテ時  
弊ヲ革メスムハ 或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル 況ヤ今次  
ノ災禍甚タ大ニシテ 文化ノ紹復國力ノ振興ハ皆國民ノ精神  
ニ待ツヲヤ 是レ實ニ上下協裁 振作更張ノ時ナリ 振作更  
張ノ道ハ 他ナシ 先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ 其ノ實效ヲ舉ク  
ルニ在ルノミ 宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ 智德ノ竝進ヲ努メ  
綱紀ヲ肅正シ 風俗ヲ匡勵シ 浮華放縱ヲ斥ケテ 實實剛健ニ  
邁キ 輕佻詭譎ヲ矯メテ 醇厚中正ニ歸シ 人倫ヲ明ニシテ  
親和ヲ致シ 公德ヲ守リテ 秩序ヲ保チ責任ヲ重シ 節制ヲ  
尚ヒ 忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ 博愛共存ノ誼ヲ篤クシ 入りテ  
ハ恭儉勤儉 業ニ服シ 產ヲ治メ 出テテハ一己ノ利害ニ偏  
セスシテ カラ公益世務ニ竭シ 以テ國家ノ興隆ト 民族ノ  
安榮 社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ 朕ハ臣民ノ協翼ニ賴リテ  
彌國本ヲ固クシ 以テ大業ヲ恢弘セムコトヲ冀フ 爾臣民  
其レ之ヲ勉メヨ

(大正十二年十一月十日)



獻セムコトヲ期セヨ (昭和八年三月二十七日)

# 大日本帝國憲法

## 第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ
- 第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保

- 第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移動ノ自由ヲ有ス
- 第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ
- 第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナシ
- 第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコトナシ
- 第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サルコトナシ
- 第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルコトナシ
- 公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス
- 第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス
- 第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得
- 第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

- 第十條 天皇ハ行政各部ノ官政及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル
- 第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス
- 第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム
- 第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス
- 第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス
- 戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス
- 第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス
- 第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル
- 攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ
- 第二章 臣民權利義務
- 第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル
- 第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得
- 第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス
- 第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

## 第三章 帝國議會

- 第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス
- 第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス
- 第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス
- 第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス
- 第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス
- 第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得
- 第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス
- 第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得
- 但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス
- 第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス
- 第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合



ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルベシ  
第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ  
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第二十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ  
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラ

ルヘシ  
第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス  
第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得  
第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ提出スル請願書ヲ受クルコトヲ得  
裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス  
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム  
第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタルトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計  
第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内閣ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得  
第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内閣外患ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ヲクシテ逮捕セラルコトナシ  
第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問  
第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス  
第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ  
國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス  
第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス  
第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協贊ヲ要セス  
第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ需要ニ因リ政府ハ豫算年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得  
第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於



テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサル  
ルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ  
承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ  
至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確  
定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ  
會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

### 第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキ  
ハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ此ノ場合ニ於  
テ兩議院ハ各々其ノ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ  
議事ヲ開クコトヲ得ス  
出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決  
ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス  
皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス  
第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スル  
コトヲ得ス

第十二條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト  
明治元年ノ定制ニ從フ

### 第三章 成年立后立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス  
第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス  
第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ  
儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

### 第四章 敬稱

第十七條 天皇太后皇后皇后ノ敬稱ハ陛下トス  
第十八條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王親王妃内親王  
王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

### 第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク天皇久  
シキニ互ル故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ  
皇族會議及比稱密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

### 第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キテ保  
育ヲ掌ラシム

### 第七章 皇族

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラ  
ス此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ違由ノ效力ヲ有  
ス

藏出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又命令ハ總テ第六十七  
條ノ例ニ依ル (明治二十二年二月十一日)

## 皇室典範 (拔萃)

### 第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼  
承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子不在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子  
孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ  
例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ  
皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ

### 第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神靈ヲ承ク  
第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后 皇太后 皇后 皇太子  
皇太子妃 皇太孫 皇太孫妃 親王 親王妃 内親王  
王 王妃 女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇太孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親  
王トシ五世以下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキハ皇兄弟姉  
妹ノ王女ヲタル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス  
(明治二十二年二月十一日)

## 兵役法 (拔萃)

第一條 帝國國民タル男子ハ本法ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ服  
ス

第二條 兵役ハ之ヲ常備兵役 後備兵役 補充兵役及國民兵  
役ニ分ツ

常備兵役ハ之ヲ現役及豫備役ニ 補充兵役ハ之ヲ第一補充  
兵役及第二補充兵役ニ國民兵役ハ之ヲ第一國民兵役及第二  
國民兵役ニ分ツ

第三條 志願ニ依リ兵籍ニ編入セラルル者ノ兵役ニ關シテハ  
勅令ノ定ムル所ニ依ル

第四條 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵



役ニ服スルコトヲ得ス

第五條 現役ハ陸軍ニ在リテハ二年、海軍ニ在リテハ三年トシ現役兵トシテ徵集セラレタル者之ニ服ス現役兵ハ現役中ニ在リテハ在營セシム

第六條 豫備役ハ陸軍ニ在リテハ五年四月、海軍ニ在リテハ四年トシ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第七條 後備兵役ハ陸軍ニ在リテハ十年、海軍ニ在リテハ五年トシ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第八條 第一補充兵役ハ陸軍ニ在リテハ十二年四月、海軍ニ在リテハ一年トシ現役ニ適スル者ニシテ其ノ年所要ノ人員之ニ服ス

第九條 第二補充兵役ハ十二年四月トシ現役ニ適スル者ノ中現役又ハ第一補充兵役ニ徵集セラレサル者及海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス但シ海軍ノ第一補充兵役ヲ終リタル者ニ在リテハ十一年四月トス

第十條 第一國民兵役ハ後備兵役ヲ終リタル者及軍隊ニ於テ教育ヲ受ケタル補充兵ニシテ補充兵役ヲ終リタル者之ニ服ス第二國民兵役ハ戸籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ常備兵役、後備兵役、補充兵役及第一國民兵役ニ在ラサル年齢十七年ヨリ四十年迄ノ者之ニ服ス (昭和二年法律第四十七號)

前項議員ノ定數ハ伯爵十八人、子爵六十六人、男爵六十六人トス

第五條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勲任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

前項議員ノ數ハ百二十五人ヲ超過スヘカラス

第五條ノ二 滿三十歲以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勲任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關スル規則ハ別ニ勲令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 滿三十歲以上ノ男子ニシテ北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者百人ノ中ヨリ二人又ハ二百人ノ中ヨリ二人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勲任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關スル規則ハ別ニ勲令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ總數ハ六十六人以內トシ其ノ北海道各府縣ニ於ケル定數ハ通常選舉毎ニ人口ニ應ジ勲令ヲ以テ之ヲ指定ス

(明治二十二年二月十一日勲令第十一號)

### 衆議院議員選舉法 (拔萃)

第五條 帝國臣民タル男子ニシテ年齢二十五年以上ノ者ハ選

### 貴族院令 (拔萃)

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勲任セラレタル者

五 帝國學士院ノ互選ニ由リ勲任セラレタル者

六 北海道各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人又ハ二人ヲ互選シテ勲任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿三十歲ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿三十歲ニ達シ各其ノ同爵ノ選ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關スル規則ハ別ニ勲令ヲ以テ定ム

第五條 有ス帝國臣民タル男子ニシテ年齢三十年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第六條 左ニ掲グル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者及準禁治產者

二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者

三 貧困ニ因リ生活ノ爲公私ノ救助ヲ受ケ又ハ扶助ヲ受クル者

四 一定ノ住居ヲ有セサル者

五 六年ノ徵役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

六 刑法第二編第一章、第三章、第九章、第十六章乃至第二十二章、第二十五章又ハ第三十六章乃至第三十九章ニ掲グル罪ヲ犯シ六年未滿ノ徵役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル後其ノ刑期ノ二倍ニ相當スル期間ヲ經過スルニ至ル迄ノ者

七 但シ其ノ期間五年ヨリ短キトキハ五年トス

六 六年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ前號ニ掲グル罪以外ノ罪ヲ犯シ六年未滿ノ懲役ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第七條 華族ノ戸主ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下



士官兵ヲ除ク) 及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權ヲ有セス兵籍ニ編入セラレタル學生生徒(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク) 及志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレタル者亦同シ

第八條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス

第九條 在職ノ宮内官、判事、朝鮮總督府判事、臺灣總督府法院判官、關東廳法院判官、南洋廳判事、檢事、朝鮮總督府檢察、臺灣總督府法院檢察官、關東廳法院檢察官、南洋廳檢察、陸軍法務官、海軍法務官、行政裁判所長官、行政裁判所評定官、會計検査官、收税官吏及警察官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十條 官吏及待遇官吏ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外在職中議員ト相兼スルコトヲ得ス

- 一 國務大臣
- 二 内閣書記官長
- 三 法制局長官
- 四 各省政務次官
- 五 各省參事官
- 六 内閣總理大臣秘書官
- 七 各省秘書官

第十一條 北海道會議員及府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼スルコトヲ得ス (大正十四年法律第四十七號)

### 明治天皇御製

あさみどり澄みわたたりたる大空の  
廣きとおのが心ともかな  
さしのぼる朝日のごとくさわやかに  
もたまはしきは心なりけり  
子らは皆軍のにはいでてはて  
翁やひとり山田もるらむ  
靖國のやしろにいつくかがみこそ  
やまと心のひかりなりけり  
しきしまの大和心のををしさは  
ことあるときぞあらはれにける  
いかならむことある時もうつせみの  
人の心よゆたかならなむ  
人の世のたゞしき道をひらかなむ  
虎のすむてふ野べのはてまで  
國のためあだなす仇はくたぐとも  
いつくしむべき事な忘れそ  
ちよろづの仇にむかひてたわまぬぞ  
日本をのこの心なりける

### 日本帝國憲法

欽定憲法 一八八九年大日本帝國の建國の精神に即り帝國臣民の幸福なる發達のために天皇御自ら御下し遊ばされた憲法である。行政、司法、立法、統帥の分立した四つの権限は夫々天皇の大權事項に屬し、夫々の政治機關は各自天皇に對して責任を負ひ、且つ天皇の名において其の職務を執行するものと定められて居る。

### イギリス憲法

大憲章 一二一五年ジョン王の失政に苦しんだ英國臣民は反王聯合軍を組織し、國王軍をロンドンに破り、遂にジョン王をして大憲章に署名せしめた。此の大憲章が今日のイギリス憲法の基礎をなすものである。主權は國王に屬すが國王の權限は大に國民の代表たる議會に制限され議會は事實上國王の上位になつてゐる。

### アメリカ合衆國憲法

一七八九年制定され、合衆國の元首は大統領であり四年毎に選舉される。合衆國憲法は極端な三權分立主義を特色とし、即ち政府、大統領を元首とし、大統領は陸海軍の統帥權を有し關係を任命する。議會 立法權を有し、政府によつて解散される事がない。大審院 憲法を擁護する機關であつて議會を通過した法律と雖も憲法に違反する場合は大審院が其の無効を宣告する事が出来る。

目に見えぬ神にむかひてはぢざるは  
人の心のまことなりけり  
いさましくかちどきあげて沖つ浪  
かへりし船を見るぞうれしき  
照るにつけくもるにつけて思ふかな  
わが民草の上はいかにと  
國をおもふみに二つはなかりけり  
軍の場にたつもたたぬも  
千萬の民の力をあつめなば  
いかなる業も成らむと思ふ  
四方の海みなはらからと思ふ世に  
など波風のたちさわぐらむ  
おのが身にいたでおへるも知らずして  
進みもゆくかわが軍人  
世とともにかたりつたへよ國のため  
命をすてし人のいさをを  
さわがしき風につけても外國に  
いでて世渡る民をこそ思へ  
おのづから仇のころのなびくまで  
誠の道をふめや國民



思ふことつらぬかすしてやまぬこそ  
日本をこの心なりけり  
くろがねの的いし人もあるものを  
つらぬきとはせやまとだましひ  
古のふみ見るたびに思ふかな  
おのが治むる國はいかにと  
大空にそびえて見ゆるたかねにも  
のぼればのぼる道はありけり  
物學ぶ道に立つ子よおこたりに  
まされるあだはなしと知らなむ  
われもまたさらにみがかん曇りなき  
人の心をかがみにはして  
善しとも言はれざりけりにかへる  
水田に立てる麴を思へば  
とこしへに民安かれと祈るなる  
わが代を護れ伊勢の大天神  
今はとてまなびの道におこたるな  
ゆるしのふみを得たるわらははべ  
年々に思ひやれども山水を  
くみて遊ばむ夏なかりけり

とる櫓のこゝろ長くもこぎよせむ  
蘆間の小舟さはりありとも  
人もわれも道を守りてかはらずば  
この敷島の國はうごかじ  
よきをとりあしきをすてて外國に  
おとらぬ國となすよしもがな  
事しあらば火にも水にもいりなむと  
思ふがやがてやまとだましひ  
たひらかに世はなりぬとて敷島の  
大和心よ挽まざらなむ  
ゆくすゑはいかになるかと曉の  
ねざめく世をおもふかな  
ことなしとゆるぶ心はなかなかに  
仇あるよりもあやふかりけり  
國のため身のほどく盡さなむ  
心のすすむ道を學びて  
よの中にたかきいやしきほどく  
身をつくすこそつとめなりけれ  
なすことのなくて終らば世に長き  
よはひをたもつかひやなからむ

照憲皇太后御歌

たらちねのおやの教をまもる子は  
まなびの道もまどはざらなむ  
人知れず思ふ心のよしあしも  
照らし分くらん天地の神  
怠りてみがかざりせば光ある  
玉も光にひとしからまし  
持つ人の心によりてたからとも  
あだともなるは黄金なりけり  
朝毎にむかふ鏡のくもりなく  
あらまほしきは心なりけり  
みがかずば玉の光はいでざらむ  
人のこころもかくこそあるらし

忠君愛國の歌

思へただ空に一つの目の本に  
またたぐひなく生れこし身を  
海行かば水漬く屍山行かば草むす屍大君の  
邊にこそ死なめ長閑には死なじ (大伴家持)

今日よりは願ひなくて大君の  
魂の御桶と出でたつわれは  
山はさけ海はあせなむ世なりとも  
君にふた心われあらめやも  
何事のおはしますかは知らねども  
かたじけなきに涙ごぼるる  
君の爲世の爲何か情しからむ  
捨ててかひある命なりせば  
敷島の和心を人間はば  
朝日に匂ふ山櫻花  
人はよしからにつくとも我が杖は  
やまと島根にたてんとぞ思ふ  
斯くすればかくなるものと知りながら  
已むに已まれぬ大和魂  
今日もまた知られぬ露の生命もて  
千歳を照らす月を見るかな  
君が世を思ふ心の一すぢに  
わが身ありとは思はざりけり  
大君のためには何か惜しからん  
薩摩の海に身は沈むとも  
(大伴家持)  
(源實朝)  
(西行法師)  
(宗良親王)  
(本居宣長)  
(平田篤胤)  
(吉田松陰)  
(久坂玄瑞)  
(梅田雲漢)  
(僧月照)



# 歴史上有名な歌

八雲立つ出雲八重垣夫妻ごみに  
八重垣つくるその八重垣を  
高きやにのぼりて見れば煙たつ  
民のかまどはにぎはひにけり  
天の原ふりさけ見れば春日なる  
三笠の山に出でし月かも  
青丹よし奈良の都はさく花の  
匂ふが如く今盛なり  
勅なればいともししし露の  
宿はと問はばいかか答へむ  
東風吹かば香おこせよ梅の花  
あるじなしとて春な忘れそ  
七重八重花は咲けども山吹の  
みの一つだになきぞかなしき  
心にもあらで浮世にながらへば  
こひしかるべき夜半の月かな  
この世をばわが世とぞ思ふ望月の  
かけたる事のなしと思へば

(素戔鳴尊)  
(仁德天皇)  
(安倍仲麻呂)  
(小野老)  
(紀内侍)  
(菅原道真)  
(源兼明)  
(三條天皇)  
(藤原道長)

古の奈良の都の八重垣  
けふ九重に匂ひぬるかな  
都をば霞とともに出でしかど  
秋風ぞ吹く白河の關  
大江山生野の道の遠ければ  
まだふみも見ず天の橋立  
吹く風を勿來の關と思へども  
道もせにちる山ざくら花  
年をへし絲の亂の苦しさに  
衣のたては綻びにけり  
わが袖は汐干に見えぬ沖の石の  
人こそ知らねかほくまもなし  
今ぞ知る御裳川の流れには  
波の底にも都ありとは  
賤やしづ賤のをだまきりかへし  
昔を今になすよしもがな  
さざ波やしがの都はあれにしを  
昔ながらの山ざくらかな  
時により過れば民の歎きなり  
八大龍王雨止め給へ

(伊勢大輔)  
(能因法師)  
(小式部内侍)  
(源義家)  
(眞任)  
(義家)  
(二條院讀岐)  
(二位尼)  
(靜)  
(平忠度)  
(源實朝)

われこそは新島守と隠岐の海の  
あらしなみ風ころして吹け  
こゝにても雲井の櫻咲きにけり  
唯かりそめの宿と思ふに  
古もかかるためしをきく川の  
同じ流れに身をや沈めん  
さしてゆく笠置の山をいでしより  
あめが下にはかくれがもなし  
いかにせん頼むかげとて立ち寄れば  
なほ袖ぬらす雨のした露  
鳥の音に驚かされて曉の  
ねがめ静かに世を思ふかな  
かへらじとかねて思へば梓弓  
なき敷に入る名をぞとどむる  
遠くなり近くなるみの濱千鳥  
なく音に潮の満干をぞ知る  
治めしるわが世如何にと波風の  
八十島かけて行く心かな  
ふみわけよ大和にはあらぬ唐鳥の  
あとを見るのみ人の道かは

(後鳥羽上皇)  
(後醍醐天皇)  
(藤原俊基)  
(後醍醐天皇)  
(藤原藤房)  
(後村上天皇)  
(楠正行)  
(太田道灌)  
(後柏原天皇)  
(荷田春滿)

數鳥の大和錦に織りてこそ  
唐紅の色もはえあれ  
太平の眼をさます上喜撰  
たつた四杯で夜もねられず  
親はなし妻なし子なし版木なし  
金もなければ死にたくもなし

名歌

ひむがしの野に炎の立つ見えて  
かへり見すれば月傾ぶきぬ  
田子の浦ゆうち出て見れば真白くぞ  
不盡の高嶺に雪はふりける  
和歌の浦に潮満ちくれば渦をなみ  
華べをさして田鶴鳴きわたる  
銀も黄金も玉も何せむに  
まされる寶子に如かめやも  
うらうらに照れる春日に雲雀あがり  
心かなしもひとりし思へば  
時知らぬ山は富士のねいつとてか  
かのこまだらに雪のふるらむ

(光格天皇)  
(讀人しらす)  
(林子平)  
(柿本人麿)  
(山部赤人)  
(山部赤人)  
(山上憶良)  
(大伴家持)  
(在原業平)







菜の花や月は東に日は西に  
五月雨や大河を前に家二軒  
宿かせと刀投げ出す吹雪かな  
さみだれや成夜ひそかに松の月  
五六本寄りてしだる柳かな  
ほととぎす鳴くや雲雀の十文字  
しぐれけり走り入りけり晴れにけり  
長々と川一筋や雪の原  
旅に病んで夢は枯野をわけめぐる  
わが子なら供にはつれじ夜の雪  
夕涼よくぞ男に生れける  
やれ打つな鰐が手をする足をする  
蟻の道雲の峰よりつづきけん  
ともかくもあなたまかせの年の暮  
山を裂く力も折れて松の雪  
沙干より今かへりたる隣りかな  
赤蜻蛉眞波に雲もなかりけり  
大君の生れましし日や菊の花  
柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺  
浮草や今日はあちらの岸に咲く

乙 同 同 同 子 子 同 同 一 共 と 西 凡 惟 同 去 墓 同 同 蕪  
由 規 葉 茶 角 女 蕪 兆 然 來 太 村

木がらしの果はありけり瀬の音  
和漢名詩  
偶 成 朱 熹(晦庵)  
少年易老學難成。一寸光陰不可輕。未覺池塘春草夢。階前梧葉已秋聲。  
少年老易學難成。一寸光陰輕可。階前梧葉已秋聲。未覺池塘春草夢。  
九月十日  
去年今夜待清涼。秋思詩篇獨斷腸。恩賜御衣今在此。捧持每日拜餘香。  
去年の今夜清涼に待す。秋思の詩篇獨り腸を斷つ。恩賜の御衣は今此に在り。捧持して毎日餘香を拜す。  
偶 感 西郷隆盛(南洲)  
幾歷辛酸志始堅。丈夫玉碎恥觀全。我家道法人知否。不爲兒孫買美田。  
幾たびか辛酸を歷て志始めて堅し。丈夫は玉碎するも概全を恥づ。我が家の道法人知るや否や。兒孫の爲めに美田を買はず。  
皇統歌 大窪行(詩佛)

天地開闢來。大統長相傳。天子無姓氏。正知姓是天。天皇如日月。萬古無變遷。誰道周道盛。劣能八百年。爲胤爲劉後。至今已二千。其間幾姓氏。相代互忽焉。如何日出國。相傳自綿綿。  
天地開闢より來。大統長に相傳ふ。天子に姓氏無し。正に知る姓は是れ天なるを。天皇は日月の如く。萬古變遷無し。誰か道ふ周道盛なりと。劣に能く八百年。胤たり劉たる後。今に至るまで已に二千。其の間幾姓氏。相代りて互に忽焉たり。如何日出の國。相傳へて自ら綿綿たるに。

體 賴 義(山陽)

十有三春秋。逝者已如水。天地無始終。人生有生死。安得賴古人。千載列青史。  
十有三春秋。逝く者は已に水の如し。天地始終無く人生生死有り。安んず古人に賴して。千載青史に列するを得ん。

春 望 杜 甫

國破山河在。城春草木深。感時花濺淚。恨別鳥驚心。烽火連三月。家書抵萬金。白頭搔更

短。渾欲不勝簪。  
國破れて山河在り。城春にして草木深し。時に感じて花にも涙を濺ぎ。別を恨んで鳥に心を驚かす。烽火三月に連なり。家書萬金に抵る。白頭搔いて更に短かし。渾て簪に勝へざらんと欲す。  
春 曉 孟 浩 然  
春眠不覺曉。處處聞啼鳥。夜來風雨聲。花落知多少。  
春眠曉を覺えず。處處啼鳥を聞く。夜來風雨の聲。花落つること知んぬ多少ぞ。

春 蘇 軾

春宵一刻直千金。花有清香月有陰。歌管樓臺聲細細。鞦韆院落夜沈沈。  
春宵一刻直千金。花に清香あり月に陰あり。歌管樓臺聲細細。鞦韆院落夜沈沈。  
富士山 石川重之(丈山)  
仙客來遊雲外嶺。神龍棲老洞中淵。雪如絨素。煙如柄。白扇倒懸東海天。  
仙客來り遊ぶ雲外の嶺。神龍棲み老る洞中の淵。雪は絨素の如く煙は柄の如し。白扇倒に懸る東海の天。

仙客來遊雲外嶺。神龍棲老洞中淵。雪如絨素。煙如柄。白扇倒懸東海天。



白虎隊

佐原盛純

少年團結白虎隊。國歩艱難成保護。大軍突如風雨來。殺氣慘澹白日暗。鼓喧聞百雷震。巨砲連發摧屍堆。殊死突陣怒髮立。縱橫奮擊一面開。時不利兮戰且退。身棄瘡痍口含藥。腹背皆敵將何行。杖劍開行擊丘岳。南望蜀城砲煙騰。痛哭飲淚且彷徨。宗社亡兮我事畢。十有六人屠腹傷。俯仰此十有七年。蓋之文之世開傳。忠烈赫赫如前日。壓倒田橫下賢。少年團結白虎隊。國歩艱難成保護。大軍突如風雨來。殺氣慘澹白日暗。鼓喧聞百雷震。巨砲連發摧屍堆。殊死突陣怒髮立。縱橫奮擊一面開。時利あらず戦ひ且つ退く。身に瘡痍をまみ口に薬を含む。腹背皆敵將に何くに行かん。剣に杖つて開行丘岳を撃つ。南望蜀城を望めば砲煙騰る。痛哭涙を飲みて且つ彷徨す。宗社亡び我が事畢る。十有六人屠腹して傷る。俯仰此に十有七年。之れを蓋にし之を文にし世間に傳ふ。忠烈赫赫前日の如し。壓倒す田橫麾下の賢。

無題

村上剛(佛山)

落花粉紛雪紛紛。踏雪離花伏兵起。白晝斬取大臣頭。噫嘻時事可知耳。落花粉紛雪紛紛。或恐天下多事兆於此。落花粉紛雪紛紛。雪を踏み花を蹴つて伏兵起る。白晝斬首す大臣の頭。噫嘻時事知るべき耳。落花粉紛雪紛紛。或は恐る天下の多事此に兆するを。九月十三夜 上杉謙信 霜滿草黃秋氣清。數行過雁月三更。越山併得龍州景。遮莫家鄉憶遠征。霜は軍營に滿ちて秋氣清し。數行の過雁月三更。越山併せ得たり龍州の景。遮莫れ家郷の遠征を憶ふを。金州城作 乃木希典 山川草木轉荒涼。十里風塵新戰場。征馬不前人不語。金州城外立斜陽。山川草木轉た荒涼。十里風は塵し新戰場。征馬は前まず人は語らず。金州城外斜陽に立つ。本誌等 組 裏

本能寺。溝深幾尺。吾就大事在今夕。葵棕在手併交食。四顧梅雨天如墨。老阪西去備中道。潘羅東指天猶早。吾敵正在本能寺。敵在備中汝能備。

本能寺。溝深さ幾尺。吾大事を就す今夕に在り。葵棕を手併に在り茶を併せて食ふ。四顧の梅雨天墨の如し。老阪西に去れば備中の道。鞭を掲げて東に指せば天猶早し。吾が敵は正に本能寺に在り。敵は備中に在り汝能く備。

越中懷古

李白

越王勾踐破吳歸。義士還家盡錦衣。宮女如花滿春殿。唯今惟有鷓鴣飛。越王勾踐吳を破つて歸る。義士家に還つて盡く錦衣す。宮女花の如く春殿に滿ちしが。只今惟鷓鴣の飛ぶあり。

題不離庵觀山圖

組 裏

樓臺蕭蕭夜過河。曉見千兵擁大牙。遺恨十年磨一劍。流星光底逸長蛇。

題壁

釋月性(清狂)

男兒立志出鄉關。學若無成死不還。埋骨豈惟墳墓地。人間到處有青山。男兒志を立てて郷關を出づ。學若し成る無くんば死すとも還らず。骨を埋む豈惟墳墓の地のみならんや。人間到處に青山あり。

樓林莊隱居示諸生

廣瀨建(淡窗)

休道他鄉多苦辛。同胞有友自相親。柴扉曉出霜如雪。君汲川流我拾薪。道ふことを休めよ他郷苦辛多し。同胞友あり自ら相親む。柴扉曉に出づれば霜雪の如し。君は川流を汲め我は薪を拾はん。

海南行

細川頼之

人生五十愧無功。花木春過夏已中。滿堂蒼蠅



掃難去。起尋禪榻臥清風。  
人生五十功なきを愧づ。花木春過ぎて夏已に中ず。  
満室の蒼蠅掃へども去り難し。起つて禪榻を尋ねて  
清風に臥す。

題長安主人壁

張 謂

世人結交須黃金。黃金不多交不深。縱令然諾  
誓相許。終是悠悠行路心。

世人交を結ぶに黃金を須ふ。黃金多からざれば交深  
からず。縱令然諾して暫く相許すとも。終に是れ悠  
悠たる行路の心。

黃 交 行

杜 甫

翻手作雲覆手雨。紛紛輕薄何須數。君不見管  
鮒貧時交。此道今人棄如土。

手を翻せば雲と作り手を覆せば雨。紛紛たる輕薄何  
ぞ數ふるを須ひん。君見すや管鮒貧時の交。此の道  
今人棄てて土の如し。

望 廬 山 瀑 布

李 白

日照香爐生紫煙。遙看瀑布挂長川。飛流直下

三千尺。疑是銀河落九天。  
日は香爐を照らして紫煙を生ず。遙に看る瀑布の長  
川を挂くるを。飛流直下三千尺。疑ふらくは是れ銀  
河の九天より落つるかと。

山 行

杜 牧

遠上寒山石徑斜。白雲生處有人家。停車坐愛  
楓林晚。霜葉紅於二月花。

遠く寒山に上れば石徑斜なり。白雲生する處人家有  
り。車を停めて坐に愛す楓林の晩。霜葉は二月の花  
よりも紅なり。

芳 野

藤井 啓(竹外)

古陵松柏吼天鵝。山寺尋春春寂寥。眉雪老僧  
時級。帶落花深處說南朝。

古陵の松柏天鵝に吼ゆ。山寺春を尋ねれば春寂寥  
眉雪の老僧時に帯を綴め。落花深き處南朝を説く

長 城

汪 遵

秦築長城比鐵牢。蕃戎不敢逼臨洮。焉知萬里

連雲勢。不及幾階三尺高。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

田氏女玉簪簪常盤指環圖

栗川 星 巖

雪灑登樓風捲袂。

呱呱乳乳若爲情。他年鐵樹峰頭驗。

叱咤三軍是此聲。

雪は笠檐に灑きて風は袂を捲く。呱呱乳を免むるは  
若爲の情ぞ。他年鐵樹峰頭の驗。三軍を叱咤する  
は是此の聲。

雪 古

賴 襄(山陽)

筑海颶氣連天黑。蔽海而來者何賊。蒙古來。來自北。  
東西次第期吞食。嚇得趙家老寡婦。持此來擬男兒國。  
相模太郎膽如蟹。防海將士人各力。蒙古來。吾不怖。  
吾怖關東令如山。直前斬賊不許顧。倒吾橋。登虜廬。  
擒虜將。吾軍賊。可恨東風一翼附大濤。不使虜血盡膏  
日本刀。

渭城朝雨。輕塵。客舍青青柳色新。勸君更盡一杯酒。  
西出陽關無故人。  
渭城の朝雨輕塵を寫す。客舍青青柳色新なり。君に  
勸む更に一杯の酒を盡せよ。西のかた陽關を出づれば  
故人なからん。

渭 城 朝 雨

王 維

渭城朝雨。輕塵。客舍青青柳色新。勸君更盡一杯酒。  
西出陽關無故人。

渭城の朝雨輕塵を寫す。客舍青青柳色新なり。君に  
勸む更に一杯の酒を盡せよ。西のかた陽關を出づれば  
故人なからん。

渭 城 朝 雨

王 維

渭城朝雨。輕塵。客舍青青柳色新。勸君更盡一杯酒。  
西出陽關無故人。

渭城の朝雨輕塵を寫す。客舍青青柳色新なり。君に  
勸む更に一杯の酒を盡せよ。西のかた陽關を出づれば  
故人なからん。

渭 城 朝 雨

王 維

秦築長城比鐵牢。蕃戎不敢逼臨洮。焉知萬里

連雲勢。不及幾階三尺高。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

秦長城を築きて鐵の牢さに比す。蕃戎敢て臨洮に逼  
らす。焉ぞ知らん萬里連雲の勢。及ばず幾階三尺の  
高きに。

訣 別

梅田 雲 漢

妻臥病牀兒泣飢。此心誓擬拂戎夷。今朝死別  
兼生別。唯有皇天后土知。



イギリス領	1276	領	
リアカメ		諸南	

イギリス領	1276	領	
リアカメ		諸南	



2

二

ツ

國ツ

100

100

イギリス領	1276	領	
リアカメ		諸南	

偶成 伊藤博文

伊藤博文

豪氣堂堂極大空。日東誰使帝威隆。高樓傾盡三杯酒。  
天下英雄在眼中。

千里鶯啼いて緑紅に映す。水村山郭酒旗の風。南朝  
の四百八十寺、多少の樓臺煙雨の中。

賴  
襄

月落烏啼霜滿天。江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺。夜半鐘聲到客船。

月落ち鳥啼いて霜天に滿つ。江風の漁火愁眠に對す。  
姑蘇城外の寒山寺。夜半の鐘聲客船に到る。

李  
白

朝辭白帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住。輕舟已過萬重山。

朝に辭す白帝彩雲の間。千里の江陵一日に還る。兩

雲耶山耶契耶越。水天髣髴青一髮。萬里泊舟天草洋。  
煙橫蓬窗日漸沒。瞥見大魚波間跳。太白當船明似月。  
雲か山か吳か越か。水天髣髴青一髮。萬里舟を泊す。  
天草の洋。煙は蓬窓に横つて日漸く沒す。瞥見す大  
魚の波間に跳るを。太白船に當つて明月に似たり。



[illegible]









46 謙孝	47 淳仁	48 神德	49 仁光	50 桓	51 平城	52 嵯峨	53 淳和	54 仁明	55 文德	56 清和	57 陽成	58 光孝	59 宇	60 醍醐
天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇
一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九
陸奥より始めて黄金を献ず○僧行基振す	諸國に常平倉を設く	和氣清藤公遠藤の野心を挫く	阿部仲麻呂に就す	天皇御を行○古備具備具す	平安京遷都	坂上田村麿蝦夷を平く	最澄唐より歸朝し天台宗を傳ふ	空海唐より歸朝し真言宗を傳ふ○盤梯山破鏡し猪苗代湖を生ず	藤原多朝勳學院を造る	藤原所を譲○藤子の亂	小野篁遷す	藤原賴房攝政となる	在修業平政す	巨勢金岡御所の障子に持人の像を畫く
七四九	七五九	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二
安藤山遷く	李白死す	杜南死す	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位



45 武	46 正元	47 明	48 元	49 武	50 天武	51 天智	52 天武	53 天武	54 天武	55 天武	56 天武	57 天武	58 天武	59 天武	60 天武
天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇	天皇
一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九	一〇〇九
陸奥より始めて黄金を献ず○僧行基振す	諸國に常平倉を設く	和氣清藤公遠藤の野心を挫く	阿部仲麻呂に就す	天皇御を行○古備具備具す	平安京遷都	坂上田村麿蝦夷を平く	最澄唐より歸朝し天台宗を傳ふ	空海唐より歸朝し真言宗を傳ふ○盤梯山破鏡し猪苗代湖を生ず	藤原多朝勳學院を造る	藤原所を譲○藤子の亂	小野篁遷す	藤原賴房攝政となる	在修業平政す	巨勢金岡御所の障子に持人の像を畫く	大宰府に大宰府に遷す
七四九	七五九	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二	七六二
安藤山遷く	李白死す	杜南死す	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位	查理大帝即位





ジンギスカン

曾我兄弟の仇討

源頼朝  
鎌府を開く

那須與一扇の  
まを射る  
(屋島の戦)

皇紀	天皇	年	事	西暦	重要なる外史事項
一七四六	河	72	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八七	第一回十字軍出發
一七四七	河	73	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八八	フランシス王ルイ六世即位(一一三七)
一七四八	河	74	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八九	北条時義の没
一七四九	河	75	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九〇	第二回十字軍出發(一一四九)
一七五〇	河	76	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九一	モスコの建設
一七五一	河	77	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九二	パリのノートルダム寺院建立
一七五二	河	78	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九三	埃及王サラデン、シリアを征服す
一七五三	河	79	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九四	第三回十字軍の大學章句或問成る
一七五四	河	80	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九五	イギリス、ジョン王即位
一七五五	河	81	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九六	第四回十字軍(一一二〇四)
一七五六	河	82	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九七	東ローマ帝国の滅亡
一七五七	河	83	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九八	蒙古の大襲撃、成吉思汗を稱す



後三年の役

十字軍

皇紀	天皇	年	事	西暦	重要なる外史事項
一五七九	河	72	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八七	第一回十字軍出發
一五八〇	河	73	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八八	フランシス王ルイ六世即位(一一三七)
一五八一	河	74	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇八九	北条時義の没
一五八二	河	75	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九〇	第二回十字軍出發(一一四九)
一五八三	河	76	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九一	モスコの建設
一五八四	河	77	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九二	パリのノートルダム寺院建立
一五八五	河	78	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九三	埃及王サラデン、シリアを征服す
一五八六	河	79	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九四	第三回十字軍の大學章句或問成る
一五八七	河	80	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九五	イギリス、ジョン王即位
一五八八	河	81	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九六	第四回十字軍(一一二〇四)
一五八九	河	82	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九七	東ローマ帝国の滅亡
一五九〇	河	83	源頼朝の著書「源氏物語」の完成	一〇九八	蒙古の大襲撃、成吉思汗を稱す









尾	108 水	後	成	107 陽	後	町	106 親	正
寛永 元 五	元禄 六 六	元禄 五 五	元禄 四 四	元禄 三 三	元禄 二 二	元禄 一 一	元禄 一 一	元禄 一 一
渡田瀬兵衛春海に至りオランダ人を懲らす	家光將軍となる	支倉常長薩摩に使用して歸る	儒學者藤原樞齋歿す	加藤清正卒す○淺野長政卒す	大阪冬の陣 (豊臣氏滅亡)	家康薨す	島津家久琉球を占領	秀吉明使を遣ふ
一五七六	一五七五	一五七四	一五七三	一五七二	一五七一	一五七〇	一五六九	一五六八
オランダが獨立宣言	コタタカ兵をベリヤ遠征	清の太祖努爾哈齊兵を起す	サイウロウグロリ、北カラライナに至る	フランスの内亂、三ヘンリーの戦	英國スペインの無敵艦隊を撃滅	オランダ人ヤセノ順徳院を襲撃	明、朝鮮を救ふ	フランスヘンリー四世即位



町	106 親	正	良	105 奈	後	104 柏	103 門	皇
天正 三	元禄 一 一	元禄 二 二	元禄 三 三	元禄 四 四	元禄 五 五	元禄 六 六	元禄 七 七	元禄 八 八
長祿の戦	義昭退はれ足利氏亡ぶ	三ヶ原の戦	姉川の戦○信長幕府を修理	信長將軍義昭を奉じて入京	河越の戦 (氏康、上杉憲政を破る)	スベイン人ザビエルキリスト教を傳ふ	毛利元就嚴島に暗殺を滅す (嚴島の戦)	桶狭間の戦
一五七五	一五七四	一五七三	一五七二	一五七一	一五七〇	一五六九	一五六八	一五六七
王陽明死す	コペルニクス、太陽中心説及び地動説を稱ふ	アウグスブルグの宗教會議	ヘンリー八世英國教會の首長となる	英國統一令の發布	アウグスブルグの宗教和約	エリザベス女皇即位す (一六〇三)	カルヴィン死す○シエクスピア生る	スベイン人フィリピンを占領

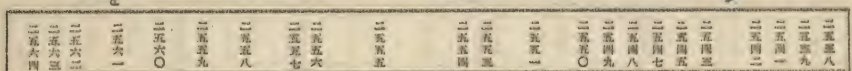




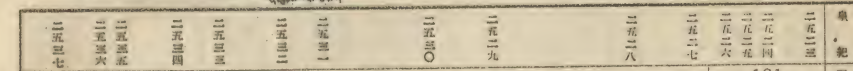








17

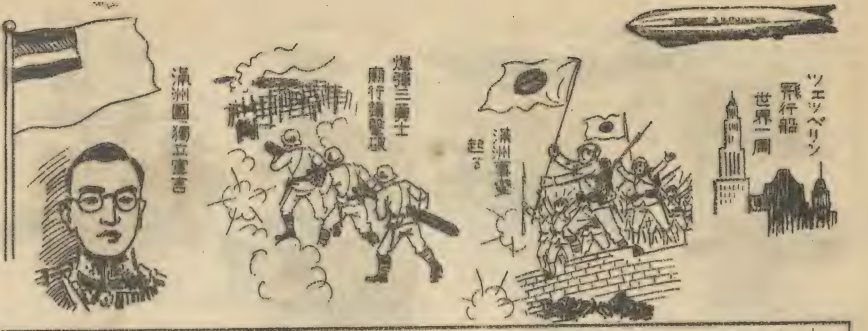


— 170 —









皇紀	天	年	月	日	事
二五九三	上	今	八	一	一月皇軍山陰占領○二月永原入城
二五九三	上	今	九	二	三月二十七日關東聯軍退却の大詔發せらる
二五九三	上	今	十	三	四月旅順要港部新設
二五九三	上	今	十一	四	六月世界經濟會議ロンドンに開催さる日本
二五九三	上	今	十二	五	○石井深井剛金機持派
二五九三	上	今	一	六	丹那トネル貫通
二五九三	上	今	二	七	七月關東軍司令官武蔵元帥去し参謀長
二五九三	上	今	三	八	將任さる
二五九三	上	今	四	九	八月帝都防空演習行はる
二五九三	上	今	五	一〇	九月日印會商シムラに開かる
二五九三	上	今	六	一二	十二月二十三日皇太子殿下明仁親王御降臨
二五九三	上	今	七	一三	三月北海道南端の大火○五月秩父宮康徳皇
二五九三	上	今	八	一四	帝即位慶祝の爲め滿洲帝國御訪問
二五九三	上	今	九	一五	五月三十日東郷元帥薨去○六月日蘭會商
二五九三	上	今	一〇	一六	パツアに開かる○七月露露内閣辭職、岡
二五九三	上	今	一一	一七	田啓介に代る
二五九三	上	今	一二	一八	九月二十一日關西地方に大暴風雨死傷者多
二五九三	上	今	一	一九	數○十二月ワシントン條約(五・五・三海
二五九三	上	今	二	二〇	軍制限)廢棄通告
二五九三	上	今	三	二一	總司令大將辭し南次郎大將關東軍司令官兼全
二五九三	上	今	四	二二	權大使に任ぜらる
二五九三	上	今	五	二三	二月坪内逍遙博士逝去
二五九三	上	今	六	二四	三月北滿鐵道讓渡協定調印
二五九三	上	今	七	二五	四月滿洲帝國康徳皇帝御祭朝
二五九三	上	今	八	二六	内閣會議を設く
二五九三	上	今	九	二七	九月林銑相辭し川島義之代る
二五九三	上	今	一〇	二八	遙相床次竹二郎逝去し翌月主介代る
二五九三	上	今	一一	二九	十一月一日國勢調査施行
二五九三	上	今	一二	三〇	十一月二十八日 第二王子義宮正仁親王
二五九三	上	今	一	三一	御降臨
二五九三	上	今	二	三二	十二月 ロンドン海軍軍縮會議開かる
二五九三	上	今	三	三三	我が國より永野水井兩全權派遣

皇紀	天	年	月	日	事
二五九一	上	今	五	一	五月英國艦チゴロスル艦下乗朝○六月拓
二五九一	上	今	六	二	務省設置○七月漢口難車内閣成立○十月皇
二五九一	上	今	七	三	大神宮遷御○十月金解衆
二五九一	上	今	八	四	此年東京關國間旅客飛行開始
二五九一	上	今	九	五	一月ロンドン軍縮會議開催各國より若槻
二五九一	上	今	一〇	六	次郎、財政部全權出席
二五九一	上	今	一一	七	會議院解散○二月高松宮御成婚
二五九一	上	今	一二	八	四月高松宮御外遊(翌六月御歸朝)
二五九一	上	今	一	九	十一月漢口省相組織さる○露社事件
二五九一	上	今	二	一〇	三月南京漢口難車事件解決○四月シヤム
二五九一	上	今	三	一一	王兩陛下來朝○若槻次郎内閣組織○七月
二五九一	上	今	四	一二	萬貫山事件
二五九一	上	今	五	一三	八月村岡大尉一行處難事件全案○九
二五九一	上	今	六	一四	月清水トネル開通
二五九一	上	今	七	一五	九月十八日復元正親王親王の薨御○吉林入城
二五九一	上	今	八	一六	建洲洲事起る○南嶺の激戦○吉林入城
二五九一	上	今	九	一七	十月滿洲事起る○十一月嫩江の激戦○實業界
二五九一	上	今	一〇	一八	の功勞者澤澤一連○チハル入城
二五九一	上	今	一一	一九	十二月大連城内閣成立○金融出禁止
二五九一	上	今	一二	二〇	一月滿洲入城○九月古賀艦隊襲撃○機出
二五九一	上	今	一	二一	門不敵事件○二十八日上海事件起る
二五九一	上	今	二	二二	二月上海海軍攻撃○廿二日爆彈三勇士上海
二五九一	上	今	三	二三	行鐵壁
二五九一	上	今	四	二四	三月一日林聯隊長戦死○廿八日空閑少佐戦
二五九一	上	今	五	二五	場跡に自決す
二五九一	上	今	六	二六	五月上海停戦協定成立○五一五事件大獲
二五九一	上	今	七	二七	相組織さる○露露實内閣組織
二五九一	上	今	八	二八	七月第十回萬國オリムピック大會ロスマン
二五九一	上	今	九	二九	ザルスに開く
二五九一	上	今	一〇	三〇	八月武蔵大將駐滿全權大使に任ぜらる
二五九一	上	今	一一	三一	九月十五日滿洲國憲法
二五九一	上	今	一二	三二	十月一日大東京市成る (人口五百三十萬、
二五九一	上	今	一	三三	世界第二位)
二五九一	上	今	二	三四	リットン報告書發表さる
二五九一	上	今	三	三五	十二月義軍安頓突發滿洲里入城
二五九一	上	今	四	三六	滿洲國に帝國大使館開設



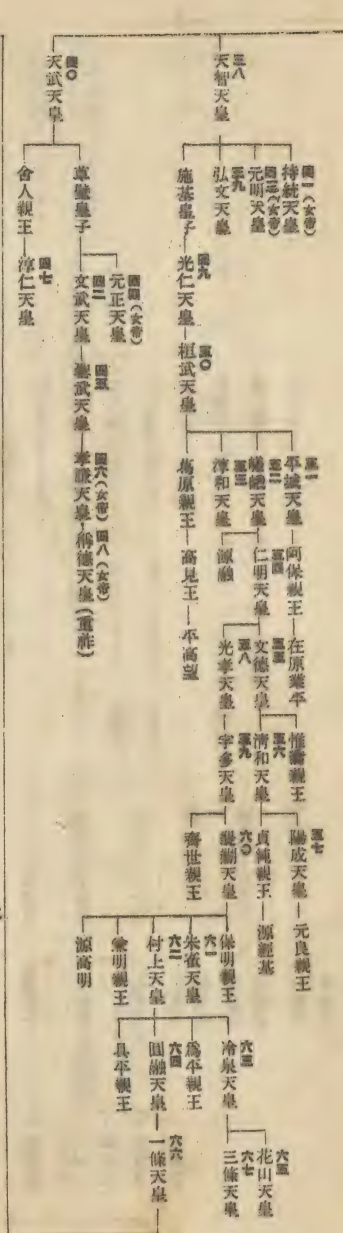
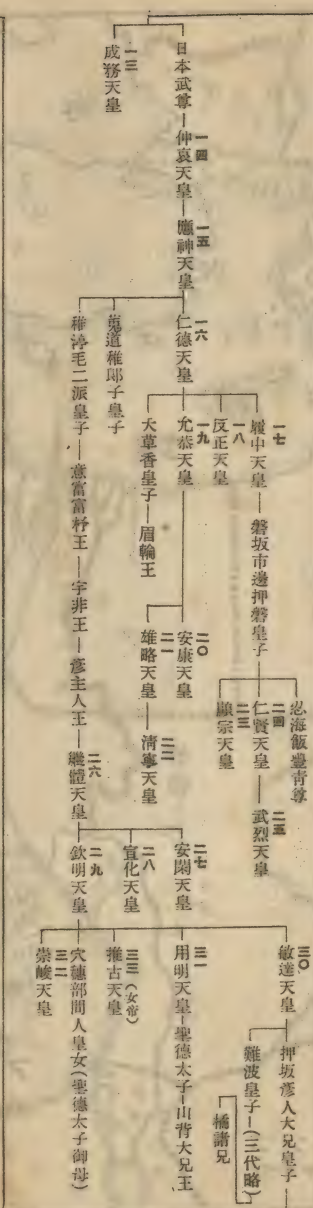


皇紀 二五九五	天皇 昭和十	124	上	今
重要なる 國史事項	西曆 一九三五	九月 ケートソン 大統領に當選す 十月 伊太利、エチオピア開戦 十二月 ロンドン海軍縮會開かる		重要はる 外國史事項



東京帝國大學史料編纂所編  
讀史備考による

東京帝國大學史料編纂所編  
讀史備考による

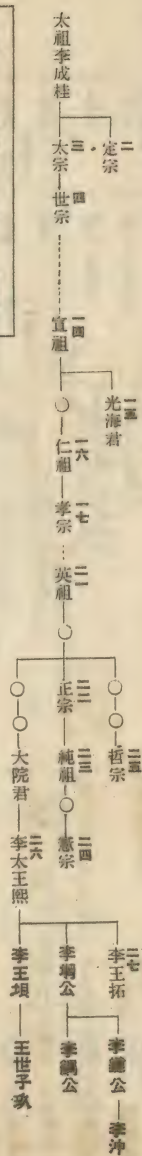




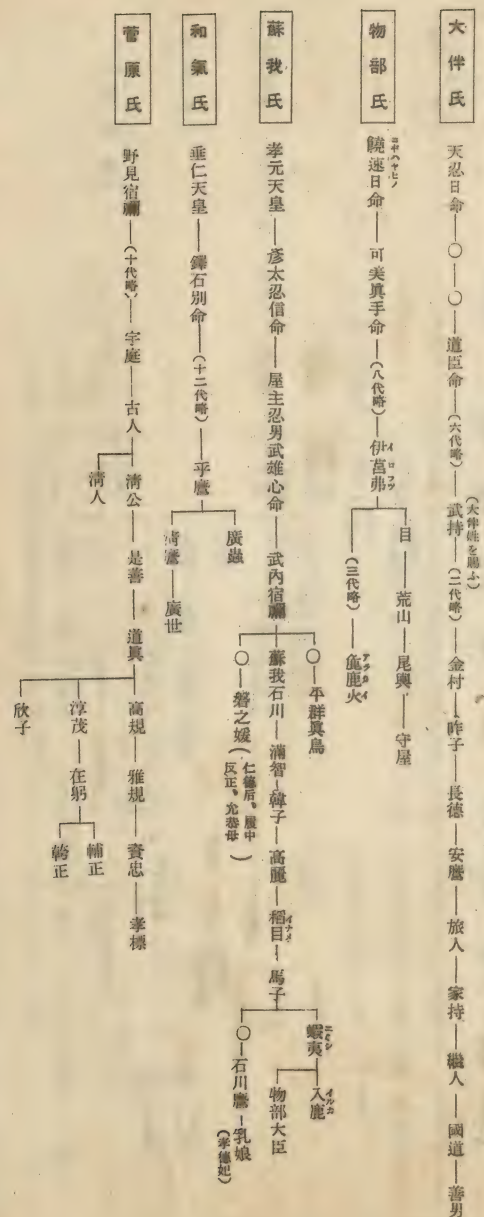
宮家御系圖



李王家御系圖

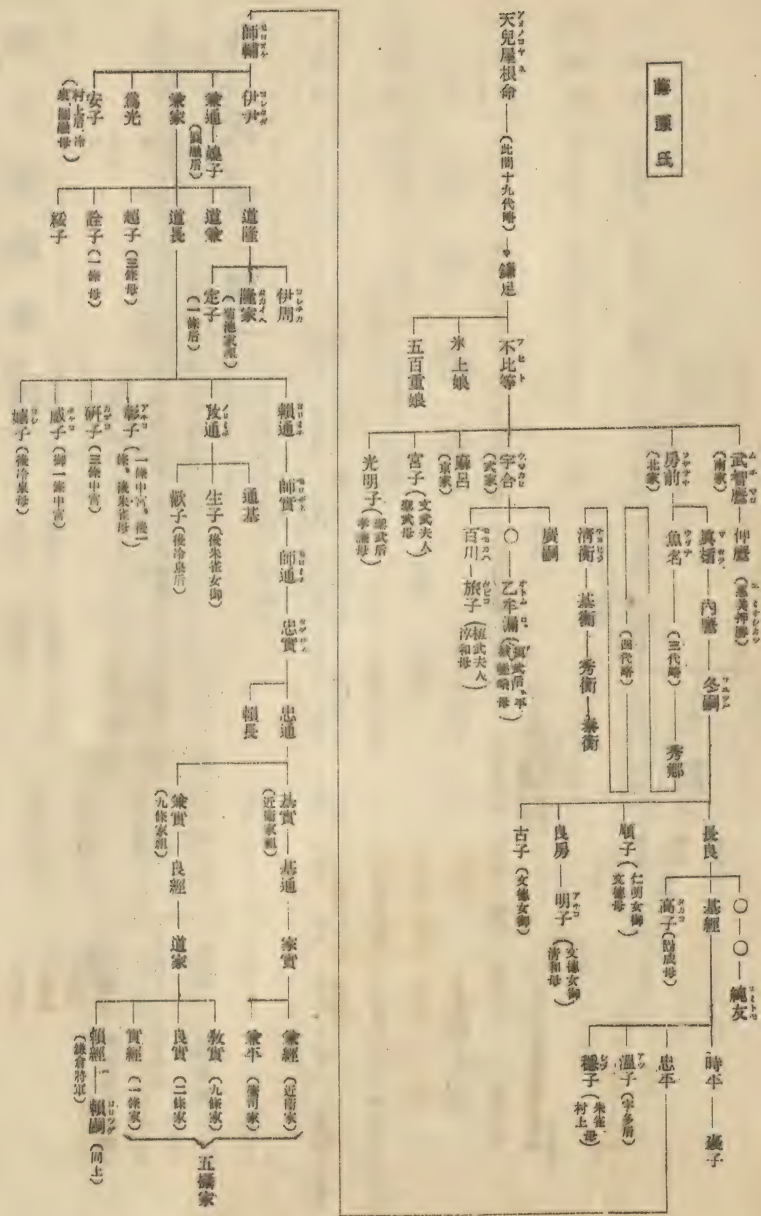


各氏系圖

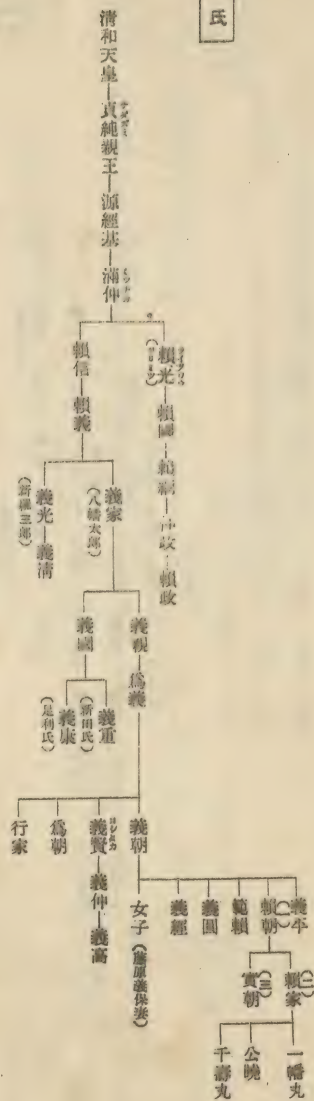




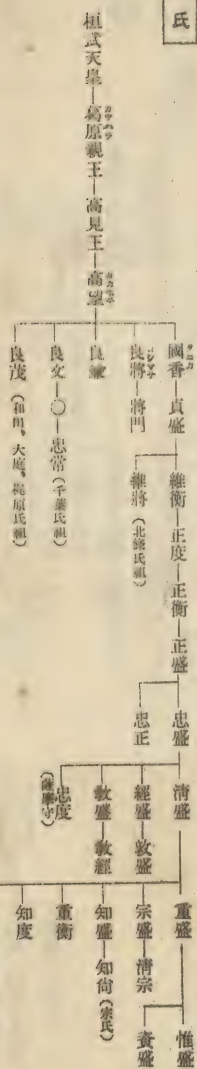
藤原氏



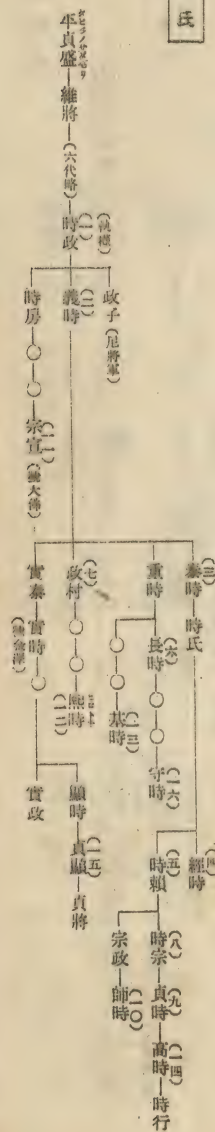
源氏



平氏



北條氏









# 御歷代皇居及御陵

御歷代	帝號	皇	居	陵	名	陵所在地	御歷代	帝號	皇	居	陵	名	陵所在地	
一	神武	橿原宮	畝傍山東北陵	奈良縣畝傍町	一七	履中	稚櫻宮	百舌鳥耳原南陵	大阪府神石村	二	安寧	萬城高丘宮	桃花鳥田丘上陵	奈良縣畝傍町
二	綏靖	萬城高丘宮	畝傍山西南御陰	奈良縣畝傍町	一八	反正	丹比柴離宮	百舌鳥耳原北陵	堺市	三	安寧	片鹽浮穴宮	井上陵	奈良縣畝傍町
三	安寧	片鹽浮穴宮	畝傍山南麓沙溪上陵	奈良縣畝傍町	一九	允恭	遠飛鳥宮	惠我長野北陵	大阪府道明寺村	四	懿德	輕曲峽宮	掖上博多山上陵	奈良縣大正村
四	懿德	輕曲峽宮	掖上博多山上陵	奈良縣大正村	二〇	安康	石上穴穗宮	丹比高鷺原陵	大阪府高鷺村	五	孝昭	掖上池心宮	劍池島上陵	奈良縣王寺町
五	孝昭	掖上池心宮	玉手丘上陵	奈良縣掖上村	二一	雄略	泊瀬朝倉宮	河內坂門原陵	大阪府西浦村	六	孝安	室歌津島宮	奈良縣畝傍町	奈良縣藤井寺町
六	孝安	室歌津島宮	奈良縣大正村	奈良縣藤井寺町	二二	清寧	磐余豐栗宮	壇生坂本陵	大阪府三島村	七	孝靈	蘆戶宮	奈良縣志都美村	大阪府古市町
七	孝靈	蘆戶宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣志都美村	二三	顯宗	近飛鳥八約宮	傍丘磐杯丘南陵	奈良縣多武峰村	八	孝元	輕境原宮	奈良縣柳本町	奈良縣柳本町
八	孝元	輕境原宮	奈良縣柳本町	奈良縣柳本町	二四	仁賢	石上廣高宮	身狹桃花鳥坂上陵	奈良縣柳本町	九	崇神	春日率川宮	奈良縣油坂町	奈良縣油坂町
九	崇神	春日率川宮	奈良縣油坂町	奈良縣油坂町	二五	武烈	泊瀬列城宮	奈良縣藤井寺町	大阪府磯長村	一〇	垂仁	磯城瑞籬宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一〇	垂仁	磯城瑞籬宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	二六	鸕鷀	玉穗宮	河內磯長中尾陵	大阪府磯長村	一一	景行	磯南珠城宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一一	景行	磯南珠城宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	二七	安閑	勾金橋宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村	一二	成務	磯向日代宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一二	成務	磯向日代宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	二八	宣化	檜隈廬入野宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村	一三	仲哀	穴門豐浦宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一三	仲哀	穴門豐浦宮	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	二九	欽明	磯城島宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村	一四	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一四	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	三〇	敏達	幸玉宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村	一五	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一五	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	三一	用明	池邊雙槻宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村	一六	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町
一六	應神	惠我長野西陵	奈良縣藤井寺町	奈良縣藤井寺町	三二	崇峻	倉梯柴垣宮	河內磯長原陵	大阪府磯長村					

三三	推古	豐浦宮	磯長山田陵	大阪府山田村	五七	陽成	神樂岡東陵	京都市具如町
三四	舒明	岡本宮	押坂內陵	奈良縣城島村	五八	光孝	後田邑陵	京都市馬場町
三五	皇極	飛鳥板蓋宮	大坂磯長陵	大阪府山田村	五九	宇多	大內山陵	京都市宇多野谷
三六	孝德	長柄豐碕宮	越智岡上陵	奈良縣越智岡村	六〇	醍醐	後山科陵	京都市醍醐
三七	孝明	飛鳥川原宮	長等山前陵	京都市山科	六一	朱鳥	醍醐上陵	京都市醍醐
三八	天智	近江大津宮	長等山前陵	京都市山科	六二	上	醍醐上陵	京都市醍醐
三九	天智	近江大津宮	長等山前陵	京都市山科	六三	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四〇	天武	淨見原宮	檜隈大內陵	奈良縣高市村	六四	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四一	持統	藤原宮	檜隈大內陵	奈良縣高市村	六五	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四二	文德	藤原宮	檜隈大內陵	奈良縣高市村	六六	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四三	元正	平城宮	奈保山東陵	奈良市	六七	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四四	元正	平城宮	奈保山東陵	奈良市	六八	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四五	聖武	平城宮	奈保山東陵	奈良市	六九	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四六	孝謙	平城宮	奈保山東陵	奈良市	七〇	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四七	孝謙	平城宮	奈保山東陵	奈良市	七一	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四八	稱徳	平城宮	淡路賀集村	奈良縣平城村	七二	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
四九	光仁	平城宮	淡路賀集村	奈良縣平城村	七三	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五〇	桓武	長岡平安宮	奈良縣平城村	奈良市	七四	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五一	平城	長岡平安宮	奈良縣平城村	奈良市	七五	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五二	嵯峨	平安宮	嵯峨山上陵	京都市北嵯峨	七六	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五三	淳和	平安宮	大原野西嶺上陵	京都市大原野村	七七	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五四	仁明	平安宮	大原野西嶺上陵	京都市大原野村	七八	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五五	文德	平安宮	深草陵	京都市深草町	七九	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷
五六	清和	平安宮	水尾山陵	京都市水尾町	八〇	聖武	後村上陵	京都市宇多野谷



○印は例祭に特に勅祭あらせられる神社

御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地	御歴代	帝號	皇居	陵名	陵所在地
八一	安德	福原宮	阿彌陀寺陵	下關市	一〇三	後土御門	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八二	後鳥羽	平安宮	大原陵	京都市大原村	一〇四	後柏原	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八三	土御門	平安宮	金原陵	京都海印寺村	一〇五	後奈良	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八四	順德	平安宮	大原陵	京都市大原村	一〇六	正親町	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八五	仲恭	平安宮	九條陵	京都市深草	一〇七	後陽成	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八六	後堀河	平安宮	觀音寺陵	京都市今熊野	一〇八	後水尾	平安宮	深草北陵	京都市深草坊
八七	四條	平安宮	月輪陵	京都市今熊野	一〇九	明正	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
八八	後嵯峨	平安宮	嵯峨南陵	京都市嵯峨	一一〇	後光明	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
八九	後深草	平安宮	深草北陵	京都市深草坊	一一一	後西	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九〇	龜山	平安宮	龜山陵	京都市嵯峨	一二二	靈元	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九一	後宇多	平安宮	蓮華峰寺陵	京都市嵯峨	一二三	東山	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九二	伏見	平安宮	深草北陵	京都市深草坊	一二四	中御門	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九三	後伏見	平安宮	深草北陵	京都市深草坊	一二五	櫻町	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九四	後二條	平安宮	北白河陵	京都市北白川	一二六	桃園	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九五	花園	平安宮	十樂院上陵	京都市栗田口	一二七	後櫻町	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九六	後醍醐	平安宮	塔尾陵	奈良縣吉野村	一二八	後桃園	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九七	後村上	平安宮	榆尾陵	大阪府川上村	一二九	光格	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九八	長慶	平安宮			一三〇	仁孝	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
九九	後龜山	平安宮	嵯峨小倉陵	京都市嵯峨	一一一	孝明	平安宮	月輪陵	京都市今熊野
一〇〇	後小松	平安宮	深草北陵	京都市深草坊	一二二	明治	平安宮	伏見桃山陵	京都市伏見區
一〇一	稱光	平安宮	深草北陵	京都市深草坊	一二三	大正	平安宮	多摩陵	東京府橫山村
一〇二	後花園	平安宮	山國陵	京都府山國村	一二四	今上	平安宮	城多摩陵	東京府橫山村

神				宮				幣				社			
神名		祭神		祭日		鎮座地		神名		祭神		祭日		鎮座地	
○皇大神宮		天照大神		一〇・一七		宇治山田市		○豐受大神宮		豐受大神		一〇・一六		宇治山田市	
大神神社		倭大物主櫛瓊玉命		四・九		奈良縣三輪町		大和神社		千代國魂神。八咫戈神。御年神		四・一		奈良縣朝和村	
石上神社		布都御魂劍		九・一五		奈良縣丹波市町		春日神社		建御賀豆智命。伊波比主命天之子八根命比賣神		三・二三		奈良市	
廣瀨神社		若宇迦賣命		四・四		奈良縣河合村		龍田神社		天御柱命。國御柱命		四・四		奈良縣三郷村	
丹生川上神社		高麗神。鸕皇女神。闇雷龍神		上社一〇・八一 下社一六・六一		奈良縣小川村(上下)		枚岡神社		天兒屋根命。比賣神。武甕槌命齋主命		二・一		大阪府枚岡村	
大鳥神社		大鳥連祖命		八・一三		大阪府鳳町		住吉神社		表筒男命。中筒男命。底筒男命。息長帶姫命		六・三〇		大阪市住吉町	
生國魂神社		生島神。足島神		九・九		大阪市生玉町		廣田神社		撞賢木嚴之御魂天疎向津媛命		三・一六		兵庫縣大社村	
稻荷神社		倉稻魂神。猿田彥命。大宮女命		四・九		京都市深草		○賀茂別雷神社		別雷神		五・一五		京都市上賀茂	
○賀茂御祖神社		玉依姫命。賀茂健角身命		五・一五		京都市下鴨宮河町		○石清水八幡宮		品陀別命。息長帶姫命。比賣神		九・一五		京都府八幡町	
松尾神社		大山咋命。中津島姬命		四・二		京都市松尾山		平野神社		今雷神。久度神。古閑神。比咩神		四・二		京都市平野宮本町	
平野神社		今雷神。久度神。古閑神。比咩神		四・二		京都市平野宮本町		廣田神社		撞賢木嚴之御魂天疎向津媛命		三・一六		兵庫縣大社村	



○氷川神社	須佐之男命・大己貴命・稻田姫命	八・一	埼玉縣大宮町	氣比神社	伊香沙別命・日本武尊・帶津彥命・豐田別命・豐命・武內宿禰命	九・四	福井縣敦賀町
安房神社	天太玉命	八・一〇	千葉縣神戶村	鹿兒島神社	天津日高彥穗穗命・出見命	八・一五	鹿兒島縣隼人町
香取神社	伊波比主命	九・一	千葉縣香取町	鶴戸神社	鷗草喜不合尊	二・一	宮崎縣鶴戸村
三島神社	玉籙入彦彥之尊	八・一六	茨城縣鹿島町	淺間神社	木花咲耶姫命	二・四	大宮町(本宮)
○熱田神社	草薙神劍	六・二一	靜岡縣三島町	建部神社	日本武尊	四・一五	富士山頂(奥宮)
日吉神社	大山昨神・大己貴神	四・四	滋賀縣坂本村	札幌神社	大國魂命・大己貴神・少彥名命	六・一五	北海道札幌市外藻岩村
○出雲神社	國懸大神	九・二六	和歌山市	宗像神社	多紀理姫命・市杵島姫命・多岐都姫命	二・一五	福岡縣(邊津宮)田島村(中津宮)大島村(沖津宮)
宇佐神社	譽田別尊・比賣命・大帶姫命	三・一六	大分縣宇佐町	吉野神社	後醍醐天皇	九・二七	奈良縣吉野町
霧島神社	天津日高彥火瓊杵尊	九・一	鹿兒島縣東慶山村	月山神社	月讀命	七・一五	山形縣立谷澤村
伊弉諾神社	伊邪那岐命	四・二三	兵庫縣多賀村	多賀神社	伊邪那岐命	四・二三	滋賀縣多賀村
香椎宮	仲哀天皇	二〇・元	福岡縣香椎村	阿蘇神社	健甕龍命	七・三八	熊本縣宮地町
宮崎神社	神日本磐余彥尊	二〇・二六	宮崎市	宮崎神社	應神天皇	八・一五	福岡縣箱崎町
○權原神社	神武天皇・媛蹈鞺五十鈴媛皇后	二・二	奈良縣畝傍町	八坂神社	素戔嗚尊・稻田比賣命・八柱御子神	六・一五	京都市祇園町
平安神社	桓武天皇	四・一五	京都市岡崎町	龜山神社	大山大山昨命	六・一五	京都市永田町

熊野坐神社	家都御子神	四・一五	和歌山縣本宮村	八代宮	懷良親王	八・三	熊本縣八代町
熊野速玉神社	熊野速玉神	四・一五	和歌山縣新宮市	梅宮神社	酒解神・大若子神・小若子神・酒解子神	四・三	京都市
諏訪神社	建御名方尊命(上社)八坂刀賣命(下社)	四・一五	長野縣中洲村(上社)下諏訪町(下社)	貴船神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣命	六・一	京都府鞍馬村
明治神社	昭憲皇太后	二・三	東京市	大原野神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣命	四・八	京都府大原野町
丹生都比賣神社	丹生都比賣神	一〇・一六	和歌山縣天野村	吉田神社	建御賀豆智命・伊波比主命・天之子八根命・比賣命	四・一八	京都市
臺灣神社	大國魂命・大己貴命・少彥名命・能久親王	一〇・二六	臺北市	北野神社	菅原道真	八・四	京都市
樺太神社	大國魂命・大己貴命・少彥名命	八・二三	豐原町	金鑽神社	天照大神	四・一五	埼玉縣青柳村
朝鮮神社	天照大神	一〇・二七	京城府南山	金崎宮	恒良親王	五・六	福井縣敦賀町
社名	幣中社			太宰府神社	菅原道真	八・二五	福岡縣太宰府町
白峰宮	崇德天皇	九・二二	京都市	生田神社	權日女神	四・一五	神戶市
赤間宮	安徳天皇	一〇・七	下關市	海神社	底津綿津見命	一〇・二一	兵庫縣垂水村
水無瀬宮	後鳥羽天皇・土御門天皇・順德天皇	二・七	大阪府島本村	英彦山神社	忍骨命	九・二八	福岡縣彦山町
鎌倉宮	護良親王	八・二〇	神奈川縣鎌倉町	戲島神社	市杵島姫命	六・一七	廣島縣嚴島町
井伊谷宮	宗良親王	九・二二	靜岡縣井伊谷村	住吉神社	表筒男命荒魂・中筒男命荒魂・底筒男命荒魂	二・二五	山口縣勝山村



吉備津神社	大吉備津彦命	〇・六	岡山縣真金町
伊太祁曾神社	大屋毘古命	〇・五	和歌山縣西川東村
熊野那智神社	家津御子神・熊野速玉神・熊野夫須美神	七・四	和歌山縣那智村
御上神社	天之御影命	五・四	滋賀縣三上村
臺南神社	能久親王	〇・六	臺南市
官幣小社			
大國魂神社	大國魂命	五・五	東京府府中
波上宮	速玉男尊・伊弉册尊・事解男尊	五・七	那霸市
電門神社	玉依姬命	二・五	福岡縣太宰府町
住吉神社	底筒男命・中筒男命・表筒男命	九・三	福岡市
志賀海神社	底津綿津見神・中津綿津見神・表津綿津見神	九・九	福岡縣志賀岡村
別格官幣社			
談山神社	藤原鎌足	二・七	奈良縣多武峰村
東照宮	德川家康	四・一七	靜岡縣久能村
梨木神社	三條實萬・同實美・家同顯信・同守顯	四・三	福島縣靈山村
雲山神社	北畠親房・同顯	四・三	東京市
靖國神社	明治維新前後殉國者及戰歿者	四・三〇	東京市
照國神社	島津齊彬	〇・六	鹿兒島市
常磐神社	水戸光圀・同齊昭	五・三	水戸市
東照宮	德川家康	六・一	栃木縣日光町
豐國神社	織田信長	七・一	京都市
建勳神社	毛利元就	一〇・一	山口市
結城神社	結城宗廣	五・一	津市
藤島神社	新田義貞	八・五	福井市
岡倍野神社	北畠親房・同顯家	一・四	大阪府市
名和神社	名和長年	五・七	鳥取縣名和村
湊川神社	楠木正成	七・三	神戶市
菊池神社	菊池武時・同武重・同武光	五・五	熊本縣隈府町
小御門神社	藤原師賢	四・九	千葉縣小御門村
護王神社	和氣清麿	四・四	京都御所西

四條畷神社	楠正行	二・三	大阪府四條畷村
唐澤神社	藤原秀郷	一〇・五	栃木縣田沼町
上杉神社	上杉謙信	四・九	米澤市
尾山神社	前田利家	四・七	金澤市
野田神社	毛利敬親	三・五	山口市
北畠神社	北畠顯能	一〇・二	三重縣多氣村
佐嘉神社	鍋島直正	一〇・二	佐賀市
山内神社	山内豐信	二・六	高知市
國幣大社			
氣多神社	大己貴命	四・三	石川縣一ノ宮村
大山祇神社	大山積神	四・三	愛媛縣宮浦村
高良神社	高良玉垂命	一〇・三	福岡縣御井町
多度神社	多度神	五・五	三重縣多度村
國幣中社			
熊野神社	神祖熊野大神	一〇・四	島根縣熊野村
南宮神社	楠御氣野命	五・五	岐阜縣宮代村
社名	祭神	祭日	鎮座地
敢國神社	敢國津神	二・五	三重縣府中村
淺間神社	木花開耶比咩命	四・五	山梨縣一宮村
寒川神社	寒川比古命	九・二〇	神奈川縣寒川村
鶴岡八幡宮	應神天皇	九・一五	神奈川縣鎌倉町
玉前神社	玉埼神	九・三	千葉縣一宮町
貫前神社	經津主命	三・五	群馬縣一ノ宮町
二荒山神社	二荒山神	四・一七	栃木縣日光町
二荒山神社	豐城入彦命	一〇・二	宇都宮市
都々古別神社	都々古和氣神	九・二	福島縣棚倉町
伊佐須美神社	大毘古命・建沼河別命	九・一五	福島縣高田町
志波彥神社	志波彥神	三・三九	宮城縣鹽釜町
鹽竈神社	鹽竈神	七・一〇	宮城縣鹽釜町
大物忌神社	大物忌神	五・八	山形縣吹浦村



住吉神社	田島神社	西塞多神社	土佐神社	大藤比古神社	忌部神社	安仁神社	中山神社	水若酢神社	宇倍神社	出石神社	龍神社	出雲神社	彌彦神社	射水神社	若狹彦神社
上筒之男命・中筒之男命・底筒之男命	多紀理毘賣命・市杵島比賣命・多岐都比賣命	西塞多神	一言主命	大藤比古神	天日鷲命	安仁神	金山彦命	水若酢命	武內宿禰命	八種神寶	天水分神	三穗津姬命	天香山命	二上神	若狹彦神・若狹比咩神
二・九	九・六	四・五	八・五	二・一	二・九	二・二	四・二	五・三	四・二	二・〇	四・二	一〇・二	五・四	四・三	三・〇
長崎縣那賀村	佐賀縣呼子町	大分縣東植田村	高知縣一宮村	香川縣一宮村	德島縣板野町	岡山縣大宮村	岡山縣一宮村	島根縣五箇村	鳥取縣宇倍野村	兵庫縣神美村	京都府府中村	京都府千歲村	新潟縣彌彦村	高岡市	福井縣速飯村
國幣小社	連谷神社	大縣神社	諏訪神社	玉祖神社	白山比咩神社	真清田神社	伊和神社	牛島足島神社	面館八幡宮	都々古別神社	新田神社	美保神社	酒列磯前神社	大洗磯前神社	海神社
	連谷神(龜速玉男命)	大縣神	建御名方大神・八坂刀賣大神	玉祖命	菊理媛神・伊弉諾尊・伊弉册尊	大明命	大己貴神	生島神・足島神	品陀和氣命	味鋸高彥根命	運運杵命	事代主命	少彥名命	大己貴命	豐玉姬命
	二・三	一〇・二	一〇・八	九・二五	五・六	四・三	二〇・一五	九・一九	八・二五	二・一	九・一五	四・七	一〇・二五	九・九	八・五
	廣島縣平良村	愛知縣樂田村	長崎市	山口縣石田村	石川縣河內村	一宮市	兵庫縣神戶村	長野縣東鹽田村	函館市	福島縣近津村	鹿兒島縣川内町	島根縣美保關町	茨城縣平磯町	茨城縣磯濱町	香川縣琴平町
															長崎縣峰村

社名	祭神	祭日	獻座地	戸隠神社	菅生石部神社	須佐神社	藤崎八幡宮	忌宮神社	柞原八幡宮	高瀬神社	津島神社	箱根神社	秩父神社	伊豆山神社	劍神社	佐太神社	吉備津彦神社	吉備津神社	大藏御祖神社
低鹿神社	大己貴神	五・四	愛知縣一宮村	菅生石部神社	菅生石部神	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大藏御祖神
小國神社	小國神	四・六	靜岡縣一宮村	菅生石部神	菅生石部神	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
水無神社	水無神	九・二五	岐阜縣宮村	藤崎八幡宮	藤崎八幡宮	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
駒形神社	駒形神	九・一九	岩手縣水澤町	忌宮神社	忌宮神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
岩木山神社	宇都志國玉命 多度比毘賣命 宇賀能賣命	八・一	青森縣岩木村	柞原八幡宮	柞原八幡宮	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
出羽神社	伊弉波神	七・一五	山形縣手向村	高瀬神社	高瀬神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
湯殿山神社	大山祇命	七・一五	山形縣東村	津島神社	津島神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
古四王神社	武甕槌命 大彥命	五・七	秋田縣寺内村	箱根神社	箱根神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
度津神社	五十猛神	四・三	新潟縣羽茂村	秩父神社	秩父神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
大神山神社	大穴牟遲神	一〇・九	鳥取縣大高村	伊豆山神社	伊豆山神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
日御崎神社	素戔鳴尊	七・七	島根縣日御崎村	劍神社	劍神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
物部神社	宇麻志摩遲命	一〇・九	島根縣川合村	佐太神社	佐太神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
沼名前神社	綿津見神	五・二	廣島縣額町	吉備津彦神社	吉備津彦神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
都農神社	大己貴命	二・五	宮崎縣都農町	吉備津神社	吉備津神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
枚聞神社	枚聞神	一〇・一五	鹿兒島縣額娃村	大藏御祖神社	大藏御祖神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
神部神社	大己貴命	四・三	靜岡市	大藏御祖神社	大藏御祖神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
淺間神社	木之花開耶麻命	四・三	靜岡市	大藏御祖神社	大藏御祖神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命
大藏御祖神社	大藏御祖神	四・三	靜岡市	大藏御祖神社	大藏御祖神社	須佐之男命	應神天皇	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	仲哀天皇・應神天皇・神功皇后	高瀬神	建速須佐之男命	箱根神	八寶思金命	伊豆山神	素戔鳴尊	佐太神	大智備津彥命	大智備津彥命	大己貴命

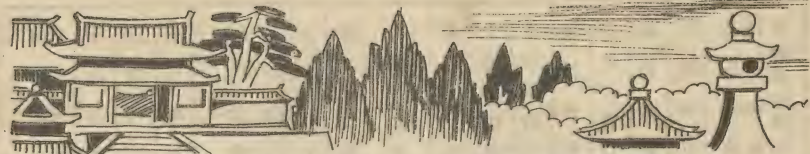


# 著名寺院

(寺名)

(宗派)

(所在地)



延曆寺	圓城寺	圓滿寺	聖護院	實相院	西教寺	金剛峰寺	仁和寺	大覺寺	醍醐寺	三寶院	東涌寺	泉涌寺	勤修寺	善通寺	智積院	長谷寺	西大寺	唐提寺
天台宗總本山	天台宗寺門派總本山	天台宗寺門派大本山	天台宗寺門派大本山	天台宗寺門派大本山	真言宗真盛派大本山	真言宗古義總本山	真言宗古義大本山	真言宗古義大本山	真言宗醍醐派總本山	真言宗醍醐派大本山	真言宗東寺派總本山	真言宗泉涌寺派大本山	真言宗山階派大本山	真言宗善通寺派	真言宗新義智山派	真言宗新義豐山派	真言宗真言律宗	真言宗律宗
滋賀縣坂本村(比叡山)	大津市別所	大津市別所	京都市聖護院町	京都市岩倉村	滋賀縣坂本村	和歌山縣高野	京都市花園	京都市嵯峨	京都市醍醐	京都市醍醐	京都市九條町	京都市泉涌寺	京都市山科	香川縣善通寺町	京都市東大路	奈良縣伏見村	奈良縣都跡村	奈良縣都跡村

智恩院	金戒光明寺	智恩寺	清淨華院	增上寺	禪林寺	光明寺	誓願寺	圓福寺	天龍寺	相國寺	建仁寺	南禪寺	妙心寺	建長寺	東福寺	大德寺	圓覺寺	永源寺	方廣寺	佛通寺	國泰寺	向嶽寺
淨土宗總本山	淨土宗大本山	淨土宗大本山	淨土宗大本山	淨土宗大本山	淨土宗西山派禪林寺派京都府永觀堂	淨土宗西山派光明寺派京都府栗山村	淨土宗西山派深草派京都府新京	淨土宗西山派深草派愛知縣岩津村	臨濟宗天龍寺派京都府所北	臨濟宗相國寺派京都府大和路	臨濟宗建仁寺派京都府南禪寺町	臨濟宗南禪寺派京都府花園	臨濟宗妙心寺派神奈川縣小坂村	臨濟宗建長寺派京都府本町	臨濟宗東福寺派京都府本町	臨濟宗大德寺派京都府上宮	臨濟宗圓覺寺派神奈川縣小坂村	臨濟宗永源寺派滋賀縣高野村	臨濟宗方廣寺派靜岡縣奧山村	臨濟宗佛通寺派廣島縣高坂村	臨濟宗國泰寺派富山縣太田村	臨濟宗向嶽寺派山梨縣鹽山町
京都市林下町	京都市岡崎町	京都市田中町	京都市寺町	東京市芝公園	京都府永觀堂	京都府栗山村	京都府新京	愛知縣岩津村	京都府所北	京都府大和路	京都府南禪寺町	京都府花園	神奈川縣小坂村	京都府本町	京都府本町	京都府上宮	神奈川縣小坂村	滋賀縣高野村	靜岡縣奧山村	廣島縣高坂村	富山縣太田村	山梨縣鹽山町



永平寺	總持寺	萬福寺	本願寺	本願寺	專修寺	興正寺	佛光寺	錦織寺	毫攝寺	證誠寺	誠照寺	專照寺	清淨光寺	蓮華寺	無量光寺	金蓮寺	正法寺	大念佛寺	興福寺	法隆寺	藥師寺	東大寺
曹洞宗大本山	曹洞宗大本山	黃檗宗大本山	真宗大本山	真宗大本山	真宗高田派	真宗興正寺派	真宗佛光寺派	真宗木邊派	真宗出雲路派	真宗山元派	真宗誠照寺派	真宗三門徒派	真宗總本山	真宗總本山	真宗大本山	真宗大本山	真宗大本山	真宗大本山	融通念佛宗	法相宗大本山	法相宗大本山	華嚴宗大本山
福井縣志比谷村	橫濱市鶴見	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川	京都市堀川

久遠寺	本門寺	妙願寺	本願寺	法華經寺	妙滿寺	本門寺	要法寺	實成寺	妙蓮寺	久遠寺	妙本寺	本門寺	光長寺	鷲山寺	妙蓮寺	本興寺	本隆寺	大石寺	妙覺寺	本覺寺
日蓮宗總本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山	日蓮宗大本山
山梨縣身延山	東京市池上町	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭	京都市小川頭



# 歷代内閣一覽

昭和十年十一月まで

………  
臨時

時任

四二。治明 六。五	二二。治明 四二。二一	一〇三。治明 。四	八一。治明 二二。二一	年立成 日月
義正 方松	朋有 縣山	隆清 田黒 美實 條三	文博 藤伊	臣大理總閣内
揚武 本榎	藏周 木青	信重 隈大	幕 上井 文博 藤伊	臣大務外
道從 郷西 郎次彌川品 臣種島副 義正方松 鎌敏野河	朋有 縣山 道從 郷西	朋有 縣山 義正 縣山	朋有 縣山	臣大務内
義正 方松	義正 方松	義正 方松	義正 方松	臣大藏大
巖 山大 助之頼島高	巖 山大	巖 山大	巖 山大	臣大軍陸
紀資 山樺	道從 郷西 紀資 山樺	道從 郷西	道從 郷西 巖 山大 道從 郷西	臣大軍海
義顯 田山 巖 二不中 鎌敏野河	義顯 田山 任喬 木大	義顯 田山	義顯 田山	臣大法司
正顯 川芳 任喬 木大	正顯 川芳	禮 有 森 巖 揚武 本榎	禮 有 森	臣大部文
光宗 奥陸 鎌敏野河 民常野佐	俊通 村岩 光宗 奥陸	揚武 本榎 幕 上井	城干 谷 道從 郷西 朋有 縣山 城千 谷 元隆清 方土 隆清 田黒	臣大林農 (三十正大 農でま年 臣大務商)
				臣大工商
郎二象藤後	郎二象藤後	揚武 本榎 郎二象 藤後	揚武 本榎	臣大信遞
				臣大道鐵
				臣大務拓
信成 山平	平公 布周	業昌 牧小	元久 方土 顯光 中田	長官記書閣内

三三。治明 九。〇一	一三。治明 八。一一	一三。治明 〇三。六	一三。治明 二一。一	九二。治明 八二。九	五二。治明 八。八
文博 藤伊 望公寺園西	朋有 縣山	信重 隈大	文博 藤伊	義正 方松	文博 藤伊 隆清 田黒
明高 藤加	藏周 木青	信重 隈大	郎二徳 西	信重 隈大 郎二徳 西	光宗 奥陸 望公寺園西 光宗 奥陸 望公寺園西
澄謙 松末	道從 郷西	助退 垣板	正顯 川芳	紀資 山樺	幕 上井 靖 正顯 助退 垣板
武國 邊渡 望公寺園西	義正 方松	久正 田松	幕 上井	義正 方松	武國 邊渡 義正 方松 武國 邊渡
郎太 桂 郎太源玉兒	郎太 桂	郎太 桂	郎太 桂	助之頼島高 助之頼島高	巖 山大 道從 郷西 助之頼島高
衛兵權本山	衛兵權本山	道從 郷西	道從 郷西	道從 郷西	範景 禮仁 道從 郷西
郎太堅子金	吾奎 浦清	徹義 東大	助荒 彌曾	吾奎 浦清	朋有 縣山 正顯 川芳
久正 田松	紀資 山樺	雄行 崎尾 毅 養犬	望公寺園西 一正 山外	詔茂賀須峰 新 尾濱	鎌敏 野河 正顯 上井 望公寺園西
造有 林	助荒 彌曾	已正 石大	治代已東伊	揚武 本榎 信重 隈大 道信 田山	郎二象藤後 揚武 本榎
享 星 敬 原	正顯 川芳	造有 林	澄謙 松末	靖 村野	隆清 田黒 武國 邊渡 一専 根白
				(臣大務殖拓) 助之頼島高	(臣大務殖拓) 助之頼島高
助之武島敏	郎一件廣安	敏時 富武	助之武島敏	三健 橋高 信成 山平	治代已東伊



二一 正大 二 九	一一 正大 二一 六	〇一 正大 三一 一	七 正大 九二 五	五 正大 九 〇一	三 正大 六一 四
衛兵權本山	郎三友藤加 哉康 田内	清是 橋高	敬 哉康 田内	毅正 内寺	信重 隈大
衛兵權本山 吉彦院集伊	哉康 田内	哉康 田内	哉康 田内	毅正 内寺 郎一 野本 平新 藤後	明高 藤加 信重 隈大 郎次 菊井石
平新 藤後	郎太鍊野水	郎二竹次床	郎二竹次床	平新 藤後 郎太鍊野水	信重 隈大 武兼 浦大 郎德喜木一
助之準上井	彦乙 來市	清是 橋高	清是 橋高	毅正 内寺 計主 田勝	郎次禮槻若 敏時 富武
一義 中田	造半 梨山	造半 梨山	一義 中田 造半 梨山	一健 島大	助之市 岡 一健 島大
彪 部財	郎三友藤加 彪 部財	郎三友藤加	郎三友藤加	郎三友藤加	郎六 代八 郎三友藤加
郎治健 田 郎一駄沼平	郎次敬野岡	吉遠 木大	敬 原 吉遠 木大	致 室松	雄行 崎尾
毅 養犬 郎次敬野岡	吉榮 田鎌	郎五德橋中	郎五德橋中	平良 田岡	郎德喜木一 苗早 田高
郎治健 田 郎次敬野岡	郎太賢井荒	雄達 本山	雄達 本山	廉 路小仲	武兼 浦大 中廣 野河
毅 養犬	定利 田前	郎太卯田野	郎太卯田野	郎治健 田	敏時 富武 人勝 浦箕
次一内之山	吉遠 木大	肇 田元	肇 田元		
英資 山樺	雄光 田宮	造忠 土三	威光 橋高	雄秀 玉兒	翼 木江

二 正 大 〇二 二	元 正 大 一二 二一	四四 治明 〇三 八	一四 治明 四一 七	九三 治明 七 一	四三 治明 二 六	成立
衛兵權本山	郎太 桂	望公寺園西	郎太 桂	望公寺園西	郎太 桂	總理
顯伸 野牧	郎太 桂 明高 藤加	董 林 哉康 田内	毅正 内寺 郎太壽村小	明高 藤加 望公寺園西 董 林	助荒 福會 郎太壽村小 郎太壽村小 郎太壽村小	外務
敬 原	武兼 浦大	敬 原	助東 田平	敬 原	勝忠 海内 郎太源玉兒 郎太源玉兒 郎太源玉兒 正顯 川芳 吾奎 浦清	内務
清是 橋高	郎次禮槻若	雄達 本山	郎太 桂	郎芳 谷坂 久正 田松 久正 田松	助荒 福會	大藏
綱安 越木 彦幸 瀬楠	綱安 越木	六新 本石 作勇 原上	毅正 内寺	毅正 内寺	郎太源玉兒 毅正 内寺	陸軍
實 藤 齋	實 藤 齋	實 藤 齋	實 藤 齋	實 藤 齋	衛兵權本山	海軍
久正 田松 人義 田典	致 室松	久正 田松	職長 部岡	久正 田松 福尊 家千	吾奎 浦清 直敬野多波	司法
人義 田典 造青 岡大	門家 田柴	孝純楊谷長 顯伸 野牧	郎太英原松小	望公寺園西 顯伸 野牧	麓大 池菊 郎太源玉兒 議 田保久 郎太 桂	文部
雄達 本山	廉 路小仲	顯伸 野牧	武兼 浦大 郎太英原松小 武兼 浦大	毅康 岡松	助東 田平 吾奎 浦清 吾奎 浦清	農林
						商工
肇 田元	平新 藤後	董 林	平新 藤後	郎三伊縣山 敬 養正 田堀	正顯 川芳 助荒 福會 武兼 浦大	逓信
						鐵道
						拓務
次一 内山	翼 木江	弘 南	門家 田柴 郎一件 廣安	一敏 渡石 弘 南	門家 田柴	官長



九和昭 八。昭七	七和昭 六二。昭五	六和昭 三一。昭二	六和昭 四一。昭四
介啓 田岡	實 藤 齋	穀 養 犬 清 是 橋 高	郎次禮槻若
穀弘 田廣	實 藤 齋 哉 康 田 穀弘 田廣	穀 養 犬 吉 謙 澤 芳	郎重喜原幣
夫文 藤後	雄達 本山	郎五德橋中 穀 養 犬 郎三喜木鈴	藏謙 達安
信真 井藤 清是 橋高	清是 橋高	清是 橋高	助之準上井
郎十銃 林 之 義 島 川	夫貞 木荒 郎十銃 林	夫貞 木荒	郎 次 南
生岑 角大	介啓 田岡 生岑 角大	生岑 角大	種清 保安
直 原小	吉松 山小	郎三喜木鈴 治竹 村川	冬千 邊渡
治源 田松	郎一 山鳩 實 藤 齋	郎一 山鳩	三隆 中田
輔之達崎山	夫文 藤後	郎二憐本山	治忠 田町
治忠 田町	吉萬久島中 治丞 本松	藏米 田前	雄幸 内櫻
郎二竹次床 介啓 田岡 介圭 月望	弘 南	造忠 土三	郎次又泉小
也信 田内	造忠 土三	郎二竹次床	翼 木 江
介啓 田岡 雄秀 玉兒	郎太柳井永	助 豐 泰	郎次脩 原
茂田吉 烈田河 介竹根白	郎三善田柴 郎次善切堀	格 森	吉卓 崎川

四和昭 二。昭七	二和昭 〇二。昭四	五一 正大 〇三。一	四一 正大 二。八	三一 正大 一一。六	三一 正大 七。一	成立
幸雄 口濱 郎重喜原幣	一義 中田	郎次禮槻若	明高 藤加 郎次禮槻若	明高 藤加	吾奎 浦清	總理
郎重喜原幣	一義 中田	郎重喜原幣	郎重喜原幣	郎重喜原幣	郎四慶井松	外務
藏謙 達安	郎三喜木鈴 一義 中田 介圭 月望	郎次禮槻若 幸雄 口濱	郎次禮槻若	郎次禮槻若	郎太鍊野水	内務
助之準上井	清是 橋高 造忠 土三	幸雄 口濱 爾整 速早 溫直 岡片	幸雄 口濱	幸雄 口濱	計主 田勝	大藏
成一 垣宇 行信 部阿	則義 川白	成一 垣宇	成一 垣宇	成一 垣宇	成一 垣宇	陸軍
彪 部 財 種清 保安	介啓 田岡	彪 部 財	彪 部 財	彪 部 財	一格 上村	海軍
冬千 邊渡	道 嘉 原	翼 木 江	翼 木 江	助之千田橫 清是 橋高 吉平 川小	郎三喜木鈴	司法
太一 橋小 三隆 中田	造忠 土三 郎太鍊野水 計主 田勝	平良 田岡	平良 田岡	平良 田岡	之千 木江	文部
治忠 田町	郎二憐本山	爾整 速早 治忠 田町	爾整 速早	清是 橋高 (臣大林農) 輔邦 崎岡	定利 田前	農林
一 孫 俊	郎五德橋中	溫直 岡片 輔之幾澤藤	溫直 岡片	郎太卯田野		商工
郎次又泉小	介圭 月望 助之房原久	藏謙 達安	藏謙 達安	穀 養 犬 藏謙 達安	朗義 村藤	遞信
翼 木 江	吉平 川小	實 石 仙 郎四匡上井	實 石 仙	實 石 仙	郎次謙松小	鐵道
治源 田松	一義 中田					拓務
彌士富木鈴	郎一 山鳩	治清 本塚	治清 本塚	翼 木 江	太一 橋小	官長



伊藤博文(山口)	黑田清隆(鹿兒島)	山縣有朋(山口)	松方正義(鹿兒島)	伊藤博文(山口)	松方正義(鹿兒島)	伊藤博文(山口)	大隈重信(佐賀)	山縣有朋(山口)	伊藤博文(山口)	桂太一郎(山口)	西園寺公望(京都)	桂太一郎(山口)	西園寺公望(京都)	桂太一郎(山口)	大本權兵衛(鹿兒島)	大隈重信(佐賀)	寺內正毅(山口)	原敬(岩手)	高橋是清(宮城)	加藤友三郎(廣島)	山本權兵衛(鹿兒島)
----------	-----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	------------	----------	----------	--------	----------	-----------	------------

岡田啓介(福井)	齋藤實(岩手)	大養毅(岡山)	若槻禮次郎(島根)	濱口雄幸(高知)	田中義一(山口)	若槻禮次郎(島根)	加藤高明(愛知)	加藤高明(愛知)	清浦奎吾(熊本)
----------	---------	---------	-----------	----------	----------	-----------	----------	----------	----------

西鄉從道（鹿兒島	川村景明（鹿兒島	貞愛親王	長谷川好道（山口	威仁親王	大山巖（鹿兒島	山縣有朋（山口	彰仁親王
----------	----------	------	----------	------	---------	---------	------

彰 仁 親 王	山 縣 有 朋 (山 口)	西 鄉 隆 盛 (鹿 兒 島)	熾 仁 親 王	陸 軍 大 將	武 藤 信 義 (佐 賀)	守 正 王	博 恭 王	邦 彦 王	加 藤 友 三 郎 (廣 島)	島 村 速 雄 (高 知)	東 鄉 平 八 郎 (鹿 兒 島)	井 上 良 馨 (鹿 兒 島)	奧 保 鞏 (福 岡)	上 原 勇 作 (宮 崎)	載 仁 親 王	伊 集 院 五 郎 (鹿 兒 島)	寺 內 正 毅 (山 口)	伊 東 祐 亨 (鹿 兒 島)	野 津 道 貫 (鹿 兒 島)
------------------	------------------------------	-----------------------------------	------------------	------------------	------------------------------	-------------	-------------	-------------	-----------------------------------	------------------------------	--	-----------------------------------	-------------------------	------------------------------	------------------	--	------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

大山	巖	鹿兒島	野津道貫	鹿兒島	能久親王	佐久間左馬太	山口	川上操六	鹿兒島	桂太郎	山口	黑木爲楨	鹿兒島	奧保鞏	福岡	山口素臣	福岡	岡澤精	山口	長谷川好道	山口	西寬二郎	鹿兒島	兒玉源太郎	山口	乃木希典	山口	貞愛親王	小川又次	福岡	川村景明	鹿兒島	大島義昌	山口	大島久直	秋田	大迫尙敏	鹿兒島	立見尙文	三重	寺內正毅	山口	井上光	山口	大久保春野	靜岡
----	---	-----	------	-----	------	--------	----	------	-----	-----	----	------	-----	-----	----	------	----	-----	----	-------	----	------	-----	-------	----	------	----	------	------	----	------	-----	------	----	------	----	------	-----	------	----	------	----	-----	----	-------	----

大井	宇都宮太元郎(山口)	柴島川文八郎(三重)	明石元二郎(福島)	本郷房太郎(兵庫)	仁田原重行(福岡)	松川敏胤(宮城)	秋山好古(愛媛)	大谷喜久藏(福井)	井口省吾(靜岡)	神尾光臣(長野)	内山小次郎(鳥取)	上原勇作(宮崎)	中村覺(滋賀)	安東貞美(長野)	福島安正(長野)	載仁親王	淺田信興(埼玉)	上田有澤(德島)	鯨島重雄(鹿兒島)	土屋光春(愛知)
----	------------	------------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	----------	----------	-----------	----------	---------	----------	----------	------	----------	----------	-----------	----------

金谷	磯村	鈴木	井上	武藤	菅野	宇垣	白川	奈良	鈴木	田中	菊地	守正	町田	尾野	山梨	福田	河合	大庭	立花	由比
範三	孝雄	幾太郎	信義	信義	守成	尙一	義則	武次	木莊	弘太	慎之助	正彦	經字	實信	半造	雅太郎	義一	二郎	花小	比光
(大分)	(石川)	(千葉)	(山口)	(佐賀)	(山口)	(岡山)	(愛媛)	(栃木)	(新潟)	(京都)	(茨城)	王	王	(福岡)	(神奈川)	(長崎)	(大分)	(山口)	(福岡)	(高知)

寺	植	西	林	川	松	松	荒	眞	阿	本	林	緒	渡	畑	南	吉	岸	菱	田
內	田	義	仙	島	木	井	木	崎	部	庄		方	邊	英	次	田	本	刈	中
壽	謙			義	直	石	貞	甚	信		銃	勝	錠	太	郎	豐	鹿	隆	國
一	吉	一	之	之	亮	根	夫	三	行	繁	郎	一	太	郎	彦	太	太	隆	重
(山)	(大	(福	(熊	(愛	(山	(愛	(東	(佐	(石	(兵	(石	(佐	(愛	(北	(大	(岡	(鹿	(鹿	(鹿
口)	阪	島	本)	媛	口)	知	京	賀	川)	庫)	川)	賀	知	海道)	分)	山)	兒島)	兒島)	兒島)

藤井較一(岡山)	吉松茂太郎(高知)	加藤友三郎(廣島)	島村速雄(高知)	三須宗太郎(滋賀)	瓜生外吉(石川)	齋藤實(岩手)	出羽重遠(福島)	伊集院五郎(鹿兒島)	上村彥之丞(鹿兒島)	片岡七郎(鹿兒島)	日高壯之丞(鹿兒島)	鮫島員規(鹿兒島)	柴山矢八(鹿兒島)	川村純義(鹿兒島)	威仁親王	山本權兵衛(鹿兒島)	東鄉平八郎(鹿兒島)	井上良馨(鹿兒島)	伊東祐亨(鹿兒島)	樺山資紀(鹿兒島)	西郷從道(鹿兒島)
----------	-----------	-----------	----------	-----------	----------	---------	----------	------------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	-----------	------	------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------



八代六郎(愛知)  
加藤定吉(東京)  
山下源太郎(山形)  
名和又八郎(福井)  
村上格一(佐賀)  
依仁親皇  
有馬良橘(和歌山)  
山屋他人(岩手)  
財部他(宮崎)  
黒井悌次郎(山形)  
野間口兼雄(鹿兒島)  
折内曾次郎(岩手)  
博恭王  
鈴木貫太郎(千葉)  
竹下勇(鹿兒島)  
岡田啓介(福井)  
小栗孝三郎(石川)  
井出謙治(東京)  
百武三郎(佐賀)  
安保清種(佐賀)  
加藤寛治(福井)  
山口尙真(廣島)  
山本英輔(鹿兒島)  
大角岑生(愛知)

山梨勝之進(宮城)  
野村吉三郎(和歌山)  
小林躋造(廣島)  
中村良三(青森)  
末次信正(山口)  
永野修身(高知)  
歷代樞密院議長  
伊藤博文(山口)  
大木喬任(佐賀)  
伊藤博文(山口)  
大木喬任(佐賀)  
伊藤博文(山口)  
大木喬任(佐賀)  
山縣有朋(山口)  
西園寺公望(京都)  
黒田清隆(鹿兒島)  
山縣有朋(山口)  
大木喬任(佐賀)  
伊藤博文(山口)  
伊藤博文(山口)  
山縣有朋(山口)

伊藤博文(山口)  
山縣有朋(山口)  
清浦奎吾(熊本)  
濱尾新(兵庫)  
穂積陳重(愛媛)  
倉富勇三郎(福岡)  
一木喜徳郎(靜岡)  
歷代內大臣  
三條實美(京都)  
德大寺實則(京都)  
桂太朗(山口)  
貞愛親王  
大山巖(鹿兒島)  
松方正義(鹿兒島)  
平田東助(山形)  
牧野伸顯(東京)

歷代宮内大臣  
伊藤博文(山口)  
土方久元(東京)  
田中光顯(高知)  
岩倉具定(京都)  
渡邊千秋(長野)  
波多野敬直(佐賀)  
中村雄次郎(三重)  
牧野伸顯(東京)  
一木喜徳郎(靜岡)  
湯淺倉平(東京)

土地・人口

日本の位置(極點)

極東 千島國占守郡占守島東端 東經 一五三  
極西 臺灣高雄州澎湖島花嶼西端 東經 二九八  
極南 南洋グリンデ島南端 北緯 一〇三  
極北 北海道千島國阿賴度島北端 北緯 五〇五

面積と人口

面積(方軒) 人口(千人) 密度(一方軒)  
帝國總計 九、四〇〇 九、四〇〇 一  
内地 九、四〇〇 九、四〇〇 一  
朝鮮 三、〇七二 三、〇七二 一  
臺灣 三、五七五 三、五七五 一  
樺太 三、三〇〇 三、三〇〇 一  
關東 一、二四四 一、二四四 一  
滿洲 五、三二七 五、三二七 一  
南洋群島 二、一〇九 二、一〇九 一

府縣別人口

昭和三十年國勢調査  
面積(方軒) 人口(千人) 密度(一方軒)  
北海道 八、七五五 三、〇六八 一  
青森 九、六三二 一、〇四六 一  
岩手 一五、三三五 一、〇四六 一  
宮城 七、七四四 一、三三三 一

秋田 二、六四四 一、〇三六 一  
山形 九、三三六 一、二二七 一  
福島 六、〇九一 一、五〇九 一  
茨城 六、四三七 一、二九三 一  
栃木 六、三三六 一、二九三 一  
群馬 六、三三六 一、二九三 一  
千葉 五、〇七九 一、五〇九 一  
東京 二、二五五 一、二九三 一  
神奈川 二、二五五 一、二九三 一  
新潟 二、二五五 一、二九三 一  
富山 二、二五五 一、二九三 一  
石川 四、〇九一 一、二九三 一  
福井 四、〇九一 一、二九三 一  
山梨 四、〇九一 一、二九三 一  
長野 四、〇九一 一、二九三 一  
岐阜 四、〇九一 一、二九三 一  
靜岡 四、〇九一 一、二九三 一  
愛知 四、〇九一 一、二九三 一  
滋賀 四、〇九一 一、二九三 一  
京都 四、〇九一 一、二九三 一  
大阪 四、〇九一 一、二九三 一  
兵庫 四、〇九一 一、二九三 一  
奈良 四、〇九一 一、二九三 一



都市の人口 (昭和十年)		内地以外は昭和九年	
昭和十年	昭和五年	昭和十年	昭和五年
東京(東京)	五、八五五	鹿兒島(鹿兒島)	一、八三
大阪(大阪)	二、九八	和歌山(和歌山)	一、八〇
名古屋(愛知)	一、〇二	佐世保(長崎)	一、七
京都(京都)	一、〇〇	岡山(岡山)	一、六
神戸(兵庫)	九三	川崎(神奈川)	一、五
横浜(神奈川)	七四	小樽(北海道)	一、四
横城(朝鮮)	三〇	釜山(朝鮮)	一、四
廣島(廣島)	三〇	平壤(朝鮮)	一、四
福岡(福岡)	二九	三浦(大分)	一、四
大連(關東州)	二九	新橋(愛知)	一、四
台北(臺灣)	二六	豐橋(愛知)	一、四
吳興(廣島)	二六	松山(靜岡)	一、三
仙臺(宮城)	二六	關口(山口)	一、三
長崎(長崎)	二六	阜前(福岡)	一、三
八幡(福岡)	二六	司馬(福岡)	一、三
函館(北海道)	二六	小門(福岡)	一、三
静岡(靜岡)	二六	大牟田(福岡)	一、三
札幌(北海道)	二六	大牟田(福岡)	一、三
熊本(熊本)	二六	高知(高知)	一、三
横須賀(神奈川)	二六	南(臺灣)	一、三

朝鮮地方道別人口 (昭和八年末)		民族別人口 (昭和七年概數)	
昭和八年末	昭和七年概數	昭和七年概數	昭和七年概數
全羅	一、四二	高砂族	一、四
忠清	一、三	朝鮮民族	二、五〇
京畿	一、二	大和民族	六、六五
冲兒	一、一	九州地方	一、〇五
鹿島	一、〇	四國地方	三、四〇
宮崎	九、九	中國地方	五、五五
大分	七、七	近畿地方	二、七五
熊本	六、六	中部地方	二、五八
熊本	七、七	奥羽地方	一、四三
佐賀	四、四	關東地方	一、四三
福岡	四、四	關東地方	一、四三
高知	三、三	關東地方	一、四三
愛媛	二、二	關東地方	一、四三
香川	一、一	關東地方	一、四三
德島	一、一	關東地方	一、四三
山根	一、一	關東地方	一、四三
廣島	一、一	關東地方	一、四三
岡山	一、一	關東地方	一、四三
島根	一、一	關東地方	一、四三
鳥取	一、一	關東地方	一、四三
和歌	一、一	關東地方	一、四三



[illegible]

斗	六	臺	灣
萩	原	樺太	山口
豐	宮	和歌山	
新	田	山形	
酒	田	山口	
德	山	新	潟
高	田	佐賀	
唐	津	廣島	
尾	道	樺太	
大	泊	關東州	
旅	順	愛媛	
八	濱	大分	
中	津	和歌山	
海	南	香川	
丸	龜	沖繩	
首	里		

人口二萬五千人  
以上の町村

(單位千人)

平野村（長野）  
夕張町（北海道）  
小田村（兵庫）  
美唄町（北海道）

五四	五二	四〇	三七
四九	四八	三一	三二

田浦町(神奈川)	網走町(北海道)	南 <sup>二</sup> 投街(臺灣)	尙州面(朝鮮)	馬山府(朝鮮)	枕崎町(鹿児島)	內鄉村(福島)	日立町(茨城)	谷山町(鹿児島)	小林町(宮崎)	精道村(兵庫)	野付牛町(北海道)	麻豆街(臺灣)	埔里街(臺灣)	大溪街(臺灣)	大宮町(埼玉)	栃木町(栃木)	岩見澤町(北海道)	豐原街(臺灣)	員林街(臺灣)	顯娃村(鹿児島)	清水街(臺灣)	川內町(鹿児島)	宮田町(福岡)	秘波村(福岡)
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	元	三	三	三	三	三	三	

三八  
二九  
二八  
  
二四  
二七  
二五  
  
二三  
一九  
二五  
  
二二  
二七  
二四  
  
一一  
二四  
二四  
一〇

百五十年前の人口

東京（江戸）は世界

江 戸(皇紀二四五八年)  
大 阪(皇紀二四三九年)  
ロンドン(皇紀二四六一年)  
パリ(皇紀二四六一年)  
ニューヨーク(皇紀二四五〇年)

鎌倉町(神奈川)	二七
小田原町(神奈川)	二八
稻築村(福岡)	二九
水俣町(熊本)	三〇
中 <sup>山</sup> 握街(臺灣)	三二
平町(福島)	三三
宜蘭街(臺灣)	三四
平良町(沖繩)	三五
北港街(臺灣)	三六
防府町(山口)	三七
雄基邑(朝鮮)	三八
後藤寺町(福岡)	三九
柏崎町(新潟)	四〇



# 日本人人口の増加

## 内地

明治五年	三三、一一一、一千人
同十年	三四、六二八、千人
同二十年	三九、〇六九、千人
同三十年	四三、二二八、千人
同四十年	四八、八一九、千人
大正五年	五六、三三五、千人
同九年	五七、九一八、六六、四人
同十四年	(最初の國勢調査人口)
昭和五年	五九、七三六、八二、二人
昭和十年	(簡易國勢調査人口)
昭和十五年	六四、四五〇、〇〇、五人
昭和二十年	(第二回國勢調査人口)
昭和二十五年	六六、二九六、千人
昭和三十年	六七、二四〇、千人
昭和三十五年	六八、一九五、千人
昭和四十年	六九、二五一、二六、五人
昭和四十五年	(第三回國勢調査人口)

## 朝鮮

九、九一九、千人

明治四十一年

## 關東州及滿鐵附屬地

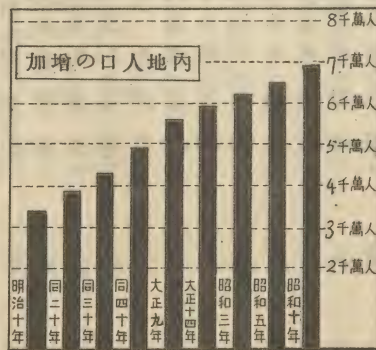
三七五、千人

## 臺灣

大正六年	一三、三一二、千人
大正十四年	一九、五二三、千人
昭和五年	二一、〇五七、三〇、五人
昭和十年	二〇、七九一、千人
昭和十五年	二二、八九八、六九、五人
昭和二十年	二五、八八八、千人
昭和二十五年	三、六四七、千人
昭和三十年	三、九三三、千人
昭和三十五年	四、五九二、五三、七人
昭和四十年	五、二二二、七一、九人

## 南洋諸島

大正六年	七〇八、千人
大正十四年	一、〇五四、千人
昭和五年	一、三三八、〇一、一人
昭和十年	一、六五六、七六、三人
昭和十五年	五二、二千人
昭和二十年	五六、六千人
昭和二十五年	六九、六二六、千人
昭和三十年	七八、八千人
昭和三十五年	一〇、二三八、千人



# 世界大都市の人口

1 ニューヨーク (アメリカ)	六、八〇〇、千人
2 東京 (日本)	五、五〇〇、千人
3 ロンドン (イギリス)	四、五〇〇、千人
4 ベルリン (ドイツ)	四、四〇〇、千人
5 シカゴ (アメリカ)	三、七〇〇、千人
6 モスクワ (ソビエト)	三、三〇〇、千人
7 パリ (フランス)	三、二〇〇、千人
8 大阪 (日本)	二、七〇〇、千人
9 レニングラード (ソビエト)	二、七〇〇、千人
10 上海 (中華民国)	二、七〇〇、千人
11 ヴェニス (イタリア)	二、三〇〇、千人
12 フライデルフェル (アメリカ)	一、九〇〇、千人
13 ウィーン (オーストリア)	一、八〇〇、千人
14 リオデジャネイロ (ブラジル)	一、五〇〇、千人
15 デトロイト (アメリカ)	一、五〇〇、千人
16 天津 (中華民国)	一、五〇〇、千人
17 シドニー (オーストラリア)	一、四〇〇、千人
18 ロサンゼルス (アメリカ)	一、三〇〇、千人
19 カルカッタ (インド)	一、二〇〇、千人
20 ワルソー (ポーランド)	一、一〇〇、千人
21 ボンベイ (インド)	一、一〇〇、千人
22 カイロ (埃及)	一、一〇〇、千人
23 ハンブルグ (ドイツ)	一、一〇〇、千人
24 グラスゴウ (イギリス)	一、一〇〇、千人
25 東京 (日本)	一、一〇〇、千人
26 バルセロナ (スペイン)	一、一〇〇、千人
27 ブタペスト (ハンガリー)	一、一〇〇、千人
28 名古屋 (日本)	一、一〇〇、千人
29 ロンドン (イギリス)	一、一〇〇、千人
30 サンボロ (ブラジル)	一、一〇〇、千人
31 バルミンガム (イギリス)	一、一〇〇、千人
32 メルボルン (オーストラリア)	一、一〇〇、千人
33 マドリッド (スペイン)	一、一〇〇、千人
34 ミラノ (イタリア)	一、一〇〇、千人
35 メキシコ (メキシコ)	一、一〇〇、千人
36 クリウランド (アメリカ)	一、一〇〇、千人
37 リヴァプール (イギリス)	一、一〇〇、千人
38 神戸 (日本)	一、一〇〇、千人
39 プラタ (チリ)	一、一〇〇、千人
40 ナポリ (イタリア)	一、一〇〇、千人
41 ブリュッセル (ベルギー)	一、一〇〇、千人
42 セントルイス (アメリカ)	一、一〇〇、千人
43 モントリオール (カナダ)	一、一〇〇、千人
44 廣州 (中華民国)	一、一〇〇、千人
45 北平 (中華民国)	一、一〇〇、千人
46 ボルチモア (アメリカ)	一、一〇〇、千人
47 マルセイユ (フランス)	一、一〇〇、千人
48 成都 (中華民国)	一、一〇〇、千人
49 ボストン (アメリカ)	一、一〇〇、千人
50 アムステルダム (オランダ)	一、一〇〇、千人
51 漢口 (中華民国)	一、一〇〇、千人
52 コペンハーゲン (デンマーク)	一、一〇〇、千人
53 マンチエスター (イギリス)	一、一〇〇、千人
54 ケルン (ドイツ)	一、一〇〇、千人
55 ミュンヘン (ドイツ)	一、一〇〇、千人
56 ライプツィヒ (ドイツ)	一、一〇〇、千人
57 横濱 (日本)	一、一〇〇、千人
58 サンチャゴ (チリ)	一、一〇〇、千人
59 ビツバール (アメリカ)	一、一〇〇、千人
60 溫州 (中華民国)	一、一〇〇、千人
61 モンテヴィデオ (ウルグワイ)	一、一〇〇、千人
62 エッセン (ドイツ)	一、一〇〇、千人
63 マドラス (インド)	一、一〇〇、千人
64 ドレスデン (ドイツ)	一、一〇〇、千人
65 重慶 (中華民国)	一、一〇〇、千人
66 サンフランシスコ (アメリカ)	一、一〇〇、千人



67	ブカレスト(ルーマニア)	三三	91	ヂウセルドルフ(ドイツ)	四九	115	ダブリン(愛蘭)	四〇
68	トロント(カナダ)	三三	92	ワシントン(アメリカ)	四七	116	ベルファスト(イギリス)	四五
69	アレキサンドリア(埃及)	三三	93	ロザリオ(アルゼンチン)	四三	117	シウツトガルト(ドイツ)	四五
70	ブレスラウ(ドイツ)	三三	94	バンコック(シヤム)	四三	118	ニュルンベルグ(ドイツ)	四〇
71	ア(イタリイ)	三三	95	オデツ(ソウイェト)	四七	119	ウツベルタル(ドイツ)	四九
72	沙(中華民国)	三三	96	ヘーグ(オランダ)	四七	120	ヨハネスブルグ(南ア)	四〇
73	武昌(中華民国)	三三	97	ミネアポリス(アメリカ)	四九	121	カンサスシティ(アメリカ)	四〇
74	ノ(イタリイ)	三三	98	エデンバラ(イギリス)	四九	122	ブリストル(イギリス)	四〇
75	リスボン(ポルトガル)	三三	99	ニューオーレアンズ(アメリカ)	四九	123	モ(イタリイ)	四九
76	ロツ(ポーランド)	三三	100	シンガポール(海峽)	四九	124	州(中華民国)	四九
77	ハヴァナ(キューバ)	三三	101	デリー(印度)	四九	125	ガ(ラトウイア)	四九
78	ロツテルダム(オランダ)	三三	102	シンシチナ(アメリカ)	四九	126	州(中華民国)	四九
79	リヨ(フランス)	三三	103	ハノーバー(ドイツ)	四九	127	インディアンポリス(アメリカ)	四九
80	ミルウォーキー(アメリカ)	三三	104	ニューアーク(アメリカ)	四九	128	ケムニッツ(ドイツ)	四九
81	バタヴィア(アメリカ)	三三	105	ハンブルグ(ドイツ)	四九	129	バタヴィア(蘭印)	四九
82	バツファロー(アメリカ)	三三	106	ロストフ(ソウイェト)	四九	130	マニラ(フィリッピン)	四九
83	フラン克福ルト(ドイツ)	三三	107	ベナンゴ(ブラジル)	四九	131	スラバヤ(蘭印)	四九
84	アム・マイ(ドイツ)	三三	108	タシケント(ソウイェト)	四九	132		四九
85	ドムン(ドイツ)	三三	109		四九	133		四九
86	フ(ソウイェト)	三三	110		四九	134		四九
87	京(中華民国)	三三	111		四九	135		四九
88	ストツクホルム(スエーデン)	三三	112		四九	136		四九
89	ハルコフ(ソウイェト)	三三	113		四九	137		四九
90	シエフイルド(イギリス)	三三	114		四九	138		四九
州(中華民国)		三三			四九			四九

# 列國の面積・人口

## 六大洲

世界總數

面積  
平方千米

人口  
千人

密度

## ヨーロッパ

プーダン  
サウヂ・アラビア

一、三〇

四、五〇〇

三 五

ソウイェト聯邦

二、三三

一六三、一六六

八

ヨーロッパの部

四、三三

一〇九、二五四

二六

アジアの部

一七、一五

三七、七五九

二

ドイッチ

四、七〇

六六、〇四四

一四〇

イギリス

三、八四

四三、八三〇

一四

フランス

二、四九

四六、五三八

一九〇

本領

三、六二七

三九、二〇〇

一二

本領

二、四九三

一〇五、三七四

九

本領

五、五二

四、八八〇

七五

本領

二、九四三

六、五五九

五

本領

二、四九

四三、三六八

一八

本領

三、一〇

四、六〇五

一三四

本領

二、一〇九

二、二三

一

本領

三八八

三、九二八

八三

本領

八三九

二、二七三

二七

本領

五〇四

二、三六四

四七

本領

三、三三

一八、〇五七

六二

本領

一、四〇

一四、七三九

一〇五



ハンガリー	九三	八、六八八	九三
ベルギー	二、四一五	一六、五五四	七
本 本	三〇	八、一五九	二六八
オランダ	二、三八五	八、四四二	四
本 本	二、〇七四	六、八七〇	三三
オーストリア	二、〇四二	八、二九〇	二五四
本 本	八三	六、〇九〇	三〇
ポーランド	二、一七一	六、七五九	八二
本 本	九一	一三、九七八	六
スウェーデン	二、〇七九	六、八二六	七四
本 本	四四八	七、三七七	四
ギリシャ	一、三〇	六、二二一	一四
ブルガリア	一、〇三	六、四八三	五〇
本 本	四一	六、〇六七	五九
デンマーク	一、三三	四、一二五	一〇〇
本 本	四三	三、五九〇	二七
フィンランド	八九	三、六二三	八四
ノルウェー	三三八	三、九	一一
アイスランド	三三三	三、六六七	九
ラトヴィア	五五	二、八四四	四三
エストニア	六五	二、三九三	二九
アルバニア	四七	一、九三九	二四
アルバニア	四五	一、一六	三
アルバニア	四五	一、〇〇六	三

ダンチヒ自由市 (一八、九四万方杆)	四〇七	三五
ルクセンブルグ (二、五六万方杆)	二九九	一六
アイスランド (一〇万方杆)	一〇八	一
モナコ (二一方杆)	二四	一一七
サンマリノ (六一万方杆)	一三	二三
リヒテンシュタイン (一五九万方杆)	一〇	六四
アンドラ (四五二万方杆)	六	一三
北アメリカ洲		
北米合衆國	九、六八三	三六、九六九
本 本	七、八四二	一三五、六九三
メキシコ	一、八四二	一四、一九四
キューバ	一、九六九	一六、四〇四
グアテマラ	一、一四	三、九六二
エルサルバドル	一、三三	二、四五四
ニカラグア	一、二七	二、三〇〇
ホンデュラス	一、一四	一、四三七
コスタリカ	五九	一、二〇〇
パナマ	八三	七五〇
南アメリカ洲		
ブラジル	八、五三四	四〇、二七三
チリ	五	五
ペルー	六	六
エクアドル	七	七
コロンビア	八	八
ベネズエラ	九	九
ガイアナ	一〇	一〇
スリナム	一一	一一
フランス領ギニア	一二	一二
フランス領マダガスカル	一三	一三
フランス領インドネシア	一四	一四
フランス領ポリネシア	一五	一五
フランス領西インド	一六	一六
フランス領東インド	一七	一七
フランス領南インド	一八	一八
フランス領北インド	一九	一九
フランス領南アフリカ	二〇	二〇
フランス領北アフリカ	二一	二一
フランス領西アフリカ	二二	二二
フランス領東アフリカ	二三	二三
フランス領南アフリカ	二四	二四
フランス領北アフリカ	二五	二五
フランス領西アフリカ	二六	二六
フランス領東アフリカ	二七	二七
フランス領南アフリカ	二八	二八
フランス領北アフリカ	二九	二九
フランス領西アフリカ	三〇	三〇
フランス領東アフリカ	三一	三一
フランス領南アフリカ	三二	三二
フランス領北アフリカ	三三	三三
フランス領西アフリカ	三四	三四
フランス領東アフリカ	三五	三五
フランス領南アフリカ	三六	三六
フランス領北アフリカ	三七	三七
フランス領西アフリカ	三八	三八
フランス領東アフリカ	三九	三九
フランス領南アフリカ	四〇	四〇
フランス領北アフリカ	四一	四一
フランス領西アフリカ	四二	四二
フランス領東アフリカ	四三	四三
フランス領南アフリカ	四四	四四
フランス領北アフリカ	四五	四五
フランス領西アフリカ	四六	四六
フランス領東アフリカ	四七	四七
フランス領南アフリカ	四八	四八
フランス領北アフリカ	四九	四九
フランス領西アフリカ	五〇	五〇
フランス領東アフリカ	五一	五一
フランス領南アフリカ	五二	五二
フランス領北アフリカ	五三	五三
フランス領西アフリカ	五四	五四
フランス領東アフリカ	五五	五五
フランス領南アフリカ	五六	五六
フランス領北アフリカ	五七	五七
フランス領西アフリカ	五八	五八
フランス領東アフリカ	五九	五九
フランス領南アフリカ	六〇	六〇
フランス領北アフリカ	六一	六一
フランス領西アフリカ	六二	六二
フランス領東アフリカ	六三	六三
フランス領南アフリカ	六四	六四
フランス領北アフリカ	六五	六五
フランス領西アフリカ	六六	六六
フランス領東アフリカ	六七	六七
フランス領南アフリカ	六八	六八
フランス領北アフリカ	六九	六九
フランス領西アフリカ	七〇	七〇
フランス領東アフリカ	七一	七一
フランス領南アフリカ	七二	七二
フランス領北アフリカ	七三	七三
フランス領西アフリカ	七四	七四
フランス領東アフリカ	七五	七五
フランス領南アフリカ	七六	七六
フランス領北アフリカ	七七	七七
フランス領西アフリカ	七八	七八
フランス領東アフリカ	七九	七九
フランス領南アフリカ	八〇	八〇
フランス領北アフリカ	八一	八一
フランス領西アフリカ	八二	八二
フランス領東アフリカ	八三	八三
フランス領南アフリカ	八四	八四
フランス領北アフリカ	八五	八五
フランス領西アフリカ	八六	八六
フランス領東アフリカ	八七	八七
フランス領南アフリカ	八八	八八
フランス領北アフリカ	八九	八九
フランス領西アフリカ	九〇	九〇
フランス領東アフリカ	九一	九一
フランス領南アフリカ	九二	九二
フランス領北アフリカ	九三	九三
フランス領西アフリカ	九四	九四
フランス領東アフリカ	九五	九五
フランス領南アフリカ	九六	九六
フランス領北アフリカ	九七	九七
フランス領西アフリカ	九八	九八
フランス領東アフリカ	九九	九九
フランス領南アフリカ	一〇〇	一〇〇

アフリカ洲

アルゼンチン	二、九七	一、六五八	四四
コロンビア	一、八三	七、八五	六四
ペルー	一、三八二	六、二〇〇	四六
チリ	七四二	四、三五一	二六
ボリビア	一、三三三	二、九七七	二二
ヴェネズエラ	一、〇二〇	三、一五二	三二
エクアドル	四五一	一、九四一	六
ウルグアイ	一八七	一、九七五	一〇
パラグアイ	四一八	八四四	二〇
エチオピア	九八九	一四、八二	一五
エジプト	八〇〇	二、五〇〇	一四
リベリア	九五	二、〇〇〇	二

在外邦人

總數	四、四一、三七	八、三三、五三
アフリカ洲	九三、〇三三	一、七、四六
ヨーロッパ	三、九二四	一、四、九、〇七
北アメリカ洲	二八、一七二	一、〇三、七五
南アメリカ洲	一九三、四二二	五、五、〇六四
アフリカ洲	一五五	三、二、八二
大洋洲	二、六七七	三〇、三九三

昭和八年十月一日

本邦の移民

フィリピン	二、〇四九	英領印度	一、四三
蘭領印度	六、四九	香港	一、四八
馬來聯邦	五、七九	ドイッチ	一、二二
アルゼンチン	五、三四	キユー	七六
メキシコ	五、九七	フランス	六、六
濠洲及新西蘭	二、六七	チリ	六、五
ソヴィエト聯邦	二、八五	ボリビア	六、七
イギリス	一、六〇四		

昭和八年度

本邦在留外國人

總數	二九、二六八	英領印度	三七
中華民	一九、九三三	カナダ	三〇四
アメリカ	二、〇三九	スウェーデン	三〇三
イギリス	一、九四四	ポルトガル	一五八
ソヴィエト聯邦	一、四七九	オランダ	一元
ドイッチ	一、二八	イタリア	一元
フランス	四九二	満洲	一元
ブラジル	三、三九	海峽植民地	三三
ソヴィエト	一、〇五	アルゼンチン	一五
フィリピン	九四	ボルネオ・サラワク	一三
蘭領東印度	四八	メキシコ	九
ペルー	四八		八五

昭和八年度



# 高山及び名山

△印は火山  
理科年表による

名稱	所在地	高さ(米)
新高山	臺中、臺南、高雄	三九〇
次高山	新竹、臺中	三九三
秀姑巒山	(ボラス山)臺中、花蓮港	三八三
ウラモン山	臺中、花蓮港	三八六
南湖大山	臺北、臺中、花蓮港	三九七
富士山△	靜岡、山梨	三七八
中央尖山	臺中、花蓮港	三九五
關山	臺東、高雄	三六七
大水窟山	花蓮港、高雄	三六四
奇萊主山北峯	花蓮港、臺中	三六五
東郡大山	臺中	三六五
大雪山	新竹、臺中	三六〇
大霸尖山	新竹	三六三
雲峰	花蓮港、高雄	三六九
東嶺大山	臺中	三六五
北合歡山	臺中、花蓮港	三六九
桃山	臺北、新竹、臺中	三六九
シンカン山	花蓮港	三六八
畢祿山	臺中、花蓮港	三六九
丹大山	臺中、花蓮港	三六九
能高山南峰	臺中、花蓮港	三九〇
南双頭山	花蓮港、高雄	三九三
卑南主山	臺東、高雄	三九五
白根山	北、山梨、靜岡	三九二
槍ヶ嶽	山梨、靜岡	三九二
惡澤嶽	靜岡	三九二
赤石嶽	長野	三九二
穗高嶽	奥穂高嶽、長野、岐阜	三九〇
唐澤嶽	長野、岐阜	三九三
荒川嶽	中、靜岡	三九三
御嶽	(剣ヶ峰)△岐阜	三九三
鹽見嶽	長野、靜岡	三九七
仙丈ヶ嶽	長野、山梨	三九三
乗鞍ヶ嶽△	長野、岐阜	三九三
立山△	富山	三九五
聖嶽	長野、靜岡	三九二
駒ヶ嶽	富山	三〇〇三
黒嶽	(水晶山) 富山	二九六〇
駒ヶ嶽	(甲斐) 長野、山梨	二九六六
駒ヶ嶽	(木曾) 長野	二九六六
白馬嶽	長野、富山	二九三三
藥師ヶ嶽	富山	二九六六
野口五郎嶽	長野、富山	二九四四
鷲ヶ嶽	長野、富山	二九三三
大天井嶽	長野	二九三三
白馬鑓ヶ嶽	長野、富山	二九三三
八ヶ嶽	赤嶽△ 長野、山梨	二八八〇
笠ヶ嶽	阿彌陀嶽 長野、山梨	二八八七
鹿島鎗嶽	(肩ヶ嶽) 長野、富山	二八八〇
立山別山	富山	二八八〇
前駒ヶ嶽	(空木嶽) 長野	二八八〇
赤牛嶽	(富山) 長野、岐阜	二八六二
双六嶽	長野、岐阜	二八六〇
常念嶽	長野	二八五七
三ッ嶽	長野、富山	二八五五
南駒ヶ嶽	長野	二八四二
三俣蓮華嶽	長野、岐阜、富山	二八四一

鳳凰山	山梨	二八四	鳥海山△	秋田、山形	三三〇	阿蘇山	熊本	一五九二
黒部五郎嶽	(中ノ保嶽)富山、岐阜	二八四	惠那山	長野、岐阜	二九〇	八甲田山△	青森	一五八五
惠比須嶽	岐阜	二八三	十勝嶽	北海道	二〇七	大白山	慶尚北、江原	一五六一
針ノ木嶽	長野、富山	二八二	狼尾嶽	平安南北	二〇四	新知嶽△	千島	一五三八
杓子嶽	富山	二八〇	岩手嶽	岩手	二〇四	水嶽	鳥取	一五二〇
大澤嶽	長野、富山	二八〇	石槌山	愛媛	一九八	榛名山	群馬	一四八八
拔戸嶽	岐阜	二八三	石狩嶽	北海道	一九八〇	箱根山	神奈川、靜岡	一四三九
東天井嶽	長野	二八二	月山△	山形	一九八〇	伊吹山	滋賀	一三七七
上河内嶽	長野、靜岡	二八二	吾妻山△	福島	一九五五	敷香嶽	樺太	一三七五
小河内嶽	長野、靜岡	二八二	那須嶽△	徳島	一九五五	鶴見嶽△	大分	一三七五
白頭山△	成鏡、南北	二七四	智異山	栃木	一九七	温泉嶽△	長崎	一三六〇
白根山△	石川、岐阜	二七二	戸隠山△	慶尚南	一九七			
浅間山△	(日光)△栃木	二五七	妙高山△	長野	一九一	由良山	滋賀	二七四
冠帽峰	成鏡北道	二五二	羊蹄山△	平安北	一九〇	櫻島△	鹿児島	二二八
冠科山△	長野	二五〇	磐梯山△	群馬	一八九	背振山	福岡、佐賀	二〇五五
二荒山△	(男體山)△、栃木	二四八	九重山△	福島	一八九	金剛山	奈良	二〇二二
硫黄ヶ嶽(燒嶽)	長野、岐阜	二四八	大島山△	大分	一七三	高野山	和歌山	九〇一
妙高山△	新潟	二四八	霧島山△	(苗耆富士) 鳥取	一七三	筑波山	茨城	八六八
燒嶽	新潟	二四八	金剛山△	宮崎、鹿児島	一七〇	比叡山	京都	八三三
燧ヶ嶽△	福島	二四八	駒ヶ嶽△	江原道	一六六	大江山	京都	八〇四
四阿山△	群馬、長野	二四三	岩木山△	秋田	一六三	三原山△	大島	七五五
大雪山△	(旭嶽)△北海道	二四〇		青森	一六三	三笠山	奈良	三三三



# 主なる河川

名	源	流	長	面積
鴨綠江	(平安北)	遼東地方	740	37,700
洛東江	(全羅北)		555	33,800
豆満江	(咸鏡北)		551	19,530
漢江	(京畿)		540	26,270
大同江	(江黃海)		490	16,630
錦江	(京畿)		480	9,860
信濃川	(新潟)		470	11,200
利根川	(茨城、千葉)		460	11,200
天鹽川	(北海道)		450	11,200
臨江	(京畿)		440	11,200
北江	(宮城)		430	11,200
吉野川	(三重)		420	11,200
木曾川	(山形)		410	11,200
最上川	(山形)		400	11,200
天龍川	(静岡)		390	11,200
蟾津江	(慶尚南)		380	11,200
江ノ川	(平安南)		370	11,200
清江	(島根)		360	11,200
十勝川	(北海道)		350	11,200
阿武隈川	(宮城)		140	4,800
荒川	(東京)		130	3,300
渡川	(高知)		120	3,200
禮成江	(江原)		110	3,100
阿賀野川	(新潟)		100	3,000
濁水溪	(臺中)		90	2,900
富士川	(静岡)		80	2,800
新宮川	(和歌山)		70	2,700
南大川	(和歌山)		60	2,600
下淡水溪	(高雄)		50	2,500
大寧江	(平安北)		40	2,400
雄物川	(秋田)		30	2,300
常呂川	(北海道)		20	2,200
筑後川	(福岡)		10	2,100
相模川	(神奈川)		9	2,000
能代川	(秋田)		8	1,900
古井川	(岡山)		7	1,800
龍興江	(咸興南)		6	1,700
紀ノ川	(和歌山)		5	1,600
仁淀川	(高知)		4	1,500
曾文溪	(高雄)		130	4,800
淡水河	(新竹)		120	3,300
戰寧江	(黃海)		110	3,200
神通川	(富山)		100	3,100
那珂川	(茨城)		90	3,000
多摩川	(東京)		80	2,900
矢作川	(愛知)		70	2,800
大甲溪	(臺中)		60	2,700
榮山江	(全羅南)		50	2,600
球磨川	(熊本)		40	2,500
八獎溪	(臺南)		30	2,400
九頭龍川	(福井)		20	2,300
高梁川	(岡山)		10	2,200
馬淵川	(青森)		9	2,100
大湊川	(宮崎)		8	2,000
五箇瀬川	(宮崎)		7	1,900
城川	(咸鏡南)		6	1,800
岩木川	(青森)		5	1,700
加古川	(兵庫)		4	1,600
秀姑巒溪	(花蓮港、臺東)		3	1,500
卑南溪	(臺東)		2	1,400
大安溪	(新竹、臺中)		1	1,300
淀川	(大阪)		0	1,200

# 主な湖沼

×印は鹹湖

名	源	流	長	面積
琵琶湖	(滋賀)		70	37,700
八郎潟	(秋田)		60	33,800
霞ヶ浦	(茨城)		55	19,530
多摩湖	(樺太、敷香)		54	16,630
富内湖	(樺太、大泊)		51	16,630
猿潤湖	(北海道)		49	9,860
猪苗代湖	(福島)		48	11,200
中海	(鳥取、島根)		47	11,200
宍道湖	(島根)		46	11,200
屈斜路湖	(北海道)		45	11,200
支笏湖	(膽振)		44	11,200
濱名湖	(静岡)		43	11,200
洞爺湖	(北海道)		42	11,200
小田原沼	(青森)		41	11,200
十和田湖	(秋田、青森)		40	11,200
能取湖	(北海道)		39	11,200
風蓮湖	(根室)		38	11,200
遠淵湖	(樺太)		37	11,200
北浦	(新潟)		36	11,200
來知志湖	(樺太)		35	11,200
和愛湖	(樺太、大泊)		140	4,800
網走湖	(北海道)		130	3,300
厚岸湖	(北海道)		120	3,200
印播湖	(秋田)		110	3,100
田澤湖	(秋田)		100	3,000
幽仙湖	(石川)		90	2,900
河北湖	(石川)		80	2,800
高砂湖	(高砂)		70	2,700
十三湖	(青森)		60	2,600
伊庭内湖	(北海道)		50	2,500
武魯湖	(千島)		40	2,400
頓別湖	(北海道)		30	2,300
諏訪湖	(長野)		20	2,200
廣浦	(朝鮮)		10	2,100
阿寒湖	(北海道)		9	2,000
湖沼	(茨城)		8	1,900
幸ノ湖	(中禪寺)		7	1,800
手賀沼	(千葉)		6	1,700
池邊湖	(樺太)		5	1,600
池田湖	(鹿兒島)		4	1,500

# 主な長橋

名	長
潮州線	九曲堂—六塊厝(下淡水溪)
羽越線	新津—水原(阿賀野川)
東海道線	中泉(天龍川)
吉野川橋	德島縣(吉野川)
東海道線	島田—金谷(大井川)
關西線	長島—桑名(揖斐川)
大根橋	(利根川)
常磐線	我孫子—取手(利根川)
新義州—安東縣	(鴨綠江)
東北線	赤羽—川口市(荒川)



ア  
ジ  
ア  
洲

ヨーロッパ

アフリカ洲

南  
ア  
メ  
リ  
カ  
洲

太  
洋  
洲

南極地方

ア  
ジ  
ア

(理科年表)



# 世界の主な湖沼

名稱	所在地	面積平方軒	最深(米)
カスピ海(鹹湖)	アジア、ヨーロッパ	四八、〇〇〇	九、〇〇〇
スベリオル	北アメリカ	八三、〇〇〇	三〇七
ヴィクトリア	東アフリカ	六八、〇〇〇	九
アラール(鹹湖)	中央アジア	三〇、〇〇〇	六
ビユー(ジョルジャ)	北アメリカ	五、五〇〇	二二三
ロン(海を含む)	北アメリカ	五、八五〇	二六五
ミシガン	北アメリカ	五、八五〇	一五三
バイカル	シベリア	三三、〇〇〇	一五三

# 世界の主な長橋

所在地	(架設河海)	長さ(米)
ヘル・ゲート	(ニューヨーク)	五、五五五
ツエルナブオダ	(ドナウ河)	三、九〇二
テキサス	(ガルヴェストン湾)	三、九〇〇
カイロ	(北米オハイオ河)	三、二九〇
ダンデー	(イギリステール河)	三、二四〇
ニューヨーク	(ハドソン河)	三、一八〇
鄭州の北	(京漢線、黄河)	三、〇〇〇

# 内外の主なトンネル

名稱	所在地	長さ(米)
ハンチントン湖	(北米加州)	二、七六〇
シンブロン	(アルプス)	二、〇四四
サン・ゴタルド	(同)	一四、九八〇
レツチベルグ	(同)	一四、六〇六
ニューカスケード	(北米)	一三、一七〇
アブリ水道	(アベニン)	一三、七三〇
モン・スニ	(西アルプス)	一三、三三三
アールベルグ	(オーストリア)	一〇、二七〇
モフアツト	(北米)	九、九八〇
清	(上越線)	九、七〇三
ガニソン	(北米コロラド)	九、六六〇
リツケン	(スイス)	八、六四四
ミュンスタール	(同)	八、五五五
タウエルン	(東アルプス)	八、五五〇
アーサー峠	(ニュージーランド)	八、四五〇
ギオビ	(イタリア)	八、二七〇
ハウエンスタイン	(スイス)	八、一五五
コル・デ・テンダ	(イタリア)	八、〇〇〇
コノート	(カナダ)	八、〇〇〇
カラワケン	(東アルプス)	八、〇二六
丹那	(東海道線)	七、八〇七

# 世界の主な運河

名稱	所在地	長さ(軒)	幅(米)	深(米)
スエズ	(エジプト)	一六	一〇一	一〇・五
キール	(ドイツ)	九	一三〇	一一
パナマ	(中央アメリカ)	九三	一六七	一三・七
エルベ及トラブ	(獨逸)	一三	一三	三
マンチエスター	(英)	五	一三	七・九
ウエラント	(カナダ)	一三	一三	四
スクル	(印度)	三	一	一
北海	(オランダ)	二六・五	二六	七
クロンスタット	(露)	二五・七	二七	六・三
ニングラード	(露)	二五・七	二七	六・三
白海バルチ	(露)	三・七	一	一
ク運河				

# 世界の主な深海

名稱	所在地	最深(米)
エムデン海淵	ミンダナ島沖	一〇、七九三
マリヤナ海溝	太平洋中	九、八四〇
日本海溝	太平洋中	九、四三五
ケルマデック海溝	太平洋中	九、四二七
バラオ海溝	(同)	八、三三八

# 列國の鐵道(一九三二年)

帝國	總延長	面積平方軒に付	人口一萬人に付
アメリカ	四三、三三	五・四	三三・〇
ソヴィエト	八、五〇	〇・四	四・八
印度(英領)	六、二一	一・五	二・〇
カナダ	六、二五	〇・七	六・〇
ドイツ	五、九三	一・二	八・二
フランス	四、五八	〇・六	六・一
アラゼンチン	四、〇〇	七・六	一〇・一
ブラジル	三、八五	一・四	一・一
イギリス	三、八三	〇・四	八・九
メキシコ	三、一八	一・三	七・一
イタリ	三、一八	一・五	一七・八
南阿聯邦	三、七九	七・三	五・五
中華民	一、九六	一・八	二七・一
關東州	二・六二	〇・二	〇・四
朝鮮	三・二六	九・二	六・七
臺灣	三・二六	九・二	六・七
滿洲	三・二六	九・二	六・七
關東州	二・六二	〇・二	〇・四

# 列國の自動車(一九三四年)

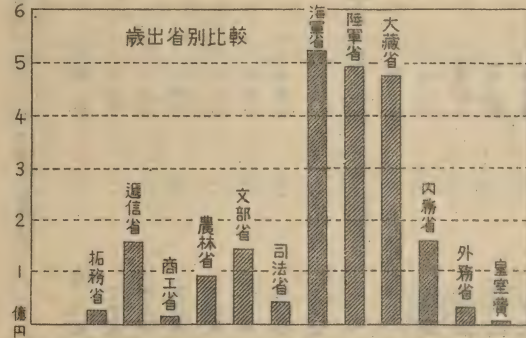
帝國	總數	乗用車	一萬人に付
アメリカ	一、九〇、三三	一、八〇、三三	一六・〇
フランス	一、八〇、三三	一、八〇、三三	一八・七
イギリス	一、七五、〇三	一、七五、〇三	一五・八
カナダ	一、〇八、二二	一、〇八、二二	一五・一
ドイツ	八、六八、三六	八、六八、三六	一三・三
イタリア	五、八二、〇九	五、八二、〇九	一四・六
アラゼンチン	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
ブラジル	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
メキシコ	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
イタリ	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
南阿聯邦	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
中華民	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
關東州	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
朝鮮	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
臺灣	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
滿洲	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九
關東州	三、七九、六六	三、七九、六六	一四・九



# 帝國の財政

昭和十年度の豫算(單位百萬圓)

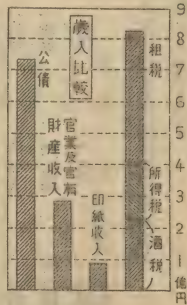
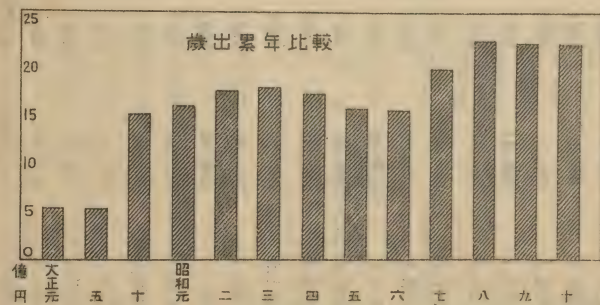
皇	外	内	大	陸	海	司	文	農	商	遞	拓	合
室	務	務	藏	軍	軍	法	部	林	工	信	務	
費	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	省	
別												
四・五	四・七	一六・四	四七・三	四七・三	四七・三	五九・七	三八・二	一四・二	九・五	一三・五	一八・九	二・六
二・九	四・四	二・六	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九	二・九



最近の國債 (單位千圓)

4月1日	現在高
昭和5年	5,959,457
6年	5,955,816
7年	6,187,657
8年	7,054,195
9年	8,139,035

經常部	租稅	八六・七
經常部	印紙收入	八・二
經常部	官業及官有財産收入	二六・四
其他	計	一三・六
臨時部	計	一三・六
普通歳入	計	一三・六
公債	計	一三・六
前年度繰越	計	一三・六
合計	計	一三・六



列國の航空(一九三三年末)

國	飛行機	操縦士	飛行場
帝	一五三	五九	一八
アメリ	九、六四	一、三〇	二、〇七
フラン	一、六四	一、四四	一、〇一
ドイ	一、〇七	二、五〇	三・三
イタ	一、〇五	三・一	三・七
イタ	三・三	七・八	三・七
カナ	三・三	八・九	三・七
ポ	三・三	六・七	三・七
ス	一・三	一・一	一・一
ベル	一・三	一・一	一・一
ス	一・三	一・一	一・一
メ	一・三	一・一	一・一
ス	一・三	一・一	一・一
チ	一・三	一・一	一・一
デン	一・三	一・一	一・一
印	一・三	一・一	一・一
オ	一・三	一・一	一・一
ス	一・三	一・一	一・一
新	一・三	一・一	一・一
南	一・三	一・一	一・一
イ	一・三	一・一	一・一
ペ	一・三	一・一	一・一

列國の船舶(一九三四年六月)

國	汽船隻數	噸數
帝	一、四三	四、〇四九
イタ	九、八〇	三〇、〇七九
アメリ	三、三八	一、二、一、九八
ノル	一、九四	三、九〇、一〇一
ドイ	二、〇三	三、六〇、三三
ス	一、四九	三、五九、九四
イタ	一、〇一	二、八五、一八
オ	一、〇七	二、六二、三三七
ス	一、〇九	一、五九、七、三四
イタ	五、五〇	一、五〇、七、六〇
イタ	六・三	一、六四、四・九
デン	六・六	一、一〇、七・六
ソ	四・九	九・三九、三・八
アラ	二・九	四・四、五・四
ベル	一・三	四・三、三・三
アル	一・三	三・六、一・五
フィン	一・三	三・六、一・五
中	一・三	三・六、一・五
華	一・三	三・六、一・五
民	一・三	三・六、一・五
國	一・三	三・六、一・五







列國の郵便貯金（一九三三年・單位千圓）

南洋	關東州	樺太	臺灣	朝鮮	內地	帝國	帝
一、八八三	三、九八六	一、九二六	一、九〇七	四、〇八七	二、八〇九、九一二	二、九九九、四四五	
一八、三三六	三、九七、七〇	一五、七五	五、一四八二	二、八〇、六英	三、七、七三、二八七	四、六三、五、〇六	
一〇三	八八	五九	一六	七五	七〇		
							預入金額
							預入人數
							預入人數
							金額
							圓單位
							一人當位

列國の貨幣

英	國	四、八二、二〇〇	九、四八、〇〇〇	五、〇
佛	國	四、八〇、九七七	九、八七、六四一	四、八九
伊	國	四、二八、八八四	九、八三、八八四	四、〇三
米	國	三、九六、八八六	二、四九、三〇四	一、五八〇
濠	洲	一、六三、四四四	一、八三、九、七四	八七一
ペ	ー	一、四〇、六六八	五、三五、五五〇	二、六三
オ	ー	一、〇七、六六〇	二、二六、六六六	四、七五
新	蘭	七、四二、六八三	七、九八、三三三	五、一
印	度(英領)	五、九〇、五五〇	二、七九、六四四	一、九〇
瑞	典	三、六八、六三三	一、七〇、七七一	三、二
ポ	ー	二、九〇、五五一	一、五五、六六六	三、五三
南	阿	一、八九、一〇四	五、四〇、三九	三、四九
アル	ゼン	一、〇三、四二二	一、五五、五三三	六、七

國名	單位名	邦價との平價比	國名	單位名	邦價との平價比
日本	圓	1.0000	フィンランド	マルカ	0.0553
滿洲國	國幣圓	1.1100	瑞西	フラン	0.8710
中華民國	國幣弗	1.10000	チエツコ	コルナ	0.0949
印度(英領)	ルビー	0.7333	塊地利	シルリング	0.2839
シヤム	バート	0.8757	ハンガリー	ペンゲ	0.3506
蘭領印度	グルデン	0.8640	ギリシヤ	ドラクマ	0.0606
イラン	リヤル	0.0733	埃及	埃及磅	0.9256
トルコ	ポンド	8.8104	米國	ドル(弗)	1.1840
英	國磅(ポンド)	9.2538	カナダ	ドル	0.067
佛	國フラン	0.066	メキシコ	ペソ	1.0000
獨逸	ライヒス (マルク)	0.0479	キューバ	ペソ	0.067
伊	國リラ(利)	0.059	コスタリカ	コロン	0.0154
ベルギー	ベルガ	0.249	グアテマラ	ケツアル	0.067
オランダ	グルデン	0.8640	ニカラガ	コルトバ	0.067
デンマーク	クローン	0.5763	パナマ	バルボア	0.067
瑞典	クラナ	0.067	コロンビア	ペソ	0.067
ノルウエイ	クラナ	0.067	ボリビア	ボリビアン	0.067
イスパニア	ペセタ	0.067	ペル	ソール	0.067
ポルトガル	エスクド	0.067	チリ	ペソ	0.067
露	國ルーブル(留)	0.067	ブラジル	ミルレイス	0.067
ポーランド	ズロテイ	0.067	アルゼンチン	ペソ	0.067

帝國の貿易（單位百萬圓）

貿易額	差額(入超)	輸入	輸出	總額	
六圓	九七	五九	六三三	一五二	大正二年
七圓	三八八	三三六	一九四	四六四	大正九年
八圓	二五七	二二六	二五五	四八六	大正十四年
六九圓	六七	一九七	二四九	四四五	大正十五年
五圓	五六	二八二	一八六	三七六	昭和八年
空圓	一〇〇	三六三	三三七	四三六	昭和九年

重要輸出品  
(單位千圓)

綿織物	三六、五七	昭和八年	昭和九年
生絲	六五、五六	三〇、〇一	四九、三三
人絹織物	—	七、六三	二六、六四
絹織物	一五、八四	六三、四五	二三、四八
機械同部分品	九、六三	二五、八五七	七、七五七
鐵	六、五四	三四、六六六	五、〇五
罐壇詰食料品	七、九九	四、六四	四九、一五
メリヤス製品	二、〇〇	四、〇四七	四六、八八
陶磁器	二五、四七	五、六四	四、八七
鐵製品	二、八〇五	六、八九	五、三三
玩具	八、三〇〇	六、三五	五、五六
毛織物	二、八七	一一、五七	元、八四
小麥粉	一、八四	四、五五	二、四四

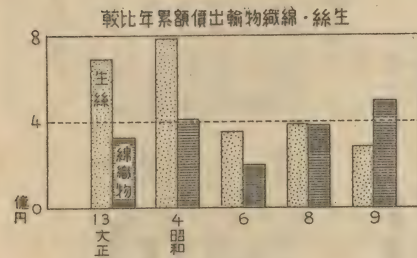
重要輸入品（單位千圓）

重要輸入品 (單位千圓)	
木綿織絲	一三、六六六
人絹絲	一〇九、六六一
履物	—
紙類	一、九八三
硝子及同製品	一五、五七七
自轉車	一三、七六六
水產物	七五五
帽	二二、四八九
其他	四、八八八
總計	一、八〇七、〇五五
棉花	六五、二五五
羊毛	八八、〇四四
鐵銑鐵(を除く)	一六、八七五
鑛油	六〇、六三三
機械同部分品	一八、五三三
生ゴム	二五、三三二
豆類	六〇、八九〇
石炭	二九、一六七
製紙用パルプ	一〇、六三四
油精	一〇三、六四六
小麥	七三、八九七
木綿織絲	一八、六六六
人絹絲	一五、七二二
履物	九、四八三
紙類	二九、六三〇
硝子及同製品	一七、六八七
自轉車	一五、三三七
水產物	二二、一四四
帽	一〇、四〇二
其他	一三、九三七
總計	一、八六六、〇六六
棉花	六〇、四八四
羊毛	二四、一五五
鐵銑鐵(を除く)	二二、〇四三
鑛油	一八、八八九
機械同部分品	七、五五八
生ゴム	二九、六八五
豆類	五〇、三三五
石炭	二六、六五七
製紙用パルプ	二七、〇六六
油精	四一、八一
小麥	四三、八四四
棉花	五五、二五五
羊毛	一六、四四四
鐵銑鐵(を除く)	一四、〇五五
鑛油	一四、〇七七
機械同部分品	九、〇三三
生ゴム	二五、三三二
豆類	五、八六八
石炭	四七、一五七
製紙用パルプ	四三、五五五
油精	四三、〇五五
小麥	四〇、七五五





本邦重要輸出入品圖解

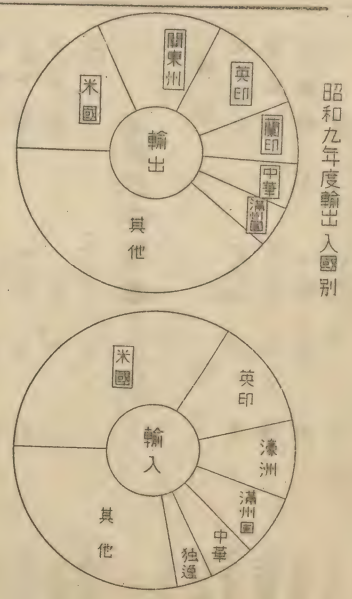


品名	昭和十三年	昭和八年	昭和九年
木材	1,200,000	1,200,000	1,200,000
自動車	3,100,000	3,100,000	3,100,000
飼料	1,100,000	1,100,000	1,100,000
銅	3,100,000	3,100,000	3,100,000
鉄	3,100,000	3,100,000	3,100,000
錫	3,100,000	3,100,000	3,100,000
鉛	3,100,000	3,100,000	3,100,000
水産物	3,100,000	3,100,000	3,100,000
採油用種子	3,100,000	3,100,000	3,100,000
麻	3,100,000	3,100,000	3,100,000
其他	3,100,000	3,100,000	3,100,000
計	1,200,000	1,200,000	1,200,000

相手国	大正十三年	昭和八年	昭和九年
亞細亞洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
北アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
ヨーロッパ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
アフリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
太平洋洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
南アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
中央アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
アメリカ	1,200,000	1,200,000	1,200,000
關東洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
英領印度	1,200,000	1,200,000	1,200,000
蘭領印度	1,200,000	1,200,000	1,200,000
中華民国	1,200,000	1,200,000	1,200,000
イギリス	1,200,000	1,200,000	1,200,000
滿洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
エジプト	1,200,000	1,200,000	1,200,000
海峽植民地	1,200,000	1,200,000	1,200,000
フランシス	1,200,000	1,200,000	1,200,000
フィリッピン	1,200,000	1,200,000	1,200,000
香港	1,200,000	1,200,000	1,200,000

帝國の相手國別貿易 (單位千圓)

品名	昭和十三年	昭和八年	昭和九年
北アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
亞細亞洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
ヨーロッパ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
アフリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
南アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
中央アメリカ洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
アメリカ	1,200,000	1,200,000	1,200,000
英領印度	1,200,000	1,200,000	1,200,000
蘭領印度	1,200,000	1,200,000	1,200,000
中華民国	1,200,000	1,200,000	1,200,000
滿洲	1,200,000	1,200,000	1,200,000
エジプト	1,200,000	1,200,000	1,200,000
海峽植民地	1,200,000	1,200,000	1,200,000
フランシス	1,200,000	1,200,000	1,200,000
フィリッピン	1,200,000	1,200,000	1,200,000
香港	1,200,000	1,200,000	1,200,000



米國との貿易 (昭和九年・單位千圓)

品名	昭和九年
生絲	3,100,000
絹織物	3,100,000
織物	3,100,000
其他	3,100,000
計	3,100,000



# 英領印度との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 七、三三	棉 花 千圓 三、四三
人絹織物 千圓 三、四三	鉄 千圓 七、九三
絹織物 千圓 三、〇七	麻及其の他 千圓 四、八四
綿織物 千圓 二、三三	植物纖維 千圓 一、〇〇
メリヤス製品 千圓 八、五〇	其の他 千圓 一、〇〇
計 千圓 三、三三	計 千圓 二、六三

# 満洲國及關東州との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 五、九七	豆 類 千圓 五、七五
機械同部分品 千圓 四、六六	油 類 千圓 五、五五
鐵 類 千圓 四、六六	石 炭 千圓 五、五五
小麥粉 千圓 二、七六	鉄 千圓 一、八八
鐵製品 千圓 二、九〇	採油用種子 千圓 一、〇四
其の他 千圓 一、〇三	其の他 千圓 一、〇三
計 千圓 一、〇三	計 千圓 一、〇三

# 中華民國との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 一、三〇	棉 花 千圓 一、五、六三

# 英國との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
罐詰詰食料品 千圓 三、三三	機械類 千圓 一、五、〇五
生 絲 千圓 一、三三	鐵(鉄鐵を除く) 千圓 二、九七
絹織物 千圓 一、〇、八八	毛織物 千圓 五、〇二
メリヤス製品 千圓 七、六三	計 千圓 七、〇七
豆 類 千圓 六、三三	
計 千圓 一、〇、八八	

# 獨逸との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
魚油及鯨油 千圓 一、四三	機械類 千圓 三、八八
その他 千圓 一、四三	硫 安 千圓 二、六〇
計 千圓 一、九、六七	計 千圓 一、九、六四

# エジプトとの貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 一、〇〇	棉 花 千圓 一、〇〇
人絹織物 千圓 一、〇〇	燐 石 千圓 一、〇〇
メリヤス製品 千圓 一、〇〇	
その他 千圓 一、〇〇	
計 千圓 一、〇〇	

機械同部分品	採油用種子
精 糖 千圓 九、六九	二、二五
紙 類 千圓 六、九〇	麻及植物纖維 千圓 一〇、七〇
鐵 類 千圓 六、五三	炭 千圓 八、七二
その他 千圓 四、九七	石 炭 千圓 六、八八
計 千圓 二、七、六三	計 千圓 二、九、五三

# 蘭領印度との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 八、八六	鑛 油 千圓 五、六六
人絹織物 千圓 一、〇、〇六	生 ゴム 千圓 一、四、四四
鐵製品 千圓 五、〇五	砂 糖 千圓 九、六六
メリヤス製品 千圓 四、三三	木 材 千圓 二、一五
その他 千圓 一、五、四一	計 千圓 六、三、四四
計 千圓 一、五、四一	

# 満洲との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
人絹織物 千圓 一、六、九七	羊 毛 千圓 一、五、四四
綿織物 千圓 一、四、六四	小 麥 千圓 二、〇三
絹織物 千圓 八、八四	牛 脂 千圓 三、五八
生 絲 千圓 四、〇七	
その他 千圓 一、〇三	
計 千圓 一、〇三	

# フランスとの貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
生 絲 千圓 一〇、三三	機械類 千圓 三、三三
絹織物 千圓 二、七三	
その他 千圓 一、三三	
計 千圓 一、三三	

# カナダとの貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
陶磁器 千圓 一、〇八	木 材 千圓 九、四七
米及穀 千圓 一、二五	小 麥 千圓 八、一〇
その他 千圓 一、二五	鉛 千圓 七、四六
計 千圓 一、二五	バルブ 千圓 七、四六

# 海峽植民地との貿易 (昭和九年)

輸出	輸入
綿織物 千圓 一、七、九四	生 ゴム 千圓 一、〇、六三
人絹織物 千圓 三、四三	錫 千圓 八、七三
絹織物 千圓 三、九六	
石 炭 千圓 二、〇三	
その他 千圓 一、〇三	
計 千圓 一、〇三	



帝國の港別貿易（昭和九年・單位千圓）

博	伏	釜	室	尾	三	新	青	武	長	小	德	清	函	四	若	門	名	横	大	神
多	木	石	蘭	崎	池	湯	森	豐	崎	樽	山	水	館	市	松	司	屋	濱	阪	戶
道	絲																			

總額	輸出	輸入
一、八二、一五	七〇、六二	九一、五三
一、〇九、四六	五八、八〇	五三、九〇
一、〇七、五七	四九、〇一	五七、三六
一〇四、〇五	二五、五五	八、五三
一五、八九	五、九四	一、三六
七、七三	三、四七	四、二六
六、〇八	六、八三	五七、六九
四、五五	五、七六	一五、七五
三、九六	一四、〇五	一六、八五
三、二六	一四、〇五	三〇、一五
二、九六	三、七四	四、二四
三、一〇	五、八六	一六、三三
二、七三	三、〇〇	一三、五五
二、一五	六、三三	五、八〇
九、六六	一、五五	九、六六
八、五九	六、四三	三、九六
七、九三	五、九三	七、九三
六、〇四	九、六六	五、〇五
五、八六	一、〇三	四、八五
五、八三	二、一六	三、六七

總	濱	嚴	宮	口	真	大	住	萩	七	夷	唐	那	船	境	根	鹽	三	字	今	銅	下	鹿	敦
額	田	原	津	津	岡	泊	江	尾	港	津	霸	川	室	釜	角	野	治	路	關	島	賀	兒	

四、四四、四六	二、七、九三	二、六、三三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三	二、七、九三
---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

神戸港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出	輸入
二六、五五	四、五五
二、七三	一、八〇
八、一五	七、九三
三、八六	三、〇〇
一、三、五〇	一、三、五〇
二、一〇	二、一〇
八、五三	八、五三
七、五〇	七、五〇
二、四〇	二、四〇
計	計
一、〇二	一、〇二

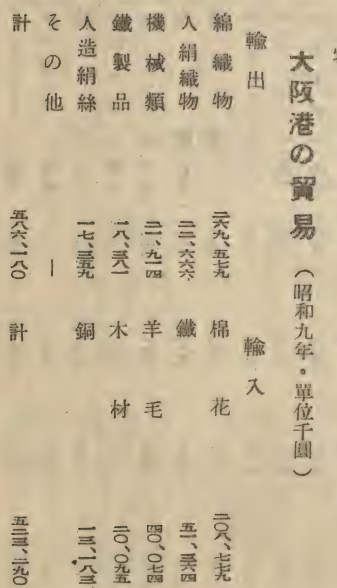


横濱港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出	輸入
一〇四、六四	五七、四四

大阪港の貿易（昭和九年・單位千圓）

輸出	輸入
三、六九	二、八七
二、六六	二、六六
二、九四	二、九四
一、八一	一、八一
一、七五	一、七五
計	計
五、六、一八	五、六、一八





（一九三三年度 單位百萬圓）  
世界十五位迄

總額	輸出	輸入	差額	輸入超過
イギリス	一六、四四六	一〇、三三四	▲四、一九三	▲八三
アメリカ	二二、六五五	五、六四一	▲一七、〇一四	七五
獨逸	一〇、六五五	四、九四五	▲五、七〇〇	▲一、九七
フランス	九、三三三	五、六〇七	▲三、七二六	▲五五
オランダ	三、八八六	二、四二二	▲一、四六四	▲三八
ベルギー	三、八八六	二、〇三三	▲一、八五三	▲四三
日本	三、七七八	一、九七	▲一、八一	三七三
カナダ	三、五五五	一、四九	▲二、〇六	▲六五〇
印度(英領)	三、五五五	一、四九	▲二、〇六	九四
伊太利	三、一七六	一、九四	▲一、二三	▲七〇
歐洲	二、七五五	一、八二九	▲八二六	一、五八
瑞西	二、五五五	一、八二九	▲六二六	七七
南亞聯邦	二、五五五	一、八二九	▲六二六	一、四九
中華民國	二、五五五	一、八二九	▲六二六	▲八七
瑞典	一、六三三	九二七	▲七〇六	▲八

列國の主要貿易港 (單位百萬圓)

年次	總額	輸出	輸入
一九三三	五、四五一	二、六五五	二、九八
一九三二	五、二七	一、四〇〇	三、八七
一九三一	四、〇八六	一、七五五	二、三三

(單位百萬圓)

リヴァプール(英)	一九三三	二、三三九	一、一〇六
シンガポール(海峽)	一九三三	一、九六六	九、九六
神戸(日本)	一九三三	一、五九二	九、九一
マルセイユ(佛)	一九三三	一、三九九	七、六
上海(中華)	一九三三	一、一五八	三、七
大阪(日本)	一九三三	一、〇九六	八、九
横濱(日本)	一九三三	一、〇三八	五、三
モントリオール(加)	一九三三	九、九	四、九〇
ハルビン(英)	一九三三	八、〇	二、六九
ルアーヴル(佛)	一九三三	七、〇四	二、三〇
大連(日本)	一九三三	七、〇一	三、七
ニューヨーク(米)	一九三三	六、九三	四、五八
サザンブトン(英)	一九三三	六、六六	三、九六
カルカッタ(印)	一九三三	六、六六	三、〇〇
マンチエスター(英)	一九三三	六、〇七	一、六五
アレキサンドリア(埃)	一九三三	五、七六	三、〇三
ボンベイ(印)	一九三三	五、七一	二、三三
シンドニー(豫)	一九三三	五、〇	三、九
サントス(伯)	一九三三	五、〇	三、九
グラスゴー(英)	一九三三	四、八五	二、七
トロント(加)	一九三三	四、六九	一
ダンケルク(佛)	一九三三	四、六三	一、三三
ガルベストン(米)	一九三三	四、五	四、〇七
イリデルフイア(米)	一九三三	四、三三	二、二

## 關東地方

人口は昭和九年十月一日現在  
單位(面積一平方糎・人口一千人・人口密度一人)

府縣	東京府	神奈川縣	千葉縣
面積・人口・密度	面積 二一四五 人口 六一四二 密度 二八六三	面積 二三五三 人口 一七八一 密度 七五七	面積 五〇七八 人口 一五二六 密度 三〇〇
都邑	東京市(首府・府廳) 八王子市 養蠶・機業の中心 立川町	横濱市(縣廳) 横須賀市 平塚市 鎌倉町 小田原町	千葉市(縣廳) 銚子市 市川市 船橋町 野田町
地勢・交通	關東平野・東京灣 江戸川・荒川(下流隅田川)多摩川 東京市は東海道・中央・東北・高崎・常磐・總武・房總、信濃線等の起點	三浦半島・相模灣 大山・箱根山。相模川。馬入川。酒匂川 横濱港 東海道線・横濱線 京濱電車	房總半島・九十九里濱・利根川。印旛沼 總武線・房總線・常磐線。成田線 銚子港・館山港
産業・名物	工業 綿織・毛織・麥酒・精糖・機械・洋紙・肥料・雜貨・藥品・兵器・造船 農業 蔬菜 水産業 淺草海苔 榨油(大島・八丈島) 八丈絹(八丈島)	工業 綿絲・洋紙・麥粉・機械・雜貨・麥酒 造船・烟草(秦野)養豚・養鶏 横濱港の貿易 輸出四九〇萬圓(生絲人絹玩具) 輸入五三七萬圓(羊毛棉花)(昭和九年)	米・麥・甘藷・養豚 養蠶 漁業 鰯・鮎・鯉 醬油(野田・銚子) 味噌(流山)
名勝・舊蹟	宮城・明治神宮・多摩御陵・靖國神社 泉岳寺・淺草觀音 上野・芝・日比谷 向島・飛鳥山・小金井・高尾山・三原山	鎌倉・江の島・浦賀 箱根・小田原・葉山 逗子・石垣山・石碕 金澤八景・記念 經三笠(橫須賀)	香取神宮・成田山不動尊・清澄山・鋸山 三里塚・犬吠燈臺 小湊・國府臺・鹿野
軍隊・其の他	近衛師團・近衛歩兵第四聯隊・第二師團 (歩兵第一・第三聯隊)其の他 東部防衛司令部 東京警備司令部	横須賀軍港 東京灣要塞地帶・海軍水雷學校・砲術學校(田浦) 横須賀重砲兵聯隊 横須賀海軍航空隊 富岡海軍航空隊	騎兵第一・第二旅團 鐵道第一・第二聯隊 野戰重砲兵第三旅團 氣球隊・戰車第三聯隊・歩兵第五十七聯隊(佐倉)



縣 玉 埤	縣 馬 群	縣 木 柅	縣 域 茨
面積 三八〇二 人口 一五一一 密度 三九七	面積 六三三六 人口 一一四〇 密度 一九六	面積 六四三七 人口 一一八三 密度 一八四	面積 六〇九一 人口 一五四九 密度 二五四
浦和市(縣廳) 四四 川口市 四七 熊谷市 三八 川越市 三六 大宮町 二九 秩父町 一九	前橋市(縣廳) 九四 桐生市 六七 高崎市 六四 伊勢崎町 二二 館林町 一七	宇都宮市(縣廳) 八七 足利市 四八 栃木町 三〇 足尾町 二四 鹿沼町 二二 日光町 二〇	水戸市(縣廳) 六六 日立町 二八 古河町 一八 土浦町 一八
關東平野・秩父山脈 秩父盆地。荒川 東北線・高崎線の分岐 (大宮) 八高線・秩父鐵道 其の他	三國山脈・那須火山脈 赤城山・榛名山 妙義山・碓氷峠・清 水峠 上越線・信越線・兩 毛線の三線の集中點 (高崎)	那須火山脈 那須山・男體山 鬼怒川 東北本線・兩毛線 水戸線の會點(小山) 日光線	阿武隈山脈・筑波山 霞ヶ浦・鬼怒川 那珂川・久慈川・鹿 島 常磐線・水戸線 水郡線(水戸・郡山 間)
米・麥・大豆・甘藷 (川越市附近) 蔬菜 養蠶(熊谷市・秩父) 生絲・絹織物(川越 市・所澤・熊谷市 秩父・飯能)	養蠶・麥 機業 鉦仙(伊勢崎) 輸出向の絹織・御召 羽二重(桐生市) モスリン製織(館林)	煙草(茂木・烏山 太田原) 大麻(鹿沼) 礦業 足尾銅山 絹織物・絹織交織 (足利市) 養蠶 中心地は栃木 宇都宮市附近には干 瓢の産あり	米・麥・大豆・煙草 日立 銅・金・銀 本邦第二の製鍊所 常磐炭田 漁業 醬油(土浦・石岡) 織物 結城紬
水川神社(大宮) 吉見百穴(川越市附 近) 秩父連山・長瀨 影森	伊香保・草津・四萬 を始め温泉多し 上州三山(赤城・榛 名・妙義) 碓氷峠 利根川の上流	日光・中禪寺湖・華 嚴の瀧・奥日光スキ ー場 鹽原温泉・湯本温泉 鬼怒川温泉 唐澤山神社 (佐野附近)	鹿島神宮・水戸城址 偕樂園・常磐神社 磯園・大洗 弘道館公園 西山莊(光岡隱栖の 地)
所澤陸軍飛行學校 熊谷陸軍飛行學校	步兵第十五聯隊 (高崎) 清水トネル 長き日本一(九七〇 二米、通過所要時間 約一五分)	第十四師團司令部 步兵第二十七旅團司 令部 步兵第五十聯隊 騎兵第十八聯隊 野砲兵第二十聯隊	步兵第二聯隊(水戸) 霞ヶ浦海軍航空隊

# 奥羽地方

縣 森 青	縣 手 岩	縣 域 宮	縣 島 福	縣
面積 九六三一 人口 九三三 密度 九七	面積 一〇三三五 人口 一〇三五 密度 六八	面積 七二七四 人口 一一二二 密度 一六七	面積 一三七八二 人口 一五六四 密度 一一三	面積 人口・密度
青森市(縣廳) 九一 弘前市 五八 三本木町 一四六	盛岡市(縣廳) 六九 釜石町 三一	仙臺市(縣廳) 二七 石巻市 三五 鹽釜町 二三	福島市(縣廳) 四九 郡山市 五八 若松市 四五 平町 二五	都 邑
津輕半島。下北半島 陸奥灣。津輕平野 岩木山。馬淵山 岩木山。八甲田山 恐山。東北線。奥羽 線。五所川原線 青森港	北上山脈。奥羽山脈 北上川。岩手山 東北線。山田線。大 船渡線。横黒線。花 輪線	北上平野。仙臺灣 北上川。阿武隈川 牡鹿半島。奥羽山脈 東北線。陸羽東線 石巻線。石巻港	那須火山脈(安達太 郎山・磐梯山) 阿武 隈山脈。猪苗代湖 會津盆地 磐越線。水郡線。東 北線。奥羽線	地勢・交通
牧馬(三本木・七戸) 馬鈴薯・大豆 林檎(日本一位) 全國の七割	大豆・神・林檎 牧馬(小岩井農場) 鐵 釜石鑛山 漁業 宮古 南部鐵瓶・南部釜 (盛岡)	米・漁業(金華山) 牧馬(鬼首) 養蠶・生絲 八橋織・仙臺平 (仙臺)	煙草(須賀川) 養蠶 櫻桃・馬鈴薯・牧 馬(三春・白河) 常 磐炭田(平) 生絲 磐田(二本松) 羽 二重(川俣) 相馬燒 (中村) 會津燒・會 津塗(若松市)	産業・名物
大鰐温泉。淺蟲温泉 十和田湖。秋田。青 森兩縣の境 第八師團司令部 歩兵第四旅團司令部 (弘前)	中尊寺。衣川の棚址 鷹澤城址。厩川棚址 花巻温泉	松島(日本三景の一) 青葉城址。鹽釜神社 多賀城址。鬼首(間 歇温泉。鳴子温泉	鹽山。白河關址。勿 來關址。飯盛山。磐 梯山(會津富士) 飯坂温泉。東山温泉	名勝・舊蹟
步兵第五聯隊(青森) 第三十一聯隊・騎兵 第八聯隊・野砲兵第 八聯隊(弘前) 大湊航空隊	騎兵第三旅團司令部 騎兵第二十三聯隊 騎兵第二十四聯隊 緯度觀測所(水澤)	第二師團司令部 歩兵第三旅團司令 部・歩兵第四聯隊 騎兵第二聯隊・野 砲兵第二聯隊	歩兵第二十九聯隊 (若松) 原町(送信) 富岡(受 信) には規模宏大の 無線電信局がある 軍馬育成所(白河)	軍隊・其の他



新 潟 縣	富 山 縣	石 川 縣	福 井 縣
面積 一、二五七・八 人口 二〇〇〇 密度 一五九	面積 四、二五七 人口 八〇三 密度 一八九	面積 四、一九八 人口 七六二 密度 一八二	面積 四〇一・八 人口 六三四 密度 一五七
新潟市（縣廳） 長岡市 高田市 三條市 柏崎町 新發田町	富山市（縣廳） 高岡市 新湊町	金澤市（縣廳） 小松町 輪島町 七尾町	福井市（縣廳） 敦賀町 武夫町
一三八 一六二 三一 三三 二四 二一	七八 五七 二二	一六五 一七 一四 一一	七二 二三 一一
越後山脈。三國山脈 妙高川。越後平野 信濃川 信越本線・磐越線 羽越線（會點新津） 越後線。北陸線。新 潟港。直江津港。兩 津港（佐渡）	富山灣。富山平野 白山火山脈。神通川 黑部川 北陸本線。高山線 中越線。伏木港 魚津港。	能登半島。七尾灣 白山 北陸本線。七尾線 七尾港	若狹灣。敦賀灣。小 濱灣。九頭川 北陸本線 敦賀港。三國港
米 日本一位。漁業 （佐渡近海）。石油 本位（渡東山）。石 新津。製油所（新潟 柏崎） 金。銀。相川（佐渡） 組織物（五泉）。五泉 平。枋尾。糸。小千 谷。越後上布。十日 町。邊綾。紋羽（二重）	米 漁業（富山灣） 瑛島織（滑川） 組織物（富山。城端） 銅器。鐵器。漆器（高 岡。寶藥（富山）	組織物 羽二重（輸出向 金澤。小松。大聖 寺） 陶磁器（九谷焼。金 澤。小松。大聖寺 山代）漆器。輪島 塗（輪島。山中） 人組織物（日本二位） 二千九百萬圓 （昭和八年）	組織物（羽二重。福井 勝山。大野） 人組織物（日本一位） 一〇〇五四萬圓 （昭和九年） 漁業（若狹灣。鰻。鱒） 奉書紙（福井。武生） 蚊帳（鯖江。福井）
彌彦神社。春日山城 址。・（上杉謙信）高 田。親不知。妙高山 眞野神社	魚津の盛氣樓 立山（國立公園）	俱利迦羅峠。兼六公 園（日本三公園）安 宅の關址。山代溫泉 山中溫泉。粟津溫泉 和倉溫泉	藤島神社。曹洞宗の 本山永平寺。氣比神 社。金ヶ崎城址。金 ヶ崎宮。東尋坊 平泉寺村。大楠公の 墓
步兵第十五旅團司令 部（高田） 步兵第十六聯隊（新 發田） 步兵第三十聯隊 獨立山砲兵第一聯隊 （高田）	步兵第三十五聯隊 （富山）	第九師團司令部 步兵第六旅團司令部 步兵第七聯隊（金澤） 騎兵第九聯隊 山砲兵第九聯隊 （金澤）	步兵第十八旅團 步兵第十九聯隊（敦賀） 步兵第三十六聯隊 （鯖江）

新 潟 縣	富 山 縣	石 川 縣	福 井 縣
面積 一、二五七・八 人口 二〇〇〇 密度 一五九	面積 四、二五七 人口 八〇三 密度 一八九	面積 四、一九八 人口 七六二 密度 一八二	面積 四〇一・八 人口 六三四 密度 一五七
新潟市（縣廳） 長岡市 高田市 三條市 柏崎町 新發田町	富山市（縣廳） 高岡市 新湊町	金澤市（縣廳） 小松町 輪島町 七尾町	福井市（縣廳） 敦賀町 武夫町
三八 六二 三一 三三 二四 二一	七八 五七 二二	一六五 一七 一四	七二 二三 二一
越後山脈。三國山脈 妙高川。越後平野 信濃川 信越本線・磐越線 羽越線（會點新津） 越後線。北陸線。新 潟港。直江津港。兩 津港（佐渡）	富山灣。富山平野 白山火山脈。神通川 黑部川 北陸本線。高山線 中越線。伏木港 魚津港。	能登半島。七尾灣 白山 北陸本線。七尾線 七尾港	若狹灣。敦賀灣。小 濱灣。九頭川 北陸本線 敦賀港。三國港
米 日本一位。漁業 （佐渡近海）。石油 本位（渡東山）。石 新津。製油所（新潟 柏崎） 金。銀。相川（佐渡） 組織物（五泉）。五泉 平。枋尾。糸。小千 谷。越後上布。十日 町。邊綾。紋羽（二重）	米 漁業（富山灣） 瑛島（富川）。城端 組織物（滑川）。城端 銅器。鐵器。漆器（高 岡） 寶藥（富山）	組織物 羽二重（輸出向 金澤。小松。大聖 寺） 陶磁器（九谷焼。金 澤。小松。大聖寺 山代）漆器。輪島 塗（輪島。山中） 人組織物（日本二位） 二千九百萬圓 （昭和八年）	組織物（羽二重。福井 勝山。大野） 人組織物（日本一位） 一〇〇五四萬圓 （昭和九年） 漁業（若狹灣。鰻。鱒） 奉書紙（福井。武生） 蚊帳（鯖江。福井）
彌彦神社。春日山城 址。・（上杉謙信）高 田。親不知。妙高山 眞野神社	魚津の盛氣樓 立山（國立公園）	俱利迦羅峠。兼六公 園（日本三公園）安 宅の關址。山代溫泉 山中溫泉。粟津溫泉 和倉溫泉	藤島神社。曹洞宗の 本山永平寺。氣比神 社。金ヶ崎城址。金 ヶ崎宮。東尋坊 平泉寺村。大楠公の 墓
步兵第十五旅團司令 部（高田） 步兵第十六聯隊（新 發田） 步兵第三十聯隊 獨立山砲兵第一聯隊 （高田）	步兵第三十五聯隊 （富山）	第九師團司令部 步兵第六旅團司令部 步兵第七聯隊（金澤） 騎兵第九聯隊 山砲兵第九聯隊 （金澤）	步兵第十八旅團 步兵第十九聯隊（敦賀） 步兵第三十六聯隊 （鯖江）

府 阪 大	府 都 京	縣 賀 滋	府 縣
面積 一八四 人口 三九二 密度 二一六二	面積 四六二 人口 一六六九 密度 三六一	面積 四〇五一 人口 七一五 密度 一七六	面積・人口・密度
大阪市(縣廳) 堺市 岸和田市 吹田町 布施町	京都市(縣廳) 福知山町 新舞鶴町	大津市(縣廳) 彦根町 長濱町	都 邑
大阪灣・大阪平野 淀川・金剛山脈・和 泉山脈・東海道線・ 關西本線・淡町線等 を主線とし京阪・阪 神・大阪軌道・高野 南海等電車網甚だ 密なり	京都盆地・丹波高地 與謝半島・宮津灣 舞鶴灣・中國山脈 東海道線・山陰本線 奈良線・京阪電車等 宮津道・舞鶴港 東海道・中仙道・北 陸道・山陰道・中國 街道等の起點	琵琶湖・伊吹山 (鈴鹿山脈)比叡山 北良山・近江線 東海道線・北陸本線 近江線	地勢・交通
農業 工業 綿絲(日本一) 綢繆(大阪) 堺・岸和田・モスリ 堺・セメント・燐寸 硝子・肥料・機械 兵器・造船・清酒 (池田・堺) 大阪港の貿易	茶(宇治) 清酒(伏 見) 養蠶(丹波地方) 絹織物(京都・西陣) 織・峰山(日本一位) 人絹織物 陶磁器(清水焼・栗 田焼・樂焼・京都形 漆器(京都) 京人形	米・菜種・養蠶 絹織物(長濱) 麻織物(大津・八幡 日野・八日市) 漁業 琵琶湖	産業・名物
大阪城・千早城址 櫻井・四條畷・阿部 野・茶臼山・四天王 寺・高津神社・中之 島公園・住吉公園 天王寺公園・濱寺	京都御所・嵐山・東 山・東山・二條離宮 平安神宮・北野神社 知恩院・東西南神願 寺・桃山城址・山崎 笠置山・天の橋立 平等院・萬福寺・金 閣寺・銀閣寺等名勝 舊蹟頗る多し	近江八景・比叡山 竹生島・逢坂・鈴鹿 不破等の關址・姉川 賤ヶ嶽・安土城址 藤樹書院・彦根城址	名勝・舊蹟
輸入 綿織物二〇百萬圓 輸入 亞三三百萬圓 棉花 (昭和九年)	輸出 棉花 (日本二位)	飛行第三聯隊 (八日市) 高射砲第三聯隊 (大津)	軍隊・其の他

府 阪 大	府 都 京	縣 賀 滋	府 縣
面積 一八四 人口 三九二 密度 二一六二	面積 四六二 人口 一六六九 密度 三六一	面積 四〇五一 人口 七一五 密度 一七六	面積・人口・密度
大阪市(縣廳) 堺市 岸和田市 吹田町 布施町	京都市(縣廳) 福知山町 新舞鶴町	大津市(縣廳) 彦根町 長濱町	都 邑
大阪灣・大阪平野 淀川・金剛山脈・和 泉山脈・東海道線・ 關西本線・淡町線等 を主線とし京阪・阪 神・大阪軌道・高野 南海等電車網甚だ 密なり	京都盆地・丹波高地 與謝半島・宮津灣 舞鶴灣・中國山脈 東海道線・山陰本線 奈良線・京阪電車等 宮津道・舞鶴港 東海道・中仙道・北 陸道・山陰道・中國 街道等の起點	琵琶湖・伊吹山 (鈴鹿山脈)比叡山 北良山・近江線 東海道線・北陸本線 近江線	地勢・交通
農業 工業 綿絲(日本一) 綢繆(大阪) 堺・岸和田・モスリ 堺・セメント・燐寸 硝子・肥料・機械 兵器・造船・清酒 (池田・堺) 大阪港の貿易	茶(宇治) 清酒(伏 見) 養蠶(丹波地方) 絹織物(京都・西陣) 織・峰山(日本一位) 人絹織物 陶磁器(清水焼・栗 田焼・樂焼・京都形 漆器(京都) 京人形	米・菜種・養蠶 絹織物(長濱) 麻織物(大津・八幡 日野・八日市) 漁業 琵琶湖	産業・名物
大阪城・千早城址 櫻井・四條畷・阿部 野・茶臼山・四天王 寺・高津神社・中之 島公園・住吉公園 天王寺公園・濱寺	京都御所・嵐山・東 山・東山・二條離宮 平安神宮・北野神社 知恩院・東西南神願 寺・桃山城址・山崎 笠置山・天の橋立 平等院・萬福寺・金 閣寺・銀閣寺等名勝 舊蹟頗る多し	近江八景・比叡山 竹生島・逢坂・鈴鹿 不破等の關址・姉川 賤ヶ嶽・安土城址 藤樹書院・彦根城址	名勝・舊蹟
輸入 綿織物二〇百萬圓 輸入 亞三三百萬圓 棉花 (昭和九年)	輸出 棉花 (日本二位)	飛行第三聯隊 (八日市) 高射砲第三聯隊 (大津)	軍隊・其の他



兵 庫 縣	奈 良 縣	和 歌 山 縣	三 重 縣
面積 八三三三 人口 二七九九 密度 三三六	面積 三六八九 人口 六〇六 密度 一六四	面積 四七二三 人口 八六五 密度 一八三	面積 五七六五 人口 二一九七 密度 二〇七
神戸市(縣廳)八五四 姫路市 西宮市 明石市 四八三五〇	奈良市(縣廳)一五六 高田町 一五七	和歌山市(縣廳)一七一 新宮市 田邊町 二四一	津市(縣廳)五六七 宇治山田市 四日市市 桑名町 二三五五
大坂灣。播磨平野 中國山脈。明石海峡 山陽本線。東海道線 播磨線。福知山線 山陰本線。洲本港(淡 路島)	笠置山脈。紀伊山脈 奈良盆地 關西本線。和歌山線 吉野線	紀伊山脈。和泉山脈 紀伊水道。日高川 紀伊本線。紀伊半島 和歌山線。紀勢西線 阪和電氣。海南鐵道	鈴鹿山脈。紀伊山脈 伊勢平野。伊勢海 志摩半島。伊勢線 關西本線。伊勢線 紀勢東線。伊勢線 津市。鳥羽港 四日市港。尾鷲港
米(日本三位)麥 牧牛。綿絲(神戸) 毛織物(神戸。加古川) 造船。燒酎。製粉 造紙(神戶。伊丹) 清酒(地方。伊丹) 御影。魚。醬油 今津。鳴尾。西宮 神戶港。貿易 輸出七九〇百萬圓 輸入七九一。五百萬 圓。昭。和。九。年	茶。西瓜。漬物。木 材(吉野)筆。墨 綿絲(奈良)大和 根來塗(奈良)	蜜柑(日本一位)茶 木材。高野。熊野 杉。檜。和歌山 漆器(和歌山) 漆器(黒江。江津) 漁業(黒江。江津) 米。榮。業。漁業(志摩) 半島。蠶。濱島。眞 珠。綿絲。濱島。眞 綿絲。綿絲物(桑名) 四日市。津。松坂 伊賀燒(四日市) 伊賀燒(上野)	米。麥。蕎麥。煙草 (高。銀。果。實。牧牛) 金。銀。銅。鐵(帶江) 綿絲(倉敷。玉島) 笠置。蠶。蠶。蠶。蠶 散地。蠶。蠶。蠶。蠶 瓦。三石。耐火。伊 部。三石。耐火。伊 製鹽業(味野)
淺川神社。鳴越。一 谷。福原ノ都。須 磨。舞子。明石。樂 路。赤。生。野 玄。高。砂。神 有。馬。溫。城。崎 泉。寶。城。崎 寶。城。崎	正倉院。東大寺の大 佛殿。春日神社。五重 塔。三笠山。法隆寺 山。三笠山。法隆寺 如意輪寺。春日山 猿澤池。月ノ瀬	和歌浦。那智。高 野山。和歌山城。高 野三社。海八丁 皇大神宮。豐受大神 宮。朝熊山。二見ヶ 浦。能。野	後樂園。岡山城址 院の庄。吉備津神社 豪溪 豪溪
第十師團司令部 步兵第八旅團司令部 步兵第三十九聯隊 騎兵第十聯隊 野砲兵第十聯隊 步兵第七十聯隊 (蘇山)	金剛山等名所。舊蹟 頗多し。 步兵第三十八聯隊 (奈良)	步兵第二十六旅團 司令部 步兵第六十一聯隊 (和歌山) 深山重砲兵聯隊 (深山) 步兵第三十三聯隊 明野陸軍飛行學校	第五師團司令部 步兵第九旅團司令部 步兵第十一聯隊 騎兵第五聯隊 野砲兵第五聯隊 電信第二聯隊 (以上廣島) 步兵第四十一聯隊 (福山)

中國地方

鳥 取 縣	山 口 縣	廣 島 縣	岡 山 縣	縣
面積 三四八九 人口 一五〇三 密度 一四四	面積 六〇三三 人口 一一六八 密度 一九二	面積 八四三六 人口 一七五一 密度 二〇七	面積 七〇四六 人口 一三二〇 密度 一八七	面積 人口・密度
鳥取市(縣廳) 米子市 倉吉町 一三四四 一六六	山口市(縣廳)三三三 下關市 宇部市 徳山市 防府町 二二二 三三三 七六六 一一一 二五	廣島市(縣廳)二九六 尾道市 三〇八 五八七 三〇六	岡山市(縣廳)一六〇 倉敷市 三三六 二二二 一三二	都 邑
中國山脈。大山。千 代川。日野川 山陰本線。伯備線 境線。境港	下關海峡。周防灘 山陽本線。山陰本線 山口線。美禰線(門 司。釜山との連絡)	中國山脈。福山平野 廣島平野。廣島灣 山陽本線。吳線。福 山線。下關線。備前 宇品港。絲崎港	中國山脈。岡山平野 兒島灣。水島灣。川 邊川 山陽本線。宇野線 備前線。因備線。伯 備線 下津井港。宇野港	地 勢。交 通
綿織物(倉吉)絹織 物(米子)半紙(因 山北熊)養蠶(大)	米(防長米) 漁業。製鹽業 人絹織物(岩國)萩 燒。石炭(宇部)セ メント。硫酸(小野 田)半紙(岩國)	米。麥。煙草。鹿草 蜜柑。大。三。次 蠶。蠶。蠶。蠶 物。廣島。綿絲 物。福山。備後 山。尾。道。萩。福 の市場。罐詰。洋紙 (廣島)罐詰。洋紙 器(吳)造船。兵	米。麥。蕎麥。煙草 (高。銀。果。實。牧牛) 金。銀。銅。鐵(帶江) 綿絲(倉敷。玉島) 笠置。蠶。蠶。蠶。蠶 散地。蠶。蠶。蠶。蠶 瓦。三石。耐火。伊 部。三石。耐火。伊 製鹽業(味野)	產 業。名 物
夜見濱。船上山。大 山。三朝温泉	錦帯橋。豊榮神社 秋吉臺。壇の浦 徳山には海軍燃料廠 及重油貯蔵所がある	吳軍港 吳海軍航空隊 吳海軍鎮守府 廣島灣要塞地帯	嚴島神社(日本の三 景の一)。帝釋 景の二。帝釋	名 勝。舊 蹟
歩兵第四十聯隊 (鳥取)	歩兵第二十一旅團司 令部。歩兵第四十二 聯隊(山口)。下關 重砲兵聯隊(下關) 下關要塞地帯	第五師團司令部 歩兵第九旅團司令部 歩兵第十一聯隊 騎兵第五聯隊 野砲兵第五聯隊 電信第二聯隊 (以上廣島) 歩兵第四十一聯隊 (福山)	歩兵第三十三旅團 司令部 歩兵第十聯隊(岡山)	軍 隊。其 の 他



## 縣根島

面積  
六六・一八  
人口  
七五・三  
密度  
一一・三松江市  
濱田町  
今市町一一・四  
二五・七中國山脈。島根半島  
平野。安道湖。杵築  
山。江川  
大社線  
山陰本線。三江線大麻。牛。漁業  
半紙（石見半紙）  
出雲燒。八重塗出雲大社。美保ノ關  
宍道湖。隱岐。簸ノ川歩兵第六十三聯隊  
（松江）  
歩兵第二十一聯隊  
（濱田）

## 四國地方

## 縣

面積・人口・密度

都

邑

地勢・交通

産業・名物

名勝・舊蹟

軍隊・其の他

## 縣島德

面積  
四一・四三  
人口  
七三・九  
密度  
二七・八徳島市（縣廳）  
小松島町  
徳島港一一・九  
一八・五四國山脈。讃岐山脈  
讃岐山。鳴門海峡。吉  
野川。徳島平野  
徳島港。撫養線米。麥。煙草。藍  
製鹽業（撫養）  
阿波縮（徳島）  
杉鳴門海峡。劍山。祖谷  
村（平家の遺蹟）歩兵第二十二旅團司令部  
（徳島）  
聯隊  
（徳島）

## 縣川香

面積  
一八・五九  
人口  
七九・五  
密度  
四〇・八高松市（縣廳）  
丸龜市  
坂出町二・三  
六・六讃岐山脈。讃岐平野  
讃岐山。讃岐線。高  
野線。高松港（宇野  
港と連絡）米。麥。甘藷。漁業  
製鹽業（坂出）  
一位製帽真田（丸  
龜。坂出）栗林公園。屋島。金刀  
比羅宮。普通寺  
第十一師團司令部  
歩兵第十旅團司令部騎兵第十一聯隊  
山砲兵第十一聯隊  
（以上普通寺）  
歩兵第十二聯隊  
丸龜

## 縣媛愛

面積  
一五・六六  
人口  
二一・七  
密度  
二〇・八松山市（縣廳）  
今治市  
宇和島市  
八幡濱市三・五  
五・八四國山脈。石鎚山  
高松平野。佐田岬  
松山平野。豊後海峡  
伊予線。宇和島港  
宇和島港。八幡濱  
港。今治港。新綿織物（伊豫絨・松  
山。西條。今治。宇  
和。別子。新居濱）  
銅。肥料（新居濱）  
漁業。製鹽業。波止  
濱。製紙業。磯部焼室戸岬。内山神社  
高知城址  
道後温泉。石鎚山。松  
山城址。宇和島城  
今治城址。宇和島城歩兵第四十四聯隊  
（高知）  
歩兵第二十二聯隊  
（松山）

## 縣知高

面積  
七一・〇三  
人口  
七四・三  
密度  
一〇・四高知市（縣廳）  
清水町一・〇  
一・七四國山脈。室戸岬  
土佐灣。仁淀川。四  
十川。高知港。高  
知線。高知港。須  
崎港。清水港漁業（土佐節・清水  
紅珊瑚。製紙業（土  
佐半紙・伊野）室戸岬。内山神社  
高知城址歩兵第四十四聯隊  
（高知）

## 九州地方

## 縣

面積・人口・密度

都

邑

地勢・交通

産業・名物

名勝・舊蹟

軍隊・其の他

## 縣福

面積  
四九・四〇  
人口  
二七・〇  
密度  
五四・七福岡市（縣廳）  
八幡市  
門司市  
大牟田市  
小倉市  
若松市  
戸畑市  
直方市  
蘆屋市二・八  
三・〇  
一・五  
一・五  
一・五  
一・五  
一・五  
一・五  
一・五筑紫山脈。博多灣  
道後川。筑紫平野  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線  
久大線。筑紫本線製鐵業。八幡。戸畑  
石炭。三池（日本一  
位）直方。飯塚。香  
春。製糖業（大里）セ  
ント。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）  
灰。製糖業（大里）箱崎宮。香椎宮。大  
宰府神社。芥屋ノ大  
門。博多海岸（文永弘  
安兩役の戦蹟）多々  
良漢。千代ノ松原  
志賀島。殘島第十二師團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部  
歩兵第二十四旅團司令部

## 縣賀佐

面積  
二四・四九  
人口  
六七・九  
密度  
二八・四佐賀市（縣廳）  
唐津市  
鳥栖市  
交通の要點四・九  
三・〇  
三・〇  
三・〇筑紫山脈。筑紫平野  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海  
唐津灣。有明海石炭（唐津炭田）  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀  
米（集散市場）佐賀名護屋。虹ノ松原  
領布振山（唐津）  
武雄温泉。黒髮山

高射砲第四聯隊

## 縣崎長

面積  
四〇・七六  
人口  
二八・九  
密度  
三一・六長崎市（縣廳）  
佐世保市  
島原市  
交通の要點二・一  
一・七  
一・七  
一・七島原半島。西彼杵半  
島。大村灣。温泉岳  
口ノ津鐵道。長崎港漁業。五島鯨。鯖  
海鼠。鯉。紅珊瑚  
造船業（長崎。佐世  
保）  
三河内燒  
石炭（肥前炭田）島原温泉  
雲仙嶽（國立公園）  
佐世保鐵守府佐世保要塞地帶。對  
馬要塞地帶。壱岐要  
塞地帶。長崎要塞地帶  
佐世保航空隊。大村  
航空隊。歩兵第四十  
六聯隊（大村）



北海道地方

縣 繩 沖	縣 崎 宮	縣 分 大	縣 島 兒 鹿	縣 本 熊
面積 二三八六 人口 五九三 密度 二四八	面積 七七三九 人口 八一六 密度 一〇五	面積 六三三四 人口 九七〇 密度 一五三	面積 九一〇四 人口 一六二四 密度 一七八	面積 七四三八 人口 一四〇〇 密度 一八八
那覇市(縣廳) 首里市 平良町	宮崎市(縣廳) 都城 延岡市 小林町	(大分市(縣廳)) 別府市 中津市 臼杵町	鹿兒島市(縣廳) 川内町 谷山町	熊本市(縣廳) 水俣町 荒尾町
三五 六五 二四	三八 三九 二八	六〇 四七 二〇	七七 三七 二八	一八六 二〇六 二〇
島内何れも山地多く 沿岸には珊瑚礁が発 達して船舶の出入が 不自由である	九州山脈。大淀川 一ノ瀬川。五箇瀬川 日豊本線	國東半島。別府灣 佐賀半島。大野川 阿蘇火山脈(九重山) 日豊本線。久大線 豊肥本線。別府港 大分港	薩摩半島。鹿兒島灣 大隅半島。霧島火山 脈。霧島山。櫻島川 内川。鹿兒島線。日豊 本線。志布志線。指宿 線。吉都線。宮城線 鹿兒島港	九州山脈。阿蘇火山 脈。阿蘇山。熊本平野 土平半島。八代海 島原灣。緑川。球磨 川。白川。鹿兒島線 肥薩線。豊肥本線 高森線。三角港
養豚(日本一位)	砂糖。甘藷。バナナ パイナップル。泡 盛酒。琉球餅。豚 バナマ帽	馬・牛 木材(副産物として 木炭。椎茸。樟腦等 を産する) 漁業(鯉・鮎・鰱) 油菜(横峰)養蠶(都城)	燒草(國分)甘藷 牛・豚。漁業(鯉節 大島。尾久島。吐 鳴鳴島山川) 薩摩燒(鹿兒島。伊 集院)薩摩餅。大島 納(大島)錫(谷山) 金(串木野。片ヶ野 山ヶ野。牛尾)	米。粟。玉蜀黍。茶 馬。本線織(熊本) 製材。洋紙。セメント (八代) 燒酎(人吉)
首里舊王城	宮崎神宮 青島(南國の情緒)	宇佐神宮。耶馬溪 別府温泉	城山。照國神社。鹿 兒島神宮。霧島神社 櫻島	熊本城。本妙寺(清 正の墓) 鎮木。田原坂。木葉 阿蘇山。菊池神社 山鹿温泉。五家ノ莊
もと琉球王の統治し た小國で言語・風俗 自ら内地と異なつて ゐたが教育の普及に よつて今や全く内地 風に改まつた	歩兵第二十三聯隊 (都城)	歩兵第四十七聯隊 (大分) 佐伯航空隊(佐伯) 豊後要塞地帯	歩兵第三十六旅團 司令部 奄美大島要塞地帯 (鹿兒島)	第六師團司令部 歩兵第十一旅團司令 部 歩兵第十三聯隊 騎兵第六聯隊 野砲兵第六聯隊

面積・人口・密度		面積・人口・密度		面積・人口・密度		面積・人口・密度	
面積	八八七七五	面積	三〇六二	面積	三〇六二	面積	三〇六二
人口	三〇六二	人口	三四	人口	三四	人口	三四
密度	三四	密度	三四	密度	三四	密度	三四
半島地方	後志國・渡島國・釧路國	中部地方	石狩國・天鹽國・日高國	東部地方	十勝國・釧路國・根室國	千島	千島
地方別	都邑	地方別	都邑	地方別	都邑	地方別	都邑
函館市・小樽市・室蘭市・苫小牧町・倶知安町・農産物の集散地	二二四・一五三・一六〇・二一四・一四	札幌市・旭川市・夕張町・美瑛町・岩見沢町	一九三・九一・五二・三七・三〇	釧路市・帯廣市・稚内町・本島北部端に位し樺太渡航の要港・根室町・千島渡航の要港	五九・三四・三四・三四・三四	北見山脈・千島火山脈	北見山脈・千島火山脈
渡島半島・津輕海峡・洞爺湖・積丹半島・小樽湖・室蘭線・函館港・小樽港・室蘭港	交通	石狩半島・上川盆地・石狩川・天鹽山脈・夕張山脈・日高山脈・タム・支笏湖・洞爺湖・室蘭線・宗谷線・室蘭線・留萌線・根室本線・釧路本線・本島東部端・知床半島・十勝半島・根室半島・屈斜路湖・釧路湖・網走本線・釧路線・北見線・名寄本線	交通	石狩川・網走・釧路・室蘭・根室・釧路・網走・釧			



樺太地方

人口は昭和八年末

面積・人口・密度	都	邑	地	勢	交	通	産	業	名	所	沿革
面積 三〇六九〇 人口 二九三八 密度	豊原(樺太廳) 三三 大泊 蕨取 知取 鯨香 眞岡	三三 二一 二一 一九 一八 一六	樺太山脈・鯨香山 留多加山・熊登呂 半島・東北山脈・北 知床半島・幌内川 多多加灣・鈴谷山 廳・中知床半島 亞庭灣		大泊港・豊原・榮 濱・本斗・眞岡 泊居・豊原・眞岡 落合・南新間 (樺太廳鐵道)		漁業 鱈(西海・遼) 鱈・鮭・蟹・昆布 石炭(尾・昆布・本 材バルブ) 豊原・大泊 眞岡・善念 製紙(榮 濱・眞岡(眞岡))		樺太神社 海豹島		明治八年、千島と交換 露領となる。日露戦争 中全島を占領。ポーツ マス條約により北緯五 十度以南を割讓さる。

臺灣地方

人口は昭和七年末

面積・人口・密度	三五九七四 人口 五〇六一 密度 一四六
都邑	臺北市（總府） 臺南市 基隆市 臺中市 新竹市 彰化街 鹿港街 屏東街
地勢	臺灣山脈（新高山、大高山、阿里山） 臺北山脈・大屯火山脈（大屯山） 淡水河・濁水溪 淡水溪（臺灣海峽） 平野は西海岸澎湖諸島
交通	縱貫線・臺中線・臺東線・宜蘭線・淡水線・集集線・潮州線 糖業の盛な西部地方には數多の私設鐵道があつて交通甚だ便利である
産業	米（臺中・彰化は中心地）年二回の收穫 茶（臺北州・新竹州・苗栗・中部・南部は一帯の甘蔗畑） 甘蔗・面の甘蔗畑 五大農産物 豚（日本一位）水牛 黄牛 柑（阿里山・八仙山）樟 食鹽・蠶絲 製糖（嘉義・臺灣・鹽水港・屏東は中心地） 樟腦・樟腦油・製麻 バナナ・椰子（大甲・大甲筵） 金（金瓜石・瑞芳）
名所	臺灣神社・北投溫泉・日月潭・赤崁樓・開山神社・臺南神社・牡丹社 臺灣の三大產物（移出額） 砂糖二四八九三千圓 昭和七年 米 一〇八一六千圓 昭和九年 バナナ 八一三八千圓 昭和九年
軍隊	臺灣軍司令部（臺北） 基隆要塞地帶 澎湖羣島要塞地帶 馬港要港部 飛行第八聯隊（屏東）

朝鮮地方

北忠 道清	南忠 道清	北全 道羅	南全 道羅	道北尚座	道南尚座	道
面積 七四一八 人口 八六六 密度 一一七	面積 八〇九七 人口 一三三五 密度 一七〇	面積 八五二九 人口 一四四五 密度 一七〇	面積 一三八八一 人口 二二八二 密度 一六四	面積 一八九八六 人口 二三四九 密度 一二四	面積 一二三〇七 人口 二二〇三 密度 一七一	面積・人口・密度
忠州邑(道廳)	太田邑(道廳)	全州邑(道廳)	光州邑(道廳)	大邱府(道廳)	釜山府(道廳)	郡邑
一一三	三四	三八	三三	一九	一五六	
海に面せざる唯一の道	淺水灣・錦江・湖南線	黃海・蘆嶺山脈・慶全	朝鮮海峽・黃海・蟾津	日本海・大白山脈・小	朝鮮海峽・洛東江・大	地勢・交通
小白山脈・車嶺山脈・	京釜線・忠北線・京南	北部線・湖南線・群山	江・榮山江・蘆嶺山脈	白山脈・洛東江・迎日	白山脈・小白山脈・鎮	
京釜線・忠北線	鐵道	線	湖南線・南朝鮮鐵道	灣・京釜線・東海中部	海灣・京釜線・慶全南	
				線慶北線	部線・鎮海線・蔚山飛	
					行場・釜山港(下關へ	
					八時間)	
	生絲・漆液・杞柳製品	楮・苦紙・煙草・銅	米・麥・梨・實棉・綿	米・大豆・麥・煙草	米・麥・楮・大麻・筵	產業・名物
蕪煙草・黑鉛・叭	藥草・栗・蛤・金	木炭	布・昆布・海苔・蝦	柿・絹布・絹織物・生	威棉・絹布・綿布・清	
(稷山)			製鹽業	絲・鉛・朝鮮紙・清酒	酒・朝鮮紙・皮革製品	
				醬油・牛・蒔・漁業	五倍子・漁業・鱈・鯖	
				草・寒天	鯛	
秋風嶺・法住寺・上	百濟僑都(扶餘邑)	多佳山・慶基殿(全州)	恩津彌勒・百濟古蹟	古郡慶州・佛國寺	釜山港の輪移出入	名勝・舊蹟
黨山城址	儒城溫泉・溫陽溫泉	金山寺	輪移入一八四六萬圓		出 八二八九七千圓	
			輪移入一〇〇六萬圓		米・大豆・乾魚	
		群山港(昭和七年)	木浦港(昭和七年)	步兵第八十聯隊(大邱)	釜山港の輪移出入	軍隊・其の他
		輪移出三三五九萬圓	輪移出二一八四六萬圓		入 一〇二一六四千圓	
		輪移入一三八〇萬圓	輪移入一〇〇六萬圓		綿織物・洋服・菓子	
					(昭和七年)	



關東洲及南洋群島

南洋羣島			關東洲及南洋群島			朝鮮密觀			咸鏡北道		
面積	人口	密度	面積	人口	密度	面積	人口	密度	面積	人口	密度
二一四九	七八	六三				二〇七四〇	二〇七九一	九三	二〇三四三	七三〇	三七
コロムル島(南洋廳)	ヤップ島 海底電線の集合地	ボナペ島・サイパン島 ヤルート島	大連市 旅順市 金州	二九〇 一三九 一三三		京城府(總督府) 釜山府 平壤府 大邱府 仁川府	三七四 一五六 一五〇 一〇一 七三		羅南邑(道廳) 清津府 雄基邑 城津邑 會事邑	一五 三七 二四 二二 一八	
諸島は何れも珊瑚島か火山島から成立して居る横濱から定期航路が開かれて居る。			地勢・交通			日本海・朝鮮海峡・黄海・大白山脈。小白山脈。鴨綠江。豆満江。京釜線。京義線。京元線。咸鏡線。釜山。仁川。木浦。鎮南浦。新義州の各港		豆満江。蓋馬高峯。長白山脈。咸鏡線。滿鐵北鮮鐵道。惠山線。雄基港。城津港。清津港			
コブラ、バナナ、椰子、蜜柑、甘蔗、タロー芋、檳榔			産業・名物			農業 米。大豆。麥。烟草。綿。朝鮮人参。牧畜 牛。牛皮。林業 朝鮮松。もみ。鑛業 金。鐵。石灰。水産 鱈。めんたい。鯛。製鹽業(天日製鹽)		鱈。鯉。鮭。鰻。魚肥料。馬鈴薯。石炭。硫安。清津港。輪移出 九七六萬圓。輪移入 一五八三萬圓(昭和七年)			
此の島はもとドイツ領であつたが大正三年日獨戦争で我が海軍が占領しヴェルサイユ講和會議の結果我が國の委任統治に歸した。			名所・舊蹟			蔚山。慶州。仁川。平壤。大邱。京城。金剛山。鴨綠江		朱乙温泉。五國城址。玄武巖の洞。第二飛行團(會事)飛行第九聯隊(會事)高射砲第五大隊(羅津)			
最近我が聯盟脱退により南洋の返還が問題視されて居るが、返還すべき理由は全然ない。			軍隊・其の他			朝鮮軍司令部(京城)第十九師團(羅南)第二十師團(龍山)飛行第六聯隊(平壤)飛行第九聯隊(會事)鎮海灣要塞地帯		第十九師團司令部步兵第三八旅團司令部步兵第七十三聯隊步兵第七十六聯隊騎兵第二十七聯隊山地兵第二十五聯隊(羅南)			

京畿道	黃海道	江原道	平安南道	平安北道	咸鏡南道
面積 二八一六 人口 一四九五 密度 一六九	面積 一六七三四 人口 一四九五 密度 八六	面積 二二六六六 人口 一四三三四 密度 五五	面積 一四九二九 人口 一一三五 密度 八八	面積 一三三四〇 人口 一五四三 密度 五四	面積 三一八九八 人口 一五三九 密度 四八
京城府(總督府、道廳) 仁川府 開城府 水原邑 永登浦(皮革を産す)	海州邑(道廳) 靈二浦(製鐵所あり) 京城鐵線。黃海線	春川邑(道廳) 江陵邑 鐵原邑 日本海、大白山脈(金剛山)東海、北部線、京元線。金剛山電鐵	平壤府(道廳) 鐵南浦府 安州邑 西朝鮮灣、大同江、妙高山脈、京義線、平元線、平壤飛行場、鎮南浦港	新義州府(道廳) 宣川邑 鴨綠江、狼林山脈、京義線、新義州港、新義州飛行場	咸興府(道廳) 元山府 興南邑 北青邑 蓋馬高臺、麻天嶺山脈、永興灣、咸鏡線、元山港
紅蔘(開城) 清酒、醬油、柿栗、漆器、藥料、油脂 護謄製品、金屬品、絹布、綿布、製鹽、蠶繭	大豆、小麥粉、煙草 大田、梨、林檎、梨煙草、鐵鑄、銃鐵、金、硅砂、製鹽業、大刀魚海鼠	大麻、麻布、藁、生絲、牛、木製品、蜂蜜	石炭(寺洞)、金(順安)、黑鉛、鐵鋼、銅、栗、林檎、柿、實楠、煙草、砂糖、製鹽(廣安、慶田)、石膏、蠟、藥製品(平壤)	牛、木材 金。(朝鮮一位) 火魚、鰻	明太魚 鐵鑄、硫安 大麻、麻布、絹布 元山港(昭和七年)輪移出 一八八九萬圓 輪移入 一五四七萬圓
朝鮮神宮、景福宮、昌德宮、惠善館、豐島津八達門(水原) 南大門(開城) 朝鮮軍司令部 (京城)	長壽山、信川溫泉	內金剛、外金剛、海金剛	牡丹臺、玄武門、大同門、百祥樓(安州)	東林鎮城址	釋王寺、三防峽 永興灣要港地帶
第二十師團司令部 步兵第四十旅團司令部 步兵第七十八聯隊 騎兵第二十九聯隊 野砲兵第二十六聯隊 (龍山)			步兵第三九旅團司令部 步兵第七十七聯隊 野砲兵高射砲隊 飛行第六聯隊(平壤) 高射砲第六大隊 (平壤)	新義州 輸移出 四八一萬圓 輸移入 四一五萬圓 昭和七年	步兵第三十七旅團司令部 步兵第七十四聯隊 (咸興)











# 定期航空路一覽

航空路線	距離 軒	所要時間 時分
東京、大連線	二九六	一・五〇
東京、名古屋	四三五	二・五〇
東京、大阪	五〇〇	三・〇〇
大阪、福岡	二四〇	一・五〇
福岡、平壤	七五〇	三・五〇
平壤、新義州	九一〇	五・〇〇
東京、富山	二八〇	二・二〇
東京、新潟	四一五	二・三〇
大阪、新潟線	三〇〇	二・〇〇
大阪、富山	二二〇	一・四〇
富山、新潟	一五〇	一・二五
東京、下田	一四〇	一・二〇
大阪、別府	二九〇	二・五〇
大阪、白濱	一二〇	〇・五〇
大阪、鳥取	二七〇	二・三〇
大阪、松江	三〇五	三・三〇

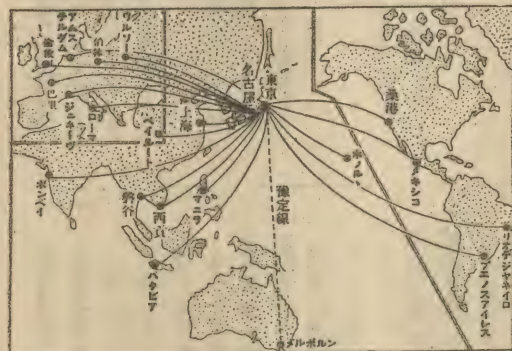
大阪—城崎 二〇〇 一・五〇  
福岡—臺北

## 飛行場一覽

東京飛行場、大阪飛行場、福岡飛行場、蔚山飛行場、京城飛行場、大連飛行場、新義州飛行場、新潟飛行場、松江飛行場、富山飛行場

本邦無線電信系路 (昭和十年現在)

本邦國際無線電話 (昭和十年)



# 列國國勢一覽

## アジヤ

世界總面積一億二千九百九十萬方軒  
世界總人口二十億九百萬人  
人口 十一億二千四百四十萬人  
面積 四千二百萬方軒

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	産業・貿易	國防・交通	その他
大日本	萬世一系の君主國 明治二十二年憲法 制定 今上天皇は國務大臣の輔弼により統治權を總攬し給ふ 首相 岡田啓介 宗教 佛教 神道 キリスト教 住民 大和民族 朝鮮民族 支那民族	面積 六八一 人口 九三、九四四 人口密度 一三四	東京(首府) 五、六六三 大阪 二、七二三 京都 一、〇八八 神戶 八五四 横濱 七〇四 京城 三、七四 大連 二、九六 廣島 二、九〇 福岡 二、八〇 臺北 二、六六	産業 農業、工業 貿易 (一九三四) 三十七億七千八百萬圓 總額 (世界七位) 輸出 (同 六位) 二十一億七千二百萬圓 輸入 (同 七位) 二十二億八千二百萬圓 主要相手國 米、英、領印度、中華民國、滿洲國	國防 國民皆兵の徵兵制 陸軍常備兵 二十三萬 海軍主力艦 九隻 飛行機 一〇〇〇機 交通 鐵道延長 二二、九千軒 自動車 九七千臺 汽船 (百噸以上) 一九四九隻 航空路 (世界四位) 四、五千軒	滿洲國と防守同盟 皇軍は滿洲帝國軍と共に滿洲國防備の任にあたる



國名	滿洲帝國	中華民國
政治・宗教・住民	立憲君主國。 一九三二年三月支那より獨立。一九三四年三月第一世康徳皇帝即位。 國務總理大臣 張景惠 宗教 佛教、道教 住民 漢民族 (千八百萬) 朝鮮民族	共和國 一九二二年共和制を樹立せしめ未だ完全なる國內的統一に達して居ない 國民政府主席 蔣介石 宗教 佛教、道教 住民 漢民族 (九割)
面積・人口・密度	面積 一、二六五、〇〇〇 平方キロメートル 人口 一、三〇八、八〇〇 千人 人口密度(平方キロメートルあたり) 二・四八	面積 一、〇、一三五、〇〇〇 平方キロメートル 人口 一、二六八、〇〇〇 千人 人口密度 四・六
都市と人口	新京(首府) 二〇四、〇〇〇 千人 ハルビン 四八、四〇〇 奉天 四九、四〇〇 吉林 一四、一〇〇 安東 一、九二〇 撫順 一、一五〇 營口 一、三七八 錦州 八、五〇〇 鞍山 八、五〇〇 昭和九年十二月	南京(首府) 六三三、〇〇〇 千人 上海 三三三、〇〇〇 天津 一、三八九、〇〇〇 北平 八八、一〇〇 漢口 八〇、〇〇〇 重慶 六八、七〇〇 成都 六三、五〇〇 武漢 六〇、〇〇〇 蘇州 五〇、〇〇〇 長沙 五〇、〇〇〇
産業・貿易	産業 農業を基本とするが耕地面積一四〇千平方キロメートルで全土の一・三・五に過ぎない。 大豆(世界一位)高粱、玉蜀黍、牛、馬、綿羊 貿易 (一九三三年) 輸出 四四、八〇〇 萬圓 輸入 五、一六〇 萬圓	産業 農業を基本とするが耕地面積は四九八千平方キロメートルで全土の四・八に過ぎない。 米(世界三位)棉花(同三位)小麦、茶、鐵、石炭、アンチモニー(同一位) 貿易 (一九三三年) 輸出 六、七二〇 萬圓 輸入 一、四七九 萬圓
國防・交通	國防 徵兵制 陸軍兵力約十萬、日本軍と協力して國防及治安にあたる。 陸海軍共に建設の途上にある 交通 鐵道延長 八三、三〇〇 千キロ 北滿鐵道を含む 自動車路線七、八千キロ 航空路 二、三〇〇 千キロ	國防 國民政府の兵力は一八七〇千人とあるが實數に就ては不明。 巡洋艦 九隻 飛行機 一九三六年迄軍用機七百の空軍編成計畫あり 交通 鐵道延長 一九八、八〇〇 千キロ 航空路 九、九〇〇 千キロ 船舶 殆ど外國船
日本との關係	日本大使館(新京) 關東軍司令部(新京) 在留日本人 一、〇四五、一九〇人 内地人三〇、一五〇五人 日本との貿易 輸出、一六四、四〇〇 萬圓 輸入、一〇七、七〇〇 萬圓 絹織物・小麦粉・陶磁器 (一九三四年)	日本大使館(北平) 在留日本人 五萬六千人 日本との貿易 輸出 一、二〇〇 萬圓 棉花・採油種子 輸入 一、一七〇 萬圓 (排日の爲大正十一年頃の三分の一に減少) 絹織物・砂糖・機械 青島 在留邦人約二萬人を算し、紡績・製造・製鹽に従事して居る。

度	印	シヤム	フィリピン
政治・宗教・住民	立憲君主國國王 アナンド・マヘンドラ 宗教 國民皆僧の佛教國 國民はすべて佛教を厚く信奉し佛の道を尊ぶて居る 住民 シヤム人 (タイ族)	立憲君主國國王 アナンド・マヘンドラ 宗教 國民皆僧の佛教國 國民はすべて佛教を厚く信奉し佛の道を尊ぶて居る 住民 シヤム人 (タイ族)	立憲君主國國王 アナンド・マヘンドラ 宗教 國民皆僧の佛教國 國民はすべて佛教を厚く信奉し佛の道を尊ぶて居る 住民 シヤム人 (タイ族)
面積・人口・密度	面積 二九六、〇〇〇 平方キロメートル 人口 一、二六四、七〇〇 千人 人口密度 四・二六	面積 二九六、〇〇〇 平方キロメートル 人口 一、二六四、七〇〇 千人 人口密度 四・二六	面積 二九六、〇〇〇 平方キロメートル 人口 一、二六四、七〇〇 千人 人口密度 四・二六
都市と人口	バンコック(首府) 四九三、五〇〇 千人 チェンマイ 五〇、〇〇〇	バンコック(首府) 四九三、五〇〇 千人 チェンマイ 五〇、〇〇〇	バンコック(首府) 四九三、五〇〇 千人 チェンマイ 五〇、〇〇〇
産業・貿易	産業 農業が主で全人口の八割従事してゐる。 米(世界四位)煙草、牛 貿易 (一九三三年) 輸出 一九二、二〇〇 萬圓 輸入 一、三四四 萬圓 食料品、金屬類	産業 農業が主で全人口の八割従事してゐる。 米(世界四位)煙草、牛 貿易 (一九三三年) 輸出 一九二、二〇〇 萬圓 輸入 一、三四四 萬圓 食料品、金屬類	産業 農業が主で全人口の八割従事してゐる。 米(世界四位)煙草、牛 貿易 (一九三三年) 輸出 一九二、二〇〇 萬圓 輸入 一、三四四 萬圓 食料品、金屬類
國防・交通	國防 徵兵制 常備兵 二六千人 砲 三隻 交通 鐵道延長 三、一〇〇 千キロ 航空路 六、二〇〇 千キロ	國防 徵兵制 常備兵 二六千人 砲 三隻 交通 鐵道延長 三、一〇〇 千キロ 航空路 六、二〇〇 千キロ	國防 徵兵制 常備兵 二六千人 砲 三隻 交通 鐵道延長 三、一〇〇 千キロ 航空路 六、二〇〇 千キロ
日本との關係	在留日本人 二、二〇〇人 日本との貿易(一九三四年) 輸出 一、八、九〇〇 萬圓 輸入 一、八、九〇〇 萬圓 絹織物・メリスヤ製品	在留日本人 二、二〇〇人 日本との貿易(一九三四年) 輸出 一、八、九〇〇 萬圓 輸入 一、八、九〇〇 萬圓 絹織物・メリスヤ製品	在留日本人 二、二〇〇人 日本との貿易(一九三四年) 輸出 一、八、九〇〇 萬圓 輸入 一、八、九〇〇 萬圓 絹織物・メリスヤ製品



印 度 支 那	東 印 度	イ ラ ン	トルコ (古土)
總督(佛蘭大總領) 任命ルネ・ロベ 宗教 儒教・佛教 自然崇拜の念強 摩訶庵の崇拜盛 住民 タイ族 ヒンズー族	總督(和蘭政府任 命)ヨング 宗教 回教 キリスト教 住民 マライ族 一六九九年以來和 蘭の植民地。和蘭 の寶庫と呼ばれて 居る	立憲王國 國王 リザ 宗教 回教 住民 ペルシヤ人 古土國の榮えし所 古文書を有するも 今は振はず	立憲王國 國王 モハメッド 宗教 回教 住民 アフガン人
面積 七四〇 人口 二二一五〇	面積 一、九〇〇 人口 六〇七三〇	面積 一、六四七 人口 一五〇五五	面積 七三二 人口 一一、〇〇〇
バタヴィア(首府) 四三三五 スラバヤ 三二四二 サマラン 二二八	テヘラン(首府) 三六〇 デブリーズ 二二〇	アンゴラ(首府) 七五 イスタンブール 六九一	ガブル(首府) 一四〇 カンダハル 六〇
産業 米(世界四位)玉蜀黍 甘蔗糖	産業 小麥・棉花・石油 貿易 輸出 錫・石油・絨毯 輸入 錫・石油・砂糖	産業 小麥・棉花・石油 貿易 輸出 錫・石油・絨毯 輸入 錫・石油・砂糖	産業 蠶繭・果實・羊毛 輸出 蠶繭・果實・羊毛 輸入 蠶繭・果實・羊毛
國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 八八千人 飛行機 四五機 鐵道延長 六九〇軒	國防 常備兵 一四〇千人 鐵道延長 九・六千軒	志願制 常備兵 約七萬人 交通 鐵道の便なく未だ に駱駝を使用
古の安南國。 一八八四年よりフラン スの植民地となる。	日本との貿易 輸出 六三三萬圓 輸入 六三三萬圓 國中第八位	日本公使館 (テヘラン) 一九三五年五月二十一 日より國號イランと改 稱す。	日本公使館 カブール

ア フ ィ カ	ラ ビ ヤ	ネ ル	ア フ リ カ	イ ラ ン	トルコ (古土)
サウデ アラビヤ 王國	イエーメン王國	オーストリア王國	オーストリア王國	オーストリア王國	オーストリア王國
住民 アラビヤ人	住民 アラビヤ人	住民 アラビヤ人	住民 アラビヤ人	住民 アラビヤ人	住民 アラビヤ人
面積 一、〇〇〇	面積 一、〇〇〇	面積 一、〇〇〇	面積 一、〇〇〇	面積 一、〇〇〇	面積 一、〇〇〇
メッカ(首府) 一三〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人	メッカ(首府) 一三〇千人
産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛	産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛	産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛	産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛	産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛	産業 石油・羊毛・羊毛 貿易 輸出 石油・羊毛・羊毛 輸入 石油・羊毛・羊毛
國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 二三千人	國防 常備兵 二三千人
日本公使館 カブール	日本公使館 カブール	日本公使館 カブール	日本公使館 カブール	日本公使館 カブール	日本公使館 カブール



ヨーロッパ(歐羅巴)

面積 九百五十萬方軒  
人口 四億八千四百八十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	産業・貿易	國防・交通	日本との關係
イギリス (利吉英)	立憲君主國 皇帝 ジョージ五世 首相 ボールドウィン 宗教 キリスト教 住民 (新教) アングロ・サクソン族	面積 千軒 本國 三四五 屬領 三二八七三 人口 千 本國 四六五三八 屬領 三九四七二 人口密度 一八〇 本國 一八〇 屬領 一二	ロンドン(首府) 千 グラスゴー 一〇八八 バミンガム 一〇〇九 リバプール 八六〇 マンチェスター 七六三 ブリストル 三九九 シェフィールド 五一二	農業 小麥・大麥等を産するも自國の産額では不足し年々輸入 石炭(世界二位) 鋼鐵(同三位) 自動車(同二位) 船舶(同三位) 貿易總額(世界一位) 輸出 六〇八二億萬圓 輸入 一〇三七四億萬圓 食料品・羊毛・棉花 (一九三三年)	國防・志願制 常備軍 三四〇千人 自治領・植民地軍を除く 戰艦 一五〇隻 飛行機 一五〇〇機 交通 鐵道延長 三二・六千軒 自動車 一七三三三臺 航空路 民間飛行機 二九千軒 船舶(百噸以上)世界一位 七・一〇七隻	日本大使館(ロンドン) 在留日本人 一・五三三人 日本との貿易 輸出 七〇億萬圓 機械・鐵・毛織物 輸入 一〇九億萬圓 生絲・絹織物 一九三四年 一九〇二年迄日英同盟締結されたが一九二一年廢止された
イタリア (利太伊)	立憲君主國 國王 ヴィットリオ・エマヌエーレ三世 首相 ムツソリーニ 宗教 キリスト教(舊教) 住民 ラテン族	面積 千軒 本國 三三〇 屬領 二二五九 人口 千 本國 四二二一七 屬領 二四六四 人口密度 一三五五	ローマ(首府) 千 ミラノ 一〇四五 ナポリ 一〇一三 ゼノア 八五三 フロレンス 六二〇 ヴェニス 六二〇 斜塔	小麥(世界五位)生絲(三位) 葡萄酒(二位)オリーブ油(一位) 貿易總額(世界一位) 輸出 一六四四億萬圓 輸入 一六四四億萬圓 綿織物・果實・車輛 水の都 輸入 一九四四億萬圓 棉花・石炭・羊毛 (一九三三年)	國防 徵兵制 常備軍 三五萬人 飛行機 一五〇〇機 戰艦 四隻 交通 鐵道延長 二二・三三三 航空路 船舶(百噸以上) 一〇一三隻 自動車 三三三三臺	日本大使館(ローマ) 在留日本人 八三八人 日本との貿易 輸出 六億萬圓 水銀・鐵 輸入 六・二億萬圓 生絲・硬化油・玩具 (一九三四年)

フランス (西蘭佛)	ドイツ (逸獨)	オランダ (蘭和)
立憲共和國 大統領 アルベール・ルブラン 首相 ラヴァール 宗教 キリスト教(舊教) 民族 ラテン族	立憲共和國 總統兼首相 ヒットラー 宗教 キリスト教 住民 (新教) ゲルマン族 のドイツ人	立憲君主國 君主 ヴィルヘルム マリア女皇 首相 ベーレン 宗教 キリスト教 住民 (新教) ゲルマン族
面積 千方軒 本國 五五一 屬領 二・八一 人口 千 本國 四・八八〇 屬領 六・三五四〇 密度 七五五人 本國 五五人	面積 千方軒 本國 四六九 人口 千 六六・〇四四 密度 一四〇人 本國 一四〇人	面積 千方軒 本國 三三・六 人口 千 二二・〇四二 密度 八二九〇 本國 八二九〇 屬領 六〇九五〇 密度(本國) 三五四人
パリ(首府) 千 マルセイユ 一八八 リヨン 五八〇	ベルリン(首府) 千 ハンブルグ 一・一三〇 ケルン 七五七 ミュンヘン 七三三 ライプツヒ 七三三	ハーグ(首府) 千 アムステルダム 七八〇 ロッテルダム 五九〇
小麥(世界三位)燕麥(一位) 葡萄酒(三位)葡萄(一位) 鐵・石炭・加里 貿易總額(世界四位) 輸出 三六四〇億萬圓 輸入 五五〇七億萬圓 葡萄酒・石炭 (一九三三年)	大麥(世界二位)ライ麥(一位) 鐵・石炭・加里 貿易總額(世界五位) 輸出 五・七三〇億萬圓 輸入 四九四四億萬圓 棉花・羊毛・咖啡・果實 輸出(世界三位) 輸入(四位) (一九三三年)	小麥・馬鈴薯・牛・石炭 貿易總額(世界五位) 輸出 一四四八億萬圓 輸入 二四一三億萬圓 金銀製品 (一九三三年)
國防 徵兵制 本國軍 三五萬人 殖民地軍 二〇萬人 戰艦 九隻 飛行機 三三〇〇機 交通 鐵道延長 四一・八千軒 汽船(百噸以上) 三・七隻 航空路 三六四四軒	國防 ヴェルサイユ條約により常備兵十萬人に制限され空軍・潜水艦の建造禁止。外に 警察隊 一五萬人 戰艦 六隻 然し一九三五年三月同條約を廢棄し再軍備を宣言海陸共に強大な軍備を形成せんとしつゝある 飛行機 二五〇〇機 交通鐵道延長 四・四四千軒 船舶(百噸以上) 三三隻	國防 徵兵及志願制 常備軍 一八千人 飛行機 二〇〇機 交通 鐵道延長 二・六千軒 汽船(百噸以上) 一〇隻 航空路 三三三三軒
日本大使館(パリ) 在留日本人 九六二人 日本との貿易 輸出 一八億萬圓 機械類 輸入 二八億萬圓 生絲・絹織物・人絹織物(一九三四年)	日本大使館(ベルリン) 在留日本人 一・一八八人 日本との貿易 輸出 一〇九億萬圓 日本への輸出國中六位機械類・鐵・航空機 輸入 一九・六億萬圓 魚油・鯨油・絹織物人絹織物 (一九三四年)	日本公使館(ハーグ) 貿易は殆ど蘭領印度間に行はるるを主とす。 我が領國中は獨り長崎に來つて貿易を許され、我が國文化發展の上に大いに貢獻する所があつた。



一ギルベ (牙 耳 白) (義 耳 白)	ルガトルボ (牙 荷 葡)	ヤニバスイ (牙 班 西)	邦 聯 トーエビソ (ヤ シ ロ)
立憲君主國 君主 三世 宗教 キリスト教 (舊教) ラテン族と ゲルマン族 の混血	立憲君主國 大統領 オスカド ル・カルモナ 將軍 宗教 キリスト教 (舊教) ラテン族	立憲共和國 大統領 アルカラ ザモラ 宗教 キリスト教 (舊教) ラテン族	社會主義共和國 聯邦中央執行委員 會議長カリニン 人民委員會議長 莫神論の色 色彩強し 住民 スラブ族
面積 本國 三〇 コンゴ 三三八五 人口 千 八五九 人口密度 (本國) 八二六 (世界一)	面積 本國 三〇 コンゴ 三三八五 人口 千 八五九 人口密度 (本國) 八二六 (世界一)	面積 本國 三〇 コンゴ 三三八五 人口 千 八五九 人口密度 (本國) 八二六 (世界一)	面積 本國 三〇 コンゴ 三三八五 人口 千 八五九 人口密度 (本國) 八二六 (世界一)
コペンハーゲン(首府) 七二八	リスボン(首府) 千 五九五 オポルト 二二二	マドリッド(首府) 千 九四四 バルセロナ 一〇四二 ヴァレンシア 三三四	モスコ(首府) 千 三五七二 レニングラド 二七五 バク 五五五 キエフ 五三九 ハルコフ 五二二 オデッサ 四七五
歐洲有数の農業國 麥類・馬鈴薯・豚 漁業食品製造・バター 貿易總額一七六八百萬圓 輸出 豚肉・バター 輸入 穀類・石炭 (一九三三年)	亞麻世界四位(石炭・鐵) 貿易總額(世界六位) 輸出 化學製品・藥品 輸入 機械器具・木材 二〇四二百萬圓 (一九三三年)	麥類・羊・オリブ油 貿易總額 六二二百萬圓 輸出 生果・オリブ油 輸入 棉花 (一九三三年)	大麥世界一位(小麥・ラ) イ麥・燕麥 鐵世界二位(鋼鐵四位) 石炭四位(原油二位) 貿易 八七一百萬圓 輸出 木材・石油 輸入 機械類・金屬類
國防 民兵制 常備兵 飛行機 海軍 交通 航空路 三・八千 三・七千	國防 徵兵及志願制 常備兵 飛行機 海軍 交通 航空路 九・八千 六・四千	國防 徵兵制 常備兵 植民地軍 飛行機 交通 航空路 一・三六千人 三・八千人 二・隻 五〇〇機 一〇五千 五〇千	國防 徵兵制 正規軍 民兵軍 飛行機 交通 航空路 五〇萬人 六〇萬人 四・隻 三〇〇機 一〇五千人 五〇千人
日本公使館 (ブルッセル) 日本との貿易 輸出 一七百萬圓 輸入 九・六百萬圓 (一九三四年)	日本公使館 (リスボン) 日本との貿易 輸出 一七百萬圓 輸入 九・六百萬圓 (一九三四年)	日本公使館 (マドリッド) 歐米諸國中最も早く我が 國に來航した事は有名で ある。キリスト教を始 て傳へたのも此の國人で ある。	日本大使館(モスコ) 在留日本人 二二〇一 日本との貿易 輸出 鐵・木材 輸入 機械類・砂糖 主として露領アジヤ間 行なはれる。 (一九三四年)

ス イ ス (西 瑞)	ドランフ (蘭 芬)	一エウルノ (威 諸)	ンデーエス (典 瑞)	クーマンデ (樺 丁)
立憲共和國 一八五五年パリ 條約により永久局 外中立國 大統領 ビレクラ 宗教 キリスト教 (新教) 住民 ドイツ人七割	立憲共和國 大統領 スウェーデン 宗教 キリスト教 (新教) 住民 フィンランド (新教) (フィン人種)	立憲君主國 國王 ハアコン七世 宗教 キリスト教 (新教) 住民 ゲルマン族	立憲君主國 國王 グスタフ 五世 宗教 キリスト教 (新教) 住民 ゲルマン族	立憲君主國 國王 クリスチヤ ン十世 宗教 キリスト教 (新教) 住民 ゲルマン族
面積 本國 四一・九 グリン 二七五五 人口 千 三六二 人口密度 (本國) 八四八	面積 本國 四一・九 グリン 二七五五 人口 千 三六二 人口密度 (本國) 八四八	面積 本國 四一・九 グリン 二七五五 人口 千 三六二 人口密度 (本國) 八四八	面積 本國 四一・九 グリン 二七五五 人口 千 三六二 人口密度 (本國) 八四八	面積 本國 四一・九 グリン 二七五五 人口 千 三六二 人口密度 (本國) 八四八
ヘルシンキ(首府) 二六五千人	オスロ(首府) 三五二千人	ストックホルム(首府) 千 五二〇 ゲテボルク 二五二 マルメ 一一一	ストックホルム(首府) 千 五二〇 ゲテボルク 二五二 マルメ 一一一	コペンハーゲン(首府) 七二八
木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 (一九三三年)	木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 (一九三三年)	木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 (一九三三年)	木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 (一九三三年)	木材・製紙 貿易總額 六七〇百萬圓 輸出 木材・パルプ・紙 輸入 金屬類・穀類 (一九三三年)
國防 徵兵制 常備兵 飛行機 交通 航空路 三・八千 三・七千	國防 徵兵制 常備兵 飛行機 交通 航空路 三・八千 三・七千	國防 徵兵制 常備兵 飛行機 交通 航空路 三・八千 三・七千	國防 徵兵制 常備兵 飛行機 交通 航空路 三・八千 三・七千	國防 徵兵制 常備兵 飛行機 交通 航空路 三・八千 三・七千
日本公使館 (ヘルシン)	日本公使館 (オスロ)	日本公使館 (ストックホルム)	日本公使館 (ストックホルム)	日本公使館 (コペンハーゲン)







ブルガ リヤ	立憲君主國 國王 ボリス三世 宗教 キリスト教 (リシヤ族) 住民 スラヴ族	面積一〇三千方 人口六二〇五千人 人口密度 六〇人	ソファイヤ(首府) 千人 二二三	貿易 麥類・玉蜀黍・煙草 輸入 煙草 輸出 穀物	條約により兵力は二萬を 越へ得ず志願制に依る事 と制限さる。 空軍、戦艦の建造禁止さ る。	(備考)一九〇八年土耳其 より獨立
ギリシ ヤ	立憲共和國 大統領 ギリシス 宗教 キリスト教 (ギリシヤ族) 住民 ギリシヤ族	面積一三〇千方 人口六四八三千人 人口密度 五〇人	アテネ(首府) 千人 四五九 サロニカ 二二七	オリーブ油、養蠶業は伊 太利に繼ぎ歐洲二位貿易 總額三九二億圓 (一九三三年)	國防 徴兵制 常備兵力 五三萬人 飛行機 一七四機 鐵道延長 二・七千 千	日本公使館(愛アルバニ ニ) 〔備考〕古代文明の發祥地 で、所に學藝・美術の中心 であつたが今は國勢振は ず昔日の觀がない。
アルバ ニア	立憲君主國 國王 ツーグー一世 宗教 回教・ギリ スト教(舊教) 住民 アルバニア族	面積 四五千方 人口一〇五千人 人口密度 二二人	チラナ(首府) 三〇千人	産業上殆ど未開地	國防 徴兵制 常備兵力 一五千人 交通 未開	〔備考〕一九二二年土耳其 より獨立
サンマ リノ	伊太利内の小共和 國 宗教・民族伊太利 に同じ	面積 六一千方 人口一三・九千人		石材の産あり		
アドラ	立憲共和國 住民 ラテン族	面積 四五千方 人口 六千人		牧羊を主とす		
モナコ	立憲君主國	面積 二二方 人口 二五千人		一國の財政を賭博税で賄ふ國家であつて風光明媚、 の健康地、觀光客をたつたす。	氣候溫和にして歐洲最上	
リビ ン	立憲君主國 住民は主として イッ人	面積 一五九千方 人口 一〇千人		住民の大部分は農業に従事 し穀物、果實を産する		風光明媚なる國として 知られて居る。
ダン チ	一九二〇年國際聯 盟保護の下に建設 さる住民は主とし てドイツ人	面積 一、九千方 人口 四一〇千人	ダンチツヒ(首府) 千人 二六三	英國に機材を輸出す		國際聯盟の保護の下に ある自由市。
ツ ン	ローマ法王の所 在地、法王が絕對 の權力を有す。	面積 〇、四四方 人口 一〇二五人	列國から一國並の待遇を受け、公使を交換す ローマ市中の一部			法主は宗教上、一獨立 國として歐洲國を承認 した。

メ キシ コ (西 部)	立憲共和國 大統領 カルデナス 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 白人・土人 混血九・〇	面積 千九百 九百九 人口 一 六四〇 四 人口密度 八人	メキシコ(首府) 一〇三〇千人	銀(世界一位)鉛(三位) 金・石油・シザル麻 貿易總額 六九五億圓 輸出 銀・石油 輸入 穀物・機械類 (相手國大半アメリカ) (一九三三年)	國防・徴兵制 常備兵力 五八千人 飛行機 四五機 鐵道延長 二九・九千 航空路 五・千 千	日本公使館(メキシコ) 在留日本人 五・二九七人
ア メ リ カ 北	立憲共和國 大統領 フランクリン・ ルーズヴェルト 國務長官 ハル 宗教 キリスト教 (新教) 住民 殆ど英人系	面積 千九百 七十四 人口 一 八四一 千 本國 二五 六九三 人口密度 一四・九 四 (二方 付)	ワシントン(首府) 千人 四七八 ニュー ヨーク 六九三 シカゴ 三三 七六 ワシントン 一 九五一 デトロイト 一 五六九 ロサンゼルス 二 三八 ボストン 七 八一 サンフランシスコ 六 三四	棉花・煙草・甜菜糖(何 れも世界一位)麥類・羊 毛(二位) 石炭・銅・鉛・石油 鐵道(何れも世界一位) 紡績・食料品・機械・人 絹・自動車(一位) 貿易總額(世界二位) 輸出 六五二億圓 輸入 五六四億圓 棉花・鐵道・煙草・自動 車 (世界一位) 咖啡・砂糖・生絲・紙 (一九三三年)	國防・志願制 正規軍 一三五千人 義勇軍 一八六千人 飛行機 一五隻 (陸軍) 一二三四機 (海軍) 九二二機 鐵道延長 四一・七千 自動車 二二・七千 船舶(百噸以上) 三 九隻 (英國に繼ぎ世界二位) 航空路 八七・二 千 民間飛行機 七三〇 (世界一位) 物 (一九三四年)	日本大使館(ワシントン) 在留日本人 十三萬人 (他にハワイに約十四萬) 日本との貿易 輸出 七六九億圓 輸入 三九八・九億圓 (本邦輸出國中第一位) 棉花・鐵道・鐵 生絲・罐頭・食料品 陶磁器・玩具・絹織 物 (一九三四年)

北アメリカ洲(北亞米利加) 面積 二千八百八十萬方  
人口 一億六千七百二十萬人



カ ナ ダ (英自治領)	サルバ ドル	キューバ	ハイチ	ドミニコ	グアテマラ	マラ	パナマ	コスタ リカ	ホンジュ ラス
英自治領 (一七六三年) より英國に譲渡さ れ一八六七年自治 領となる 首相 ベネツト 宗教 キリスト教 (新教) 住民 英人の子孫 土人の子孫 土人 エスキモー	立憲共和国 大統領 マデネズ	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国	立憲共和国
面積 九五四二 人口 一〇五〇六 人口密度 一人	面積 三四四千方 人口 一四八〇千人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 二六六千方 人口 二六〇〇千人	面積 四九千方 人口 二七五千人	面積 二八八千方 人口 一八〇〇千人	面積 二二〇千方 人口 二二一三千人	面積 八四千方 人口 四七五千人	面積 五八千方 人口 五四〇千人	面積 一五四千方 人口 九〇〇千人
オッタワ(首府) モントリオール クベック シュクエア	サンサルバドル(首府)	ハバナ(首府) サンチャゴ ポルト・オー・プリ ンス(首府)	サンチゴ(首府)	サンチゴ(首府)	マナグア(首府)	グアテマラ(首府)	パナマ(首府)	サン・ホセ(首府)	タグシガルバ(首府)
小麦(世界三位)蕎麥・パ ルプ・木材(建築用) 漁業 金(世界二位)銀(三位)銅 (二位)ニッケル・製紙 貿易總額(世界八位) 輸出 小麦・新聞紙 輸入 石炭・鐵油 (一九三三年)	咖啡(世界五位)	甘蔗(世界二位)烟草・砂 糖・烟草を輸出す	咖啡	甘蔗・ココア	バナナ・咖啡	咖啡(世界四位)	バナナ・咖啡	咖啡・バナナ	バナナ・咖啡
國防 民兵制 常備軍 三・六千人 航空路 六八・二千人 船舶(百噸以上) 一四六三隻	常備兵力 三千人	常備兵力 一四千人	常備兵力 三千人	常備兵力 二千人	常備兵力 二・五千人	常備兵力 六・六千人 鐵道延長 一・二千人	軍備 無し	常備兵力 二・七千人	常備兵力 二・七千人
日本公使館(オッタワ) 在留日本人 二萬三千人 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	一九〇四年五月滿洲帝 國を正式に承認し滿洲 帝國承認の日本以外の 最初の國家として日滿 兩國は多大の敬意を表 してゐる。	一八〇四年 フランス より獨立			米國は太平洋の防備を強 化せんと此の國にニカラ ガラ運河を開鑿せんとし て世界の注目を引いて居 る。	パナマ運河 全長 八一・一軒 通過時間 七・八時間			

## 南アメリカ洲

面積 千八百八十萬方軒  
人口 八千百萬人

チ リ (利 智)	アルゼン ティナ	ブラジ ル	コロン ビア	ベネズエ ラ	グアテ マラ	パナマ	コスタ リカ	ホンジュ ラス
立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 アレックス 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫	立憲共和国 一八二一年イヌパ ニヤ植民地より獨 立 大統領 ユスト 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 イヌパニヤ人 イタヤ人の子孫
面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人	面積 一四四千方 人口 四〇一一人
サンチャゴ(首府)	ブエノスアイレス(首府)	リオ・デ・ジャネイロ(首府)	サンパウロ	サンパウロ	サンパウロ	サンパウロ	サンパウロ	サンパウロ
小麦(世界一位)銅(一位) 木材・沃度 輸出 一〇六百萬圓 輸入 一〇六百萬圓 鐵道延長 一・七千軒 航空路 一・七千軒 主要相手國 イギリス 米國、獨逸	亞麻(世界一位)小麦・ 玉蜀黍二位・羊毛 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	咖啡(世界一位)ココア (二位)砂糖(四位)烟草 (三位)木材・絹織物 輸出 九五四百萬圓 輸入 九五四百萬圓 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒
國防 民兵制 常備兵力 八千人 飛行機 一〇五機 鐵道延長 一・七千軒 航空路 一・七千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒	國防 民兵制 常備兵力 三・七千人 飛行機 八六機 鐵道延長 三九・八千軒 航空路 三九・八千軒
日本公使館(サンチャゴ) 在留日本人 二萬三千人 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(ブエノスアイ レス) 在留日本人 五千人 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(リオ・デ・ ジャネイロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)	日本公使館(サンパウロ) 在留日本人 一七萬 日本との貿易 五、四百萬圓 輸出 小麦・小麥 輸入 陶磁器 (一九三四年)



ベルー (秘魯)	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口六六〇千人 人口密度 五人 人の子孫	面積 一三八二千方 人口六六〇千人 人口密度 五人	リマ(首府) 二八八千人	銀(世界四位)銅・原油 輸出 甘蔗糖・棉花 輸出 石油・棉花・砂糖	常備兵力 鐵道延長 四・五千 日本公使館 日本との貿易 六・八百萬圓 (一九三四年)
ボリビヤ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口三三二千方 人口密度 二人	面積 一三三二千方 人口三三二千方 人口密度 二人	ラ・パス(政廳所在地) スクレ(法律上の首府) 二六八千人	アンチモニー(世界二位) 輸出 銀・錫	常備兵力 鐵道延長 八千人
コロン ビヤ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口二八三千方 人口密度 六人	面積 二八三千方 人口二八三千方 人口密度 六人	ボゴタ(首府) 二二五千人	良質の咖啡(世界二位) 輸出 木材・金・石油 輸出 咖啡・石油	常備兵力 鐵道延長 八・五千人 航空路 二・三千 三・〇千 日本公使館 日本との貿易 九百萬圓 (一九三四年)
ヴェネ ズエラ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口一〇二千方 人口密度 三人	面積 一〇二千方 人口一〇二千方 人口密度 三人	カラカス(首府) 三四一万人	咖啡(世界三位) 輸出 眞珠 輸入 石油・咖啡 輸入 食料品	常備兵力 鐵道延長 一〇千人
エクア ドル	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口四五二千方 人口密度 一〇人	面積 四五二千方 人口四五二千方 人口密度 一〇人	キト(首府) 一〇六千人	ココア(世界五位)咖啡 輸出 金・原油・バナナ 輸出 石油・ココア	常備兵力 鐵道延長 五・六千人 一・一十千
パラ グアイ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口八四四千人 人口密度 二人	面積 八四四千方 人口八四四千方 人口密度 二人	アスンシオン(首府) 九四千人	マテ茶・煙草・牛・木材 輸出 皮革・製造 輸入 木材・マテ茶 輸入 綿織物	常備兵力 鐵道延長 二・九千人 一・一十千
ウル グアイ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口八六六千方 人口密度 一〇人	面積 八六六千方 人口八六六千方 人口密度 一〇人	モンテビデオ(首府) 六六二千人 バイサンズ 二六六千人	羊毛(世界六位)亞麻(四位) 輸出 羊毛・冷凍肉 輸入 鐵油・砂糖	常備兵力 鐵道延長 五・七千人 二・七千
グアイ タ	立憲共和國 宗教 キリスト教 (舊教) 住民 人口一八六千方 人口密度 一〇人	面積 一八六千方 人口一八六千方 人口密度 一〇人	モンテビデオ(首府) 六六二千人 バイサンズ 二六六千人	羊毛(世界六位)亞麻(四位) 輸出 羊毛・冷凍肉 輸入 鐵油・砂糖	常備兵力 鐵道延長 五・七千人 二・七千

リベ リヤ	主憲共和國 主としてアメリカ の解放奴隷の建設 せる國家 宗教 キリスト教 (新教)	面積 九五千方 人口二〇〇千人 人口密度 二一人	モンロヴィア(首府) 一一千人	咖啡・ゴム 輸出 咖啡・ココア 輸入 綿布	常備兵力 交通 鐵道なく自動車主とする
ツモ コロ	政教一致の專制君 主國 大部は佛の保護地	面積 五七〇千方 人口六二〇〇千人	ラバット(首府) 五三三万人	山羊革(モロッコ革) 燐礦石(世界二位)	常備兵力 約六〇千人
邦聯亞南	英自治領 宗教 キリスト教 (新教) 住民 人口八四八千人 人口密度 七人 人の子孫のボニア 人・英人	面積 二二二千方 人口八四八千人 人口密度 七人	プレトリア (政廳所在地) 九一 ケグタ 二七 ヨハネス ブルグ 三四〇	金剛石(世界一位)金 輸出 羊毛(四位) 輸出 一三六八百萬圓 輸入 金剛石・金・羊毛 輸入 七七八百萬圓 食料品(一九三三年)	常備兵力 鐵道延長 一・七千人 航空路 英國間に定期航 空あり
トブジエ	立憲君主國 國王 一世 宗教 回教 住民 アラブ族・トル コ族	面積 九八九 人口 一四八二 人口密度 一五人	カイロ(首府) 一〇六五 アレクサンドリヤ 五七三	棉花(世界四位)玉蜀黍 輸出 棉花・石油 輸出 四七四百萬圓 輸入 棉花・石油 輸入 四四〇百萬圓 綿織物・鐵・石炭 (一九三三年)	軍隊は英國の管理下にある 常備兵力 鐵道延長 四・八千 スエズ運河 全長一六五 通過時間 一六時間
エチオ ピア	立憲君主國 國王 セラシ一世 宗教 キリスト教 (コプト教) 住民 アビシニヤ 族	面積 千九百 人口 八〇〇 人口密度 一四八	アデスアベバ(首府) 七〇千人 ハラール 四〇千人	良質の咖啡・棉花・獸皮 輸出 咖啡・獸皮 輸入 棉花・人絹 輸入 綿織物	常備兵力 民兵 一〇千人 近代訓練にぞく新式 武器を備へず
國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	産業・貿易	國防・交通
アフリカ洲(亞弗利加)					
面積 二千八百八十萬方 人口 一億六千七百二十萬人					
日本との關係					



大洋洲 (オセアニア)

面積 九百萬方呎  
人口 九百五十萬人

國名	政治・宗教・住民	面積・人口・密度	都市と人口	産業・貿易	國防・交通	日本との關係
オーストラリア	英自治領 總督 アルフレッド イサツク 首相 キリスト教	面積 七、七〇四千方呎 人口 六、六三〇千人 人口密度 一人	カンベラ(首府)七千人 シドニー 二、六二二 メルボルン 一、〇二八 阿德レード 三、三〇一 ブリスベーン 三、三〇一	麥類・羊毛(世界一位)金 (三位)石炭・真珠 貿易總額(世界十一位) 輸出 一、八二九百萬圓 羊毛・金 輸入 八、七五五百萬圓 綿織物・人絹・絹織物 (一九三三年)	國防・志願制 常備兵力 一、五千人 鐵道延長 三、四〇一 航空路 九、八千呎	在留日本人 三千人 日本との貿易 輸出 一九七、七百萬圓 羊毛(一九三四年) 本邦への輸出國中三位 輸入 六、四四四百萬圓 綿織物・人絹・絹織物 (一九三四年)
ニュージーランド	英自治領 總督 キリスト教 (新教) 住民 イギリス人	面積 二、六七千方呎 人口 一、五三六千人 人口密度 六人	ウエリントン(首府) オークランド 二、二〇〇	羊毛(世界五位)金・石炭 輸出 六、六九百萬圓 輸入 一、八二九百萬圓 綿織物・人絹・絹織物 (一九三三年)	常備兵力 飛行機 鐵道延長 五、六千呎	日本との貿易 輸出 一一、五五五百萬圓 輸入 八、五五五百萬圓 (一九三四年)
ハバ	米領 キリスト教 (新教) 住民 日本人(全人口の三九%) 比島人・歐洲人 支那人	面積 一、六千方呎 人口 一、三三三 人口密度 二、三三人	ホノルル(首府) 一、三三三・六千人	甘蔗(世界五位)パイナ ツアル 貿易は殆ど米國間にのみ 行はれる。	アメリカ正規軍一四千人 アメリカ海軍の太平洋作 戰の中心地點 真珠灣 根拠地	在留日本人 一四〇千人 貿易内地間(一九三三年) 移出(砂糖七割) 一三、八百萬圓 移入六、三三三百萬圓
イ	日本委任統治地 日本人 三〇、七千人	面積 二、一千方呎 (島嶼六二三の總面積)	南洋羣島所在地 コロン島 (パラオ群島)	甘蔗・コブラ・バナナ 産業未だ未開		
南洋群島	五〇千人	人口 八〇、九千人				

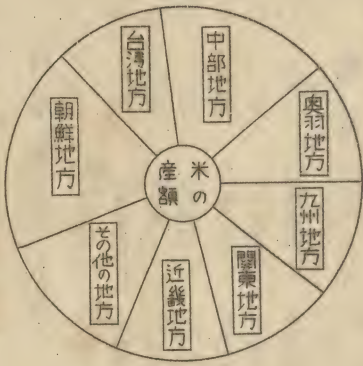
主要物産生産高

米 (單位・千石)

昭和七年

昭和九年 昭和四年平均

新	福	兵	茨	千	北	岡	愛	熊	秋	廣	富	滋	山	山	内	朝	臺
海	灣	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九
二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九



大豆 (單位・千石)

昭和八年 昭和七年

朝	内	新	宮	鹿	青	岩	北	朝	内	岡	栃	群	埼	福	茨	朝	内
地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六
六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六	六、七九六



甘藷 (單位・百萬貫)

昭和八年 昭和七年

鹿島	一、四七	一、三六
沖繩	二、三三	一、九一
長崎	六、七	七、七
熊本	六、七	六、七
熊本地	九、六	九、五
内海	三、七	三、五
臺灣	三、七	三、五

馬鈴薯 (單位・百萬貫)

昭和八年 昭和七年

北海	一、七	一、八
青森	一、六	一、六
内陸	六、七	六、八
朝鮮	一、八	一、八
和歌	三、三	三、三
静岡	二、二	二、二
千葉	二、二	二、二
埼玉	一、九	一、九

桃 (單位・千貫)

昭和八年 昭和七年

神奈川	一、五三	一、二二
大阪	一、二二	一、一三
内海	八、四三	九、四七
廣島	一、三〇	一、三〇
日本	一、三〇	一、三〇

日本梨 (單位・千貫)

昭和八年 昭和七年

静岡	七、〇三九	七、七三
茨城	四、九三三	二、三六
新潟	三、二九	三、四〇
愛媛	二、八二六	二、六二
福島	二、〇三九	一、七〇
計	四、五八四	四、二九七
葡萄	三、二六六	二、七三三
山梨	三、一六三	三、〇三三
大分	一、四三三	一、三八一

林檎 (單位・千貫)

昭和八年 昭和七年

廣島	九、四	八、七
内海	一、七、三一	一、六、三〇
北海	一、五、三八	一、九、〇八
青森	七、一〇一	四、〇九八
内陸	二、四、六〇〇	三、五、九六七
朝鮮	二、一、八九七	二、一、〇五七

蜜柑 (單位・千貫)

昭和八年 昭和七年

和歌	二、一、八五七	一、九、八五三
静岡	一、九、九五五	一、三、六四四
内陸	九、〇、七三	八、〇、八〇八
柿	四、六、六	四、七、七
新潟	三、一、五〇	三、四、四四
長野	三、〇、〇三	三、六、一〇
岡山	二、五、六	二、三、六九
宮城	二、五、六	二、三、六九
内海	六、三、〇四	七、三、六九

甘蔗 (單位・百萬斤)

昭和八年 昭和七年

沖繩	一、五〇	一、五二
鹿島	二、三三	二、九
内陸	一、八〇五	一、七三
臺灣	一、三、二五	一、三、二五

葉煙草 (單位・千貫)

昭和八年 昭和七年

栃木	二、九〇三	二、七四七
福島	二、四四七	一、八六六
鹿島	二、二二	一、六四一
茨城	二、一〇七	二、〇八一
内海	二、七、四四	二、六、一六三

茶 (單位・千圓)

昭和八年 昭和七年

静岡	九、七、四四	七、七、七六
京都	一、五、〇〇	一、三、九
鹿島	一、一、七	一、一、七
埼玉	九、七	八、六
三重	八、八	七、九
宮城	六、九	六、三

内地計

二、二、〇九 一、八、〇六

葡萄

(單位・千貫)

昭和九年 昭和八年

長野	九、三、一一	一〇、九八四
群馬	六、四、〇〇	七、〇六七
愛知	五、四、五	五、八三九
山梨	五、二、二	六、〇二五
茨城	四、一、〇〇	四、三、一〇
福島	三、九、八七	四、一、〇〇
内海	三、五、〇六	四、一、〇〇
日本	三、五、〇六	三、九、九八
臺灣	八、七、一〇〇	一〇、二、七

生絲

(單位・千圓)

昭和八年 昭和七年

長野	九、七、九七七	九、三、七四七
愛知	四、八、九三七	四、四、〇九一
群馬	三、六、〇八六	四、七、九八八
埼玉	二、三、七二	二、七、八四〇
鹿島	二、一、六七八	二、二、六六三
山梨	一、八、五三〇	一、五、二三八
京都	四、九、七七一	四、九、四七四

昭和九年



絹織物 (單位・千圓)

昭和九年 昭和八年

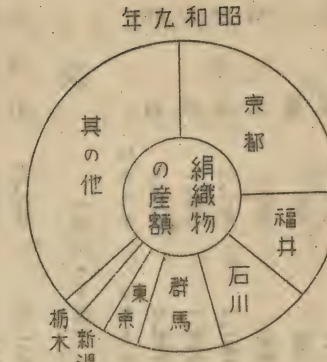
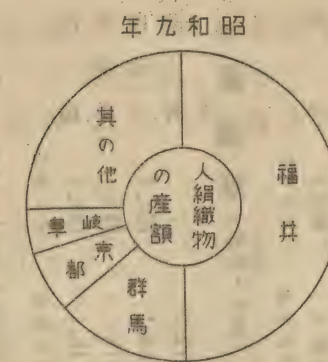
京都	七、七、九四	八、〇、六九
神奈川	三、五、四六	三、三、八七
石川	三、一、六五	四、九、七八
群馬	三、一、〇一	五、五、〇四
東京	二、五、七五	二、七、〇三
新潟	一、七、七八	一、七、九〇
栃木	一、五、九八	一、五、九八
埼玉	一、一、〇一	一、一、〇一
内海	一、一、〇一	一、一、〇一



兵	内	石	和	京	愛	内	佐	三	京	岐	愛	内	愛	東
庫	肥	地	歌	都	知	漆	地	賀	重	都	阜	地	知	京
	計	川	山	都	知	器	計	賀	重	都	阜	計	知	京
	料					(單位・千圓)								
昭和八年	昭和七年						昭和八年	昭和七年				昭和八年	昭和七年	
二六、七九	一八、五三	二九、七九	二六、六三	三三、八六	四〇、三三	二六、七九	二六、六三	二六、六三	二六、六三	二六、六三	二六、六三	二六、六三	二六、六三	二六、六三

千	内	大	東	兵	内	廣	福	京	兵	内	新	大	神	東
葉	地	阪	京	庫	地	島	岡	都	庫	地	瀧	阪	川	京
	計				計					計				
	油				酒					酒				
昭和七年	昭和六年				昭和七年	昭和六年				昭和七年	昭和六年			
二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一

北	内	福	愛	兵	神	内	靜	北	東	内	香	兵
海	地	岡	知	庫	川	地	岡	道	京	地	川	庫
道	計					計				計		
	糖					粉				紙		
昭和七年	昭和六年					昭和七年	昭和六年			昭和七年	昭和六年	
二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一



内	岐	富	德	東	三	和	岡	愛	兵	靜	大	愛	内	石	岐	京	群	福
地	山	山	島	京	重	山	山	媛	庫	岡	阪	知	地	川	阜	都	馬	井
計													計					(總額の五割)
													綿織物					(單位・千圓)
昭和九年	昭和八年												昭和九年	昭和八年				
八七、七〇	七〇、六三	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇	二五、七〇

大	内	大	東	兵	愛
阪	地	阪	京	庫	知
	計				
	メリヤス製品				
昭和八年	昭和七年				
二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一	二五、七一





**木製品** (指物、箱類、單位千圓)

鹿兒島	一〇、四六六	八、〇六〇
内地計	二二、五八八	九八、五五三
臺灣	一四、二九四	一三〇、七三〇

**植物油** (單位・千圓)

愛知	昭和八年 一四、八六八	昭和七年 一一、四九四
大阪	昭和八年 一三、四四七	昭和七年 一〇、六六四
東京	昭和八年 二二、九四〇	昭和七年 一〇、〇五五
和歌山	昭和八年 一〇、五二七	昭和七年 九、八八五
内地計	昭和八年 一六、二七七	昭和七年 一五、一六七

**工業藥品** (單位・千圓)

宮崎	昭和七年 三六、九四〇	昭和六年 二五、九六〇
福岡	昭和七年 一八、四四四	昭和六年 一〇、九四四
大阪	昭和七年 一八、二五一	昭和六年 一八、九六一
兵庫	昭和八年 一〇、四八八	昭和七年 六、六三八
大坂	昭和八年 八、四四三	昭和七年 五、三三三
静岡	昭和八年 六、〇三三	昭和七年 四、二四四
内地計	昭和八年 三三、三六六	昭和七年 二一、九四五

**自動車** (單位・百萬圓)

大阪	昭和七年 一五、三	昭和六年 一五、六
神奈川	昭和七年 二、二	昭和六年 一、九
東京	昭和七年 九、〇	昭和六年 五、一
内地計	昭和七年 一九、七	昭和六年 四、二

**船舶** (單位・百萬圓)

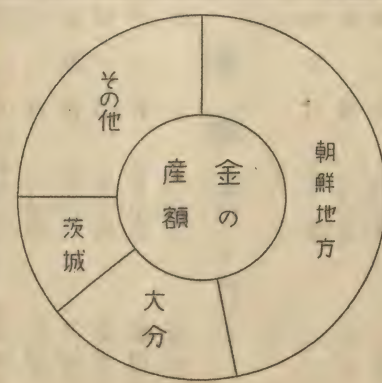
長崎	昭和七年 一七、七	昭和六年 一四、五
神奈川	昭和七年 一四、二	昭和六年 一〇、九
兵庫	昭和七年 六、一	昭和六年 一〇、七
内地計	昭和七年 四六、一	昭和六年 三六、二

**金** (單位・千圓)

大分	昭和八年 一〇、七六	昭和七年 八、一七
茨城	昭和八年 七、三三	昭和七年 五、四〇
北海道	昭和八年 三、八六	昭和七年 三、〇六

**銀** (單位・千圓)

秋田	昭和八年 一、九三	昭和七年 九、六
大分	昭和八年 一、八三	昭和七年 六、五
北海道	昭和八年 一、六五	昭和七年 四、一



昭和七年

香川	三、一六九
鹿兒島	三、〇三〇
秋田	二、七三三
内地計	三、八四六
臺灣	一九、六三三
朝鮮	二、八八

**銅** (單位・千圓)

茨城	昭和八年 九四五	昭和七年 六九五
香川	昭和八年 九三〇	昭和七年 七三七
内地計	昭和八年 八、〇三七	昭和七年 五、三六六

**鐵** (單位・千圓)

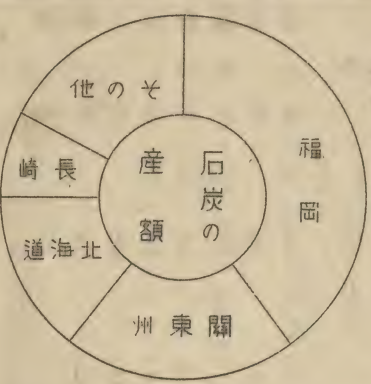
大分	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇
茨城	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇
愛媛	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇
栃木	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇
秋田	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇
内地計	昭和八年 五〇、四二二	昭和七年 三八、五九〇

**石炭** (單位・千圓)

岩手	昭和八年 六、三三三	昭和七年 六、七六七
北海道	昭和八年 四、三三八	昭和七年 一、九三九
内地計	昭和八年 二〇、五〇〇	昭和七年 九、四四六
朝鮮	昭和八年 四、八六三	昭和七年 四、八六三

**石炭** (單位・千圓)

福岡	昭和八年 一八、三四五	昭和七年 七、六八
北海道	昭和八年 三、三六	昭和七年 二、七六五



昭和七年

長崎	一七、六九三
山口	二、四〇一
福島	一〇、六三七
内地計	一五、四六七
臺灣	一四、九七六
朝鮮	三、五、二四
樺太	六、五、七一
臺灣	五、九七〇
朝鮮	五、九七〇
樺太	五、九七〇



昭和八年

秋田	二、八〇〇
北海道	五、七
内地計	九、八八〇
臺灣	七、二
臺灣	二、四六
臺灣	八、七
臺灣	九、四

**石材** (單位・千圓)

北海道	昭和八年 一五、三七三	昭和七年 八、六八一
-----	-------------	------------



# 列國の主要産物

米(一九三四年・單位千担)

總額	八六、〇〇〇
印度(英領)	四、五九
日本	四、三六
シヤム	五、一八
印度支那	五、八三
蘭領印度	五、〇六
ブラジル	一、五〇〇
滿洲國	三、三三
其他	一、五〇〇



小麥(一九三四年・單位千担)

總額	二四、一五〇
ソガイエト	三、〇一〇
アメリカ	一、三三二
印度(英領)	九、五八
フランス	九、〇〇〇
カナダ	七、五八
アルゼンチン	六、四六
伊太利	六、三三
西班牙	四、七五
日本(第十七位)	一、五五



甘蔗糖(一九三三年・單位担)

總額	一七、〇七、四四〇
印度(英領)	四、七三、六〇〇
キエバ	二、〇七、〇六六
蘭領東印度	一、九四、〇六六
日本	一、三三、〇〇〇
フィリッピン	一、三三、〇〇〇
ブラジル	九、五五〇
ハワイ	九、五五〇

甜菜糖(一九三三年・單位担)

總額	七、七〇、〇〇〇
アメリカ	一、三三、六〇〇
ドイツ	一、〇八、四四五
フランス	一、〇〇、五〇〇
ソガイエト	八三、八〇〇
チエツコスロヴァキア	六三、六六七

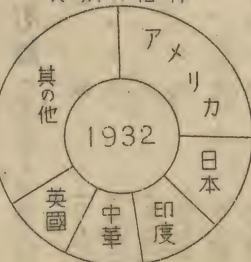
棉花(一九三三年・單位担)

總額	五、三三、三三〇
アメリカ	二、八二、八四六
印度(英領)	八、九三〇
中華民國	四、九〇、〇〇〇

棉花の産額



棉花の消費



羊毛(一九三三年・單位担)

總額	一、六九、九三〇
滿洲國	四、六六、〇〇〇

薪炭(單位・千圓)

昭和八年	三、三三〇
昭和七年	二、六四四
昭和六年	一、七四三
昭和五年	一、七〇一
昭和四年	四、三、四七五
昭和三年	一、八七一
昭和二年	二、〇七三
昭和一年	三、三三〇
昭和八年	三、三三〇
昭和七年	二、六四四
昭和六年	一、七四三
昭和五年	一、七〇一
昭和四年	四、三、四七五
昭和三年	一、八七一
昭和二年	二、〇七三
昭和一年	三、三三〇

漁獲高(單位・千圓)

昭和八年	一、〇三三
昭和七年	一、〇一〇
昭和六年	九、九六
昭和五年	九、九六
昭和四年	九、九六
昭和三年	九、九六
昭和二年	九、九六
昭和一年	九、九六
昭和八年	一、〇三三
昭和七年	一、〇一〇
昭和六年	九、九六
昭和五年	九、九六
昭和四年	九、九六
昭和三年	九、九六
昭和二年	九、九六
昭和一年	九、九六

製鹽業(單位・千担)

昭和八年	一、四七、七五八
昭和七年	一、四七、七五八
昭和六年	一、四七、七五八
昭和五年	一、四七、七五八
昭和四年	一、四七、七五八
昭和三年	一、四七、七五八
昭和二年	一、四七、七五八
昭和一年	一、四七、七五八
昭和八年	一、四七、七五八
昭和七年	一、四七、七五八
昭和六年	一、四七、七五八
昭和五年	一、四七、七五八
昭和四年	一、四七、七五八
昭和三年	一、四七、七五八
昭和二年	一、四七、七五八
昭和一年	一、四七、七五八

馬(單位・千頭)

昭和八年	三、〇三三
昭和七年	二、九七
昭和六年	二、九七
昭和五年	二、九七
昭和四年	二、九七
昭和三年	二、九七
昭和二年	二、九七
昭和一年	二、九七
昭和八年	三、〇三三
昭和七年	二、九七
昭和六年	二、九七
昭和五年	二、九七
昭和四年	二、九七
昭和三年	二、九七
昭和二年	二、九七
昭和一年	二、九七

豚(單位・千頭)

昭和八年	一、四三
昭和七年	一、四三
昭和六年	一、四三
昭和五年	一、四三
昭和四年	一、四三
昭和三年	一、四三
昭和二年	一、四三
昭和一年	一、四三
昭和八年	一、四三
昭和七年	一、四三
昭和六年	一、四三
昭和五年	一、四三
昭和四年	一、四三
昭和三年	一、四三
昭和二年	一、四三
昭和一年	一、四三

鶏(單位・百萬羽)

昭和八年	二、二
昭和七年	二、二
昭和六年	二、二
昭和五年	二、二
昭和四年	二、二
昭和三年	二、二
昭和二年	二、二
昭和一年	二、二
昭和八年	二、二
昭和七年	二、二
昭和六年	二、二
昭和五年	二、二
昭和四年	二、二
昭和三年	二、二
昭和二年	二、二
昭和一年	二、二



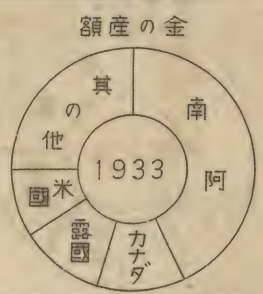
アメリカ 一九七、三〇〇  
アルゼンチン 一三、八〇〇  
南河聯邦 一四六、一〇〇  
新西蘭 一三〇、八〇〇

**金** (一九三三年・單位兩)

總額 五、四一、二五〇  
日本 四〇一、九八二  
中華民國 四七、三三四  
伊太利 三〇、四四四  
ソヴィエト 二〇、二〇〇

**銀** (一九三三年・單位兩)

總額 五、〇七、五〇〇  
メキシコ 二、二八、四八六  
アメリカ 六五、七四〇  
カナダ 四七、八三三  
南美洲 三〇、六九六  
印度(英領) 二六、四三三  
ペルー 二七、七五五  
ドイツ 一八、九六六  
日本 一八、三九五  
ボリヴィア 一三、九三三  
ロデシヤ 二〇、六四四  
メキシコ 一九、八三六  
コロンビア 一一、六九五  
印度(英領) 一〇、五七五



**鉄鋼** (一九三三年・單位千噸)

總額 一、〇九、二二三  
アメリカ 二二、九六六



**石油** (一九三三年・單位千噸)

總額 五、九三三  
アメリカ 一八、七三三  
ソヴィエト 六、〇〇八  
フランス 五、五七五  
ドイツ 三、九三三  
イギリス 三、六〇〇  
ベルギー 二、七四四

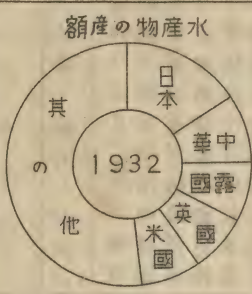


ルクセンブルグ 一、九九八  
印度(英領) 九八  
滿洲國(第十二位) 四三  
日本(第十三位) 三二  
石炭(一九三三年・單位千噸)  
總額 一、八九、五八  
アメリカ 三、七、四三三  
ドイツ 二、六、七六  
イギリス 二、〇、三〇〇  
ソヴィエト 七、二、四〇  
フランス 四、七、九三  
日本 三、一、八九  
ポーランド 二、七、三〇  
中華民國 二、六、〇〇〇  
チエツコスロヴァキア 二、五、七六

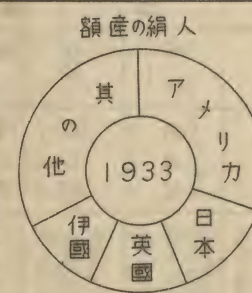
**石油** (一九三三年・單位千噸)  
總額 一九五、〇〇六  
アメリカ 二二、〇六六  
ソヴィエト 二二、四四〇  
ヴェネズエラ 一六、〇六六  
ルーマニア 七、七三三  
イラン(ペルシャ) 六、六四四  
日本(第十五位) 二、五五五



**水産物** (一九三三年・單位百萬圓)  
總額 二、八五五  
日本 三、九  
中華民國 二、〇  
ソヴィエト 一、七  
イギリス 一、五  
アメリカ 一、三  
イスパニア 一、〇



**生絲** (一九三四年・單位千噸)  
總額 三、六、二九  
日本 三、〇〇〇  
イタリヤ 二、六三三  
フランス 一、七  
イスパニア 二、五



**人造絹絲** (一九三三年・單位千噸)  
總額 一〇一、四〇〇

**茶** (一九三三年・單位千噸)  
總額 四、八  
印度(英領) 四、八  
セイロン 二、四  
蘭領印度 八三  
日本 四七  
中華民國 元

**葉煙草** (一九三二年・單位千噸)  
總額 二、〇〇〇  
印度(英領) 六、二九  
アメリカ 四、六三  
ソヴィエト 一、二九  
日本 一、三  
ブラジル 八五  
蘭領印度 七六  
イタリヤ 四六  
フィリッピン 四五



管轄區域	
------	--

— 290 —

— 291 —







### 第三師團

師團司令部  
 步兵第五旅團司令部  
 步兵第六聯隊  
 步兵第六十八聯隊  
 步兵第二十九旅團司令部  
 步兵第三十四聯隊  
 騎兵第四旅團司令部  
 騎兵第三聯隊  
 騎兵第二十五聯隊  
 騎兵第二十六聯隊  
 野戰重砲兵第一旅團司令部  
 野砲兵第三聯隊  
 野戰重砲兵第二聯隊  
 野戰重砲兵第三聯隊  
 高射砲第一聯隊  
 工兵第三大隊  
 第一飛行團司令部  
 飛行第一聯隊  
 飛行第二聯隊  
 飛行第七聯隊

(名古屋)  
 師團司令部  
 步兵第七旅團司令部  
 步兵第八聯隊  
 步兵第七十聯隊  
 步兵第三十二旅團司令部  
 步兵第三十七聯隊  
 步兵第六十一聯隊  
 騎兵第四聯隊  
 野砲兵第四聯隊  
 深山重砲兵聯隊  
 工兵第四大隊  
 輜重兵第四大隊  
 師團司令部  
 步兵第九旅團司令部  
 步兵第十一聯隊  
 步兵第四十一聯隊  
 步兵第二十一旅團司令部

(大阪)  
 步兵第二十一聯隊  
 步兵第四十二聯隊  
 騎兵第五聯隊  
 野砲兵第五聯隊  
 工兵第五大隊  
 電信第二聯隊  
 輜重兵第五大隊  
 師團司令部  
 步兵第十一旅團司令部  
 步兵第十三聯隊  
 步兵第四十七聯隊  
 步兵第三十六旅團司令部  
 步兵第二十三聯隊  
 步兵第四十五聯隊  
 騎兵第六聯隊  
 野砲兵第六聯隊  
 工兵第六大隊  
 輜重兵第六大隊

### 第七師團

師團司令部  
 步兵第十三旅團司令部  
 步兵第二十五聯隊  
 步兵第二十六聯隊  
 步兵第十四旅團司令部  
 步兵第二十七聯隊  
 步兵第二十八聯隊  
 騎兵第七聯隊  
 野砲兵第七聯隊  
 函館重砲兵大隊  
 工兵第七大隊  
 輜重兵第七大隊

(旭川)  
 步兵第三十二聯隊  
 騎兵第三旅團司令部  
 騎兵第八聯隊  
 騎兵第二十三聯隊  
 騎兵第二十四聯隊  
 野砲兵第八聯隊  
 工兵第八大隊  
 輜重兵第八大隊  
 師團司令部  
 步兵第六旅團司令部  
 步兵第七聯隊  
 步兵第三十五聯隊  
 步兵第十八旅團司令部  
 步兵第十九聯隊  
 步兵第三十六聯隊  
 騎兵第九聯隊  
 山砲兵第九聯隊  
 工兵第九大隊  
 輜重兵第九大隊

(山形)  
 師團司令部  
 步兵第八旅團司令部  
 步兵第三十九聯隊  
 步兵第四十聯隊  
 步兵第三十三旅團司令部  
 步兵第十聯隊  
 步兵第六十三聯隊  
 騎兵第十聯隊  
 野砲兵第十聯隊  
 工兵第十大隊  
 輜重兵第十大隊  
 師團司令部  
 步兵第十旅團司令部  
 步兵第十二聯隊  
 步兵第二十二聯隊  
 步兵第四十三聯隊  
 步兵第四十四聯隊  
 騎兵第十一聯隊  
 山砲兵第十一聯隊  
 工兵第十一大隊

### 第八師團

師團司令部  
 步兵第四旅團司令部  
 步兵第五聯隊  
 步兵第三十一聯隊  
 步兵第十六旅團司令部  
 步兵第十七聯隊

(弘前)  
 步兵第三十一聯隊  
 步兵第十六旅團司令部  
 步兵第十七聯隊  
 師團司令部  
 步兵第四旅團司令部  
 步兵第五聯隊  
 步兵第三十一聯隊  
 步兵第十六旅團司令部  
 步兵第十七聯隊

(善通寺)  
 步兵第三十一聯隊  
 步兵第十六旅團司令部  
 步兵第十七聯隊  
 師團司令部  
 步兵第四旅團司令部  
 步兵第五聯隊  
 步兵第三十一聯隊  
 步兵第十六旅團司令部  
 步兵第十七聯隊



輜重兵第十一大隊

第十二師團

(善通寺)

飛行第四聯隊  
輜重兵第十八大隊

(太刀洗)  
(久留米)

步兵第三十旅團司令部

步兵第三十三聯隊

步兵第三十八聯隊

騎兵第二十聯隊

野砲兵第二十二聯隊

舞鶴重砲兵大隊

工兵第十六大隊

高射砲第三聯隊

飛行第三聯隊

輜重兵第十六大隊

(津)

(同)

(奈良)

(京都)

(同)

(舞鶴)

(京都)

(大津)

(八日市)

(京都)

第十四師團

師團司令部

步兵第二十七旅團司令部

步兵第二聯隊

步兵第五十九聯隊

步兵第二十八旅團司令部

步兵第十五聯隊

步兵第五十聯隊

騎兵第十八聯隊

野砲兵第二十聯隊

工兵第十四大隊

輜重兵第十四大隊

(宇都宮)

(同)

(水戸)

(宇都宮)

(高崎)

(同)

(松本)

(宇都宮)

(同)

(水戸)

(宇都宮)

第十九師團

師團司令部

步兵第三十七旅團司令部

步兵第七十三聯隊

步兵第七十四聯隊

步兵第三十八旅團司令部

步兵第七十五聯隊

步兵第七十六聯隊

騎兵第二十七聯隊

山砲兵第二十五聯隊

高射砲第五大隊

工兵第十九大隊

(羅南)

(咸興)

(羅南)

(咸興)

(羅南)

(會寧)

(羅南)

(同)

(同)

(羅津)

(會寧)

第十六師團

師團司令部

步兵第十九旅團司令部

步兵第九聯隊

同 第三大隊

步兵第二十聯隊

(京都)

(同)

(同)

(大津)

(福知山)

飛行第九聯隊

(會寧)

第二十師團

師團司令部

臺灣守備隊司令部

臺灣步兵第一聯隊

臺灣步兵第二聯隊

臺灣山砲兵大隊

基隆重砲兵大隊

馬公重砲兵大隊

飛行第八聯隊

(臺北)

(同)

(同)

(臺南)

(臺北)

(基隆)

(馬公)

(屏東)

關東軍

軍司令部

獨立守備隊司令部

支那駐屯軍

軍司令部

天津駐屯步兵隊

北平駐屯步兵隊

(新京)

(公主嶺)

(天津)

(同)

(北平)

(同)

陸軍各學校

陸軍大學 東京市赤坂區青山北町

士官學校 同牛込區市ヶ谷本村町

東京幼年學校 同牛込區戸山町

○東京警備司令部

○東部防衛司令部

○朝鮮軍司令部

(所屬師團)

(司令部所在地)

東京海(一)

父島(一)

由良(四)

奄美大島(六)

豐後(六)

津輕(十二)

下關(十二)

對馬(十二)

佐世保(十二)

長崎(十二)

壹岐(十二)

舞鶴(十六)

鎮海灣(朝鮮軍)

永興灣(朝鮮軍)

基隆(臺灣軍)

澎湖島(臺灣軍)

旅順(關東軍)

旅順市

旅順市

旅順市

臺灣軍

軍司令部

臺灣守備隊司令部

臺灣步兵第一聯隊

臺灣步兵第二聯隊

臺灣山砲兵大隊

基隆重砲兵大隊

馬公重砲兵大隊

飛行第八聯隊

關東軍

軍司令部

獨立守備隊司令部

支那駐屯軍

軍司令部

天津駐屯步兵隊

北平駐屯步兵隊

要塞

(東京)

(同)

(京城)



仙臺教導學校 仙臺市  
 豐橋教導學校 豐橋市  
 熊本教導學校 熊本市  
 所澤飛行學校 埼玉縣入間郡所澤町  
 航空技術學校 同  
 下志津飛行學校 千葉縣千葉郡賀村  
 明野飛行學校 三重縣度會郡北濱村  
 濱松飛行學校 濱松市  
 熊谷飛行學校 熊谷市  
 工科學校 東京市小石川區  
 經理學校 同 牛込區若松町  
 軍醫學校 同 牛込區戸山町  
 獸醫學校 同 世田谷區下代田町  
 砲工學校 同 牛込區若松町  
 步兵學校 千葉縣千葉郡都賀村  
 騎兵學校 同 千葉縣千葉郡二宮町  
 野戰砲兵學校 同 千葉縣千葉郡千代田村  
 重砲兵學校 同 千葉縣千葉郡都賀町  
 工兵學校 千葉縣東京市飾郡明村  
 通信學校 東京市杉並區馬橋  
 自動車學校 同 世田谷區世田谷四  
 戸山學校 同 牛込區戸山町  
 陸軍習志野學校 千葉縣習志野

陸軍特別大演習

場所 參加師團

明治二五年 宇都宮地方 近衛、第一、二  
 三一年 大阪地方 第三、四、九、十  
 三四年 仙臺地方 第二、八  
 三五年 熊本地方 第六、十三  
 三六年 姫路地方 第五、十六  
 四〇年 結城地方 近衛、第一、三、十五  
 四一年 奈良附近 第四、九、十六  
 四二年 宇都宮附近 第二、七、八、十三、十四  
 四三年 岡山附近 第五、十七  
 四四年 久留米附近 第六、十八、十九  
 大正元年 川越附近 近衛、第一、十三、十四  
 二年 名古屋地方 第三、九、十六、十七  
 三年 大阪地方 第四、十八、十九  
 四年 弘前地方 第二、七、八  
 五年 福岡地方 第五、十六、十八  
 六年 彦根附近 第三、四、九、十六  
 七年 關東平地方 第一、二、八、十三、十四  
 八年 栃木附近 第五、十七  
 九年 中津地方 第四、十七、十八  
 十年 武相平野 近、第二、三、十三、十四

十一年 西部讚岐地方 第五、十一  
 十三年 加越地方 第九、十三、十六  
 十四年 仙臺地方 第二、七、八  
 十五年 佐賀平地方 第六、十三  
 昭和二年 中京地方 第一、三、四  
 三年 盛岡地方 第二、八  
 四年 水戸附近 近衛、第二、十六  
 五年 岡山地方 第五、十  
 六年 熊本附近 第六、十三  
 七年 近畿地方 第三、四、十六、十七  
 八年 福井地方 第九、十八  
 九年 前橋地方 近衛、第二、十三、十四  
 十年 南九州地方 第六、十八  
 防衛司令部の新設  
 陸軍では防空の萬全を期する爲めに東京、大阪、小倉の三ヶ所に防衛司令部を新設すべく防衛司令部令を公布した。  
 東部防衛司令部(東京)は十年八月一日から新設されたが中部防衛司令部(大阪)及び西部防衛司令部(小倉)は昭和十二年八月一日より開設される筈である。

帝國海軍の艦艇

戰艦 (軍艦) 九隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
金剛	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
霧島	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
扶桑	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
山城	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
伊勢	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
日向	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
長門	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二
陸奥	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正二

練習艦 (軍艦) 一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
比叟	一九三	二八	二九、〇〇〇	二六・〇	三〇	大正三

一等巡洋艦 (軍艦) 一二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
加古	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	大正一
古鷹	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	大正一
衣笠	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	大正一
青葉	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	大正一
妙高	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	大正一

二等巡洋艦 (軍艦) 一二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
那智	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年
足柄	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年
羽黑	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年
高雄	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年
愛宕	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年
摩耶	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	昭和三年

二等巡洋艦 (軍艦) 一二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
平賀	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
矢野	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
天龍	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
龍田	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
多摩	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
球磨	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
北上	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
大井	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
木曾	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
長良	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
五十鈴	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
名取	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
由良	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
鬼怒	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
阿武隈	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年
那珂	一五七	一五	一〇、〇〇〇	二七・〇	二〇	明治四五年



艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
神川	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
夕張	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
最上	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
三谷	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
錦野	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
熊谷	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

航空母艦 (軍艦) 四隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
龍	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
赤城	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
加賀	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
鳳翔	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
赤城	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
龍	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

水上機母艦 (軍艦) 二隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
龍	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
赤城	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
加賀	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
鳳翔	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
赤城	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
龍	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

潜水母艦 (軍艦) 五隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
大鯨	二五・七	一五・六	一・五	一・五	八〇	大正三
長鯨	二五・七	一五・六	一・五	一・五	八〇	大正三
迅鯨	二五・七	一五・六	一・五	一・五	八〇	大正三
駒鯨	二五・七	一五・六	一・五	一・五	八〇	大正三
韓鯨	二五・七	一五・六	一・五	一・五	八〇	大正三
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

敷設艦 (軍艦) 六隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
沖島	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
八重山	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
白鷹	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
常盤	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
勝力	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

海防艦 (軍艦) 八隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
春	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
春	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
出雲	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
吾妻	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
八雲	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
淺間	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

砲艦 (軍艦) 一三隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
神威	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
龍	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
加賀	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
鳳翔	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
赤城	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
龍	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

一等驅逐艦 七四隻 (内未成六隻)

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
神威	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
龍	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
加賀	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
鳳翔	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
赤城	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
龍	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇

二等驅逐艦 三一隻

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	主砲	竣工年
神威	一五・四	一四・〇	五・五	三	二	一三
龍	二三・九	二一・〇	二・八	三	二	一四
加賀	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
鳳翔	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
赤城	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
龍	二六・五	二一・〇	二・八	三	二	一四
未成	〇〇・〇	〇〇・〇	〇〇・〇	〇	〇	〇



潛水艇

[illegible]

等潜水艦

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
呂號第一七	七二〇	六二二	七五五	一七・〇	八〇	六	大正一〇
呂號第一八、第一九、第二三、第二四、第二五							
呂號第一六	六三三	六二二	七六六	一六・〇	八〇	四	大正一二
呂號第二七、第二八							
呂號第二九	七三三	六二二	六五五	一三・〇	一二〇	四	大正一二
呂號第三〇、呂第三一、第三二							
呂號第三三	七〇〇	六七五	七〇〇	一六	八〇	四	大正一四
呂號第三四							
呂號第三五	七九	七・六	八五五	一七・〇	八〇	六	大正一九
呂號第三六、第三七、第三八							
呂號第三九	七二〇	七・六	八五五	一七・〇	八〇	六	大正一九
呂號第四〇	七二〇	七・六	八五五	一七・〇	八〇	六	大正一九
呂號第四一、第四二、第四三、第四四、第四五、第四六、第四七、第四八、第四九							
呂號第五〇	七二〇	七・六	八五五	一七・〇	八〇	六	大正一九
呂號第五一、第五二、第五三、第五四、第五五、第五六、第五七、第五八、第五九							
呂號第六〇	七二〇	七・六	八五五	一七・〇	八〇	六	大正一九
呂號第六一、第六二、第六三、第六四、第六五、第六六、第六七、第六八							

掃海艇

經名	長(米)	幅(米)	排水量	運力	主砲	乘員數	竣工年
第一號	五五	八〇	五トン	二〇ノット	二二〇	一基	大正一二
第二、第三、第四、第五、第六							
第七號	海兜	八五	一・五	二二〇	二二〇	一	明治四四
第八							
第九號	五五	七五	五〇	二二〇	二二〇	一	大正七
第二號	五五	七五	五五	二二〇	二二〇	一	昭和八
第一、四、第一五、第一六							

運送艦  
(特務艦)

經名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	照會辦官	竣工年
青島	三九六	一五〇六	七五〇	一〇・〇	八〇	基	一
洲崎	三九三	一五三四	八八〇	一四・〇	一三〇		大正七
室戸	二五・六		八二五	二三・五			大正七
野島				二三・五			大正七
知床	二六六	一七六六	一四〇五〇	二三・〇	二三〇		大正七
間宮	圖式	一八五九	一五八三〇	一四・〇	一四〇	早柄、鳴戸	大正一三

練習特務艦

官	數	朝	艦
富	島	日	名
三二四〇〇	二三六	二二一〇	長(米)
三五	三三〇	三九四	幅(米)
九一九	二七五	二二八	排水量
一八五	二六〇	二六二	速力
			備砲
		基	魚雷發射管
三〇	三三	明治三三	竣工年

醉水艦  
(特務艦)

大泊	六〇・五	一五・四	三・三	一三・〇	八〇	一	大正一〇
艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷射管	竣工年

標的艦  
(特務艦)

艦名	長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷發射管	竣工年
攝津	一五二・五	二五・六	一六二・五 <sup>ト</sup>	二二・〇 <sup>ノット</sup>	一 種	一 基	明治四五

測量艦  
(特務艦)

鯨	名長(米)	幅(米)	排水量	速力	備砲	魚雷製管	竣工年
大和	五三	二〇・七	一、三〇ト	二四ノ	ハ	一	明治二〇
膠州丸	二二三	二〇・八	一、二〇	二四	ハ	一	明治二〇

水  
雷  
艇

水雪艇  
五隻

達發の艦軍表代

速發の艦軍表代	
龍驤	明治三〇年 海軍少省 設立當時
松島	明治三五年 日清戰爭 當時
三笠	明治三七年 日露戰爭 當時
金剛	大正三年 世界大戰 當初
陸奥	現在



# 海軍志願兵徵募區

- 第一徵募區** 横須賀  
北海道、樺太、青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、東京、神奈川、千葉、茨城、埼玉、群馬、栃木、長野、山梨、新潟、靜岡
- 第二徵募區** 吳  
愛知、岐阜、富山、石川、福井、京都、大阪、滋賀、三重、奈良、和歌山、兵庫、岡山、廣島、鳥取、島根、山口
- 第三徵募區** 佐世保  
香川、愛媛、徳島、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、熊本、鹿児島、沖縄
- 海軍區**  
第一海軍區(横須賀軍港)  
東日本と北海道、樺太の海岸海面。  
第二海軍區(吳軍港)  
瀬戸内海から本州西部、四國、九州東部の海岸海面。  
第三海軍區(佐世保軍港)

九州の西南から臺灣、朝鮮に及ぶ海岸海面。  
關東州海軍區 滿洲國、關東州の海。  
南洋海軍區 南洋群島一帯の海。

## 鎮守府・要港部

- 横須賀鎮守府 (神奈川縣)  
吳鎮守府 (廣島縣)  
佐世保鎮守府 (長崎縣)  
舞鶴要港部 (京都府)  
大湊要港部 (青森縣)  
馬公要港部 (臺灣)  
鎮海要港部 (朝鮮)  
放浪要港部 (關東州)  
駐浦海軍部 (滿洲國)

## 常備艦隊編制

(昭和十一年度)

- 聯合艦隊(第一艦隊及第二艦隊)  
【第一艦隊】  
(聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官に率ゐる)  
第一戰隊 長門、扶桑、山城、榛名

- 第八戰隊 神通、長良、川内  
第一水雷戰隊 阿武岡、第九驅逐隊、第廿一驅逐隊、第卅驅逐隊  
第一潛水戰隊 迅鯨、第十八潛水隊、第十九潛水隊、第廿八潛水隊  
第一航空戰隊 鳳翔、龍驤、第五驅逐隊

## 【第二艦隊】

- (第二艦隊司令長官に率ゐる)  
第五戰隊 妙高、那智、羽黑  
第七戰隊 衣笠、青葉  
第二水雷戰隊 那珂、第六驅逐隊、第八驅逐隊、第十九驅逐隊、第廿驅逐隊  
第二潛水戰隊 鬼怒、第十二潛水隊、第卅潛水隊  
第二航空戰隊 加賀、第廿九驅逐隊

## 【第三艦隊】

- (第三艦隊司令長官に率ゐられし上海を根據とす)  
第十戰隊 出雲、球磨  
第十一戰隊 安宅、鳥羽、勢多、磐田

# 警備艦隊編制

(各鎮守府に屬す)

- 横須賀警備艦隊 戰艦、巡洋艦、驅逐隊、潜水隊等  
吳警備艦隊 巡洋艦、驅逐隊、潜水隊  
佐世保警備艦隊 巡洋艦、驅逐隊、潜水隊等

# 海軍航空隊

- 横須賀海軍航空隊 (茨城縣)  
横須賀海軍航空隊 (神奈川縣)  
館山海軍航空隊 (千葉縣)  
吳海軍航空隊 (廣島縣)  
佐世保海軍航空隊 (長崎縣)

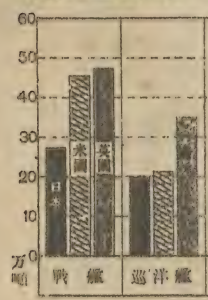
# 海軍の學校

- 大村海軍航空隊 (長崎縣)  
大湊海軍航空隊 (青森縣)  
佐伯海軍航空隊 (大分縣)  
富岡海軍航空隊 (神奈川縣)  
本更津海軍航空隊 (千葉縣)  
鹿屋海軍航空隊 (鹿児島縣)  
舞鶴海軍航空隊 (京都府)
- 海軍大學校 東京市品川區大崎長者町  
海軍兵學校 廣島縣江田島  
機關學校 京都府中舞鶴  
軍醫學校 東京市京橋區築地五丁目  
砲術學校 横須賀市楠ヶ浦町  
水雷學校 神奈川縣三浦郡田浦町  
潜水學校 吳市吉浦町  
經理學校 東京市京橋區小田原町三  
工機學校 横須賀市楠ヶ浦町  
通信學校 神奈川縣三浦郡田浦町

# 觀艦式一覽表

名	稱	場所
明治元年	觀艦式	天保山沖

表較比軍海米英日



- 二十三年 海軍觀艦式 神戸沖  
三十三年 大演習觀艦式 神戸沖  
三十六年 大演習觀艦式 神戸沖  
三十八年 凱旋觀艦式 横濱沖  
四十一年 大演習觀艦式 神戸沖  
大正元年 大演習觀艦式 横濱沖  
二年 恒例觀艦式 横濱沖  
四年 特別觀艦式 横濱沖  
五年 恒例觀艦式 横濱沖  
八年 御親閱式 横濱沖  
八年 大演習觀艦式 横濱沖  
昭和二年 大演習觀艦式 横濱沖  
三年 大禮特別觀艦式 横濱沖  
五年 昭和五年特別大演習觀艦式 神戸沖  
八年 大演習觀艦式 横濱沖

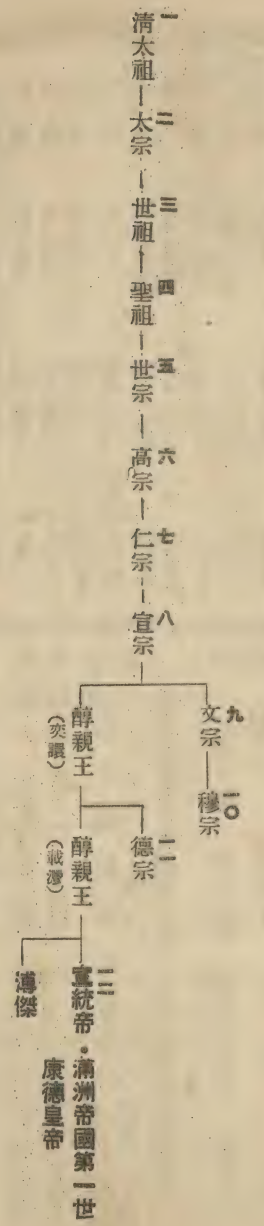


# 滿洲帝國 行政區



位置	
極南	北緯三十八度四十分
極北	北緯五十三度五十分
極西	東經百十五度二十分
極東	東經百三十五度二十分
東はシベリア、東南は朝鮮と 境し、西北は蒙古、南は渤海 に臨み、南西は萬里の長城を 隔て、支那に接してゐる。	
行政區	
省名	省公署
奉天省	奉天
吉林省	吉林
遼寧省	ハルビン
龍江省	チチハル
黑龍省	大黒河
三江省	佳木斯
間島省	延吉
安東省	安東
錦州省	錦州
熱河省	承德
興安東省	大板
興安西省	齊齊哈爾
興安南省	海拉爾
興安北省	海拉爾

## 滿洲帝國皇室御系圖



## 滿洲帝國

### 皇室

康德皇帝 清朝第十二代宣統帝、中華民國の革命に  
て御退位、一九三二年滿洲國建設により執政に御就任  
一九三四年(康德元年)滿洲帝國第一世皇帝に御即位。

宮内府大臣 熙 洽 尙書府大臣 袁 金 鎧  
參議府議長 臧 式 毅

### 國務院

國務總理大臣	張景惠
民政部大臣	呂榮寰
外交部大臣	張燕卿
軍政部大臣	干正山
蒙政部大臣	齊默特色木不勒
財政部大臣	孫其昌
實業部大臣	丁鑑修
交通部大臣	李紹庚
總務廳長	長岡隆一郎
法政局長官	三宅 福馬
次長	蔭 康
次長	大橋 忠一
次長	王 靜 修
次長	洪 維 國



地産鑛の國洲滿

(年八和昭) 額産豆大界世



(總千 位單)

五五九	-----	日本
五〇二五	-----	滿洲國
四〇三	-----	大豆
一一三	-----	其他

計 興安北省 興安東省 興安西省 興安南省 黑龍江省 間島省 三江省 安東省 錦州省 熱河省 遼寧省 吉林省 奉天省

面積・人口

面積	人口
奉天省 八六、五〇〇	九、三九、三
吉林省 八九、九〇〇	四、五五、六
遼寧省 一五、五五五	一、九七、四
熱河省 一四、四三三	四、三三〇
錦州省 六五、五五五	二、〇〇〇
安東省 四八、三三三	二、九三、七
三江省 一〇七、五五五	二、八四、二
間島省 一〇九、八三三	八、三三、四
黑龍江省 一〇九、八三三	八、三三、四
興安西省 九〇、〇〇〇	三、五、五
興安南省 九〇、〇〇〇	三、五、五
興安東省 一〇六、三三三	三、五、五
興安北省 一〇六、三三三	三、五、五

司法部大臣 馮 涵清  
文部大臣 阮 振鐸  
監察院院長 羅 振玉  
最高法院院長 林 榮  
最高檢察廳長 李 榮

主要産業 (昭和八年)

主要産業	昭和八年
大豆	四、五五五
高粱	四、〇二二
粟	五、一八四
玉蜀黍	一、七五九

滿洲國在留本邦人

滿洲國在留本邦人	昭和八年	昭和九年
內地人	一三六、四六三	三〇一、五〇五
朝鮮人	六六一、八六四	七三〇、五三七
臺灣人	一一、七六〇	一三、一四八
合計	九一〇、〇八七	一、〇四五、一九〇

主要都市人口 (康德元年十二月)

主要都市人口	康德元年十二月
奉天	四九四、五二五
哈爾濱	四八二、四五二
新賓	二〇四、八一四
安東	一九一、八一四
吉林	一四一、一七四
營口	一三七、五五二
撫順	一一四、八五九
錦州	八五、一二二

貿易

相手國別貿易 (單位千圓)

相手國別貿易	一九三三年	一九三四年
輸出	一、九三三	一、九三三
輸入	一、九三三	一、九三三

貿易	一九三三年	一九三四年
馬蹄	二四二三	七二〇八
豚	六四七九	百萬圓
羊	二三四六	大豆油工業
鐵	九三三	製粉業
銑	三六八	製鹽高

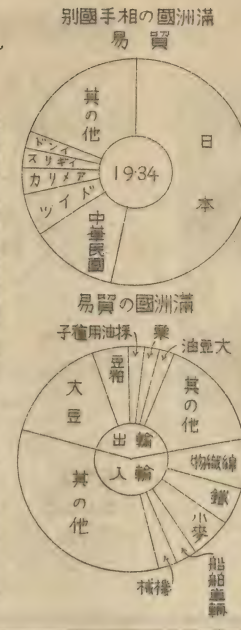
貿易	一九三三年	一九三四年
日本	一七、六八八	一七、六八八
中華民國	一七、六八八	一七、六八八
獨逸	一七、六八八	一七、六八八
米	一七、六八八	一七、六八八
ソバ	一七、六八八	一七、六八八
英國	一七、六八八	一七、六八八
印度	一七、六八八	一七、六八八
香港	一七、六八八	一七、六八八
蘭印	一七、六八八	一七、六八八
總額	一七、六八八	一七、六八八

備考 日本は關東州を含む



# 重要貿易品 (一九三四年)

品名	出 (千円)	入 (千円)
大豆	一六〇、三四九	六八、〇五二
豆	五一、五〇九	五八、二二七
採油用種子	三二、〇四七	五七、〇五九
大豆	一九、九四〇	三〇、九四六
鉄	一六、二六二	二八、〇五七
鉄	一〇、三八〇	一七、四九六
鉄	四四八、四二七	五九三、四六六



## 康徳二年度豫算 (一九三五年 單位千圓)

歳出	一〇四、九九八
帝室費	一、〇〇〇
總務廳	二、五九四
民政廳	二、三三三
外交部	九七四
軍政部	三二、一五〇
財政部	一〇、八二〇
實業部	三、二五三
交通部	二、五八一

## 滿洲定期航空路一覽

新義州—奉天線、大連—奉天—新京—ハルビン線、新京—ハルビン—チ、ハル線、新京—吉林—延吉—龍井村—清津、新京—洮安—チ、ハル線、奉天—錦州—朝陽—凌源—承德線、奉天—錦州—山海關線、奉天—錦州—朝陽—赤峰線、奉天—通化線、ハルビン—依蘭—チヤムス—富錦線、ハルビン—牡丹江—穆稜—東寧—綏芬河—八面通—平陽鎮—密山—虎林—富錦線、八面通—穆稜線、ハルビン—牡丹江—勃利—チヤムス線、チ、ハル—嫩江—大黑河線、新京—ハルビン—チ、ハル—ハイラル—滿洲里線

## 教育

學校數	教員數	生徒數
小學校 七、六二五	一四、三四六	四四〇、六三三
中學校 二、二一五	二、五一四	二七、八八二
師範學校 七、七八	七〇四	八、〇六八
實業學校 五、五三	四一二	五、〇六九
高等專門學校 八	—	二、一二一

## 宗教

佛教徒	五、六九六
道教徒	三、二二五
天主教徒	六、四六三
基督教徒	三、一九七
キリスト教徒	三、一九三

司法部	四、七〇九
文政部	三、〇五五
蒙政部	四、五四
入	一〇四、九九八
租稅	八八、六〇五
印紙收入	七五、六六四
國有鐵道一覽	三、四一七

南滿洲鐵道  
安奉線 (安東—奉天) 連京線 (大連—新京) 旅順線 (大連—旅順) 營口線 (大石橋—營口) 撫順線 (奉天—撫順)  
滿洲國鐵道  
京濱線 (新京—哈爾濱) 濱綏線 (綏芬河—哈爾濱) 濱洲線 (哈爾濱—滿洲里) 奉天—山海關 大鄭線 (大虎山—鄭家屯) 河北線 (滿洲里—河北) 北票線 (金嶺寺—北票) 奉吉線 (奉天—吉林) 西安線 (梅河—西安) 京圖線 (新京—圖們) 京大線 (新京—前郭) 旗開線 (朝陽—開山屯) 上三峯 濱北線 (濱江—北安) 馬船口線 (濱江—馬船口) 齊北線 (齊齊哈爾—北安) 拉濱線 (濱江—拉法) 靈虜島線 (錦縣—靈虜) 北黑線 (北安—辰清) 辰黑線 (辰清—黑河) 訥河線 (寧年—訥河) 平齊線 (四平街—齊齊哈爾) 榆樹線 (東昂々溪—齊齊哈爾) 洮安線 (洮安—索倫) 錦承線 (錦縣—凌源—平泉) 圖佳線 (圖們—牡丹江) 寧佳線 (牡丹江—林口)

## 列國の對滿洲國投資額

國名	投資額 (千圓)
日本	二二、二六〇、八六六
ソビエト	四六五、〇一五
イギリス	三九、五九〇
アメリカ	二六、四〇〇
フランス	二一、〇八六
スエーデン	八五〇
デンマーク	一五七
總額	二、八一三、九六四

## 國防

滿洲帝國の陸海軍は皇帝の統率するところである。  
陸軍 (歩・騎・砲) 總兵力 十二萬人  
海軍 江防艦隊、砲艦 五隻  
和緩、江清、江平、利濟、江通

## 獨立承認國

日本 昭和七年九月十五日 正式承認  
サルバドル 昭和九年三月三日 承認  
羅馬法王國 昭和九年四月二十日、布教上中華民國より分離し獨立教區として親善關係の促進方を要望す  
國際聯盟 昭和九年五月十六日 郵便協定を結ぶ



男子陸上競技記録

昭和十年十月迄  
日本最高記録  
世界最高記録  
オ リム ピ ッ ク 記録

百米競走

年代	記録	選手名	所属
日	一九三五 一〇秒三	吉岡隆徳	東文理大
世	一九三五 一〇秒二	ビーロツク	米 國
オ	一九三二 一〇秒三	トローラン	米 國

二百米競走

日	一九三二 二二秒二	吉岡隆徳	東文理大
世	一九三四 二〇秒二	マトカーフ	米 國
オ	一九三二 二二秒二	トローラン	米 國

四百米競走

日	一九三二 四九秒〇	中島亥太郎	早大
世	一九三二 四六秒二	ガール	米 國
オ	一九三二 四六秒二	カー	米 國

八百米競走

日	一九三四 一分五四秒〇	青地球磨男	立大
世	一九三二 一分四九秒八	ハムブソン	英 國
オ	一九三二 一分四九秒八	ハムブソン	英 國

千五百米競走

日	一九三五 三分五八秒〇	田中秀雄	中大
世	一九三五 三分四八秒八	ボンスロン	米 國
オ	一九三二 三分五一秒二	ベツカリ	伊 國

五千米競走

日	一九三五 一四分五八秒	村社謙平	中大
世	一九三二 一四分一七秒	レヒチネン	芬 蘭
オ	一九三二 一四分三〇秒	レヒチネン	芬 蘭

一萬米競走

日	一九三五 三一分七秒八	村社謙平	中大
世	一九二四 三〇分六秒二	スルミ	芬 蘭
オ	一九三二 三〇分一四秒四	クンチンヌキ	芬 蘭

マラソン競走(四二・九五米)

日	一九三五 二時間二六分四二秒	孫基禎	朝鮮
世	一九三五 二時間二六分四二秒	孫基禎	日 本
オ	一九三二 二時間三一分三六秒	サバラ	ソア チル ンゼ

高障礙競走

日	一九三五 一四秒六	村上 正	早大
世	一九三四 一四秒二	ペアー	米 國
オ	一九三二 一四秒四	セーリンド	米 國

中障礙競走

日	一九三三 五四秒六	福井 行雄	東大理出
世	一九三四 五〇秒六	ハーディン	米 國
オ	一九三二 五二秒〇	ハーディン	米 國

三千米障礙競走

日	一九三五 九分三八秒八	今井哲夫	慶大
世	一九三三 九分九秒四	イソ・ホロ	芬 蘭
オ	一九三二 九分一秒六	イソ・ホロ	芬 蘭

四百米繼走

日	一九三四 四一秒五	佐谷 水口	日 本
世	一九三二 四〇秒〇	ダキイ	米 國
オ	一九三二 四〇秒〇	ダキイ	米 國

千六百米繼走

日	一九三二 三分一六秒八	中島・増田	日 本
世	一九三二 三分一六秒八	大木・西	チム
オ	一九三二 三分一六秒八	ワクアー・アプロウ・カイツ	米 國

一萬米競歩

日	一九三三 六二分四七秒	秋山初太郎	早大
世	一九二二 四六分二八秒四	ゴールディング	カナダ
オ	一九三二 四六分二八秒四	ゴールディング	カナダ

五萬米競歩

日	一九三三 四時間五五分〇	和田英治	英見金港
世	一九三二 四時間五〇分一〇秒	グリーン	英 國
オ	一九三二 四時間五〇分一〇秒	グリーン	英 國

走幅跳

日	一九三一 七米九八	南部 忠平	早大
世	一九二四 七米一三	オウエン	米 國
オ	一九二四 七米七六	レゼンダー	米 國

走高跳

日	一九三五 二米〇一	田中 弘	早大
世	一九三四 二米〇六	コーティ	米 國
オ	一九三二 一米九八	オスボーン	米 國

三段跳

日	一九三四 一五米八二	大島 鎌吉	關大出
---	------------	-------	-----



世 一九三四 一五米八二 大島 鎌吉  
オ 一九三二 一五米七二 南部 忠平  
日 日本

棒 高 跳

世 一九三二 四米三〇 西田 修平  
オ 一九三二 四米四一 ブラウン  
一九三二 四米三一 ミラー  
米 米 早 大  
國 國 國 大

砲 丸 投

日 一九三四 一四米一三 高田 静雄  
世 一九三四 一七米四〇 トラン ス  
オ 一九三二 一六米〇一 セクス トン  
米 米 廣 島 青  
國 國 國 國

圓 盤 投

日 一九三五 四四米七六 菊本 耕作  
世 一九三四 五二米四二 アンダーソン  
オ 一九三二 四九米四九  
米 瑞 東 文 理  
國 典 國 典

槍 投

世 一九三四 六八米五九 長尾 三郎  
オ 一九三四 七六米六六 ヤルガイネン  
一九三二 七二米七一 ヤルガイネン  
芬 芬 關 大  
蘭 蘭 蘭 大

鐵 槌 投

日 一九三五 五〇米二八 阿 部 功  
西 一九一三 五七米七七 ライ アン  
一九一二 五四米七四 マ グ ラ ス  
米 米 東 文 理  
國 國 國 國

十 種 競 技

日 一九三二 七四六九點五九 齋 辰雄  
世 一九三四 八七九〇點四六〇 ジーヴ エルト  
オ 一九三二 八四六二點二三 五 バウ シュ  
米 獨 生 常  
國 逸 命 盤

女子陸上競技記録

百 米 競 走

日 一九二八 一二秒二 人見 絹枝  
大 每  
一 秒 八  
二 秒 五  
ワ ラ シ エ ヴ ァ イ ツ ツ

世 一九三三 一一秒八  
オ 一九三〇 一二秒五  
波 波  
蘭 蘭

二 百 米 競 走

日 一九二九 二四秒七 人見 絹枝  
世 一九三四 二五秒八  
オ 一九三〇 二五秒七  
ワ ラ シ エ ヴ ァ イ ツ ツ  
大 波 波  
蘭 蘭 每

八 百 米 競 走

日 一九三四 二分二秒六 井戸田 さよ子  
世 一九三四 二分二秒四  
オ 一九三四 二分二秒四  
コ ウ コ ヴ ァ  
愛 知 淑 徳  
チ ニ ッ コ  
チ ニ ッ コ

八 十 米 障 碍

日 一九三二 二一秒二 中西 みち  
世 一九三二 二一秒六  
オ 一九三〇 二一秒四  
ヤ コ ブ ソ ン  
京 二 條  
獨 逸  
瑞 典

四 百 米 競 走

日 一九三二 五〇秒二 村岡・柴田  
世 一九三二 四七秒  
オ 一九三〇 四九秒九  
カ イ ル ・ フ ァ ー チ  
コ デ ヤー ス ・ プ レー ト  
ロ デ ヤー ス ・ フ レー ト  
米 米 日 本  
國 國 本

走 幅 跳

日 一九二八 五米九八 人見 絹枝  
一九二八 五米九八  
大 本 每

オ 一九三〇 五米九〇 人見 絹枝  
日 本

走 高 跳

世 一九三五 一米五二 廣橋 百合子  
オ 一九三三 一米六五  
一九三〇 一米五七  
シ ャ イ レ イ  
プ ラ ウ ミ ユー ラー  
獨 米 體  
逸 國 專

砲 丸 投

世 一九三四 一米二八 兒 島 文  
オ 一九三四 一米三八  
一九三四 一米六七  
マ ウ エ ル マ イ ヤー  
獨 獨 横  
逸 逸 濱

圓 盤 投

世 一九三五 三九米六四 石津 光惠  
オ 一九三四 四三米七九  
一九三四 四三米七九  
ワ イ ソ ン ナ  
波 波 體  
蘭 蘭 專

槍 投

日 一九三四 四一米二八 山本 定子  
世 一九三二 四六米七四  
オ 一九三四 四二米四三  
ゲ リ ウ ソ ン  
獨 米 高 中  
逸 國 女 京

三 段 跳

日 一九三二 一米四三 渡邊 すみ子  
高 古 屋  
女



# 男子水上競技記録

## 百米自由型

日	一九三五	五七秒二	遊佐 正憲	日
世	一九三四	五六秒八	ビーター・フイツク	米
オ	一九三二	五八秒〇	宮崎 康二	日本

## 二百米自由型

日	一九三三	二分一三秒〇	遊佐 正憲	日
世	一九二七	二分〇八秒〇	ワイズミユラー	米

## 四百米自由型

日	一九三五	四分四五秒二	根上 博	立
世	一九三五	四分四五秒二	マデイカ	米
オ	一九三二	四分四八秒四	クラツブ	米

## 八百米自由型

日	一九三五	九分五五秒八	牧野 正藏	早
世	一九三五	九分五五秒八	牧野 正藏	日本

## 千五百米自由型

日	一九三三	一分九〇秒八	北村久壽雄	高
世	一九三三	一分九〇秒八	北村久壽雄	業

## 百米背泳

世	一九二七	一分九〇秒七秒二	アルネ・ボルグ	瑞
オ	一九三二	一分九二秒四	北村久壽雄	日本

## 二百米背泳

日	一九三二	一分〇八秒六	清川 正二	名
世	一九二八	一分〇七秒四	バンデ・ウエー	高
オ	一九三二	一分〇六秒八	清川 正二	商

## 百米平泳

日	一九三五	二分三五秒二	吉田 喜一	佐
世	一九三〇	二分三二秒二	コージヤツク	伯

## 二百米平泳

日	一九三五	一分一三秒〇	小池 禮三	慶
世	一九三三	一分一二秒四	カルトンネ	大

日	一九三五	二分四一秒二	小池 禮三	慶
世	一九三五	二分四一秒二	小池 禮三	大
オ	一九三二	二分四四秒九	小池 禮三	本

## 八百米繼泳

日	一九三五	八分五二秒二	遊佐 正憲	日
世	一九三五	八分五二秒二	牧野 正藏	米
オ	一九三二	八分五八秒四	豊宮崎・横山	米

## 三百米混泳

日	一九三五	三分二〇秒八	吉田・小池	日
世	一九三五	三分二〇秒八	遊佐	米
オ	一九三二	三分二〇秒二	カスレー・フイツク	米

# 女子水上競技記録

## 百米自由型

日	一九三五	一分一三秒四	小島 一枝	高
世	一九三四	一分〇四秒八	デン・ウーデン	米
オ	一九三二	一分〇六秒八	マデソン	國

## 四百米自由型

日	一九三二	五分四九秒六	小島 一枝	高
世	一九三四	五分一六秒	デン・ウーデン	米
オ	一九三二	五分二八秒	マデソン	國

## 百米背泳

日	一九三二	一分二五秒一	横田 操	高
世	一九三二	一分一八秒三	ホルム	米
オ	一九三二	一分一八秒三	ホルム	國

## 二百米平泳

日	一九三二	三分〇秒四	前畑 秀子	日
世	一九三三	三分〇秒四	前畑 秀子	米
オ	一九三二	三分〇六秒三	デニス	米

## 四百米繼泳

日	一九三二	五分 六秒七	小島・森田	日
世	一九三四	四分三三秒三	守岡・荒田	米
オ	一九三二	四分三八秒〇	マツキム・マデソン	國



# ラヂオ体操第一圖解

始の姿勢

第一動作

第二動作

運動の方法と注意

數回

一第	二第	三第	四第	五第
<p>第一動作 (呼稱一、二) 頭を充分前へまげる</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 膝をのびしながら踵を下ろす</p> <p>(注意) 最後の動作で左足を横に開く</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 頭を充分前へまげる</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 頭を充分後へまげる</p> <p>(注意) 途中で運動を止めてはいけない</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 頭を充分左へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 頭を充分右へまはす</p> <p>(注意) 途中で運動を止めてはいけない、最後の動作で手を軽く握り腕を前で交叉する</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>
四	四	四	八	八

六第	七第	八第	九第	十第	十一第
<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>	<p>第一動作 (呼稱一、二) 腕を充分前へまはす</p> <p>第二動作 (呼稱三、四) 腕を充分後へまはす</p> <p>(注意) 腕をあげるとき力を入れ、下ろすとき力をぬく</p>
四	四	四	四	八	四



# ラヂオ体操第二圖解

各運動の最後の動作で次の運動の始めの姿勢を取る

始の姿勢

第一動作

第二動作

第三動作

第四動作

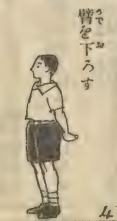
數回

一第



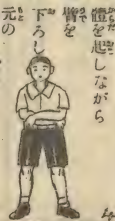
四

二第



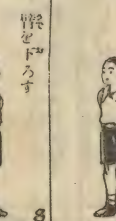
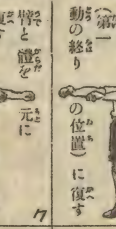
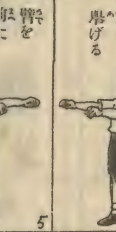
四

三第



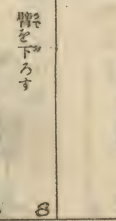
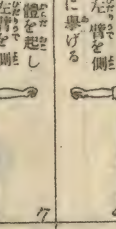
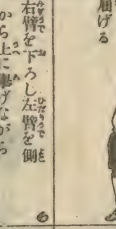
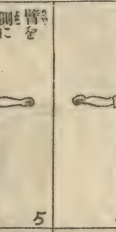
四

四第



二

五第



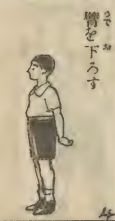
二

六第



四

七第



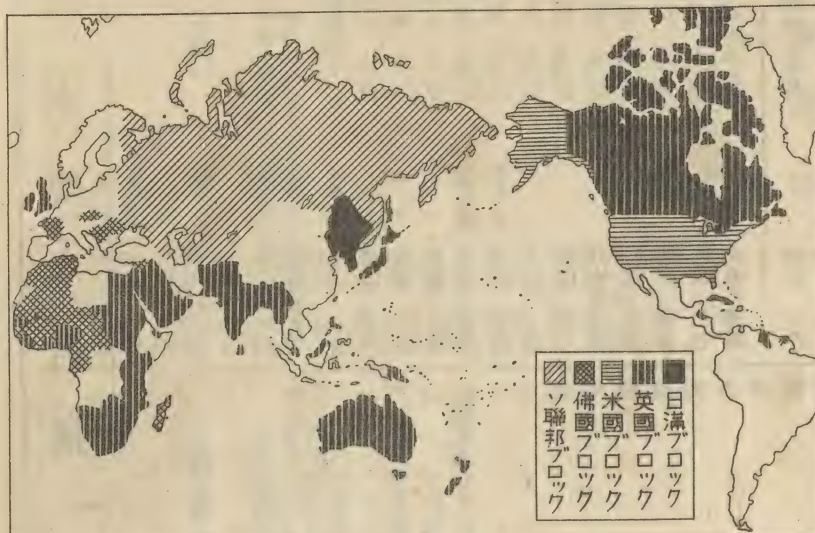
四

八第



四





### 主な經濟ブロック

近年列國は物資を成るべく自國の勢力範圍内に於て自給自足せんとする方針を取り、互に關稅の障壁を高くし、外國貨物の輸入を抑壓するに至つた。即ち一度、戰爭が起つても各ブロック（團體）内で主要な物産の需要を満す事が出来る。

	面積	人口
日滿ブロック	二、一一一 千萬方呎	一二四・六 百萬入
米國ブロック	一二、三七八	一七一・六
英國ブロック	三四、六五五	五二〇・八
佛國ブロック	一三、五六〇	一八八・〇
ソヴィエト	二一、一七六	一六五・七

一十第	十第	九第	始の姿勢
			始の姿勢
<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	第一動作
<p>右腕を下ろす。</p>	<p>右腕を下ろす。</p>	<p>右腕を下ろす。</p>	第二動作
<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	<p>右腕を前に振り上げながら、左腕を十分に伸ばす。</p>	第三動作
<p>右腕を下ろす。</p>	<p>右腕を下ろす。</p>	<p>右腕を下ろす。</p>	第四動作
二	四	二	數回



主要人名簿

昭和十年  
十二月

内閣

天皇を輔弼し奉り國政の重責にあたる  
總理大臣以下各大臣を以て組織する。

外務大臣	廣田 弘毅
内務大臣	後藤 文夫
大藏大臣	高橋 是清
陸軍大臣	川島 義之
海軍大臣	大角 岑生
司法大臣	小原 直
文部大臣	松田 源治
農林大臣	山崎達之輔
商工大臣	町田 忠治
逓信大臣	望月 圭介
鐵道大臣	内田 信也
拓務大臣	伯 兒玉 秀雄
内閣書記官長	白根 竹介
法政局長官	金森徳次郎

内閣審議會

内閣審議會は内閣總理大臣の諮問に  
應じて重要國策につき調査審議し、  
内閣調査局は内閣の重要政策を調査  
し内閣審議會の庶務を掌る。

内閣審議會々長	内閣總理大臣 岡田 啓介
副會長	大藏大臣 高橋 是清
内閣審議會委員	海軍大臣 齋藤 實
	子爵 山本 達雄
	子爵 青木 信光
	男爵 馬場 鉄一
	男爵 黒田 長和
	男爵 伊澤多喜男
	法博 水野練太郎
	頼母木桂吉
	川崎 卓吉
	富田幸次郎
	安達 謙藏
	秋田 清

大勳位、前官禮遇

大勳位(菊花勳飾)	公爵 西園寺公望
總理大臣禮遇	公爵 西園寺公望
同	伯爵 清浦 奎吾
同	男爵 若槻禮次郎
同	子爵 齋藤 實
同	法博 水野練太郎
同	海軍大臣 財部 彪
同	男爵 幣原喜重郎
同	法博 鈴木喜三郎
同	伯爵 内田 康哉
同	男爵 山本 達雄
同	法博、男 倉富男三郎

池田 成彬
各務 鎌吉
小倉 正恒
吉田 茂

樞密院

天皇に直隸し、重要國務に就き天皇  
の御諮詢に應へ奉る機關である。

議長	一木喜徳郎
副議長	平沼騏一郎
親王	雅仁 親王
親王	宣仁 親王
親王	崇仁 親王
親王	戴仁 親王
親王	金子堅太郎
親王	久保田 譲
親王	石黒 忠恵
親王	黒田 長成
親王	櫻井 錠二
親王	荒井賢太郎
親王	河合 操
親王	石原 健三
親王	鈴木貫太郎
親王	石井菊治郎
親王	有馬 良橘
親王	原 嘉道
親王	窪田静太郎
親王	法博 元田 肇

顧問官

陸軍大將	鈴木 莊六
法博	石塚 英藏
法博	阪本彰之助
法博	石渡 敏一
法博	藤澤幾之助
男爵	林 權助
子爵	栗野慎一郎
子爵	上山滿之進

内大臣府

天皇の常時輔弼機關、内大臣は總理  
大臣及び宮内大臣の任免に副書。

大 臣	伯 牧野 伸顯
秘書長官	侯爵 木戸 幸一

宮内省

皇室及宮廷に關する一切の事務を掌  
るところ。

宮内大臣	湯淺 倉平
侍從長	海軍大將 鈴木貫太郎
式部長官	子爵 松平 慶民
掌典長	公爵 三條 公輝

外務省

皇后宮大夫	侯爵 廣幡 忠隆
皇太后宮大夫	子爵 入江 爲守
李王職長官	法博 條田 治策
外務大臣	廣田 弘毅
政務次官	井阪 豐光
次 官	重光 葵

○特命全權大使

英 國	松平 恒雄
佛蘭西國	佐藤 尚武
獨逸國	杉村陽太郎
伊太利國	有田 八郎
白耳義國	大田 爲吉
ソウイェト聯邦	徳川 家正
土耳其國	齋藤 博
米 國	澤田 節藏
ブラジル	南 次郎
滿洲國(兼)	有吉 明
中華民國	
○特命全權公使	
瑞 西國	堀田 正昭
西班牙國	青木 新
ポルトガル國	笠間 泉雄



和蘭國 武當 敏彦  
瑞典國(兼諾威、丁抹、芬蘭) 白鳥 敏夫  
ラトヴィヤ國(兼) 子爵武者小路公共  
ポーランド國 法傳 伊東 述史  
チエツコ・スロヴァキア國 書記官 小川 昇  
埃國(兼ハンガリー) 松永 直吉  
羅馬尼亞國(兼ユーゴスラヴィヤ) 藤田 榮介  
希臘國(兼アルバニア) 法 三枝 茂智  
イラン國 岡本 武三  
暹羅國 矢田部保吉  
加奈陀國 加藤 外松  
キューバ(兼) 齋藤 博  
メキシコ國 堀 義貴  
ペルー國 村上 義溫  
智利國(兼ボリヴェリア) 矢野 眞  
亞爾然丁國(兼パラグワイ) 山崎 次郎  
ルクセンブルグ國(兼) 有田 八郎  
コロンビヤ國 岩手 嘉雄  
アフガニスタン國 北田 正元  
エチオピア國 赤木 朝治

内務省

内務大臣 後藤 文夫  
政務次官 男爵 大森 佳一  
官 赤木 朝治

大藏省

大藏大臣 高橋 是清  
政務次官 男爵 矢吹 省三  
官 津島 壽一

元帥府

大元帥陛下の最高顧問  
元帥 陸軍大將 戴仁 親王  
元帥 海軍大將 博 恭王  
元帥 陸軍大將 守 正王

軍事參議院

帷幄の下にあつて、重要軍務につき  
御諮詢をまつて參議會を開き意見を  
上奏する。

參議官  
陸軍中將 鳩 彦王  
陸軍中將 稔 彦王  
海軍大將 山本 英輔  
陸軍大將 渡邊錠太郎  
陸軍大將 眞崎甚三郎  
陸軍大將 阿部 信行  
海軍大將 小林 躰造

侍從武官府

侍從武官長 陸軍大將 野村吉三郎  
武官 陸軍大將 荒木 貞夫  
武官 海軍大將 中村 良三  
武官 海軍大將 永野 修身  
武官 陸軍大將 林 銑十郎  
武官 陸軍大將 末次、信正  
武官 陸軍大將 植田 謙吉  
武官 陸軍大將 西 義一  
武官 陸軍大將 寺内 壽一

陸軍省

陸軍大臣 陸軍大將 川島 義之  
政務次官 子爵 岡部 長景  
官 中將 古莊 幹郎  
中將 植村 東彦  
中將 高橋 貞夫  
中將 岸本 綾夫  
中將 岩佐 祿郎

軍馬補充部本部長 中將 原 常成  
築城部本部長 少將 松井 命  
運輸部本部長 中將 松田 卷平

參謀本部

天皇に直隸して帷幄の機務に參畫し  
國防用兵のことを掌る。

參謀總長 元帥大將 戴仁 親王  
次長 中將 杉山 元  
總務部長 少將 飯田 貞固  
第一部長 少將 鈴木 重康  
第二部長 少將 岡村 寧次  
第三部長 少將 前田 利爲  
第四部長 少將 小畑敏四郎  
大學校長 少將 鈴木 元長  
陸地測量部長 少將 鈴木 元長

教育總監部

教育總監 大將 渡邊錠太郎  
本部 中將 中村孝太郎  
騎兵總監 中將 蓮沼 蕃  
砲兵總監 中將 伊藤 政喜  
工兵總監 中將 佐村 益雄  
輕重兵監 少將 佐々木吉良

航空部隊

航空本部長 中將 畑 俊六  
總務部長 少將 牧野 正勉  
第一部長 航空大佐 木下 敏  
第二部長 少將 中川 泰輔  
航空技術研究所長 少將 伊藤周次郎  
航空本廠長 少將 長嶺 龜助  
飛行學校長 中將男 徳川 好敏  
所 中將 大江 亮一  
下志津 中將 春日隆四郎  
明野 少將 佐野 光信  
濱松 少將 儀峨 徹二  
熊谷 少將 江橋英次郎  
第一飛行團長

要塞司令部

東京 中將 弘岡 好忠  
父島 中將 西村 勝美  
由良 中將 森田 宣  
豐豫 少將 平野助九郎  
奄美大島 步兵大佐 高橋省三郎  
津輕 少將 安井榮三郎  
下關 中將 林 茂清  
對馬 少將 大久保雄賢

衛戍部隊

東京警備司令官兼  
東部防衛司令官 中將 香椎 浩平  
近衛師團長 中將 橋本虎之助  
近衛歩兵第一旅團長 少將 篠塚 義男  
近衛歩兵第二旅團長 少將 中山 藩  
騎兵第一旅團長 少將 藤江 惠輔  
野重砲第四旅團長 中將 堀 丈夫  
第一師團長 少將 佐藤正三郎  
歩兵第一旅團長 少將 工藤 義雄  
騎兵第二旅團長 少將 山岡 澤  
野重砲第三旅團長 少將 谷口元次郎  
第二師團長 中將 梅津美治郎  
歩兵第三旅團長 少將 波田 重一



步兵第十五旅團長 少將 三宅 俊雄  
第三師團長 中將 岩越 恒一  
步兵第五旅團長 少將 田中 靜壹  
步兵第十九旅團長 少將 苦米地四樓  
騎兵第四旅團長 少將 久納 誠一  
野重砲第一旅團長 少將 廣野 太吉  
第四師團長 中將 建川 美次  
步兵第七旅團長 少將 秦 雅尚  
步兵第三十二旅團長 少將 本間 雅晴  
第五師團長 中將 林 桂  
步兵第九旅團長 少將 甘粕重太郎  
步兵第十一旅團長 少將 谷 壽夫  
第六師團長 中將 重藤 千秋  
步兵第三十旅團長 少將 河村 董  
第七師團長 中將 宇佐美興屋  
步兵第十三旅團長 少將 常岡 寬治  
步兵第十四旅團長 少將 伊田常三郎  
第八師團長 中將 下元 熊彌  
步兵第四旅團長 少將 飯野三郎  
步兵第十六旅團長 少將 中野 直三  
騎兵第三旅團長 少將 鎌田 正信  
第九師團長 中將 山岡 重厚  
步兵第六旅團長 少將 小見山恭造  
步兵第十八旅團長 少將 山口 正熙  
第十師團長 中將 松浦淳六郎  
步兵第八旅團長 少將 小松原道太郎  
步兵第三十三旅團長 少將 田島榮次郎  
第十一師團長 中將 田代皖一郎  
步兵第十旅團長 少將 小林角太郎  
步兵第三十二旅團長 少將 山口 三郎  
第十二師團長 中將 香月 清司  
步兵第十二旅團長 少將 羽守清一郎  
步兵第十四旅團長 少將 役山 久義  
步兵第三十七旅團長 少將 末松 益雄  
步兵第三十八旅團長 少將 齋藤彌平太  
第十六師團長 中將 齋藤彌平太  
步兵第十九旅團長 少將 兒玉 友雄  
步兵第三十旅團長 少將 安岡 正臣  
第十九師團長 中將 鈴木 美通  
步兵第七旅團長 少將 加納 豐壽  
步兵第八旅團長 少將 田中 清一  
步兵第三十九旅團長 中將 田中 清一  
步兵第四十旅團長 少將 三宅 光治  
朝鮮軍司令官 中將 今村 均  
參謀長 少將 小磯 國昭  
臺灣軍司令官 中將 佐枝 義重  
參謀長 少將 柳川 平助  
參謀長 少將 萩洲 立兵  
守備隊司令官 中將 福田袈裟雄  
關東軍司令官 中將 南 次郎  
參謀長 中將 西尾 壽造  
參謀副長 少將 板垣征四郎  
支那駐屯軍司令官 少將 多田 駿  
參謀長 步兵佐 永見 俊德  
海軍大臣 大將 大角 岑生  
海軍次官 大將 堀田 正恒  
政務次官 中將 伯備 堀田 正恒  
大政務次官 中將 長谷川 清  
艦政本部長〔兼〕 大將 中村 良三  
航空本部長 中將 山本五十六  
大學校長 中將 中村龜三郎  
軍令部總長 元帥大將 博 恭 王  
天皇に直隸して帷幄の機務に參畫し  
國防用兵のことを掌る。  
第一部長 中將 島田繁太郎  
第二部長 少將 近藤 信竹  
第三部長 少將 古賀 峰一  
第四部長 少將 高須 四郎  
前田 政一

衛戍部隊

橫須賀鎮守府司令長官

中將 米内 光政  
中將 藤田 尚德  
中將 百武 源吾  
中將 鹽澤 幸一  
中將 眞崎 勝次  
中將 和田 專三  
中將 小林省三郎  
少將 和田 秀穂  
中將 濱田吉次郎

中將 眞崎 勝次  
中將 和田 專三  
中將 小林省三郎  
少將 和田 秀穂  
中將 濱田吉次郎

海上部隊

聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官

中將 高橋 三吉  
中將 加藤 隆義  
中將 及川古志郎

司法省

司法大臣 小原 直  
政務次官 原 夫太郎  
次官 長島 毅

文部省

文部大臣 松田 源治  
政務次官 添田敬一郎  
次官 三邊 長治

農林省

農林大臣 山崎達之輔  
政務次官 守屋 榮夫  
次官 長瀬 貞一

商工省

商工大臣 町田 忠治  
政務次官 勝 正憲  
次官 吉野 信次  
特許局長 中松 眞郷

逓信省

逓信大臣 望月 圭介  
政務次官 青木 精一  
次官 大橋 八郎

鐵道省

鐵道大臣 內田 信也  
政務次官 樋口 典常  
次官 喜安健次郎

拓務省

拓務大臣 兒玉 秀雄  
政務次官 櫻井兵五郎  
次官 入江 海平

地方廳

貴族院議長 公卿 近衛 文麿  
衆議院議長 公卿 濱田 國松  
會計検査院長 公卿 河野 秀男  
行政裁判所長官 公卿 二上 兵治  
警視總監 小栗 一雄  
北海道長官 佐上 信一  
東京府知事 横山 助成



京都府知事 鈴木信太郎  
大阪府知事 安井 英二  
神奈川縣知事 石田 馨  
兵庫縣知事 湯澤三千男  
長崎縣知事 田中廣太郎  
新潟縣知事 宮脇 梅吉  
埼玉縣知事 齋藤 樹  
群馬縣知事 君島 清吉  
千葉縣知事 石原雅二郎  
茨城縣知事 安藤狂四郎  
栃木縣知事 宣場 軍藏  
奈良縣知事 一戸 二郎  
三重縣知事 富田愛次郎  
愛知縣知事 篠原英太郎  
靜岡縣知事 阿部 嘉七  
山梨縣知事 土屋 正三  
滋賀縣知事 村地 信夫  
岐阜縣知事 坂 千秋  
長野縣知事 大村 清一  
宮城縣知事 井野 次郎  
福島縣知事 伊藤 武彦  
岩手縣知事 石黒 英彦  
青森縣知事 小林 光政  
山形縣知事 金森 太郎  
秋田縣知事 兒玉 政介

福井縣知事 近藤 駿介  
石川縣知事 生駒 高常  
富山縣知事 土岐銀次郎  
鳥取縣知事 中谷 秀  
島根縣知事 福邑 正樹  
岡山縣知事 多田 安信  
廣島縣知事 鈴木 敬一  
山口縣知事 菊山 嘉男  
和歌山縣知事 藤岡 長和  
德島縣知事 戶塚九一郎  
香川縣知事 藤野 惠  
愛媛縣知事 大場鑑次郎  
高知縣知事 泊 武治  
福岡縣知事 畑山四男美  
大分縣知事 田口 易之  
佐賀縣知事 古川 靜夫  
熊本縣知事 關屋延之助  
鹿兒島縣知事 三島 誠也  
宮崎縣知事 早川 三郎  
鹿児島縣知事 藏重 久

朝鮮總督 陸軍大將 宇垣 一成  
政務總監 今井田清徳  
臺灣總督 中川 健蔵  
總務長官 平塚 廣義

樺太廳長官 今村 武志  
南洋廳長官 林 壽夫  
對滿事務局總裁(兼)陸軍大將 川島 義之  
關東局總長 大野綠一郎  
關東州廳長官 竹下 豐次

六大都市市長  
東京市長 牛塚虎太郎  
大阪市長 加々美武男  
京都市長 淺山富之助  
名古屋市長 大岩 勇夫  
神戸市長 勝田銀次郎  
橫濱市長 青木 周三

特殊銀行會社  
南滿洲鐵道株式會社總裁 松岡 洋右  
同 副總裁 大村 卓一  
日本銀行總裁 深井 英五  
同 副總裁 清水賢一郎  
日本勸業銀行總裁 馬場 鏡一  
日本興業銀行總裁 結城豐太郎  
北海道拓殖銀行頭取 松本 修  
臺灣銀行頭取 保田 次郎  
朝鮮銀行總裁 加藤敬三郎

# 昭和人名辭典

○アインシュタイン 獨逸の科學者。

引力を發見したニュートン以來の大發見といはれる相對性原理の發見者。  
○朝倉文夫 大分縣出身。彫刻の大家。東京美術學校教授。

○安達謙藏 熊本縣出身。元遞信、內務大臣、代議士、國民同盟總裁。

○安部磯雄 福岡縣出身。苦學力行の人、野球界の恩人。代議士、社會大眾黨中央執行委員長。

○岡部信行 石川縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○安保清種(男爵) 佐賀縣出身。元海軍大臣。海軍大將。

○荒木貞夫 東京府出身。十四歳のとき銚子の醬油醸造業「廣庄」に奉公



現存者を主とし、特に關係深き故人の一部を掲出した。(昭和十年十一月)

したが、主家没落の爲め軍人に轉身したといふ立志傳中の人。昭和六年滿洲事變突發直後の大養内閣に陸軍大臣となり、非常時日本の重大時局にあたる。昭和九年一月陸軍大臣を辭す。陸軍大將、軍事參議官。

○荒木實三郎 群馬縣出身。醫博、學智院々長。

○有吉 明 東京府。特命全權大使中華民國駐在。

○有馬良輔 和歌山縣出身。日露役に旅順口閉塞隊總司令として勇名を轟かす。海軍大將、明治神宮々司。

○安藤廣太郎 兵庫縣出身。農博、農學の最高權威者。農林省農事試驗場長兼茶業試驗場長園藝試驗場長。

○池田成彬 東京府。三井合名、三井銀行の常務理事。日本一の財團三井王國の支配人。内閣審議會議員。

○石井菊次郎(子爵) 千葉縣出身。特命全權大使として國際聯盟の權威者といはれた。元外務大臣。昭和八年ロンドンに於ける世界經濟會議に參列。貴族院議員、樞密顧問官。

○石原莞爾 山形縣出身。陸軍歩兵大佐。滿洲事變當時策戰主任參謀として活躍。參謀本部第二課長。

○一本善徳郎(男爵) 靜岡縣出身。法博、樞密院議長。元文部、內務、宮内各大臣、報德社創立者岡田良一郎を父とし、元文部大臣岡田良平を兄とし兄弟同時に大臣たりしことあり。

○稻畑勝太郎 京都府。關西實業界の



重鎮、貿易界に活躍。大阪商工會議所會頭。貴族院議員。

○大妻 毅 岡山縣出身。日本の立憲政治發達のため多年苦闘。政友會總裁として昭和六年十二月滿洲事變發生直後内閣總理大臣となる。同七年五月十五日、五・一五事件の貴き犠牲として兇彈に斃る。

○井上幾太郎 山口縣出身。陸軍大將。借行社社長。

○今井田清徳 岡山縣出身。朝鮮總督府政務總監。

○今村嘉吉 軍人にして畫家。軍事畫の權威者。陸軍歩兵中佐。

○今村信次郎 東京府。海軍中將、元佐世保鎮守府司令長官。軍令部出仕。

○入江爲守(子爵) 京都府出身。皇太后宮大夫兼宮中御歌所々長。

○岩崎小彌太(男爵) 住友吉左衛門と共に日本一の金満家、その資産は三億圓以上。三菱合資社長。岩崎彌

太郎はその伯父で高知縣出身。

○岩崎彦彌太 男爵岩崎久彌の嗣子で岩崎彌太郎の孫にあたる。三菱合資副社長。

○ウオロシロフ 現ソヴィエト聯邦陸海軍人民委員長。同赤衛軍の統率者。

○植田謙吉 大阪府出身。昭和七年上海事件に第九師團長として出征。爆彈にて隻脚を失ふ。元參謀次長。陸軍大將、軍事參議官。

○上原勇作(子爵) 宮崎縣出身。陸軍大將。參謀總長、陸軍大臣等に歷任大正十年元帥府に列せらる。昭和八年薨去。

○宇垣一成 岡山縣出身。元陸軍大臣。陸軍大將、朝鮮總督。

○牛塚虎太郎 富山縣出身。東京市長。

○千止山 滿洲國獨立の功勞者。軍政部大臣。

○内田康哉(伯爵) 熊本縣出身。外

○袁金鎧 滿洲國尙書府大臣。

○閻錫山 山西軍を指揮してゐる中華

民國舊軍閥の巨頭。

○大角岑生 愛知縣出身。一九三六年

の重大時局を控え、我が海軍の軍政にあたる海軍の主腦者。海軍大將。海軍大臣。

○大谷光昭(伯爵) 眞宗本願寺派管長。

○大谷光博(伯爵) 眞宗大谷派管長。

信子嬢方は、皇后陛下の御妹。

○岡田啓介 福井縣出身。聯合艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官等を



經て昭和二年田中内閣、昭和七年齋藤内閣と二度海軍大臣となる。昭和九年七月内閣組織

の命を拜す。海軍大將、内閣總理大臣。

○小栗一雄 静岡縣出身。警視總監。

○尾崎行雄 三重縣出身。國會開設以

來毎回代議士に當選(十八回)司法

大臣、東京市長等に歷任。憲政功勞者として帝國議會より表彰さる。

○大田爲吉 鳥取縣出身。小學校卒業

後、獨學を以て立身した外交界の人物。駐露特命全權大使。

○及川古志郎 岐阜縣出身。第三艦隊司令長官。海軍中將。

○小野塚喜平次 新潟縣出身。法博、貴族院議員、元東京帝國大學總長。

○小原直 新潟縣出身。長く司法次官たり。司法大臣。

○汪兆銘(汪精衛) 中華民國國民政府の行政院長。日本を理解し東洋永遠の平和復興の理想を持つ。昭和十年十一月狙撃されて重傷を負ひ、行政院長を辭す。

○加藤寛治 福井縣出身。聯合艦隊司令長官、軍令部長に歷任、ロンドン會議の際統帥權問題から退職。海軍大將。

務大臣たること數度、昭和六年滿鐵總裁として滿洲事變に善處、七年五月齋藤内閣の外務大臣となつて滿洲國承認、國際聯盟脫退等の重大事局に當る。八年辭職、國務大臣禮遇。

○内田信也 茨城縣出身。代議士、鐵道大臣。

○エジソン 米國人。世界人類に電氣の福音をもたらした大發明家。新聞賣子から身を起した立志物語の偉人で、白熱電燈、活動寫眞機、電信機、蓄音機等幾多の發明に人類文化の父と仰がる。一九三二年(昭和七年)逝去。



○エツケナー 獨逸人。一九二九年飛行船ツエツペリン號を指揮して世界一週、ベルリンから直行で東京訪問覆ケ浦に着陸、太平洋を横斷した。世界航空界の權威者。

○加藤隆義(子爵) 廣島縣出身。海軍中將、元軍令部次長。第二艦隊司令長官。

○金子聖太郎(伯爵) 東京府。元司法大臣。維新史料編纂會總裁として明治天皇の御治蹟を謹編。

○川島義之 愛媛縣出身。元朝鮮軍司令官。陸軍大將、昭和十年九月林大將の後をうけて陸軍大臣に就任。

○ガンヂー 印度の聖雄。華はれたる

將の後をうけて陸軍大臣に就任。

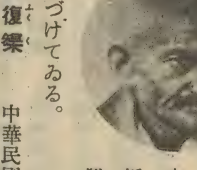
○島崎藤村 愛媛縣出身。元朝鮮軍司令官。陸軍大將、昭和十年九月林大將の後をうけて陸軍大臣に就任。

○加藤寛治 福井縣出身。聯合艦隊司令長官、軍令部長に歷任、ロンドン會議の際統帥權問題から退職。海軍大將。

○小野塚喜平次 新潟縣出身。法博、貴族院議員、元東京帝國大學總長。

○小原直 新潟縣出身。長く司法次官たり。司法大臣。

○汪兆銘(汪精衛) 中華民國國民政府の行政院長。日本を理解し東洋永遠の平和復興の理想を持つ。昭和十年十一月狙撃されて重傷を負ひ、行政院長を辭す。



○加藤寛治 福井縣出身。聯合艦隊司令長官、軍令部長に歷任、ロンドン會議の際統帥權問題から退職。海軍大將。

○何應欽 蔣介石の部下。わが陸軍士官學校卒業、中華民國軍政部長。

○清浦奎吾(伯爵) 熊本縣出身。司法



大臣、農商務大臣、内閣總理大臣等に歷任。總理大臣禮遇の重臣。

○黒 治 滿洲帝國宮内府大臣。前財政部大臣。日本士官學校出身、昭和九年鄭首相と共に特使として來朝。

○工 藤 忠 青森縣出身。滿洲帝國康德皇帝陛下の御親任厚き侍衛武官長、滿洲帝國陸軍大將。

○久原房之助 大阪府出身。元遞信大臣。代議士、政友會の巨頭。

○倉富勇三郎(男爵) 福岡縣出身。元樞密院議長。樞密院議長禮遇。

○ケーソン 年少よりフィリッピン獨立運動に身を賭して苦闘を續けた熱血の志士。多年の念願達成してフィリッピンも愈々獨立の緒についた。昭和十年九月十七日、大統領選舉に國民の壓倒的信望を擔つて初代大統領に當選。フィリッピン共和國初代大統領。

○ケマル・アタ・チュルク(パシャ) 歐洲



全權として渡佛した。從一位、大勳位公爵、現代に於ける榮爵の最高を賜つてゐる。

○齋藤 博 新潟縣出身。對米關係の重大時局にあたる我が外交界の中堅。

北米合衆國駐在特命全權大使。

○齋藤 實(子爵) 岩手縣出身。縣廳



の給仕から身を起して、明治十五年兵學寮を卒へて海軍少尉に任官。五度海軍大臣となる。

元朝鮮總督、昭和七年内閣總理大臣に親任され、同九年七月辭職。海軍大將、内閣總理大臣禮遇。

○阪谷芳郎(男爵) 東京府。元東京市長。帝國發明協會各會長。貴族院議員。

○櫻井忠通 愛媛縣出身。陸軍少將。

大戰に参加、自國の無力を慨して新政府を樹て、トルコ復興のために起つた英雄政治家。トルコ大統領。

○小磯國昭 山形縣出身。元關東軍參謀長。我が陸軍の中堅として將來を期待さる。陸軍中將、朝鮮軍司令官。

○齋藤之助(男爵) 東京府。貴族院議員。日本商工會議所會頭、東京商工會議所會頭。實業界の大御所。

○胡 漢 民 支那政治家の元老、日本法政大學卒業。反蔣介石の頭目と目されて居る。

○辜 鴻 銘 臺灣出身の貴族院議員。

○兒玉秀雄(伯爵) 山口縣出身。日露戰爭の滿洲軍參謀總長として有名な兒玉源太郎大將の長男。拓務大臣。

○胡 適 支那文化運動の先驅者として文學及び思想界の大立物。

○後藤文夫 大分縣出身。貴族院議員。元農林大臣。昭和九年七月岡田内閣の柱石として立つ。内務大臣。

『肉弾』その他軍事著書多し。

○重光 葵 大分縣出身。支那公使として在任中昭和七年四月上海の爆彈事件に、故白川大將等と共に奇禍に遇ひ隻脚を失ふ。外務次官。

○幣原喜重郎(男爵) 大阪府出身。元外務大臣。貴族院議員。

○島田繁太郎 東京府出身。軍令部次長。海軍中將。

○勝田主計 愛媛縣出身。元大藏大臣。文部大臣。貴族院議員。

○謝 介石 臺灣に生れ、清朝最後の宣統帝の許にあり、滿洲建國により外交部總長となる。駐日特命全權大使。元外交部大臣。

○蔣 介石 中華民國を獨裁する國民黨の實權者。日本に留學せしことあり、孫文の後を承けて國民黨を率ゐ多くの軍閥をもち

○近衛文麿(公爵) 五攝家の一に生れた貴公子。巴里平和會議には國公に隨行。昭和八年徳川家達公の後をうけて貴族院議長に就任した。

○小林清造 廣島縣出身。元聯合艦隊司令長官。海軍大將、軍事參議官。

○小林省三郎 新潟縣出身。元駐滿海軍部司令官。海軍中將、鎮海要港部司令官。

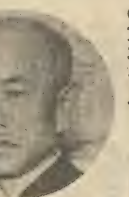
○駒井德三 滋賀縣出身。滿洲建國の初め、總務長官として活躍、國基を固めた滿洲帝國建設の功勞者。

○小室聖雲 群馬縣出身。日本畫の大家、帝國美術院會員。

○齊 王 滿洲國蒙政部大臣。蒙古人。正式の名は齊默特色木勤。滿洲國獨立の功勞者。

○西園寺公望(公爵) 京都の公卿の家に生る現在唯一人の元老として内閣更迭の場合御下問に奉答する。元總理大臣、巴里講和會議には帝國首席

支那の中心勢力となる。



○末次信正 山口縣出身。第二艦隊司令長官、聯合艦隊司令長官を歴任、太平洋上皇國興廢の運命を荷うて起つべく期待された

名提督。元横須賀鎮守府司令長官。海軍大將。軍事參議官。

○杉村關太郎 東京府。法博、元國際聯盟事務局次長、駐伊特命全權大使。

○鈴木實太郎 千葉縣出身。海軍大將。侍從長。陸軍大將鈴木孝雄の兄。

○鈴木喜三郎 神奈川縣出身。法博、元司法大臣、内務大臣。立憲政友會總裁。國務大臣禮遇。

○鈴木莊六 新潟縣出身。陸軍大將、帝國在郷軍人會々長、大日本武德會會長。

○スターリン レーニン歿した後のソヴィエト聯邦の獨裁者。レーニンの



遺志をついて新經濟政策の遂行に努力してゐる。

○住友吉左衛門（男爵） 大阪府。住友合資社長。岩崎小彌太と共に日本一の金満家。資産三億圓。

○金満家 資産三億圓。

○派の元老。元中華民大總統、直隸

○宋子文 支那の政治家、元財政部長。蔣介石夫人宋美齡の兄。

○宋哲元 冀錫山、韓復榘と共に北支那に大きな勢力を持つ武將。其の指揮する兵力は約十萬と稱せらる。

○孫科 中華民國立法院長。

○高橋三吉 東京府出身。第二艦隊司令長官から、昭和九年十一月末次大將の後を襲ふて非常時海軍の聯合艦隊司令長官に親補さる。海軍中將、聯合艦隊司令長官兼第一艦隊司令長官。

○高橋是清 宮城縣出身。年少にし渡米、苦學を續けた立志傳中の人。日

○寺内壽一（伯爵） 山口縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○東鄉平八郎（侯爵） 鹿兒島縣出身。日本海々戰の聯合艦隊司令長官。海軍大將、元帥として世界海軍史上に不朽の名を残す。



昭和九年五月薨去、國葬を賜る。

○德川家達（公爵） 德川幕府の十六代將軍となるべき人。貴族院議長たること三十年、昭和八年辭して歐米漫遊、特に日米親善に盡す。日本赤十字社々長。

○德富猪一郎（蘇峰） 熊本縣出身。盡忠愛國の熱血文豪。『近世日本國民史』はその代表的大著述で、織田氏時代から、明治天皇御宇史まで、百卷に及ぶべく期待さる。現在までに五十卷を刊行なほ執筆途上にある。

○床次竹二郎 鹿兒島縣出身。元内務



本銀行總裁、大藏大臣、内閣總理大臣等を歴任。昭和七年齋藤内閣の大藏大臣として入閣。

昭和九年七月辭職。同年十一月大藏大臣親任。

○財部 宮崎縣出身。元海軍大臣。海軍大將。

○田中光顯 土佐藩士。元宮内大臣。明治維新の功臣中唯一の生存者。

○蓮川義次 新潟縣出身。陸軍中將。第四師團長。

○瑛紫熊七 東京府。陸軍中將。滿洲帝國參議府參議。

○津田靜枝 東京府出身。元駐滿海軍部司令官。海軍中將、軍令部出仕。

○趙欣伯 明治大學卒業、日本法學博士。元滿洲帝國立法院長、滿洲帝國憲法起草者。滿洲建國の功勞者。

○張燕卿 滿洲國實業部大臣。政府

大臣、鐵道大臣等に歴任。代議士、通信大臣。昭和十年九月逝去。

○土肥原賢二 岡山縣出身。滿洲事變に特務機關長として活躍。陸軍少將。關東軍司令部附。

○永井松三 愛知縣出身。昭和十年十二月ロンドンに於て開かる、海軍軍縮會議に帝國全權として派遣さる。

○永井柳太郎 石川縣出身。雄辯家をもつて知らる。元拓務大臣。代議士。

○長岡半太郎 長崎縣出身。理博、元大阪帝國大學總長。世界的理學者。

○中川健藏 新潟縣出身。臺灣總督。新海軍出身。元橫須賀鎮守府司令長官。海軍大將、軍事參議官。ロンドン海軍軍縮會議に帝國國防上、堂々正論を主張すべく、永井大使と共に特命全權大使として派遣さる。

○永野修身 高知縣出身。元橫須賀鎮守府司令長官。海軍大將、軍事參議官。ロンドン海軍軍縮會議に帝國國防上、堂々正論を主張すべく、永井大使と共に特命全權大使として派遣さる。

○中村良三 青森縣出身。海軍大將、艦政本部長兼軍事參議官。

部内の日本通として將來を囑目されて居る。

○張學良 滿洲事變迄、滿洲に君臨したが、事變後歐洲に亡命。現在勳匪團司令として漢口に駐屯す。

○張景惠 滿洲國總理大臣。參議府議長、軍政部大臣に就任し前鄭國務總理大臣と共に滿洲帝國不動の地位確立に貢獻した。



大同元年日本へ來朝。

○坪内逍遙 東京府。文博、劇作家、シエクスピア研究家。昭和十年三月逝去。

○鄭孝胥 清朝の遺臣。康德皇帝を援けて、遂に滿洲帝國を建設、清朝最後の宣統帝は、滿洲帝國第一世皇帝として即位された。元滿洲帝國國務總理大臣。昭和九年四月來朝。昭和十年五月辭職。

○永田秀次郎 兵庫縣出身。元東京市長。貴族院議員。

○長興又郎 東京府出身。醫學博士。世界的理學者。東京帝國大學總長。

○奈良武次（男爵） 栃木縣出身。元侍從武官長。陸軍大將。

○西郷一 福島縣出身。陸軍大將、軍事參議官。

○野口英世 福島縣出身。日本の生める世界的細菌學の權威者。ニューヨークロックフエラ研究所で幾多の貴重品の發見をなす



昭和二年黃熱病研究のためアフリカ探究旅行中貴き犠牲として殉職す。

○野村吉三郎 和歌山縣出身。昭和七年上海戰に第三艦隊を率ゐて出征し、爆彈事件で隻眼を失ふ。海軍大將、軍事參議官。

○鳩山一郎 東京府。元文部大臣。代



議士、政友會幹部。

○濱口雄幸 高知縣出身。内閣總理大臣在職中昭和五年十一月遭難、六年八月薨去す。

○濱田杏次郎 東京府出身。海軍中將。駐滿海軍部司令官。

○林 權助(男爵) 福島縣出身。元全權大使。元式部長官。樞密院顧問官。

○林 銑十郎 石川縣出身。滿洲事變の際朝鮮軍司令官として善處、荒木大將の後をうけて陸軍大臣に就任。昭和十年九月辭職。陸軍大將、軍事參議官。

○林 博太郎(伯爵) 東京府。文博、貴族院議員、元滿鐵總裁。

○原 嘉道 長野縣出身。元司法大臣。法博、樞密院顧問官。

○菱刈 隆 鹿兒島縣出身。陸軍大將、元關東軍司令官兼滿洲帝國駐劄特命全權大使。

○百武源吾 佐賀縣出身。佐世保鎮守

要なる礎石をつくる。滿洲國の父と仰がれつゝ、昭和七年軍事參議官に轉補、次で侍從武官長に親補さる。

○本多光太郎 東京府。理博。東北帝國大學總長。世界的理學者。

○牧野伸顯(伯爵) 鹿兒島縣出身。元外務、文部、宮内各大臣に歴任。内大臣。

○眞崎甚三郎 佐賀縣出身。滿洲事變後の非常時局に當り、參謀次長として、閑院總長官殿下を補佐し奉る。

○マサリツク チェッコ・スロバキヤ獨立の恩人として、今「國父」の名に於て國民の尊敬と信望を一身に集めてゐる終身大統領。

○町田忠治 秋田縣出身。元農林大臣。立憲民政黨總裁、代議士、商工大臣。

○松岡洋右 山口縣出身。滿洲事變から紛糾を重ねた國際聯盟が、滿洲國の獨立を無視する決議を強行せんと

府司令長官。海軍中將。

○平沼騷一郎(男爵) 岡山縣出身。法博、元司法大臣。樞密院副議長、國本社々長、修養園々長。

○廣田弘毅 福岡縣出身。元駐露特命全權大使。外務大臣。

○ヒットラー 獨逸總統兼首相。國民社會黨を率ゐて、世界大戰後荒廢した獨逸を救ふべく奮起した愛國者。獨逸精神の復興を期し獨裁的に各種の改革を強行し、國際聯盟脫退、軍備平等權の要求等歐洲を覆ふ風雲の中心たる觀あり。獨逸共和國の獨裁者。

○深井英五 東京府。日本銀行總裁。○二荒芳徳(伯爵) 東京府。貴族院議員。少年團日本聯盟理事長。

○フオード アメリカのフオード自動車會社々長。自動車王といはれる。



獨逸精神の復興を期し獨裁的に各種の改革を強行し、國際聯盟脫退、軍備平等權の要求等歐洲を覆ふ風雲の中心たる觀あり。獨逸共和國の獨裁者。

○深井英五 東京府。日本銀行總裁。○二荒芳徳(伯爵) 東京府。貴族院議員。少年團日本聯盟理事長。

○フオード アメリカのフオード自動車會社々長。自動車王といはれる。

○松平恒雄 東京府。英國駐劄特命全權大使。秩父宮妃勢津子殿下の實父にあたられる。

○松田源治 大分縣出身。元拓務大臣。代議士、文部大臣。

○マクドナルド 英吉利元首相。英國最初の労働黨内閣を組織して以來三度首相に重任。英國政治界の重鎮。現樞府大臣。

○マルコニー 伊太利の電氣學者、無線電信の發明(一八九七年)で世界通信界に革命をもたらす。

○南 次郎 大分縣出身。參謀次長、朝鮮軍司令官、軍事參議官等に歴任。滿洲事變突發當時陸軍大臣として難



する際、帝國主席全權として歴史的活躍をなす。昭和十年八月南滿洲鐵道株式會社總裁就任。

○松平恒雄 東京府。英國駐劄特命全權大使。秩父宮妃勢津子殿下の實父にあたられる。

○松田源治 大分縣出身。元拓務大臣。代議士、文部大臣。

○マクドナルド 英吉利元首相。英國最初の労働黨内閣を組織して以來三度首相に重任。英國政治界の重鎮。現樞府大臣。

○マルコニー 伊太利の電氣學者、無線電信の發明(一八九七年)で世界通信界に革命をもたらす。

○南 次郎 大分縣出身。參謀次長、朝鮮軍司令官、軍事參議官等に歴任。滿洲事變突發當時陸軍大臣として難

局に當る。陸軍大將、關東軍司令官兼駐滿特命全權大使。

○武蔵信義(男爵) 佐賀縣出身。陸軍大將、元帥。昭和七年九月十五日帝國全權大使として滿洲國鄭國務總理と日滿議定書に調印。關東軍司令官として事變後の滿洲整備、國境保全等に盡す。昭和八年在職中新京に於て薨去。男爵を賜る。

○ムツソリーニ 伊太利の首相。鍛冶屋の子に生れ、小學校教員から社會主義運動家となり轉じて國粹主義運動を起す。三十九歳で伊太利の獨裁政治家となる。伊太利再興の偉傑として世界の一脅威。



○マーテルリング ベルギーの詩人、劇作家「青い鳥」は代表作。

○望月圭介 廣島縣出身。元逓信、内務大臣。昭和十年九月又逓信大臣に

アメリカが自動車二千萬臺以上、人口五人に一臺といふ多數を持つに至つたのはフオードが大量生産によつて自動車の實用化を計つたためといはれてゐる。

○朴 孝(侯爵) 朝鮮出身最初の代議士。朝鮮出身最初の貴族院議員。中樞院副議長。

○ポールドウィン 英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。

○本庄 繁 兵庫縣出身。陸軍大將、昭和六年九月十日滿鐵爆破によつて滿洲事變突發するや、關東軍司令官として敢然起つて帝國の權益を護り滿洲帝國建國の重

英國總理大臣。數回にわたつて國務大臣、總理大臣の重職に就いた。マクドナルドと共に英國政治界の元老。



就任。

○元田 肇 大分縣出身。元遞信、鐵道大臣。樞密顧問官。

○モロトフ ソウイエト聯邦人民委員會議長。即ち總理大臣。

○柳川平助 佐賀縣出身。臺灣軍司令官。陸軍中將。

○山崎達之輔 福岡縣出身。代議士、農林大臣。

○山室軍平 岡山縣出身。救世軍中將。苦學奮闘、活版職工から身を起した人。

○山本五十六

新潟縣出身。海軍々編會議の帝國代表として、昭和九年ロンドンに赴く。海軍中將、航空本部長。

○山本達雄(男爵) 大分縣出身。日本銀行總裁、大藏大臣、内務大臣等に歴任。國務大臣禮遇。

○山本英輔 鹿兒島縣出身。元聯合艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官

等に歴任。海軍大將、軍事參議官。

○湯淺倉平 東京府。宮内大臣。

○横山大觀 東京府。日本畫の大家。帝室技藝員、日本美術院代表者。

○吉岡彌生 静岡縣出身。東京女子醫學專門學校長、至誠堂病院院長。その門下に數名の女子醫學博士を出す。

○芳澤謙吉 新潟縣出身。元外務大臣貴族院議員。

○米内光政 岩手縣出身。佐世保鎮守府司令長官、第二艦隊司令長官に歴任。海軍中將、末次大將の後をうけて昭和十年十一月横須賀鎮守府司令長官に親任さる。

○ライト 米國人。兄弟協力して飛行機を發明した。

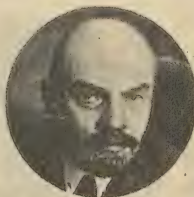
○ラヴァール フランスの總理大臣。歐洲外交界の花形。

○リトヴィノフ ソウイエト外務大臣。外交界の惑星。

○ルーズヴェルト アメリカ合衆國第

三十二代の大統領。一九三二年民主黨から出て當選、日露戰爭を仲裁したルーズベルトの血縁者。

○レーニン 世界唯一の社會主義國家ソウイエト聯邦を建設した革命家。小學校長の子に生れ革命に志し、遂にソ聯邦の建國を實現した新露國の國祖、多くの革命的著書を遺す。一九二四年逝く。



○若槻禮次郎(男爵) 鳥根縣出身。元内閣總理大臣。貴族院議員。内閣總理大臣禮遇。元民政黨總裁。

○渡邊錠太郎 愛知縣出身。元陸軍航空本部長。陸軍大將、教育總監。

## 常識新語辭典

【ア】

アース ラヂオ等の地下線。

アーチ 緑葉で飾つた門。

アート 藝術、技術。

アーベント 夕方。

アーミー 陸軍、軍隊。

アームチェア 臂掛椅子。

アーマン 眞實の意、キリスト教の言葉。

アール 廣さの單位、十米平方の土地が一アール。

アイス 氷、轉じて高利貸。

アイスクリーム 氷菓子。

アイスホッケー 遊戲の一。

アイデアル 理想、理想の。

アイロニー 反語、ひにく。

アヴェツク 同伴。

アウト 外に、野球では死、庭球では線外の球。

アウト・カーヴ 魔球の一(野球)。

アウト・ドロップ 魔球の一。

アウト・フィールド 外野。

アウト・ライン 外線、大意。

アクセント 發音の調子。

アクター 男優、男の役者。

アクトレス 女優、女の役者。

アグレマン 大使、公使を派する時儀禮的に求める相手國の承認。

アシ 煽動する。

アシスタント 助手。

アジト 秘密の集會所。

アスパラガス 西洋うど。

アスファルト 塗料の一種で街路の舗装等に用ゐらる。

アスリート 運動家。

アスレチック・ミーテング 運動會、陸上競技會。

アツパー・カット 拳闘語で下より掬ひあげるやうに顔や胸を打つ事。

アップビル 訴へる。

アップ・ツウ・デート 最近の。

アド・バルーン 廣告用輕氣球。

アトリエ 畫室、仕事場。

アドレス 住所、宛名。

アナウンサー ラヂオの放送係。

アパート 共同住宅、貸部屋。

アマチュア 素人、好事家。

アミーバ 單細胞の原始動物。

アラベスク アラビヤ模様。

アラモード 最新流行。

アルコール 酒精、消毒に用ふ。

アルバム 寫眞帳、繪葉書帖。

アルビニスト 登山家。

アンコール も一度、再演を望む拍手歡聲など。

アンダー・ライン 書物の要點の下へひく線、横にひく線は

サイド・ライン 無電の架空線。

アンパイア 競技等の審判者。

アンビション 大望、野心。

アンペア 電流の單位。

【イ・キ】

イー・ブック 年鑑、年報。

イウニング 夜の、宵の。

イウニング・ペーパー 夕刊。

イースト 東、東洋。

イヴ アダムと共に人類の祖といはれる。(基督教)

イエスは。さうです。

イコール 等しい、同等の意。

イズム 主義、説、教義。

イデー 觀念。

イデオロギイ 觀念形態。

イニシャル 姓名等の頭字。

イミテーション 模造品、眞似。

イルミネーション 電氣裝飾。

インヴェンション 發明。

インカーヴ 打者の方へ曲る球。

インキ 洋墨、インク。

インタービュー 面會、會見。

インターナショナル 國際的の。

インテリ 知識階級。

インビリアリズム 帝國主義。

インフィールド 野球の内野。



インフレ 通貨膨脹、通貨が多くなれば、物價は高くなる。

【ウ】

ウーマン 女、婦人、女性。  
ヴァーデン 處女。  
ヴァイオレット すみれ。  
ヴァンパイア 妖婦。  
ウィーク・エンド 週末。  
ウィット 機智。  
ウィンドウ 窓、陳列窓。  
ウィンター スポーツ 冬の競技、スキー、スケート等。  
ウエルカム 歓迎、歡待。  
ウォーター 水。  
ウォーター・クロゼット W.C. 便所。  
ウォーター・ボロ 水球。  
ウオッチ 懐中時計、看よ。  
ヴォルト 電壓の單位。  
ウラー ロシア語の萬歲。  
ウルトラ 超、極端。

【エ】

エア・ボート 國際飛行場。  
エア 空氣、瓦斯、空。  
エアシップ 飛行船、航空船。  
エア・メーラー 飛行郵便。  
エア・ライン 航空路。  
エアロプレーン 飛行機。  
エクス光線 透視光線、レントゲン。  
エキストラ 臨時の、號外。  
エキストラ・インニング 延長戦(野球)。  
エキスプレッス 急行列車。  
エキジティク 異國的。  
エクササイティング・ゲーム 戦で熱狂する様な試合。  
エクサミネーション 試験。  
エクサンブル 例、模範。  
エクジビション 展覽會。  
エクスバート 熟練家、專門家。  
エゴイスト 利己主義者。  
エコノミスト 經濟學者。  
エス・オー・エス (S.O.S.) 汽船、航空機の危險救助信號。  
エスカレーター 自動階梯。  
エスケープ 逃げる、逃避。

エスペラント 世界共通の一つの言葉、世界語。  
エックス 疑問、未知の事物。  
エックスポート 輸出、輸出品。  
エッセイ 論文、隨筆。  
エッセンス 本體、根源、精神。  
エディター 主筆、編輯人。  
エデン 樂園(基督教)。  
エトランゼ 外國人、異國人。  
エネルギー 精力、活動力。  
エピソード 小話、挿話。  
エビツク 敘事詩。  
エビローグ 終局、結末、プロローグ(序曲)と對句。  
エブロン 前掛、胸かけ。  
エボック 新紀元、世紀。  
エボック・メーカー 劃期的新時代を開く事。  
エホバ キリスト教の神。  
エラー 失策。  
エレヴェーター 自動昇降機。  
エレクトリック・ライト 電燈。  
エンサイクロペディア 百科辭典、百科全集。

【オ・ラ】

エンジニア 技師、機關手。  
エンジン 蒸氣、發動機。  
エンゼル 天使、天人。  
エンド 終、結果、目的。  
エンパイア 帝國、皇國。  
エンペラ 天皇、皇帝。  
エンプレス 皇后。  
オーヴァー 外套。  
オーヴァースロ 野球で上手投。  
オークル 小麦色。  
オー・ケー (OK) 承知した。その通り、よろしい等の意。  
オーケストラ 管絃樂、笛、ラッパ、ヴァイオリン、ピアノ等で合奏する音楽。  
オシヤン 大洋、大海。  
オナメント 裝飾。  
オソリテイ 權威、大家。  
オートバイ 自動二輪車。  
オーライ よろしい、合點の意。  
オール 全部、一切、すべて。  
オールド 老齡の、老年の。

オローラ 極光、極地の光。  
オアシス 沙漠の綠地。  
オイル 油、石油。  
オキシフル 消毒藥の一種。  
オクターブ 一音階(音樂)。  
オフィス 事務所、事務室。  
オブザーヴァ 傍聽者、觀察者、立會人。

オフセット 印刷の一種、この「學友年鑑」はオフセット印刷です。  
オブチミスト 樂天家。  
オフラット 散藥を包んで飲む紙(醫藥)。  
オペラ 歌劇。オペレッタは小歌劇。

オープン・ゲーム 公開競技。  
オミット 省略、除外する。  
オラクル 神託。  
オリブ 橄欖。  
オリエンタル 東洋の。  
オリエント 東洋、極東。  
オリジナル 原始、創意。  
オリンピック 國際競技。

【カ】

カレンヂ 柑橘、橙色。  
カンス ボンドの十六分の一にあたる目方の單位。  
カンドル 朝鮮の暖房裝置。  
カオン・パレード 總出演(演劇)大行進。  
カオンリー たった、それだけ。

カー 車、電車、モーターカー。  
カーは自動車、ガソリンカーはガソリンを燃料とする汽車。  
カーベット 絨毯。  
ガーズ 薄いさらしの白布、主として醫療用。  
ガーター 英國の最高勳章。靴下留。  
カーテン 窓掛、まくら。  
ガーデン 庭園。  
カード 札、名刺。  
ガード 鐵橋。  
カーニバル 謝肉祭、ドンチャン騒ぎ。  
カーブ 曲線、線路の曲角。

カーボン

炭素。

ガール 少女、娘。

ガール・スカウツ 少女義勇團。

ガイスト 精神、靈。

ガイド 案内、通導。

ガイド・ブック 案内書。

カヴァー 包み、おほひ。

カウボーイ 牛飼ひ。

カウチ 室内で着る上衣。

カウンタ 勘定係。

ガゼット 新聞、官報。

ガソリン 發動機用の燃料。

ガソリンスタンド 自動車にガソリンを賣る店。ガソリン・ガールはその賣子の少女。

カストロフイ 破滅、終局。

カタバルト 艦船の上から飛行機を射出する裝置。

カタログ 目錄、營業案内。

カッター 軍艦に乗せる小艇。

艦載小艇。

カット 小挿畫、映畫では省略のこと。

カップ コップ、優勝杯。

カップル

夫婦。

カヌー 丸木舟。

カノン 遠距離射撃砲。

カビネ 寫眞の寸法的一種。

カフェー 珈琲。小料理店。

カフス ワイシャツの袖口。

カムフラージュ 擬裝、詐術。

カメラ 寫眞機。

カメラ・マン 寫眞技師。

カラー 洋服の襟、色。

カラット 純金含有量。

ガラリ 棧敷、傍聽席。

ガリカチュア 漫畫。

ガレージ 自動車々庫、飛行機格納庫。

カレッジ 單科大学、專門學校。

カレンダー 曆、柱ごよみ。

カレント・トピックス 時事解説。

カルチュア 教養、文化。

カロリ 熱量の單位。

カンヴァス 畫布。

カンニング 不正行爲、狡猾。

カンフル 樟腦、樟腦液、カンフル注射(醫)。



【キ】

キー 鍵、樂器の鍵盤。  
キーパー 守る人、番人。  
キネマ 活動寫眞、映畫。  
キネマ・ファン 映畫愛好者。  
キヤスティン・グ・ヴォート 裁  
決權、決裁權。  
キヤスト 配役。  
キヤツシュ 現金。  
キヤツチ 捕へる、會得する。  
キヤツチ・ボール 球投げ。  
キヤツチャー 捕手(野球)。  
キヤビタル 主都、英文大文字。  
キヤビン 船室、客室。  
キヤブテン 船長、主將。  
キヤメル 駱駝。  
キヤラクター 性格。  
キヤラメル 飾を固めた菓子。  
キヤラリ 廊下、美術館。  
キヤング 惡漢の群。  
キヤンデー 菓子的一种。  
キヤンデー・ストア 菓子店。  
キヤンプ 野營、露營、天幕。

【ク】

キャンピング 野營する。  
キュービット キュービー。  
キング 王様、國王。  
キングダム 王國。  
クーデター 非常手段、暴政。  
クイン 女王。  
クエスチョン 疑問。  
グッド・バイ 左様なら。  
グッド・ナイト 今晩は(挨拶)。  
グライダー 發動機なしの飛行  
機。  
クワイマックス 最高潮、絶頂。  
クワイミング けわしい山を登  
る事。  
グラヴィア 寫眞版。  
グラウンド 運動場、競技場。  
クラシク 古典、上品。  
クラス 級、組、階級。  
クラスメート 同級生、級友。  
グラフ 圖表、寫眞畫報。  
グランド 大きな、偉大な。

【ケ】

グランド・オペラ 大歌劇。  
グランド・ピアノ 大型のピア  
ノ。  
グランド・ファザー 祖父。  
グランド・マザー 祖母。  
グランマー 文典、文法。  
クリニング 乾燥洗濯。  
クリアー 明かな、賢明な。  
グリーン 緑の。  
クリスチャン 基督教信者。  
クリスマス 基督降誕祭。  
クリテック 批評家。  
グリル 高級な食堂。  
グループ 仲間、くみ。  
クルー 乗組員、オート選手團。  
クレディット 信用。  
グロテスク 奇怪。  
クロース 書籍の装訂にかふ  
布地、この「學友年鑑」の表  
紙がクロースです。  
クローズ・アップ 大寫(映畫)。  
クロール 水泳の早捷手法。  
クロス・ゲーム 接戦(競技)。  
グロッキー ふらふらめく事。

【コ】

コース 競走路、徑路。  
ゴーストアップ 進め、止れの  
交通整理標示。  
コーチ 指導、訓練する。  
コーチャー 指導者。  
コーナー 曲り目、角隅。  
コヒー 珈琲。  
コーラス 合唱、合唱團。  
コールド・ゲーム 試合中止。  
ゴール 決勝點、目的地。  
ゴール・イン 決勝點入り。

【コ】

ゴールド 黄金、金貨。  
コイル 電氣の捲線。  
コイン 貨幣。  
ココア カカオの果實からとつ  
たチョコレート原料。  
ゴシック 活字の一種、この欄  
の上の語の活字はゴシック、  
解説の活字は明朝。  
ゴシップ 噂話、よた話。  
コスチューム 衣裳、服裝。  
コスモス 世界、宇宙。  
コスモポリタン 世界主義の人。  
コダック 寫眞機の一種。  
ゴッド 神、天帝。  
コバルト 淡い群青、空色。  
コビー 書寫し、複寫したもの。  
コメディ 喜劇、狂言、ラヂ  
オ・コメディ等いふ。  
ゴルフ 球戲の一種。  
コレクシオン 集める、蒐集。  
正誤、修正。  
コロタイプ 寫眞銅版の一種を  
の印刷がコロタイプ印刷。  
ゴング 銅鑼。

【コ】

コンクール 競争。  
コンGRES 集會、議會。  
コンクリート セメントを固め  
たもの、鐵筋コンクリートは  
近代建物を代表する。  
コンサート 音樂會、演奏會。  
コンサイス 簡潔な、要領よき。  
コンタクト 音樂指揮者。  
コンディション 條件、地位。  
コント 短篇小説。  
コントラクト 契約。  
コントラスト 對照、配合。  
コントロール 管理、統制、野  
球の制球。  
コンミッション 賄賂。  
コンミニズム 共產主義。  
コンミニケ 聲明書、告示。  
コンモンセンス 常識。  
【サ】  
サー 貴下、閣下。  
サーヴァント 下男、下女。  
サーヴィス 奉仕、世話。  
サーカス 典馬團。

【サ】

サークル 仲間、輪。  
サージ 織物の名、セル地。  
サーチライト 探照燈。  
サード 第三(野球)。  
サード 第三(野球)。  
サイプ 球の打初め(庭球)。  
サイエンス 科學。  
サイズ 大きさ、型。  
サイト 視力。  
サイド 横、側面、わき。  
サイド・カー 自轉車の脇につ  
けた車。  
サイド・ライン 側線。  
サイン 署名、捺印、信號。  
サイン 署名、捺印、信號。  
サヴァリン 君主、元首。  
サウス・ポー 左利投手。  
サウンド・トーカー 發聲映畫。  
サタン 魔の神、惡魔。  
サツカー ア式蹴球の俗名。  
サツカー オーギー よろしい。  
サツパー 夕食。  
サブマリン 潜水艇、潜水艦。  
サブタージュ 怠ける、サボる。  
サラリー 月給、給料。

【サ】

サラリー・マン 月給生活者。  
サロン 客室、美術展覽會。  
サン 太陽、日。  
サンデー 日曜日。  
サンク・ユー 有り難う。  
サンタ・クロース クリスマス  
の前夜、子供に玩具を持つて  
來てくれる翁。  
サンドウィッチ バン食の一種。  
サンプル 見本、標本。  
サンマー 夏、夏期。



シテイズン 市民、公民。  
シナリオ 映画脚本。  
シネマ 映畫、キネマと同じ。  
シネマ・ファン 映畫好き。  
ジブシー 漂流民族。  
ジャーナル 新聞、雜誌。  
ジャッジ 裁判官、判事。  
ジャケツ 短衣、短上衣。  
ジャップ 米國人の日本人に對する侮蔑の呼稱。日本では米國人をヤンキーと呼ぶ。  
ジャンク 支那の帆船、戒克。  
ジャンテリア 裝飾電燈。  
ジャンプ 跳躍。  
ジャンボリー 少年團の競技。  
シュクリーム 菓子的一種。  
ジュニア 年少者、後進者。  
シュミーズ 婦人洋服の下着。  
ショー 見世物、劇場。  
ショウインドー 陳列窓。  
ショール 肩掛け。  
ショップ 店、工場、商賣。  
シヨップ・ガール 女店員。  
シルク・ハット 絹の禮帽。

ジョン・ブル 英人のこと。  
シリーズ 連續の映畫、小説。  
シロップ 果物からとる糖蜜。  
シングル 單試合。  
シンジケート 企業組合。  
シンボル 象徴、表徴。  
スウィ・ケース 旅行用カバン。  
スープ 肉汁、ソップ。  
スカーフ 甘い、可愛らしい。  
スキート・ホーム 楽しい家。  
スキート・ボテート 菓子。  
スキート・ハート 仲よし。  
スイッチ 電燈の點滅器。  
スウイマー 水泳選手。  
スカイ 空、天、大氣、氣候。  
スカイ・サイン 電光ニュース。  
スキー 雪上り。  
スキーヤー スキーをする人。  
スクール 學校。  
スクール・マスター 校長。  
スクラップ・ブック 切抜帳。  
スクリーン 映寫幕(映畫)。  
スケート 氷上り。

スコア 得點(競技)表。  
スター 星、花型、人氣者。  
スタート 出發、出發點(競技)。  
スタイル 姿、型。  
スタチオ 攝影場(映畫)。  
スタッフ 棒、幹部。  
スタンド 觀覽席(競技)。  
スタンブ 消印、切手。  
スチーム 蒸氣、蒸氣暖房。  
ステージ 舞臺、階段。  
ステーション 停車場。  
ステートメント 聲明書。  
ストーリー 物語り。  
ストア 店、倉庫。  
ストア・メント ストアは百貨店、チエン・ストアは連鎖店。  
ストップ 停車、止る。  
ストライキ 同盟罷業。  
ストラック・アウト 三振。  
ストリート 街路、町内。  
ストレート 眞實、公正、野球語で、カーブに對し直球。  
ストロベリー 西洋いちご。

スナップ 寫眞の早撮り。  
スパーク 火花。  
スパイ 間諜、密偵。  
スピーチ 輕い演説、會話。  
スピード 速力、速度。  
スピン さじ。  
スピリット 精神、アルコール。  
スペース 空間。  
スポーツ 運動、競技。  
スポンジ 海綿。  
スフィンクス 埃及にある謎の巨像、頭は人で體は獅子。  
スプリング 春、ばね、泉。  
スマート 氣のきいた、輕快な。  
スモーキング 喫煙。  
スマッシング 強い球(庭球)。  
スラング 俗語、不振な狀態。  
スローガン 標語。  
スロープ 傾斜、勾配。  
スロー・モーション 緩慢な動作。

セーラー 水兵、水夫。  
セカンド・ベース 二壘(野球)。  
ゼスチュア 身振、態度。  
セツルメント 植民地。  
セツト 一組、舞臺裝置(演劇)。  
ゼネラル 海軍大將、提督。  
ゼネ・スト 總罷業。  
セレナード 夜の調、小夜曲。  
センセーション 感動、人氣。  
センター 中央、中心、中堅。  
センチメンタル 多感的。  
センチュリー 百年、一世紀。  
ゼントルマン 紳士。

【ツ】  
リーファ 長椅子、寝椅子。  
ソール 靈魂、精神。  
ソヴィエツ 勞農政府、ソビエツト社會主義共和國聯邦。  
はロシアの國名。  
リサイエティー 社會、社交會。  
ソフィスト 詭辯家。  
リーゼージ 勝語。  
ソフト 柔かい。

【タ】  
ソプラノ 高音(音樂)。  
リロ 獨唱、獨奏。  
リング 歌、小唄。  
タック 暗い、暗黒な。  
タック・サイド 裏面。  
タック・チェンチ 暗轉。  
タック・ホース 思ひがけの強者。  
タービー 大競馬。  
ターン 折返し(水泳)。  
タイ 同じ、同等の。  
タイアリー 日記帳。  
タイ記録 前と同じ記録。  
タイトル 表題、映畫の字幕。  
ダイビング 飛込み(水泳)。  
タイプ 型、様子。  
タイプライター 印字機。  
タイム 時、時間。  
タイムス 時報、新聞。  
タイムリー・エラー 重要な時機の失策。  
タイラント 暴君。

【チ】  
タッチ 觸れる。  
ダブル 二度、二重。  
ダンピング 投資、大安賣。  
チム 組、隊、團。  
チエック 小切手。  
チエンジ 變更、交替(野球)。  
チップ 心づけ、祝儀。  
チャーミング 可愛らしい。  
チャンス 機會、好機。  
チョーク 白墨。  
【テ】  
ツー・ベース・ヒット 二壘打。  
ツーリスト 旅行者、觀光客。  
ツーリスト・ビュロー 旅行客の案内局。  
デー 日、一日、日中。  
ティー 茶。  
テーマ 主題。  
テラー 洋服屋、仕立屋。

【セ】  
デイクショナリー 字引、辭典。  
タイケツト 切符、入場券。  
テキスト 原文、題目、教科書。  
テスト・マッチ 優勝決勝試合。  
デス・マスク 石膏にとつた死面。  
デッド・ボール 死球(野球)。  
デパートメント・ストア 百貨店。  
デヴィス・カップ デ・氏寄贈の世界庭球爭奪戰の賞杯。  
デビュイ 初舞台。  
デモクラシー 民主政治。  
デモンストレーション 示威運動。  
デリケート 繊細な。  
テレヴィジョン 電送映畫。  
テレグラフ 電報。  
テレスコープ 望遠鏡。  
テレフォン 電話。  
テロ 暴力。  
テンポ 行進曲の速さ。  
テンベスト 嵐。



【ト】

トキギー 豪華映畫。  
トナメント 争覇戦(庭球)。  
ドア 戸、扉。  
トイレット 化粧室、便所。  
ドクトリン 原理、主義。  
ドクター 醫師、博士、學者。  
ドグマ 教理、獨斷論。  
トップ 先頭。  
トビック 話題、題目。  
ドライ・アイズ 氣體になる水。  
ドライフ 自動車遊行。  
トラクター 牽引式自動車。  
トラック 貨物自動車。  
トラフル 紛糾、煩悶。  
トランク 旅行カバン。  
ドラマ 演劇、芝居。  
トリック からくり(映畫)。  
トロフィー 優勝杯。

【ナ】

ナイフ 純真な、素朴な。  
ナイス 綺麗な、心地よい。  
ナイト 夜、無智。  
ナイン 九ツ、野球團。

【ナ】

ナショナル 國民の、全國の。  
ナショナリズム 國家主義。  
ナチス ドイツ首相ヒットラーの率ゐる國粹社會黨。  
ナチュラリズム 自然主義。  
ナッシング 無、無一物。  
ナプキン 口拭ひの紙又は布。  
ナンセンス 戯れ、無邪氣。  
ナンバー かす、番號。  
ナンバーワン 第一人者。

【ニ】

ニュー 新しい。  
ニックネーム 綽名。  
ニュース 新聞、報知。  
ニュース・ペーパー 新聞。  
ニュー・ファッション 最新型。  
ニウム アルミニウムの略。

【ヌ】

ヌーボー 新參の、新調の。  
ヌーン 正午、ひるの十二時。

【ネ】

【ネ】

ネーション 國民、民族、國家。  
ネーチュア 自然、天然、天性。  
ネーム 姓名、名刺、名前。  
ネーム・カード 名刺、名札。  
ネオ 新しい、新。  
ネオン・サイン ネオンといふ氣體の管を用いた電飾。  
ネット 網、特にテニスの網。  
ネット・ブライズ 正價。  
ネバー・マインド 心配無用。

【ノ】

ノイ いや、さうではない。  
ノー・カウント 採點に入れない。  
ノース 北、北方。  
ノースモッキング 禁煙。  
ノート 筆記帳、雜記帳。  
ノーヘッド 頭がない、無能。  
ノーブル 高貴の、氣高い。  
ノーベル 小説。  
ノーベル賞 世界最高の文化賞。  
ノーマル 正常の。  
ノック たたく、戸をたたく。

【ハ】

ノックアウト 拳闘の打倒、野球の敵の投手を打ちまくつて交替せしむる事。  
ノット 海の里程、海里。  
パーク 公園。  
バース・デー 誕生日。  
パーセント 百分率、比例。  
ハーバー 港。  
バーバー 理髮店。  
ハーフ 半分、なかば。  
バイシクル 自転車。  
ハイスクール 高等學校。  
ハウス 家、住宅。  
バクテリア 細菌。  
バス 乗合自動車、乗合馬車。  
バステル 繪具の一種。  
バター 牛乳の脂肪質を精製した食料品。  
バッシュン 熱情。  
バット 野球で球をうつ棒。  
ハッピー 幸福な、仕合せな。  
ハッピー・エンド 小説、芝居。

映畫等の最後が目出度し目出度しで終るもの。  
パノラマ 光線を利用して繪畫等實景の如くみせる仕掛。  
バランス 平均。  
ハリケード 防塞、保護。  
バルコニー 露臺。  
バルーン 風船。  
バロメーター 晴雨計。  
ハンカチーフ ハンカチ。  
バンガロー 屋根の勾配のゆるい平家。  
バンク 銀行、土手、堤防。  
パンチ 拳闘語で打撃。  
ハンマー 槌、金槌、打金。

【ヒ】

ヒース 平和、太平、熾和。  
ヒータ 暖房裝置、加熱器。  
ビーブル 人民、國民、民衆。  
ビアニスト ピアノ彈奏者。  
ビエロ 道化役者。  
ビクニック 郊外散歩、遠足。  
ビッグ 大きな。  
ビックアップ 撰擧。

【フ】

ビューア 純粹な。  
ヒュマニズム 人道主義。  
ビルデング 建築、建築物。  
ピンチ 危機。  
ブーア 貧しい、みすばらしい。  
ファースト 第一、一次。  
ファッショ 舉國一致の意味。  
ファッション 流行。  
ファミリ 家族、家庭。  
ファン 熱狂者、野次馬。  
フィニッシュ 終。  
フエアー・プレー 正々堂々の勝負。  
ブック・ケース 本箱。  
ブライズ 價格。  
フラチナ 白金。  
ブラットフォーム 汽車の昇降場。  
プラン 計畫。  
フリー 自由な。  
フレンド 友人、味方、仲間。  
ブログラム 番組、番組。  
ブロック 結合、團體。

【ヘ】

プロペラ 飛行機や汽鐘の推進機。  
ペーパー 紙、特に西洋紙。  
ペーヴメント 歩道。  
ヘゲモニー 覇權。  
ペンシル 鉛筆、石筆。  
ベンチ 腰掛、長い腰掛。  
【ホ】  
ホーイ 男兒、男の給仕。  
ホイコット 同盟して排斥すること。  
ボクサー 拳闘家。  
ホッケー 球戯の一種。  
ホテル 旅館、宿屋。  
ホワイト 白、白色。

【マ】

マーク しるし、商標。  
マーチ 行進、行進曲。  
マイクロナン ラヂオの送話器。  
マスメーム 團體競技又は運動。

【ミ】

マネー 金錢、かね、貨幣。  
マネキン 廣告のモデルになる人。  
ママ 小兒が母を呼ぶ語。  
マン 人、男、成人。  
ミクロン 一米の百萬分の一。  
ミスター 男子の敬稱。  
ミッドルスクール 中等學校。

【ム】

ムーン 月。  
ムーン・ライト 月光。  
ムッシュ・君、あなた


【メ】

メー・デー 勞働者祭日、五月一日。  
メダル 賞牌、記念章。  
メンタル・テスト 知能検査。  
メンバー 仲間、會員、人員。  
モーション 行動、運動、動力。

【モ】

モーション 行動、運動、動力。





# 立身案内 職業學校

天上天下唯我獨尊。 (釋迦)

立てそむる志だに撓まずば、龍のあざとの玉もとるべし。 (大國隆夢)

成功を望まば、先づその職業を愛するを要す。 (マーデン)

成功の秘訣は、目的の一定不變なるにあり。 (デズレリー)

志立たざれば、天下成るべきの事なし。百工技藝と雖も、未だ志に基ざるものあらず。志立たざれば、舵なき舟、嚙なき馬の如し。漂蕩奔逸、何の到る所かあらん。 (王陽明)

知者は惑はず、仁者は憂へず、勇者は懼れず。 (論語)

賢からんよりは、眞面目なれ。 (西郷南州)

汝自身を知れ。 (ソクラテス)

かたつむりそろ／＼のぼれ富士の山。 (二茶)

モーニング 朝。  
モデル 模型、手本、模範。  
モラトリアム 支拂猶豫。  
モンスター 怪物、畸形。  
ヤード 英國の尺度の單位。  
ヤンキー 米國人。  
ヤング 若い、幼い、未熟。  
ユートピア 理想郷。  
ユーモア 滑稽、諧謔。  
ユニヴァシティー 綜合大學。  
ユニオン・ヂャック 英國國旗。  
ユニヴァサル 萬民の、普遍的。  
ユニフォーム 制服、運動服。  
ヨードホルム 沃度の化合物。  
ヨット 極めて快速力の小艇。  
ライスカラー カレーをかけた  
飯、ライスは米。  
ライフ 生涯、生活。  
ライブラリー 圖書館。  
ラヂオ・ドラマ 放送劇。  
ラッシュ・アワ こみあひ時。  
ラット ねずみ。  
ランゲージ 言語、語學。  
ランチ 晝食。  
リーダー 讀本、讀者、指導者。  
リッチ 富む、金持。  
リング ヨびわ、輪。  
ルーズ 弛い、締りのない。  
ルール 規則、法則。  
ルネッサンス 文藝復興時代。  
ルンペン 浮浪人。  
レーク 湖、湖水、深紅色。  
レギュラー 正規の、正選手。

レスリング 西洋の相撲。  
レター 手紙、文字。  
レベル 水平線、標準點。  
ロボット 人造人間。  
ローカルカラー 地方色。  
ロマンティック 空想的。  
ワーク 仕事、職業。  
ワイルド 世界、人生、社會。  
ワイヤー 針金。  
ワンタフル 驚くべき、素朴的。  
メキシコ 仙人掌。  
ベルギー 向日葵。  
羅馬(古代) 月桂樹。  
印度 罌粟。  
アイルランド 白話草。  
中華民國 梅。  
八重樞祈美子著  
「花と文學」より



## 陸海軍軍人になるには

滿洲上海兩事變以來、日本國民の軍事に對する關心は限りなく高められ、赤き血潮に燃ゆる愛國の青少年が、こぞつて陸海軍人を志願するに至つた事は國防の充實、國家の安泰に取つて誠に深い喜びである。

今や陸海軍ともに將來日本の國運を双肩に擔つて立つべき熱血の青少年を双手を擴げて待つて居る。陸海軍軍人たらんには何等の學費をも要せず、眞面目な眞に國を思ふ青少年であればよい」と言ふ陸海軍の聲明に依つて視ふ事が出来る。

さてそれならば如何にしたら軍人になれるか、又どんな立身の途があるか。概要を述べやう。

### 陸軍幼年學校

所在地 東京市牛込區戸山ヶ原

目的年限 陸軍幼年學校は將來陸軍將校となる希望を有する者の爲めに中學四年程度迄の普通學と武官になるに必要な心身の教育を施す學校で、三年の修業年限を経て直ちに陸軍士官學校豫科に入學する資格を得る。

し、軍隊内の教育を受け、後本科に入校する。本科は主として軍事學を學び、一年十ヶ月の修業後、直ちに見習士官として、再びもとの隊附となり二ヶ月勤務した上で少尉に任官される。

入學資格 (一)陸軍幼年學校卒業生。(二)現役下士官からの志願者は、滿二十五歳未満。(三)在營中の幹部候補生、又は現役間の志願者は滿二十五歳未満。(四)陸軍部外即ち一般からの志願者は滿十六歳から滿二十歳未満。學歷には制限はないが學力の程度は中學校第四學年第二學期修業の程度。

學費 資 總べて官費で其の上、手當として月額豫科生徒には四圓、本科生徒には六圓五十錢支給される。

### 陸軍工科學校

所在地 東京市小石川區小石川町

目的年限 陸軍工科學校は陸軍の兵器類の製造及び修理の技術をつかさどる下士官及准士官即ち銃工長、電工長、鞍工長等の陸軍砲兵、工兵の諸工長を養成する學校である。

本校は陸軍士官學校を出ないで、獨學で陸軍將校にな

入學資格 滿十三歳より滿十五歳迄の男子にして中學

一年程度の學力を有するもの。

學費 資 特待生は官費、半特待生は月十圓、自費生は二十圓の學費が必要である。學費の中には寄宿舎生活を送るのであるから當然食費等が包含されて居る。

尙くわしい事を知りたい人は二錢切手封入、各地聯隊區司令部、麹町區代官町教育總監部、戸山陸軍幼年學校宛に志願者心得の送附を申込み、直ちに送られるから熟讀玩味各自の目的を定められたい。

本校に入學すれば、所定の年限と勉強により陸軍將校となり得る事は確實で、陸軍士官學校へ進み、更に陸軍大學に至れば洋々たる無限の前途が展開されるのである。

### 陸軍士官學校

所在地 東京市牛込區市ヶ谷

目的年限 陸軍士官學校は我皇軍の根幹たるべき陸軍將校を養成する官費の學校である。年限は豫科二ケ年、本科一年十ヶ月で豫科は高等學校程度の學科を修得し、二ケ年の途中から自分の希望の兵科に入つて、二ケ年修業と同時に、士官候補生として五ヶ月間隊附勤務生をな

る最も都合のよい學校である。

修業年限は二ケ年で卒業の上は三等工長(伍長の階級)に任官し、軍隊に配屬せられ各々専門の兵器技術をつかさどる幹部となる。更に進級し一等工長になれば、甲種學生採用試験受験の資格を得、甲種學生卒業生は砲兵科又は工兵科少尉に任ぜられる。

入學資格 滿十七歳以上滿二十歳以下の男子にして學歷には制限はないが、高等小學校卒業程度の學力があれば入學試験には充分である。

學費 資 生徒は總て寄宿舎に起居し一切官費である。尙其の上、手當として月額四圓を支給される。

### 陸軍通信學校

所在地 東京市杉並區馬橋

目的年限 陸軍通信學校は優秀なる無線通信にあたる工兵下士官を養成し軍の重要な通信に充當するのである。二ケ年の修業を経て卒業すれば通信下士官となり、成績の優秀なものは任官後、少尉候補生から通信將校に昇進出来る。他方現代の通信界は無電萬能の觀があるので退官後と雖も立派に無線通信技術を以て立身する事が



出来る。

入學資格 満十五歳より満十八歳未満の男子、學歴には制限ないが、入學試験問題は高等小學卒業程度。

學費 衣食住其の他修學上必要なるものは官給され毎月四圓の手當を支給される。

### 陸軍戸山學校軍樂隊

所在地 東京市牛込區戸山町

目的年限 陸軍軍樂隊は他の學校の様に戰闘を主とするものでなく平時、戰時を通じて軍樂を以て陸軍に奉仕するので、修業年限二ヶ年中に陸軍の諸法規、音樂に關する諸學科、語學、普通學等を授けられ他に術科として軍樂器の一種を選定して練習するのである。一ヶ年修業後は樂手補(上等兵の階級)となり營外に居住し、樂手補を命ぜられた年の十二月から數へて五ヶ年の現役に服しなければならぬ。以後は志願により再服役が許され爾後果進し、一等樂長(大尉相當官)迄なれる。

入學資格 満十六歳以上満二十歳未満。試験科目は高等小學卒業程度。

學費 校内に起居し生徒として要す物品一切を官給

(三)少年航空兵として最初から熊谷陸軍飛行學校生徒、今迄は所澤飛行學校であつたが(昭和十年八月一日の軍令第十號によつて熊谷陸軍飛行學校が新設され、少年航空兵の教育は此處で行はれる事となつた)となる三つがある。

少年航空兵は操縦生徒と技術生徒の二種に分けられ、操縦生徒は將來軍用飛行機の操縦士となるべき者を養成し、技術生徒は軍用航空器材の整備の實務に就くものを養成するのである。少年航空兵生徒がその課程、操縦生徒は二ヶ年、技術生徒は三ヶ年を修業すると、それぞれ全國の飛行聯隊に配賦され、直ちに伍長勤務上等兵として服役し、努力次第で逐次果進し六年目頃には少尉に任官する。

今や列國は各自空軍の威を競つて居る。空軍の躍進は今後益々大なるものがあらう。此の時に於て少年航空兵の使命は各方面の注視の的となつて居る。

入學資格 操縦生徒は満十七歳以上十九歳以下。技術生徒は十五歳以上十八歳以下。入學試験問題は高等小學卒業程度。

航空兵は全く専門の技術兵であつて特に體格、學識の

され、兵器、樂器、書籍、器具等を貸與又は支給され、其の上に月額四圓の手當を受ける。

### 陸軍現役兵志願

現役志願兵と云ふのは、満二十歳にならない内に、満十七歳から満十九歳迄の内で現役兵を志願する事である。陸軍軍人として立身するには種々の途があり、特に幼年學校、士官學校へ入學すればよいのであるが、一般に學資、學歴はないが身體は丈夫であるし、家庭の顧慮もない人は現役志願兵より立身する方法が得策である。入隊後下士志願をして下士官となり、それから努力して陸軍士官學校豫科に入學してもよいし、又准士官となつてから四ヶ年以上勤務すれば成績優秀なる者は少尉に任官する事が出来る。

志願者資格 満十七歳以上徴兵適齡未満の者にして、二年間在營する事を志願するもの。

### 陸軍少年航空兵志願

陸軍の航空兵になるには、(一)現役兵から航空兵科を志願し、(二)下士官になつてから陸軍飛行學校に入學する、

優秀なる者を要求し採用規定も他の兵に比して非常に嚴格である。

學費 服裝起居及修學に要する費用等は一切官費であつて、其の上手當として毎月四圓給せらる。

### 海軍兵學校

所在地 廣島縣江田島

目的年限 海軍兵學校は海軍兵科將校を養成するの目的の下に生徒を教育し、砲術、水雷、統卒、航海、運用の兵學を學習せしめ、將來海軍の中堅たる高等武官を養成するところである。修業年限は四ヶ年。

入學資格 四月一日を基準にして満十六歳以上十九歳迄の者にして學歴には制限ないが、學力は中學第四學年第二學期修了程度。

學費 生徒は入校の日から海軍兵籍に編入せられ、一切官給せらるる。

學校を卒業すると海軍少尉候補生となり、練習艦隊に乘組み内地航海、續いて遠洋航海に出るのである。海軍少尉候補生の期間は一ヶ年を経ると少尉となり、海軍士官の生活が始まる。



尙詳細を知りたい方は廣島縣江田島海軍兵學校生徒採用試験委員宛問合せるがよい。

### 海軍機關學校

所在地 東京都府中舞鶴

目的年限 海軍機關學校は機關將校を養成するところ、即ち各諸艦の機關一般に對する機關術を學習せしむる學校であつて修業年限は四ケ年。

入學資格 海軍兵學校同様四月一日を基準として、十六歳以上十九歳迄の者。試験科目は中學四年二學期修了程度。

學費 生徒は入校の日から海軍兵籍に編入せられ一切官費。詳細を知りたい方は海軍機關學校海軍生徒採用試験委員宛に問合せる事。

### 海軍經理學校

所在地 東京市京橋區小田原町三丁目

目的年限 海軍經理學校は海軍に必要な會計、經理及びその研究調査を行ひ、その修業年限は四ケ年である。入學資格 四月一日を基準として満十六歳以上二十一

歳迄の者で試験科目は前二者同様中學四年第二學期修了程度、本校卒業者は主計士官となり努力次第で佐官、將官(最高)主計中將迄出世出来るのである。

### 海軍志願兵

我が海軍で如何なる理由で志願兵の採用に重きを置いて居るか、それには種々の理由があるが簡単に説明すれば

- (一) 日本獨特の優秀なる艦船、兵器、機關等の活用は優れた日本青年の手に依らねばならぬ。
- (二) 最近科學の粹を集めた海軍を諒解する爲めには長期の服役を必要とする。
- (三) 特務士官、准士官として活躍を期待する。

等に歸する事が出来る。戰艦陸奥、長門も、巡洋艦高雄、那智も其の效力の發揚には志願兵の力に俟つ事が多い。志願資格 満十七歳以上二十一歳未満の者で正規の身體検査及び學術試験を得て採用される。學術試験は國語及び算術の二科目で高等小學卒業程度である。

志願兵の入團期は六月一日であつて先づ四等兵を命ぜられ、六ヶ月の基礎教育を経て、三等兵として艦船に乗

込む事となる。一年過ぎると新しい兵が入つて来るので勉強の時間も出来、二ケ年を経過すれば、砲術學校、水雷學校、運用學校、潛水學校、機關學校、經理學校、飛行學校等に入學する資格が出来る。飛行學校を除く他の學校には普通科と高等科とがあつて各高等科の優等生は畏くも恩賜品御下賜の光榮に浴するのである。

詳細を知りたい方は、海軍省頒布の「海軍省志願兵の渠」を市町村役場に又は各鎮守府に請求の上熟讀せられん事を希望する。

### 海軍兵職階表

兵科	一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵
航空科	一等航空兵	二等航空兵	三等航空兵	四等航空兵
機關科	一等機關兵	二等機關兵	三等機關兵	四等機關兵
軍樂科	一等軍樂兵	二等軍樂兵	三等軍樂兵	四等軍樂兵
看護科	一等看護兵	二等看護兵	三等看護兵	四等看護兵
主計科	一等主計兵	二等主計兵	三等主計兵	四等主計兵

兵科	准士官	下士官	士官
特務兵	四ケ年	三ケ年四ケ月	一ケ年四ケ月
曹長	兵	特務一等曹	特務二等曹
兵	特務二等曹	兵	特務三等曹

以上一兵から下士官、准士官、特務士官(特務少尉、特務中尉、特務大尉)と順次進むことが一般の進級方法であるが、努力次第で現役下士官から海軍兵學校、機關學校、經理學校の入學試験を受けることが出来る。海軍部内よりの志願に對しては、一般志願者の定年齢よりも二ケ年を延長されて居る。

### 海軍少年航空兵志願

我が海軍では昭和五年度から神奈川県田浦町横須賀海軍航空隊に少年航空兵と云はれる幼年志願兵の特殊制度を設けた。是が一般から少年航空兵と呼ばれるが制度の上では豫科練習生と呼ぶ。其の第一回卒業生が昭和八年海軍飛行家の卵として夫々各艦に配乗され、半ケ年の艦



上勤務に付いた。之が終ると各自の適性に應じて、操縦員、偵察員に分けられ、愈々實地の飛行練習を始めるのである。

入隊資格 満十五歳以上満十七歳迄。試験科目は高等小學校卒業程度。海軍は勤務の性質上、特に體格、學識共に優秀なものを要求するが航空兵は猶更である。従つて其の採用は非常に嚴格である。

學費 嚴選を経て採用されると其の日から四等航空兵となり、三度の食事は勿論、服裝、教科書その他一切官費である外一ヶ月六圓二十錢の小使が支給される。

一年進級する毎に一階級づゝ昇進し、卒業の時は一等航空兵となる。之れから六ヶ月の艦隊勤務を終へて霞ヶ浦（操縦）か横須賀（偵察）の海軍航空隊で一ヶ年の空中教育を終へると三等航空兵曹となり、以後飛行勤務に服しながら五年位で航空兵曹長（准士官）となり、更に三年位経ると航空特務少尉となる。尙詳細は各市町村役場の兵事係に問合せるがい。

### 海軍工廠見習工

海軍工廠は横須賀、吳、佐世保の三ヶ所にあつて軍艦

を任用す。

一、中學校又は文部大臣に於て之と同等以上と認定したる學校を卒業したる者。

二、高等試験令第七條の規定により高等試験を受くる事を得る者。

三、專門學校令に依り法律學、政治學、行政學又は經濟學を教授する學校に於て三年の課程を履習し其の學校を卒業したる者。

四、普通試験に合格したる者。

五、高等試験に合格したる者。

六、二年以上文官の職にありたる者。

七、四年以上雇員たる者。

然し此の第六條に適當する者は判任文官たるの資格を有して居るに過ぎなくて、就職には相當骨が折れる事は云ふ迄もない。然し四、五、六に當る者は最も採用率が多いのである。以下普通試験に就いて述べる。

受験資格 普通試験は高等小學校卒業者ならば何人を問はず受験出来るのであつて、程度は中學の學科目中の五科に就て行はれる。尤も試験施行の官廳の必要によつて更に科目を加へる場合もあるが大體國語、漢文、作文、

驅逐艦、潛水艦、飛行機及各種の兵器等を製造若くは修理する處で、帝國の發展と共に逐年擴張せられ、最新式機械と、約八千（横須賀）の従業員が朝から晩まで働いて居る。

資格 満十四歳以上十七歳以下の男子、學科試験は高等小學校卒業程度。

待遇 見習職工は採用の日より日給四拾五錢を給せられ、逐次昇給し兵役に服しても滿期退營後は再び工廠に勤むことが出来る。又心掛一つで教習所補習科や、技手養成所に入所して進んだ學術の研究をすることも出来、現に見習職工出身者で技師（高等官）に任ぜられた者も澤山ある。

### 普通文官になるには

普通文官と云ふのは判任文官の事である。官吏には高等文官と判任文官の二つがあり、諸官公署に於て國家事務の處理に當つてゐる。

判任官になるには、判任文官の資格を持たなければならぬ。文官任用令には次の如く規定してある。

第六條 判任文官は左の資格の一を有するものより之

習字、地理、歴史、數學、憲法、行政法、民法、又は刑法か經濟學である。但し以上の科目中の一二科目は施行官廳によつて、取捨選擇自由になつて居る。普通試験に合格し更に奮起一番、難關高等文官試験を突破するならば局長から内務部長、等國家の中樞官吏になる事も不可能でないのである。要するに各人の奮闘次第にあるから前途有爲の諸君の奮起を促したい。

### 高等文官になるには

文官の職務は行政、司法、外交、軍法務等に分れ、大略官署の何れも最高首脳官は、即ち高等文官である。故に國家行政機關の運用は、高等文官の手に依つて行はれてゐるのである。任免の上から云つて天皇御親任任命し給ふ官吏であり、従つて其の責任は實に重大である。然らば此の高等文官になるには如何に進むべきか。一般普通の順序として中學校、高等學校文科、帝國大學法科と進み、在學中或は卒業後一年位で高等文官試験に合格すれば、高等文官としての前途は重に洋々たるものである。又他に中學を經、私立大學の法科に學び、而して高等文官試験に合格するのも一方法である。



全然獨學で進まんとする人は第一に専檢（専門學校入學資格檢定試験）科目中學卒業迄の全科目（實檢（實業學校卒業資格檢定試験）科目甲種實業學校卒業迄の全科目）等を取り、次に豫備試験を受けるのである。高等文官試験には豫備試験と本試験があつて、高等學校高等科又は大學豫科を修了したもの或は之と同等以上の學力を有すると認められた者は豫備試験を免除されてゐる。豫備試験に合格し、最後に高等文官試験を受けるのである。

#### 行政科—行政官吏（諸官省官吏）

##### 高等文官試験

司法官—裁判所官吏・辯護士

外交科—外務省官吏

尙、高等學校、大學（官私）は最後にかゝつたから、參考に供せられたい。

學費 高等學校三年間の費用として大體概略は

授業料入學金及校友會費—參百圓。寄宿食費—六百圓。教科書代金五拾圓。制服制帽—五拾圓。雜費—五百圓。合計—千五百圓。

帝國大學三年間の費用としては大體

授業料—參百六拾圓。下宿料—九百圓。制服制帽靴

る事勿論であつて、更に獨學の人は前の高等文官に就て述べたと同様に豫備試験を経て、外交官試験に向ふ道がある。此の外に

##### 外務省書記生試験

外務省書記生とは大使館、公使館

の書記であつて、其の地位は判任官である。此の試験は學歴に制限がない。従つて獨學の人々に取つては好都合であるが、試験科目は専門學校卒業程度である。毎年合格者は十名内外に過ぎないが、此の書記生試験に合格すれば、其の殆ど全部が國家の費用で外國に派遣され、大使館、公使館、領事館の書記生として華々しい活躍をなす事が出来るのである。

外務省留學生試験 外務省留學生は、外務大臣の必要と認むる外國語講習のため、外國に留學せしめらるゝものである。

受験資格は出願の時、年齢滿十八歳以上、二十五歳以下で中學校及び中學校以上の學校を卒業したものに限られてゐる。合格後は、將來外務省書記生となる者であるから、留學費用は全部國家の支辨である。外國語に自信のある人は留學生試験を撰むべきである。

代—七拾圓。雜費—九百六拾圓。合計金貳千貳百九拾圓。（參考書代を含まず）

私立大學の一年間の學費（平均）としては

豫科Ⅱ入學金—五圓。教科書代—拾五圓。授業料—九拾圓前後。其他雜費、被服費等、高等學校と大同小異。校友會費—拾壹圓。教練費—五圓。

大學部Ⅱ入學金—五圓。校友會費—拾壹圓。授業料—百圓前後。教練費—五圓。

其他の諸雜費は官立大學と大同小異。

#### 外交官になるには

國際聯盟脱退及び滿洲國獨立、海軍軍備縮少會議等の非常時局を控へて、今や全く文字通りの外交戰である。従つて優秀なる外交官の頭腦と手腕こそ、此の非常時局に際して最も望まれる所のものである。

外交官になる最も順當の道は矢張り中學校、高等學校文科、帝國大學法科或は經濟學科に進み、外交官試験に合格する事である。現在の外交の衝に當つてゐる外交官の主要な人々は、大抵此の經過を経て來たのである。他に私立大學等の法科に學び、外交官試験を取る方法のあ

#### 醫師になるには

醫師になるには、どうすればよいか、先づ醫師法第一條は次の様に醫師の資格を規定して居る。

一、大學令に依る大學に於て醫學を修め、學士と稱することを得る者、又は官立公立若くは文部大臣の指定したる私立醫學專門學校醫學科を卒業したるもの。

二、醫師試験に合格したるもの。

三、外國醫學學校を卒業し、又は外國に於て醫師免許を得たる者にして命令の規定に該當する者。

右の中の第二の醫師試験と云ふのは、中學卒業若くは之と同等以上の資格を取得した後、修業年限四ヶ年以上の醫學學校を卒業した者でないと受けられないので、事實上學校を経ずして獨學で醫師にはなれないのである。

然らば醫師になるには、どう云ふ學校があるかと云へば、

東京帝國大學醫學部 東京市本郷區本富士町  
京都帝國大學醫學部 京都市上京區吉田町  
東北帝國大學醫學部 仙臺市北四番町  
北海道帝國大學醫學部 札幌市北八條西六丁目



九州帝國大學醫學部

福岡縣筑紫郡千代町

京城帝國大學醫學部

京城府蓮建洞

岡山醫科大學

岡山市岡町

新潟醫科大學

新潟市旭町通一番町

千葉醫科大學

千葉縣千葉郡都村

金澤醫科大學

金澤市土取場永町

長崎醫科大學

長崎市里郷

大阪帝國大學醫學部

大阪市北區常安町

名古屋醫科大學

名古屋市中區鶴舞町

熊本醫科大學

熊本市本庄町

入學資格 高等學校卒業者又は之と同等以上の學力あるもの、學習院高等科を卒へたる者、大學部に於て試験を行ひ高等學校を卒へたる者と同等以上の學力ありと認めたる者、尙北海道帝國大學醫學部及京城帝國大學醫學部に於ては豫科（高等學校同程度）を募集する。

修業年限 四年

學費 醫學部四ヶ年間の學費として

入學料一五圓。授業料一四百八十圓。下宿料一千二百圓。制服制帽代一六拾圓。諸雜費（小使金）九百圓。外に教科書、參考書學用品、諸會費等合せて一五百

する者。

臺灣總督府醫學專門學校 臺北市東門町

入學資格 中等學校卒業者及び之と同程度の學歷を有する者。

修業年限 豫科一年、本科四年。

授業料 年額百五十圓。

齒科醫師になるには

齒科醫師は齒科醫業を営む者であつて、一般醫業とは劃然と區別されて居る。齒科醫術が一般醫術と異なるのは所謂技工を特に必要とするからである。

齒科醫師になるにはどうかと云へば、文部大臣の指定した學校を卒業するか、又は齒科醫師試験に合格しなければならない。

文部大臣の指定した專門學校としては

- 東京高等齒科醫學校（官立） 東京市本郷區湯島三丁目
- 東京市齒科醫學專門學校（官立） 東京市神田區三崎町
- 日本齒科醫學專門學校（私立） 東京市麴町區富士見町
- 日本大學專門部齒科（私立） 東京市神田區駿河臺
- 大阪齒科醫學專門學校（私立） 大阪府北河內郡牧野村
- 九州齒科醫學專門學校（私立） 福岡市今泉町

圓。合計金參千六拾五圓。

高等學校三年間の學費として大體千五百圓位必要である。外私立の醫科大學として、

慶應義塾大學醫學部

東京市四谷區信濃町

東京慈惠會醫科大學

東京市芝區愛宕町

日本醫科大學

東京市本郷區駒込千駄木町

入學資格 豫科一中等學校卒業者及び同程度の資格を有するもの。

修業年限 豫科二年、本科四年。

授業料 何れも本科は年額二百圓以上二百六拾圓。

專門學校としては

日本大學專門部醫學科 東京市神田區駿河臺

日本醫學專門學校

東京市本郷區駒込千駄木町

東京醫學專門學校

東京市淀橋區大久保一丁目

東京女子醫學專門學校

東京市牛込區河田町

昭和醫學專門學校

東京市荏原區中延町

大阪高等醫學專門學校

大阪市外高槻町

九州醫學專門學校

久留米市小森野町

岩手醫學專門學校

盛岡市仁王第一割字内丸

京城醫學專門學校

京城府

京城齒科醫學專門學校（私立） 京城府長谷川町

東洋女子齒科醫學專門學校（私立） 東京市本郷區元町

東京市女子齒科醫學專門學校（私立） 東京市品川區大井水神町

入學資格 中等學校卒業者及同卒業資格者。

修業年限 四年。

授業料 八拾圓以上百五十圓迄。

何れも無試験開業の特典がある。

齒科醫學校としては

日本大學齒科醫學校（私立） 東京市神田區駿河臺

修業年限 三年（夜間授業）

授業料 月額七圓。

京北高等齒科醫學校（私立） 埼玉縣大宮町

修業年限 三年。

授業料 年額八拾圓。

東北齒科醫學校（私立） 仙臺市東八番町

修業年限 三年（夜間部は四年）

授業料 年額百貳拾圓、夜間部は八拾圓。

入學資格 何れも中學卒業者又は同卒業資格者。

何れも齒科醫師試験の受験資格がある。



## 齒科醫師試験

受験資格 中學校卒業又は之と同等以上の資格を取得した後、修業年限三ヶ年以上の齒科醫學校を卒業したる者。

受験地 東京市及び廣島市（春秋二回）

## 銀行員になるには

近來經濟生活の發達と共に銀行の業務は繁雜に向ひ、従つて之に従事する銀行員を需要する事が頗る多くなつた。此の銀行と云ふのは、特に信用の上に立つて金錢の取扱ひをする仕事だけに餘程細心の注意を要するものでや、もすると思はぬ間違ひが出来、此の間違ひが信用に多大の影響を與へるものであるから、極めて注意周到で緻密な頭を有する人でなければ、銀行員として不向きなのである。

銀行員となつて出世しやうと志す人は、先づ中學校或は商業學校を卒業し、銀行に就職するのが最も普通である。又、中學校、高等學校を經、帝國大學經濟學科或は商科を出るか、商科大學豫科を經て本科（修業年限各三年即ち高等學校、帝國大學を卒業すると同様の期間）を

卒業するならば、普通には一層出世の道が速いと思ふ。又、私立大學の商學部を卒業し、銀行に就職する方法もある。

更に又、高等小學を卒業したゞけて、給仕或は見習生として銀行に入り、眞面目に働き大いに出世した人もある。

銀行によつては高等小學校卒業生を見習として採用し學費を與へて夜間商業學校へ通學させる所もあるから、學歴のない人も、銀行員としての前途が大いに開かれて居るわけである。

## 文士になるには

文士即ち小説家、作家になるにはどうすればよいか。官吏や醫師になると違つて、高等文官試験に合格するとか、一定の大學を卒業すると云ふ必要はないが、文士としての素養を作る爲めに、官立或は私立の大學の文科或は社會科で學ぶと云ふ事が必要である。然し學校に入らないで文學に關する澤山の本を讀破し、研究し、文學の素養を作つても大學に入ると何等變らない。文學界に於ては老人も、青年も、男も女も皆同一様各人の技量一

つて立身出来るのである。

故に文學的趣味を持つてゐて、自分が自由に觀察した事を簡明に書き得る事、即ち鋭敏な觀察眼を有し事物の眞實をつかむ事、大家の作を範として文を鍊る事。絶へざるこうした鍛鍊が文學を志す人には一番必要な事である。又文學は人生の表現である。従つて種々様々な人々の生活を細く觀察しなければならぬ。

最後に文士として世に認められるには並大抵の努力では容易にない。故にあく迄も自分の志を貫徹すると云ふ忍耐力が必要となつて来る。以下文士志望者の辿るべき道としては

(一) 大家との子弟關係——子弟關係と云ふのは、文壇に名をなして居る小説家と子弟關係を結んで文學的指導をして貰ふ事である。完成した作家は自分の子弟と、色々文學上の問題や人生の問題を議論する。その間に弟子の作品等にも目を通す。こうして居る中に先生の立場にある作家は自分の子弟を世に紹介してくれるのである。斯くしてその子弟は小説家の地位を獲得する。

(二) 懸賞應募——新聞や、一流の文學雜誌では定期的又は時々新人の小説家の紹介のため、懸賞によつて作品を募

る。文學青年は之に應募して小説を書き、若しそれが當選すれば、その作者は多大の懸賞金を得るのみならず、世間から小説家として待遇され、小説家としての地位を得るのである。

(三) 同人雜誌——之は文學青年の普通一般に取つてゐる方法である。文學青年達は常に文學青年同志で、文學上の議論をしたり、小説家の作品を研討し、又自分でも作品を書く。彼等は此の自分の作品を何等かの方法で世間に發表してみたいと思ふ。然し新聞や雜誌は此の様な無名作家の作品は發表してくれない。そこで彼等はお互に金を出し合つて同人雜誌を出版し、それに依つて文壇の大家、又は一般の人々に認めて貰はんとするのである。

## 畫家になるには

畫家になるには先づ第一に天分がなければならぬ。然し、いくら天分があつたとして世の中に畫家として認められるには容易な努力ではない。畫家となる一番近道としては矢張り美術學校に入學する事である。

東京美術學校 東京市下谷區上野公園  
入學資格 中學校卒業者及び同資格者。



修業年限 本科一五年。圖畫師範科一三年。  
學費 授業料一年額八拾圓。研究科一年額五拾圓。

### 日本美術學校

東京市戸塚荒井山

入學資格 小學校卒業者、中學校卒業者及び同資格者。  
修業年限 繪畫科一二年。彫塑圖案科一三年。  
學費 入學金五圓。授業料一年額七拾八圓。

### 帝國美術學校

東京府下武藏野町吉祥寺

入學資格 中學校卒業者及び同資格者。  
修業年限 本科一五年。師範科一三年。  
學費 授業料一年額八拾五圓。研究科一年額五拾圓。

### 東京女子美術學校

東京市本郷區菊坂

入學資格 高等女學校卒業者及小學校本科正教員。  
修業年限 高等師範科一四年。高等科一二年。  
學費 授業料一年額七拾圓。校費年額六圓。

以上に列記した學校に入る事の不可能な人は、畫家の門下生となる事である。通學する者と其の家の書生（傍學生）とあるが、之は知合を辿るか、他の紹介を求めなければ駄目である。

最後に畫家として立つて行くには、どうしても平常か

ら眼の働きを養成するやうに心がけなければならない。畫家の眼は鋭敏でなくてはならぬ。鋭敏な眼を養成すると云ふ事は自然を見てピンと感ずる眼、心の底ではつきりと自然を、美術を、映感する心眼を養成する事である。

### 音樂家になるには

音樂家を志す人は、先づ自分の音樂的才能を靜かに考へて見なければならぬ。總ての藝術と云ふものは各々個人々々の先天的な特殊才能に俟つて、始めて成し遂げられるものなのであるから、自分は果して音樂家になる素質があるか否かと云ふ事を決定するのである。若し自分で判らなかつた時は、音樂の道に携つてゐて信じられる先輩の意見を聞いて見る。場合によつては才能検査をやつて貰ふ。又聲樂を志したならば、一流の聲樂家の門を叩いて才能検査を乞ふのも一方法である。

自分に音樂の才能があると信じたなら、順序として音樂學校に入學するのが正しいのである。

### 東京音樂學校（本邦唯一の官立）

東京市下谷區上野公園

學科 本科と師範科との二科があつて、本科を聲樂部、器樂部及作曲部の三部に分ける。師範科は師範學校、

中學校、女學校の音樂科教員の養成を目的とする。

又、本科に入る者の爲めに豫科を設けて居る。

入學資格 豫科一中學又は女學校の四年修了者。

本科一豫科を卒業した者。又は豫科入學の資格を具へ

試験の上、豫科卒業と同等以上の學力ありと認めたるもの。

師範科、師範學校、中學校、女學校を卒業したるもの又は之と同資格者。

學費 豫科、本科一年額八拾圓。師範科一なし。

修業年限 豫科一一年。本科一三年。師範一三年。

外に私立の音樂學校としては

東洋音樂學校

東京市豐島區雜司ヶ谷町

日本音樂學校

東京市澁谷區常盤松

東京高等音樂院

東京府下國立大學町

大阪音樂學校

大阪市東區味原町

### 小學校教員になるには

小學校教員の種類は、之を五つに分ける事が出來、そして其の各々資格や、待遇が違ふのである。

### 一、高等小學校本科正教員

師範學校本科第一部 之は本正とも云ひ、小學

校教員中一番資格や待遇がよい。師範學校一部卒業者や師範學校二部卒業生などは皆本科正教員になれるのである。小學校卒業だけの學歴しか持つて居ない者や、師範學校以外の中等學校を卒業した者が、此の本科正教員の資格を得るには、各府縣で施行する小學校本科正教員檢定試験に合格しなければならない。試験の學科目や程度は師範學校で教へるものと同じ位である。兎に角、合格するには相當の勉強が必要であるから、尋常小學校准教員檢定試験と云ふ様な程度の低い試験から、順次に此の試験に進むのが最も賢明有效な方法であると思ふ。

入學資格 修業年限二ヶ年の高等小學校卒業若しくは、年齢十四歳以上にして同等以上の學力あるもの。入學の年の四月一日に於て年齢滿十四歳以上十八歳未滿のもの。

入學試験 高等小學校二年修了の程度。

修業年限 五年。

學費 公費生は縣によつて違ふが、月額七、八圓位、支給される。私費生は月額二十五圓位の學費が必要である。

### 師範學校本科第二部

中學校卒業者、中等實業學校卒業者、又は之と同程度の學力を有することを入學



資格として修業年限は二ヶ年である。

## 二、尋常小學校本科正教員

尋正とも云ひ、尋常

小學校本科正教員檢定試験に合格しなければならぬ。前に述べた本科正教員檢定試験よりずっと程度が低い。學科目が相當多いから多分の奮闘を要する。之は本正合格者が尋常科高等科何れも擔任出来るに反して、専ら尋常科のみを擔當するのである。

## 三、專科正教員

之はある特種の學科目に就てのみ本科正教員として、教授が出来る小學校教員で、專科正教員檢定試験に合格しなければならぬ。專科正教員は農業科、工業科、商業科、手工科、圖畫科、音樂科、體操科、英語科、家事科、裁縫科等の十種類がある。此の試験には各自の受験する科目の外に、教育學、教授法、學校管理法等が加はるだけで非常に科目が少いので割合に樂である。

## 四、小學校准教員

此の場合も小學校准教員檢定試験に合格しなければならぬ。試験科目や程度は大體本正と尋正との中間である。

## 五、尋常小學校准教員

矢張り尋常小學校准教員檢定試験に合格しなければならぬが、小學校を卒業し

ただけの人は、之が一番好都合である。程度は大體高等小學三年程度と云ふ所である。

## 鐵道職員になるには

蜂の巣の様な線路網、間斷なき列車の運轉、然も規則的な正確な時間によらざるを得ない。こうした鐵道業務には特殊な訓練と、素質が必要である。故に鐵道省では其の職員に特殊な教育訓練を施して、交通萬端遺漏なきを期して居る。従つて鐵道職員となつた後も、鐵道局教習所、普通部、專修部、專門部等に入學すれば、職員は所定の業務に従事しながら勉學する事に依つて、夫々の學校を経て立身する事が出来るのである。然らば先づ鐵道職員になるにはどうすればよい。大體を云へば、第一に鐵道採用試験に合格しなければならぬ。

受験資格 鐵道の採用試験を受けるには、受験資格と云ふものはない。小學校だけを卒業した者も、高等小學校を卒業したものも年齢は何歳でもよいのである。試験科目は普通算術、國語、地理及び歴史等であつて、學科試験に合格した者は、更に人物試験を経て最後に體格検査を受け、そして全部に合格して始めて就職する事が出

来るわけである。

## 受験の手續方法

鐵道採用試験は全國で施行する。鐵道は全國を六つの鐵道局即ち東京、名古屋、大阪、門司、仙臺、札幌等に分けて居る。之等の六鐵道局に夫々五、六箇所の運輸事務所があつて、採用試験はこれ等の運輸事務所或は鐵道局で施行するのである。従つて採用試験を受けやうとするものは、先づ願書を運輸事務所に提出しなければならぬ。そして又試験合格後は、願書を提出した運輸事務所管内に勤務する事となるので、つまり願書を提出する運輸事務所は勤務箇所を決定するわけである。採用試験は一年に一回で新聞に募集するのでないから注意しないと手續を忘れたり、時期を失つたりするから、詳しい事は近くの驛に聞くと親切に教へて呉れる。次に鐵道局教習所に就て述べやう。

所在地

東京鐵道局教習所	東京市豊島區高田町雜司ヶ谷
名古屋鐵道局教習所	名古屋市中區千種町
大阪鐵道局教習所	神戸市若松町五丁目
門司鐵道局教習所	門司市大里町
仙臺鐵道局教習所	仙臺市東八番町

札幌鐵道局教習所

札幌市苗穂町

目的年限 鐵道業務に須要な學術技能を教授する所であつて、業務科、土木科、機械科、電氣科等に分れて居るが、修業年限は何れも三年である。

入所資格 年齢十四歳以上十七歳迄の男子、高等小學卒業程度の學力を有し、半年以上鐵道省管内に服務してゐなければならぬ。出願期日は各教習所で別々になつて居て一定して居ないから、出願せんとする者は豫め各教習所に切手封入して規則書を取り寄せて照會する事。

## 朝鮮鐵道從業員養成所

所在地 京城府漢江通十六番地

修業年限 本科三年。工作科二年。電信科三十週間。入所資格 高等小學程度の學力あるもの。

## 逓信官吏になるには

逓信省官吏になり立身するには他の官吏同様、高等文官の資格や判任官の資格を持つてゐなければならぬが逓信業務は他官廳と違ひ、郵便、電信、電話、電氣、貯金等特殊の仕事をして居る關係上、之等の業務に携はるべき中堅人物の養成機關として、逓信官吏養成所を設置



して特殊の學科や、技術を教授して逓信官吏を養成して居る。

先づ逓信講習所に就て述べよう。  
所在地

東京逓信講習所

東京市麻布區廣尾町

札幌逓信講習所

札幌市南七條西ノ十二

仙臺逓信講習所

仙臺市

名古屋逓信講習所

名古屋市外安城町

大阪逓信講習所

大阪市北區中之島町櫻之宮

廣島逓信講習所

廣島市外三條町楠

熊本逓信講習所

熊本市出水町水前寺通

目的年限 電信電話の通信事務に熟練せる吏員を養成するを目的とし、卒業後は電信事務員として採用され後判任官に昇進する。年限は普通科一年。

入所資格 男子部、女子部共に満十四歳以上満十八歳以下で、高等小學校卒業程度の學力を有するもの。試験科目は算術、國語、作文、外に體格検査、心理検査を通過しなければならない。

給 費 日額五十五錢を支給する。

普通科卒業後一年の勤務を経、高等科に入學し更に所

謂逓信官吏養成機關としての最高學府たる逓信官吏養成講習所に進む事が出来れば其前途は洋々たるものである。

朝鮮逓信官吏養成所

所在地 京城府光化門通り

目的年限 朝鮮内の通信事務員の養成を目的とし、修業年限は普通科一年である。

入所資格 満十四歳以上満十八歳以下の男女にして試験科目の程度は高等小學校程度。

給 費 入所と同時に日給六十錢の支給を受け、卒業後は月給四十圓内外の逓信郵便局員となる。

滿洲電信電話會社員養成所

所在地 大連市桔梗町一二〇番地

目的年限 滿洲國內の電信電話の通信事務員を養成し修業年限は一年である。

入所資格 十一年度入所年齢は大正六年十二月二日以降同九年四月三十日迄に出生の男子にして、試験科目は高等小學校卒業程度である。

給 費 日額八十錢を支給される。

無線技士となるには

最近無線電信、電話の發達著しく、陸に海に或は軍用に民間用に其の應用範圍は頗る廣汎となり、無電に携はる者を要求する事、實に切實となつて來た。

無線技士になるには逓信省施行の無線通信士資格検定試験に合格しなければならない。年齢は満十七歳以上受験資格は別に制限はなく、試験は毎年一回施行されるが期日や場所は其の都度發表されるから、よく官報に注意しなければならない。此の無線通信士資格検定試験に合格すれば無線技士の資格が出来たのであるから官公署や各汽船會社に採用され、愈々業務に就く事になる。

無線通信士資格は特殊の技術、専門學科を試験するのであるから獨學で合格する事は殆ど不可能であり、従つて先づ是等の技術や學科を教授する學校に入學するのが近道である。權威ある學校としては

逓信官吏練習所の無電通信科（本邦唯一の官立）

無線電信講習所

東京市下目黒

中野無線電信學校

東京市中野區

小學校卒業者が

滿洲國に就職するには

昭和十年四月滿洲國皇帝は、はるばる海を越えて友邦日本を訪れ遊ばされた。且つ日滿親善の波高き秋に當り滿洲國は心から滿洲國に對して、深き同情と理解とを持つ我々日本人の渡滿活躍を歓迎してゐる。滿洲國の發展はこれからだ。文明は之から植えつけられて行くのだ。文明の開拓者は何れから招かれるか。我が日本からだ。我々日本人は兄として滿洲國を育て、行く義務がある。茲に將來滿洲國に活躍せんと志す人々に滿鐵育成學校を紹介しやう。

滿鐵育成學校

所在地 大連市

南滿洲鐵道會社の中堅社員を養成する目的を以て設立せられ、由來二十數年幾多の俊材を社内に輩出してゐる。修業年限は四ヶ年。

入學資格 高等小學校卒業者。試験は春秋二回に行はれ試験科目は算術、國語、作文。

學 費 入學すると白亜寮（寄宿舎）に入る事となり、被服並びに食費を給せられる外、日給十五錢の支給を受ける。

學校生活 學校は創立の趣旨、即ち中堅社員の養成の爲めに在學中から既に社務の見習をやり、社員の用事の



手傳ひをし、授業は夜間である。従つて授業時間は短いが、卒業後は立派な満鐵社員となり、他の中學卒業者よりも優先した待遇を受けるのである。尙本校に就ての規則は、大連市滿鐵本社總務部人事係に問ひ合せる事。

### 短期の修業で就職するには

#### 蠶業練習生採用試験

所在地―各府縣立蠶業試験場。修業年限―一ケ年。  
入學資格 年齢十七歳以上の男子。高等小學校卒業程度の學力あるもの。試験科目は算術、國語、作文、養蠶法。  
給 費 毎月五圓乃至十圓を支給される。

目的・待遇 養蠶事業の向上を計る目的を以て養蠶教師又は蠶業技術員を養成し、終了後は養蠶教師、蠶業技術員となる資格を得る外、蠶業取締吏員、蠶業會社に就職する。

#### 農業練習生採用試験

所在地―各府縣立農業試験場。修業年限―一ケ年。  
入場資格 年齢十八歳以上の男子にして高等小學校卒業以上の學力を有し労働に耐へ得るもの。  
給 費 毎月手當五圓乃至十圓支給される。

### 聖路加女子専門學校

#### タイピストになるには

新しい職業として仲々發展してゐる職業である。邦文タイピストと歐文タイピストの二種あつて、何れも語學と手先と相當の實力を持つて居る人でなければならぬ。手先と頭を使ふ職業なのである。大抵の人は女學校を卒業して一定のタイピスト學校に入つて、六ヶ月なり一年の修業を積むのである。

權威ある學校としては

タイピスト養成所 東京市京橋區南傳馬町一ノ一  
東京市芝區三田豐岡町十三  
外國語協會學校タイピスト部 東京市神田區小川町一  
東京タイピスト學校 東京市神田區三崎町二丁目  
東京駿河臺女學院タイピスト科 東京市神田區駿河臺

此の外、名古屋、横濱、静岡、青森、和歌山、岡山、山口、高知、宮崎等の各都市にもそれぞれ養成所や學校がある。以上の學校なり養成所なりを卒業すればドンドン就職出来る。邦文タイピストが初給三十圓、歐文タイピストは四十圓位であるが、各自の腕次第で段々収入も増加するのである。

待遇目的 農村に於ける農業技術員養成と農業改善知識涵養を目的とし終了後は市町村農會の技術員となる。

### 看護婦になるには

看護婦は修業費を餘り必要とせず資格を得るのに困難でないのに収入が比較的他の職業に比して多いと云ふ點から此の職業に對して正しい理解と自覺を持たず志望する事は失敗の原因となる。

資格を得る道は、(一)各地方長官、東京府又は警視總監の指定した看護婦學校又は講習所に入學して二ケ年以上の修業を積み無試験で資格を得るか、(二)毎年春秋二期に各府縣の看護婦試験に合格して資格を得るか二つである。卒業後無試験にて資格を得られる學校は大體次の様である。

東京帝國大學醫學部附屬醫院看護婦講習所  
京都帝國大學醫學部附屬醫院看護婦養成所  
慶應義塾大學醫學部附屬醫院看護婦養成所  
大阪醫科大學附屬看護婦養成所  
名古屋醫科大學附屬看護婦養成所  
東京慈惠會看護婦教育所

### 電話交換事務員になるには

曾ては男子で占めて居た此の職業も、婦人の細心と人をそらさぬ社交性によつて遂に男子を追出し全く婦人の獨占場となつた。仕事は絶えず聽音器を耳に當てて通話者注文に應じて送話器を掛け換へて行くのであるから通話のこむ時など中々の激務である。交換事務員になるには次の様な資格が必要である。

資 格 年齢十三歳以上二十三歳迄小學校卒業以上の學力を有する者。希望者は電話局養成課へ履歴書を送り豫備試験をうける。

選抜試験 體格検査、學術試験―國語、算術、作文、地理。以上の選抜試験に合格すれば直ぐ電話見習となつて養成所て約三ヶ月位の學科と實習の教育を受けて、日給五十錢(専卒)日給六十錢(高卒)日給七十錢(高女卒)を支給して呉れる。かうして一人前の局員となつて各交換局へ配屬される。又は交換局を退いた人は私設交換手として銀行、會社、百貨店其の他の私設交換臺で働く事が出来る。

### 洋裁家になるには



近代頼みに發展して來た職業であつて、現在は婦人及び子供服の裁縫が主となつてゐるが、將來充分開拓發展される有望な職業である。綿密な頭を有し、視覚が充分で、流行を巧みに生かす創作的な頭腦を有する人は成功疑ひなしである。

デパートや婦人子供洋服店の裁縫部に就職すれば五十圓乃至百圓の收入があり、又洋服店を開業すれば相當の實收を得られ、又近代婦人の内職としても好適の職業である。權威ある學校としては

- 文化裁縫女學院 東京市澁谷區代々木山谷一八五  
ドレスメーカー 東京市品川區大崎四ノ二二九  
東京高等ミシン學校 東京市四谷區新宿一丁目四  
東京女子高等洋服學校 東京市蒲田區蒲田町  
日本文華裁縫學院 東京市小石川區大塚仲町四一  
中村洋服裁縫學院 大阪市南區惠美須町  
神戸洋服專修學校 神戸市西代御屋敷通五丁目

### 美容師になるには

美容師は女子に取つて最も有望な職業の一つであつて其の中には美髪術、美顔術、美爪術、衣裳の着付等が含

まれて居る。美容師になるには、(一)美容學校、美容術研究所に入學して學科、實地を修得して美容術試験を受ける。(二)美容院の助手として實地に就て修業して美容術試験を受ける。以上の二つの方法があつて、何れにしても美容術試験を受けなければならぬ。

權威ある美容學校としては

- 芝山美容學校 横濱市中區住吉町二ノ三  
丸の内美容院 東京市丸ビル一階  
マリー・ルキズ美容女學校 東京市麻布區材木町  
女子整容大學院 東京市麴町區紀尾井町  
日本女子美髮學校 東京市神田區表猿樂町二  
日本女子美容術學校 東京市中野區中野町一五  
函館女子職業學校 北海道函館市  
名古屋美髮女學校 名古屋市中區春日町  
大阪理髮學校 大阪市此花區西野田  
高等美髮學校 廣島市廣瀬町  
九州女子美髮學校 福岡市

一般に一人前の美容師になるには、一年以上の日數と二百圓位の學費を必要とする。くわしい事を知りたい人は上記の學校に規則書を請求する事。

## 學校一覽

昭和十年十一月

### 帝國大學

- 東京帝國大學 (東京市)  
法、醫、工、文、理、農、經  
京都帝國大學 (京都市)  
法、醫、工、文、理、經、農  
東北帝國大學 (仙台市)  
醫、理、工、法、文  
九州帝國大學 (福岡市)  
醫、工、農、法、文  
北海道帝國大學 (札幌市)  
農、醫、理、工、豫  
京城帝國大學 (京都市)  
法、文、醫  
臺北帝國大學 (臺北市)  
文政、理、農  
大阪帝國大學 (大阪府)  
醫、理、工

### 官公立大學

- 金澤醫科大學 (金澤市)  
長崎醫科大學 (長崎市)  
新潟醫科大學 (新潟市)  
千葉醫科大學 (千葉市)  
熊本醫科大學 (熊本市)  
東京文理科大學 (東京市)  
廣島文理科大學 (廣島市)  
東京工業大學 (東京市)  
大阪商科大学 (大阪市)  
名古屋醫科大學 (名古屋市)  
京都府立醫科大學 (京都市)  
旅順工科大学 (旅順市)  
東京慈惠醫科大學 (東京市)  
滿洲醫科會大學 (奉天)  
日本醫科大學 (東京市)  
早稻田大學 (東京市)  
政経、法、文、理、工、商、豫  
慶應義塾大學 (東京市)  
明治大學 (東京市)  
法、政、經、商、豫  
中央大學 (東京市)

### 私立大學

- 法、經、商、豫  
日本大學 (東京市)  
商、法、文、工、豫  
法政大學 (東京市)  
法、文、經、豫  
専修大學 (東京市)  
拓殖大學 (東京市)  
國學院大學 (東京市)  
立教大學 (東京市)  
東京農業大學 (東京市)  
立正大學 (東京市)  
駒澤大學 (東京市)  
同志社大學 (京都市)  
立命館大學 (京都市)  
龍谷大學 (京都市)  
大谷大學 (京都市)  
大正大學 (東京市)  
高野山大學 (和歌山縣)  
東洋大學 (東京市)  
關西大學 (大阪市)  
上智大學 (東京市)  
關西學院 (兵庫縣)  
第一高等學校 (東京市)  
第二高等學校 (仙臺市)  
第三高等學校 (京都市)  
第四高等學校 (金澤市)  
第五高等學校 (熊本市)  
第六高等學校 (岡山市)  
第七高等學校 (鹿兒島市)  
第八高等學校 (名古屋市)  
新潟高等學校 (新潟市)  
松本高等學校 (松本市)  
山口高等學校 (山口市)  
松山高等學校 (松山市)  
水戸高等學校 (水戸市)  
山形高等學校 (山形市)  
佐賀高等學校 (佐賀縣)  
弘前高等學校 (弘前市)  
松江高等學校 (島根縣)  
浦和高等學校 (浦和市)  
大阪高等學校 (大阪市)  
福岡高等學校 (福岡市)  
靜岡高等學校 (靜岡市)  
高知高等學校 (高知市)  
姫路高等學校 (兵庫縣)  
廣島高等學校 (廣島市)  
東京高等學校 (東京市)  
學習院高等科 (東京市)  
東京府立高等學校 (東京市)  
公立富山高等學校 (富山縣)  
公立浪速高等學校 (大阪府)  
公立臺北高等學校 (臺北市)  
私立武藏高等學校 (東京市)  
私立甲南高等學校 (兵庫縣)  
私立成蹊高等學校 (東京市)  
私立成城高等學校 (東京市)



官公立專門學校

神戸高等工業學校	(神戸市)	高岡高等商業學校	(高岡市)	神戸高等商業學校	(神戸市)
濱松高等工業學校	(濱松市)	京城高等商業學校	(京都市)	大阪藥學專門學校	(大阪市)
徳島高等工業學校	(徳島市)	盛岡高等農林學校	(盛岡市)	京城藥學專門學校	(京都市)
長岡高等工業學校	(長岡市)	東京高等農林學校	(東京市)	東京工業專門學校	(東京市)
福井高等工業學校	(福井市)	三重高等農林學校	(津市)	日本大學高等工業學校	(東京市)
山梨高等工業學校	(甲府市)	宇都宮高等農林學校	(宇都宮市)	早稻田高等工業學校	(東京市)
米澤高等工業學校	(米澤市)	宮崎高等農林學校	(宮崎市)	中央高等工業學校	(東京市)
桐生高等工業學校	(桐生市)	岐阜高等農林學校	(岐阜市)	東京高等工業學校	(東京市)
横濱高等工業學校	(横濱市)	鳥取高等農林學校	(鳥取市)	關西高等工業學校	(大阪市)
金澤高等工業學校	(石川縣)	東京高等蠶絲學校	(上田市)	名古屋高等工業學校	(名古屋市)
名古屋高等工業學校	(名古屋市)	京都高等蠶絲學校	(京都市)	武藏高等工業學校	(東京市)
廣島高等工業學校	(廣島市)	富山高等蠶絲學校	(富山市)	南滿洲工業專門學校	(大連市)
熊本高等工業學校	(熊本市)	富山藥學專門學校	(富山縣)	大倉高等商業學校	(東京市)
仙臺高等工業學校	(仙臺市)	熊本藥學專門學校	(熊本市)	高千穂高等商業學校	(東京市)
東京高等工業學校	(東京市)	東京高等齒科醫學學校	(東京市)	集陽高等商業學校	(東京市)
京城高等工業學校	(京都市)	秋田藥學專門學校	(秋田市)	仙臺高等實務學校	(仙臺市)
京都高等工業學校	(京都市)	明治專門學校	(戸畑市)	東京高等造園專門學校	(東京市)
山口高等商業學校	(山口市)	東京高等商船學校	(兵庫縣)	早稻田大學專門部	(東京市)
長崎高等商業學校	(長崎市)	神戸高等商船學校	(神戸市)	慶應義塾高等部	(東京市)
小樽高等商業學校	(小樽市)	東京外國語學校	(東京市)	明治大學專門部	(東京市)
名古屋高等商業學校	(名古屋市)	大阪外國語學校	(大阪市)	中央大學專門部	(東京市)
大分高等商業學校	(大分市)	東京美術學校	(東京市)	日本大學專門部	(東京市)
福島高等商業學校	(福島縣)	東京音樂學校	(東京市)	京大齒科醫學專門學校	(京都市)
和歌山高等商業學校	(和歌山市)	函館高等水産學校	(函館市)	東北齒科醫學專門學校	(仙台市)
彦根高等商業學校	(彦根市)	千葉高等農林學校	(千葉市)	明治齒科醫學專門學校	(東京市)
横濱高等商業學校	(横濱市)	水原高等農林學校	(朝鮮水原)	京都藥學專門學校	(京都市)
高松高等商業學校	(高松市)	臺灣總督府高等農林學校	(臺北)	東京藥學專門學校	(東京市)
		臺北高等商業學校	(臺北市)		

西南學院高等學部	(福岡市)	實踐女子專門學校	(東京市)	東京府立工業專門學校	(東京市)
關東學院	(横濱市)	共立女子專門學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
東京物理學校	(東京市)	日本女子專門學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
東京實業專門學校	(東京市)	東京高等師範學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
大東文化學院	(東京市)	廣島高等師範學校	(廣島市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
國立館專門學校	(東京市)	東京女子高等師範學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
二松學舍專門學校	(東京市)	奈良女子高等師範學校	(奈良市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
滿洲教育專門學校	(奉天)	早稻田大學高等師範部	(早大内)	東京府立女子專門學校	(東京市)
延禧專門學校	(朝鮮高陽)	法政大學高等師範部	(法大内)	東京府立女子專門學校	(東京市)
普成專門學校	(京城)	日本大學高等師範部	(日大内)	東京府立女子專門學校	(東京市)
崇實專門學校	(平壤)	國學院大學高等師範部	(國學院内)	東京府立女子專門學校	(東京市)
筑紫嶺山學校	(直方市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
日本體育會體操學校	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
武道專門學校	(京都市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
無線電信講習所	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
大阪無線電信電話學校	(大阪市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
恰爾賓學院	(ハルビン)			東京府立女子專門學校	(東京市)
東亞同文書院	(上海)			東京府立女子專門學校	(東京市)
文化學院本科	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
津田英學塾	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
日本女子大學	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
東京女子醫學專門學校	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
東京女子大學	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
東京女子齒科醫學專門學校	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
東洋女子齒科醫學專門學校	(東京市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
帝國女子藥學專門學校	(大阪市)			東京府立女子專門學校	(東京市)
同志社女子專門學校	(京都市)			東京府立女子專門學校	(東京市)

夜間大學及專門學校

中央大學專門部夜間部	(東京市)	東京府立工業專門學校	(東京市)
明治大學專門部夜間部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
日本大學夜間部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
早稻田大學專門部夜間部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
法政大學專門部夜間部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
日本大學專門部夜間部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
事修大學專門部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
關西大學專門部	(大阪市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
拓殖大學專門部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
東洋大學專門部	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
特殊實業學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)
東京府立女子專門學校	(東京市)	東京府立女子專門學校	(東京市)

官費の學校

海軍兵學校	(廣島縣江田島)
海軍幼年學校	(東京市)
海軍醫官學校	(東京市)
海軍工務學校	(東京市)
海軍衛生學校	(東京市)
海軍測量學校	(東京市)
海軍航海學校	(東京市)
海軍航空學校	(東京市)
海軍造船學校	(東京市)
海軍機械學校	(東京市)
海軍電氣學校	(東京市)
海軍化學學校	(東京市)
海軍藥學學校	(東京市)
海軍獸醫學學校	(東京市)
海軍森林學校	(東京市)
海軍水産學校	(東京市)







# ローマ字綴 (日本式)

	ア A, a	イ I, i	ウ U, u	エ E, e	オ O, o	ヤ Ya	ユ Yu	ヨ Yo	ワ Wa
K, k	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キヤ kya	キユ kyu	キヨ kyo	クワ kwa
S, s	サ sa	シ si	ス su	セ se	ソ so	シヤ sya	シユ syu	シヨ syo	—
T, t	タ ta	チ ti	ツ tu	テ te	ト to	チヤ tya	チユ tyu	チヨ tyo	—
N, n	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ニヤ nya	ニユ nyu	ニヨ nyo	—
H, h	ハ ha	ヒ hi	フ hu	ヘ he	ホ ho	ヒヤ hya	ヒユ hyu	ヒヨ hyo	—
M, m	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミヤ mya	ミユ myu	ミヨ myo	—
Y, y	ヤ ya	(イ) (i)	ユ yu	(エ) (e)	ヨ yo	—	—	—	—
R, r	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	リヤ rya	リユ ryu	リヨ ryo	—
W, w	ワ wa	ウィ (u)	ウェ (u)	ワ wo	—	—	—	—	—
G, g	ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギヤ gya	ギユ gyu	ギヨ gyo	グワ gwa
Z, z	ザ za	ジ zi	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ジヤ zya	ジユ zyu	ジヨ zyo	—
D, d	ダ da	ディ di	デュ du	デ de	ド do	ディヤ dya	デュ dyu	デュ dyo	—
B, b	バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ビヤ bya	ビユ byu	ビヨ byo	—
P, p	パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	ピヤ pya	ピユ pyu	ピヨ pyo	—

1. はねる音には凡て n を使ふ Banzai
2. つまる音には次に来る kspt を二つ重ねて書く Beppu
3. 引く音には母音 a i u e o の上に A をつける Tôkyô

# ローマ字 (ALPHABET) アルファベット

印刷體		筆記體		讀方	印刷體		筆記體		讀方
大文字	小文字	大文字	小文字		大文字	小文字	大文字	小文字	
A	a	A	a	(ei) エイ	N	n	N	n	(en) エヌ
B	b	B	b	(bi) ビー	O	o	O	o	(ou) オウ
C	c	C	c	(si) シー	P	p	P	p	(pi) ピー
D	d	D	d	(di) ディー	Q	q	Q	q	(kju) キュー
E	e	E	e	(i) イー	R	r	R	r	(a) アー
F	f	F	f	(ef) エフ	S	s	S	s	(es) エス
G	g	G	g	(dʒi) デー	T	t	T	t	(ti) ティー
H	h	H	h	(eit) エイチ	U	u	U	u	(ju) ユー
I	i	I	i	(ai) アイ	V	v	V	v	(vi) ヴィ
J	j	J	j	(dsei) デセイ	W	w	W	w	(dʒblju) ダブルユー
K	k	K	k	(kei) ケイ	X	x	X	x	(oks) エックス
L	l	L	l	(el) エル	Y	y	Y	y	(wai) ワイ
M	m	M	m	(em) エム	Z	z	Z	z	(zed) ゼット



内 國 郵 便

普通郵便料

第一種

一、書狀 重量十五瓦(四匁)又はその端數毎に金三錢  
二、書狀にあらざるも郵便法に依り第一種郵便物として取扱はるべきもの金二錢

三、全部印刷したる無封の書狀、盲人用點字の無封書狀及大部分印刷したる左記書狀金二錢

一、官公署、公共團體、社寺、學校又は營利を目的とせざる法人若し團體より發するもの

第二種

一、營業者より其營業に關し發する報知書、送狀、契約申込書、契約の承諾又は拒絕書、請求書、督促狀、計算書、見積書、明細書、領收書

第三種

普通葉書金一錢五厘、往復葉書、封緘葉書金三錢  
毎月一回以上刊行する定期刊行物七十五瓦(二〇匁)又はその端數毎に金五厘、限度一、一匁(約二九二匁)

第四種

書籍、印刷物、業務用書類、寫眞、書、畫、圖、商品見本及雜形、博物館上の標本、重量は一〇〇瓦又は其の端數毎

電 信

同一市町村内は片假名十五字以内金十五錢、五字以内を増す毎に金三錢  
内地(小笠原島を除く)各地間、朝鮮、滿洲、芝罘相互間十五字以内金三十錢  
五字以内を増す毎に金五錢

航空郵便

種 類	額 目	内地相互間	内地鮮滿間
有封書狀	一五瓦	一五錢	三〇錢
無封書狀	三五瓦	一五錢	三〇錢
通常ハガキ	一郵便金の外に	七錢	一五錢
三乃至五種	七五瓦毎に	一郵便金の外に 二五錢	同 五〇錢
小包	一匁迄	一郵便金の外に 一圓	同 一圓
小 包	一匁以上五〇瓦毎に	五〇錢	同 一圓
速達取扱	右料金の外に金八錢		

代金引替 金五錢、留置期間は十日間  
外國郵便 書狀金十錢、葉書金六錢  
滿洲國、中華民國は普通郵便に限り内地と同じ。

に金二錢、限度は一、一匁(約二九二匁)商品見本及雜形は限度三五〇瓦(約九十二匁)

第五種

農産物種子、重量は一〇〇瓦又は其の端數毎に金一錢、限度は一、一匁(約二九二匁)

小包郵便料

内地相互間 同郵便普通小包 六錢					
五〇〇瓦迄	一〇錢	二七錢	四二錢	四九錢	五七錢
一匁迄	一四錢	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢
二匁迄	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢	六六錢
三匁迄	三〇錢	四二錢	五七錢	六六錢	七五錢
四匁迄	三八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
五匁迄	四六錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
六匁迄	五四錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢
外區郵便 同間相互内地					
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢
五匁迄	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢	一一一錢
四匁迄	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
三匁迄	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
二匁迄	四八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
一匁迄	三九錢	四八錢	五七錢	六六錢	七五錢
五〇〇瓦迄	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢	一三八錢
一匁迄	一四錢	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢
二匁迄	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢	六六錢
三匁迄	三〇錢	四二錢	五七錢	六六錢	七五錢
四匁迄	三八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
五匁迄	四六錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
六匁迄	五四錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢
内地相互間 同郵便普通小包 六錢					
五〇〇瓦迄	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢	一三八錢
一匁迄	一四錢	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢
二匁迄	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢	六六錢
三匁迄	三〇錢	四二錢	五七錢	六六錢	七五錢
四匁迄	三八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
五匁迄	四六錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
六匁迄	五四錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢
外區郵便 同間相互内地					
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢
五匁迄	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢	一一一錢
四匁迄	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
三匁迄	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
二匁迄	四八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
一匁迄	三九錢	四八錢	五七錢	六六錢	七五錢
五〇〇瓦迄	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢	一三八錢
一匁迄	一四錢	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢
二匁迄	二二錢	三三錢	四二錢	五七錢	六六錢
三匁迄	三〇錢	四二錢	五七錢	六六錢	七五錢
四匁迄	三八錢	五七錢	六六錢	七五錢	八四錢
五匁迄	四六錢	六六錢	七五錢	八四錢	九三錢
六匁迄	五四錢	七五錢	八四錢	九三錢	一〇二錢
六匁迄	八一錢	一〇二錢	一一一錢	一二〇錢	一二九錢

重量の限度は六匁(一貫六〇〇匁)

外國郵便到着日數

東 廻 便 (横濱起點)

西 廻 便 (門司神戸起點)

目的地	日數	目的地	日數
上 海	九日	西 伯 利 亞 (東京起點)	五日
漢 口	一日	ハ ル ビ ン	一三日
マ ニ ラ	一日	モ ス ク ワ	一三日
シ ン ガ ポ ル	一日	レ ニ ン グ ラ ー ド	一三日
コ ロ ン ボ	一日	ワ ル ソ	一三日
カ ル カ ッ タ	一日	ハ ン ブ ル グ	一四日
ボ ン ベ イ	一日	ロ ン ド ン	一五日
		パ リ	一五日
		ゼ ノ	一六日
		マ ド リ ッ ド	一七日
		ア レ キ サ ン ド リ ヤ	二四日
		テ ィ ア タ ウ ン	三八日
天 津	四日		
青 島	三日		
大 連	三日		
滿洲・北支那便 (下開起點)			

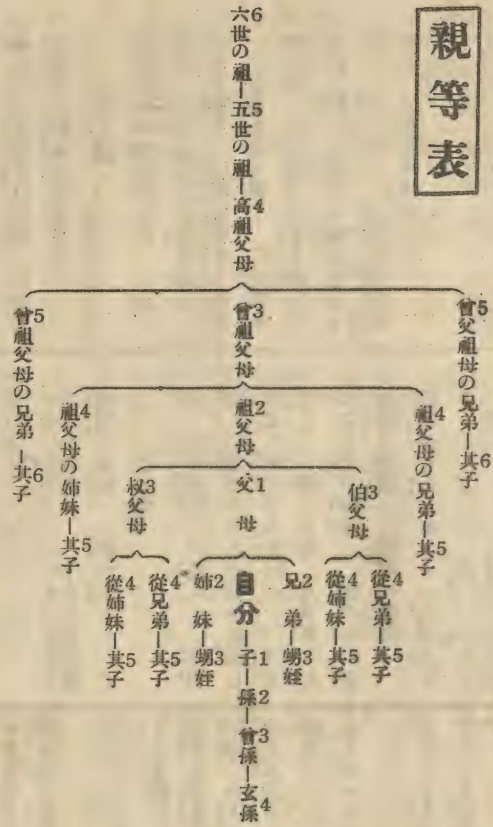


# メートル法度量衡比較

## メートル法

名	メートル法	尺貫法	ヤード法
ミリメートル	mm	0.0003937 尺	0.0010936 ヤード
センチメートル	cm	0.03937 尺	0.010936 ヤード
デシメートル	dm	0.3937 尺	0.10936 ヤード
メートル	m	3.937 尺	1.0936 ヤード
キロメートル	km	3937 尺	1093.6 ヤード
海里	1852メートル	276.7 尺	792.6 ヤード
平方メートル	m <sup>2</sup>	15.5 平方尺	1.196 平方ヤード
土地	アール (100 平方メートル)	247.5 平方尺	15.5 平方ヤード
立方メートル	m <sup>3</sup>	35.3 立方尺	35.3 立方ヤード
リットル	l	0.061 斗	0.22 加侖
キログラム	kg	2.2 斤	2.2 磅
キログラム	kg	2.2 斤	2.2 磅
トン	t	2240 斤	2240 磅
カラット	ct	0.2 両	0.2 両

## 親等表



親等とは親族關係に於ける親疎の等級を示すもので、親族間の世数を算へて之を定める。即ち親子の間を一世とし、順次其世数を上下に算へる。傍系親では其一人又は配偶者より其始祖(生んだ親)に溯り、其始祖より他の一人に下るまでの世数による。例へば孫は子の子なるが故に二親等である(直系の場合)。伯父は祖父(二親等)の子なるが故に三親等である(傍系の場合)。而して今日の民法では、血族六親等まで、姻族三親等までを親族といふ。

圖中の數字は親等順を示したものである。

## 家庭儀式

- 着帯祝 七夜祝 小兒生れて七日目の祝
- 宮參 食初祝 初誕生 生後滿一年の誕生日。
- 初節句 生後初めての節句、女子は三月三日、男子は五月五日。
- 七五三祝 三歳、五歳、七歳の祝、何れも土月五日に産土神に參詣就學祝
- 還暦祝 六十一歳の誕生日に行ふ古稀祝 七十歳の長命を祝ふ。
- 喜の字祝 七十七歳の誕生日に行ふ七十七の三字を合すれば草書の喜の字に似る。

## 八十の祝

米の字祝 八十八歳の誕生日に行ふ八十八の三字を重ねると米の字となる。

## 概算

- 曲一寸...三センチメートル
- 曲一尺...三〇センチメートル
- 鯨一尺...四〇センチメートル
- 鯨一丈...三八メートル
- 一間...一・八メートル
- 一町...一一〇メートル
- 一里...四キロメートル
- 八十分...三〇〇グラム
- 一斤...六〇〇グラム
- 四貫...一五キログラム(正確)
- (白米一斗五合二勺の目方)
- 一合...一・八デシリットル
- 五合...九デシリットル
- 一升...一・八リットル
- 一畝...一アール
- 一町歩...一〇〇アール
- 一トン(千石)...二六七貫
- 一哩...十四町四十五間
- 四軒...一里



いろは俚語

いゝあ

○石に立つ矢 ○石に釘 ○一文  
客しみの百知らず ○命あつての  
物種 ○一寸の虫にも五分の魂  
○命の洗濯 ○一寸伸ぶれば尋伸  
ぶる ○石の上にも三年 ○急が  
ば遅れ ○犬も歩けば棒にあたる  
○井の中の蛙大海を知らず

ろは

○論語讀みの論語知らず ○論よ  
り證據 ○論に負けても業で勝つ  
○花より團子 ○花は櫻木人は武  
士 ○旗色を見て旗く ○鳩にも  
三枝の禮 ○針ほどの事を棒  
走り馬に鞭 ○箸にも棒にもか  
らぬ ○花に嵐 ○馬鹿と鉄は使  
ひやう ○馬鹿が鐵砲打つ

に

○二枚舌 ○二の足を踏む ○二

足の草鞋は穿けぬ ○人を見て法  
を説く ○煮ても焼いても食へぬ  
○逃した魚は大きい ○二度ある  
ことは三度ある

は

○佛作つて魂入れず ○佛の顔も  
三度 ○骨折損の草臥儲け ○盆  
と正月が一度に來た

へ

○下手の横好き ○下手の長腕  
○鷹軍から駒 ○鷹が茶をわかす

とち

○遠くの親類近くの他人 ○豆腐  
に鑊 ○遠ざかるもの日々に疎し  
○ところ變れば品かはる ○燈臺  
下暗し ○飛んで火に入る夏の虫  
○鳥なき里の鵲 ○死の中の還  
○泥棒に追銭 ○隣家の苦菜  
○塵積つて山となる ○血で血を  
洗ふ ○ちぎれても錦 ○小さく  
とも針は飲めぬ ○長者の萬慮費

格言集

困難は人の眞價を證明するものなり。(エピクテタス)

健康は富に優れり。(イギリス俚語)

眞理は敵味方を超越す。(シルレル)

學は専心を尚ぶ。(貝原益軒)

時間を無益にするは贅澤の絶頂なり。(フランクリン)

不徳を避くるは即ち徳なり。(ホレーヌ)

誠は天の道なり、之を誠にするは人の道なり。(中 庸)

卒直に、純眞に、文句ぬきな生活がしたい、文句ぬ  
きな交際がしたい。

誠實は最良の手段なり。(晚 鳥 敏)

熱誠のみ人生を永遠にす。(ワシントン)

志を立つるは大にして高きを欲し、小にして低きを  
欲せず。(ダーク)

よく始められたる仕事は半ば終りたるものなり。(貝原益軒)

進まざるものは地歩を失ふ。(フラトン)

やらうと思はなければ横に寝た箸を堅にすることも出  
来ん。(ラテン俚語)

来ん。(夏目 漱石)

者の一燈 ○地獄で佛 ○地震雷  
火事警鐘 ○提燈に釣鐘

り

○理を非に粧ける ○良藥は口に  
苦し ○兩手に花 ○律師ものの  
子澤山 ○理屈屋の義理知らず

ぬ

○盗人を捕へて縄をなふ ○棘に  
釘 ○ぬれ手で栗

る

○類を以て集る ○琉璃の板より  
も粗板 ○琉璃も玻璃も照らせば  
光る ○類は友

を お

○終り初物 ○小田原評議 ○鬼  
に金棒 ○鬼の目に涙 ○親の心  
子知らず ○老いては子に従へ  
○思ひ立つ日が吉日 ○お山の太  
將 ○重荷に小づけ

わ

○笑ふ門に福來る ○渡りに船

○破れ銅にとち蓋 ○痛に針を包  
む ○禍も三年たてば福となる  
○渡る世間に鬼はない ○我身を  
抓つて人の疳さを知れ

か

○蛙の面に水 ○蟹の横道ひ ○  
影辨慶 ○壁に耳あり ○枯木に  
花 ○可愛い子には旅させろ ○  
勝つて兜の緒をしめる ○かせぐ  
に追つく貧乏なし

よ

○夜道に日は暮れぬ ○章の體か  
ら天を見る ○横車 ○横槍

な

○玉に疵 ○短氣は損氣 ○高見  
で見物 ○立つ鳥あとを濁さず  
○旅は道づれ世はなさけ ○立寄  
らば大樹の下 ○倒れてもたゝ起  
きぬ ○棚から牡丹餅 ○蟻の  
斧 ○多勢に無勢 ○雲の持腐れ

れ そ

意志ある處に方法あり。(イギリス俚語)  
己徳れ心の強き人々は他人に對して不正なる  
判斷を下す者なし。(ボルジョン)  
井の中の蛙大海を知らず。(日本俚語)  
職業の貴賤は人品の高下に關せず。(スマイルス)  
何人も眠りて聖人たるものなし。(ニーチェ)  
働けば米るひまなき水車。(日本俚語)  
足ることを知つて及ばぬことを思ふな。(楠公訓)  
一錢を笑ふものは一錢に泣く。(日本俚語)  
忍耐は金剛石よりも強い。(ユダヤ俚語)  
必要は發明の母なり。(ウイッチャーレー)  
死も磨けば玉となる。(毛 吹 草)  
一人立てる時に強き者は眞正の勇者なり。(シルレル)  
神は自ら勇者を助く。(オビツト)  
斷然決心することの出来る人は愛慾に打ち勝つ。  
先づ熱慮し、然る後斷行す。(モルトケ)  
多くの事を爲す第一の捷徑は一度に只一事を爲す  
にあり。(リチャードシェル)  
習慣は第二の天性にして、第一の天性を破壊す  
簡素な生活で高潔な思想  
己を制する人は最も強し。(日本俚語)



○禮儀より實氣 ○損して徳を取  
る ○物領の順祿 ○底に底あり

つ

○月夜に提灯 ○月夜に釜をぬか  
る ○月にすつぽん ○月にむら  
雲 ○爪で拾うて箕でこぼす ○  
鶴の一聲 ○角を矯めて牛を殺す

ね

○猫に小判 ○寝耳に水 ○願つ  
たり叶つたり ○念には念を入れ  
よ ○泣面に蜂 ○七轉び八起き  
○ならぬ勘忍するが勘忍

ら

○來年の事をいへば鬼が笑ふ ○  
樂は苦の基 ○六日の  
舊曆十日の菊 ○無理が通れば道  
理が引つ込む ○向ふ三軒兩隣

う

○馬の耳に念佛 ○馬の耳に風  
○牛は牛づれ ○牛に曳かれて善  
光寺まゐり ○うどの大木 ○氏

より育ち ○瓜の蔓に茄子は生ら  
ぬ ○嘘から出た誠 ○嘘八百  
○噂をすれば影 ○打てば響く  
○鶴の眞似する鳥水に溺れる

の

○咽喉元すぎて熱さを忘れる ○  
能書筆を選ばず ○鑿といへば鈍  
○のりかけた舟 ○能ある鷹は爪  
をかくす

く

○口は調法 ○口は禍の門 ○食  
はず嫌ひ ○腐つても鯛 ○苦し  
い時の神だのみ

や

○病治りて醫者を忘る ○闇につ  
ぶて ○簾から棒 ○安物買ひの  
銭失ひ ○山に千年海に千年 ○  
焼野のさぎす夜の鶴 ○焼石に水  
○柳の枝に雪折なし ○待てば海  
路の日和 ○負けるが勝

け

○喧嘩兩成敗 ○古川に水絶えず  
○河豚は食ひたし命は惜し ○富  
士の山を蟻がさせる

こ

○後悔先に立たず ○子を持つて  
知る親の恩 ○轉ばぬ先の杖 ○  
故郷へ錦 ○弘法にも筆のあやま  
り ○怖いもの見たさ  
○鰻で鯛釣る ○縁の下力持  
○天下まはり持 ○天道人を殺さ  
ず ○出る杭は打たれる

あ

○あとの祭 ○朝起きは三文の徳  
○暑さ寒さも彼岸まで ○麻の中  
の蓬 ○悪事千里 ○頭かくして  
尻かくさず ○當つて砕けろ ○  
蛇蜂取らず ○雨降つて地固まる  
○後の雁が先になる  
○猿も木から落ちる ○三人寄れ  
ば文珠の智慧 ○木に竹をつぐ

不義にして富み且つ貴きは我に於て浮雲の如し。  
(孔子)

(孔子)

眼は魂の窓である。  
不本意に承諾せんよりは穩かに拒絶せよ。  
(バワイ)

(バワイ)

汝を責むるものために祈れ。  
(ドイツ 俚諺)

(ドイツ 俚諺)

苦は樂、樂は苦の種と知るべし。(徳川 光圀)  
出來るか出來ぬか分らぬ時は出來ると思つて努力  
せよ。  
(三宅 雪嶺)

(三宅 雪嶺)

其人を知らんとせば其友を見よ。(史 記)  
感謝して受ける者には豊かな收穫がある。  
(アレック)

(アレック)

善に誇れば善を失ひ、能に語れば能を失ふ。  
(貝原 益軒)

(貝原 益軒)

不幸に堪へ得ない程大なる不幸はない。  
(西洋 俚諺)

(西洋 俚諺)

珍客と雖も長座に過ぐれば嫌はれる。  
(アンデルセン)

(アンデルセン)

人達き慮なければ、必ず近き憂あり。(論語)  
善友の怒り顔は悪友の笑顔よりも尊し(丁抹格言)  
人の振見て我が振り直せ。  
(日本古諺)

(日本古諺)

失敗の原因を知れば則ち、成功すべし。  
(フリードレー)

(フリードレー)

過ちて改めざる、是を過と謂ふ。(孔子)  
過は改むるに憚る勿れ。  
(孟子)

(孟子)

羞恥の心無きは人に非ざる也。  
何處にも神を見た者はないが、若しも吾々が互  
に愛し合ふならば、神は吾々の胸に宿るのである。  
(トルストイ)

(トルストイ)

仕事をする時には、上臈嫌でやることだ。さうす  
れば仕事も捗るし、身體も疲れない。  
(ワイレー)

(ワイレー)

天才とは九十九パーセントの汗と一パーセントの  
靈感である。  
(エデソン)

(エデソン)

『否』といへぬものは人に非ず。(伊國俚諺)  
運命は神の考へるものだ。人間は人間らしく働け  
ばそれで結構だ。  
(夏目 漱石)

(夏目 漱石)

ぬ經を讀む ○餅は餅屋  
せす  
○梅檀は二葉より ○背に腹は換  
へられぬ ○住めば都 ○好きこ  
そ物の上手

(ワナモーカー)





昭和十一年版の「學友年鑑」は「兒童年鑑」とは全く別の計畫でつくるつもりでしたが、編輯してみると、なかなか思ふようになりませんでした。それで、彩色頁や寫眞頁、及び統計その他、可なりの範圍が、共通の頁になつてしまひました。

しかし、それは結局、區別する必要を認められないから——といふことにもなりません。

實際、圖繪や、地圖、その他さまざまの統計や何かで、「兒童年鑑」との區別をつける必要はないのです。

必要などころは、大體に於て補つてあるつもりでございます。歴史年表の如き、新語辭典を追加した如き、特に

「學校・職業立身案内」の如き、小學校から、中等學校へ、或は職業に就く方々のための特輯です。

別冊「集印帖」は、「學友年鑑」と共に「兒童年鑑」にも「昭和年鑑」にも同じものを添付しました。

「昭和年鑑」は、その内容全部が、この「學友年鑑」と同一であります。「昭和年鑑」は、先生方や、家庭のお母様に、お持ちになつていただくために、その名だけを、大人らしくかへたものです。

女學校を出たお姉様も、大學を卒業したお兄様でも、世間のこと、社會の活きた事物に就ては、殆ど何にも知つてゐないといふやうな場合が少くありません。

さういふお兄様やお姉様に

は、ぜひ「昭和年鑑」を教へてあげていただきたい存じます。

「學友年鑑」は、もつとよくせねばなりません。どうしたら、あなたの役に立つ、もつと優れた年鑑になるか、いいお考へを、どしどし教へていただきたいと思ひます。

追加資料贈呈券——で御住所氏名をお知らせ下さるおついでに、御注意、御希望をお聞かせ下さいませ。

昭和十一年十一月八日印刷  
昭和十一年十一月十五日發行

### 學友年鑑

製復許不

編輯者 志村文藏  
發行者 志村文藏  
印刷者 瀧田文雄

發行所 野ばら社  
東京市瀧野川區西ヶ原町六八

電話 東京三三三九三番  
王子三三五一番

### 速さの比較

(一時間)

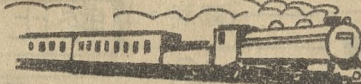


自動車 (最速)

九五

汽船 (最速)

四八



人 (歩行)



今村中佐 畫

### 標準軍歌集

代表的軍歌百餘曲の正しい曲譜と歌詞、附録に陸海軍喇叭譜全部を収む。正價卅八錢

大久保少佐 序  
酒井少佐 序  
岡田 樂長序

### 戦友軍歌集

最新軍歌二百の全歌詞、曲譜無し、附録は陸海軍喇叭譜全部に行進曲集。正價卅五錢

戦友 陣營から家郷から

軍國日本の感激をこめた愛國書簡集、陸軍省「つばもの」編輯部野原辰夫氏編、發行近し

太田天橋・中野正治・橋爪豊・我妻榮吉・柳田謙吉 畫

### 圖畫辭典

誰にもすぐ描ける略畫の大集成、收容畫數一萬に及ぶ素晴らしい資料。正價卅八錢

徳富蘇峰先生題  
八重樫祈美子編

### 愛國讀本

愛國文毫の眞精神を小國民に傳へる名著、いよいよ普及版發行さる。正價卅五錢

### 昭和行進名曲集

軍歌や童謡が直ちに行進曲化したもの、世界名曲を加へて百五十曲。正價一圓卅錢

### 小學童謡唱歌集

佐々木三郎先生の傑作五十曲を収む。本版伴奏つき一圓五十錢、普及版六十錢

### 學友エホン

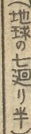
小學校入學前後の子供に與へる初步教育エホン、極彩色高級既刊八種。一冊十錢

發行所 野ばら社 東京市瀧野川區西ヶ原町六八  
電話 東京三三三九三番 王子三三五一番  
番一五三子王話電 社らば野 區川野瀧京東 番三五九三三京東替振





—(間秒)—



砲彈

1800

キロメートル



1904-11



(疾走)

38



昭和十一年版  
兒童年鑑

の状態を一目で知る評判の年鑑で、児童百科を兼ねたもの、昭和八年創刊以來四冊目の翌  
 和十一年版は、いよいよ完璧の權威を示してをります。別冊附録とも四百五十頁の全オ  
 セット印刷、總クロース堅牢製本函入豪華版  
 正價六十八錢 送料十錢

正價六十八錢 送料十錢

昭和十一年版  
學友年鑑

年鑑ねんかんと同一どういつです。特に世界知識せかいちしきを豊富とふふに取入れ、特輯とくしやくとして學校職業立身案内がくしやうししやうていしんあんない、新語辭典しんごじを収めてゐます。別冊附錄べつさふぶろくは同一どういつです。總頁そうぺいは別冊とも五百餘頁の大冊、全部オフセツト高級印刷かうきゆうしんさつ、總クロス堅牢高雅な特製豪華本。

正價八十錢 送料十錢

正價八十錢 送料十錢

創刊十一年版  
昭和年鑑

家庭に一冊、あらゆる知識の泉となり、教室に一冊、教壇の輝ける光明、新しい常識の百科辞典、地理、歴史の資料は全巻に溢れてゐます。総頁は別冊とも五百餘頁の大冊、全部オフセット高級印刷、總クロース堅牢高雅な特製豪華本。正價八十錢 送料十錢

正價八十錢 送料十錢

別共  
冊通  
集  
印  
帖

全國郵便局名所スタンブ集・各驛風景スタンブ集・著名社寺御朱印・其他を收録 百廿頁の大附録、右三年鑑の共通附録として、どれにも添付いたします。

追加資料は昭和十一年四月頃發行、この券お送りの方に無代贈呈申上げます。この券はなるべく早くお送り願ひ上げます。(昭和十一年五月卅一日限り有効)

昭和十一年版  
「學校・職業立身案内」の如き、小學  
は、ぜひ『昭和年鑑』を教へてあげて

振替東京三三九三五番 野 ば 社 東 京 瀧 野 川 區 發 行 所  
電話王子三五一一番 野 ば 社 西 原 町 六八







學友  
年鑑



2596



學友年鑑

昭和十三年

五月一日發行

1933